

# 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 編



## Ⅱ-1 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査結果（市全域）



## II 調査結果

### II-1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果（市全域）

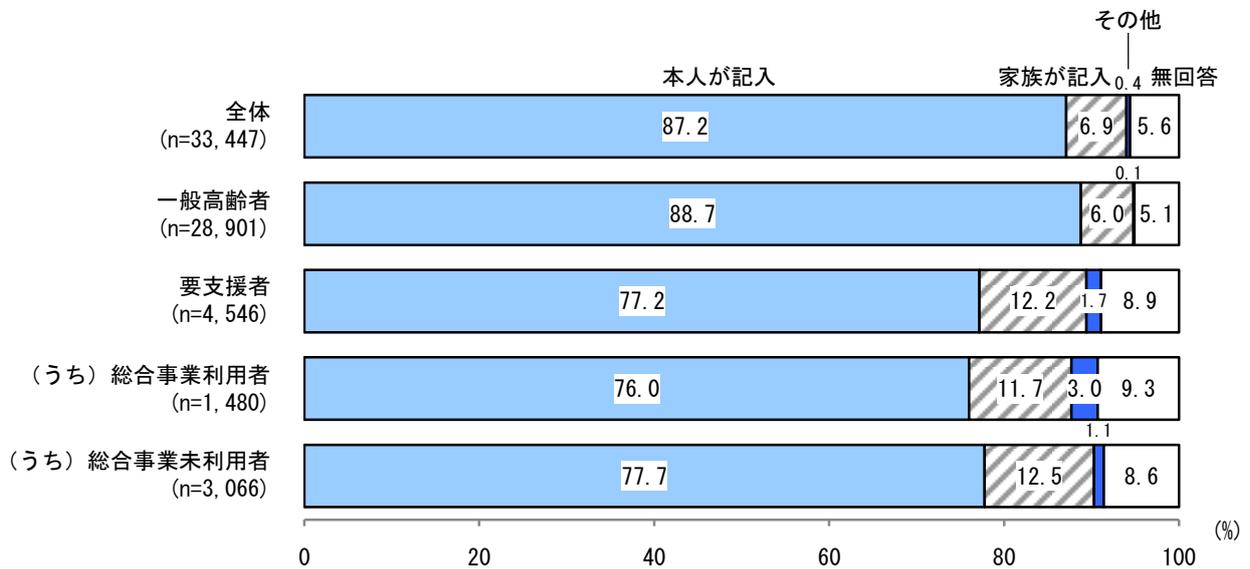
#### 1 対象者の属性

##### (1) 記入者

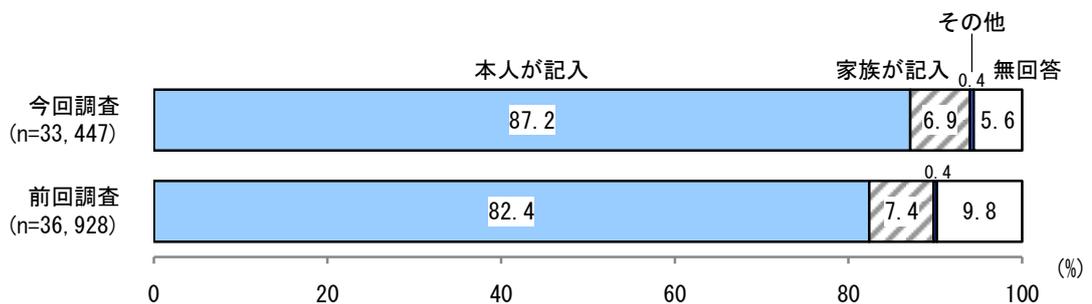
問 調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。

記入者は、「本人が記入」が87.2%、「家族が記入」が6.9%となっている。（図1-1）  
 前回調査の結果に比べ、「本人が記入」の割合が4.8ポイント増加している。

【図1-1 記入者】



【参考 記入者（経年比較）】

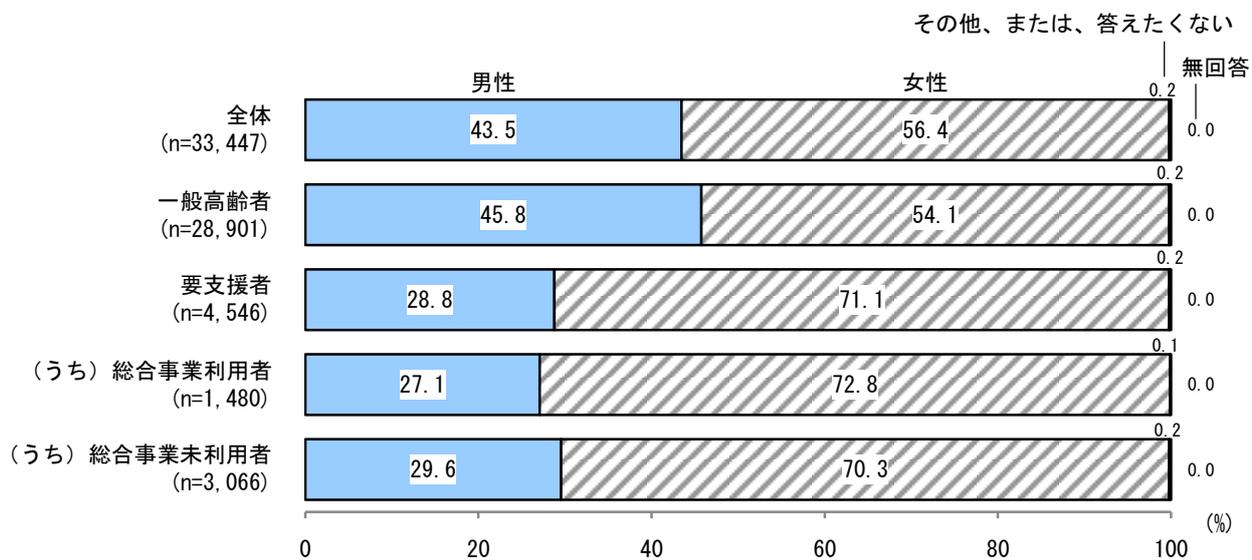


## (2) 性別

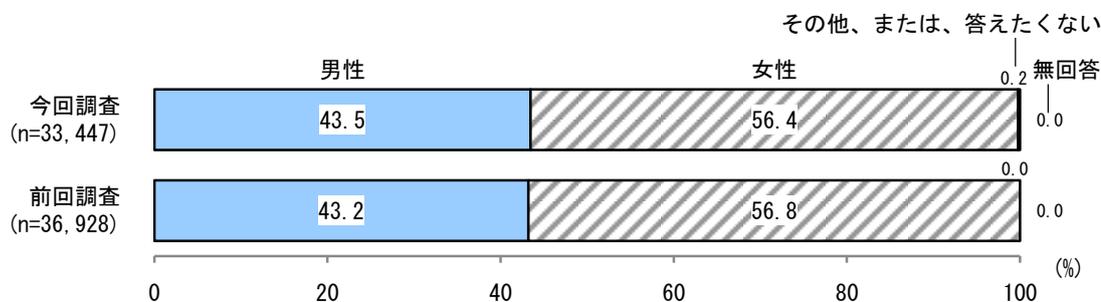
問 あなたの性別をお答えください。(○はひとつ)

性別は、「男性」が43.5%、「女性」が56.4%となっている。(図1-2)  
 前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図1-2 性別】



【参考 性別 (経年比較)】



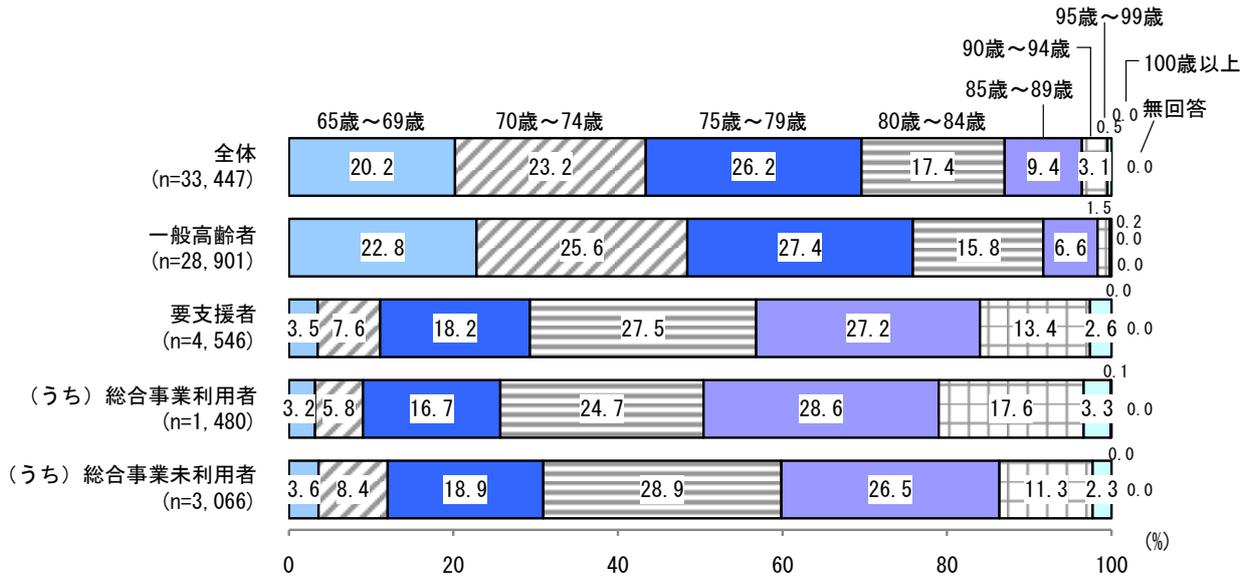
### (3) 年齢

問 あなたの年齢をお答えください。(○はひとつ)

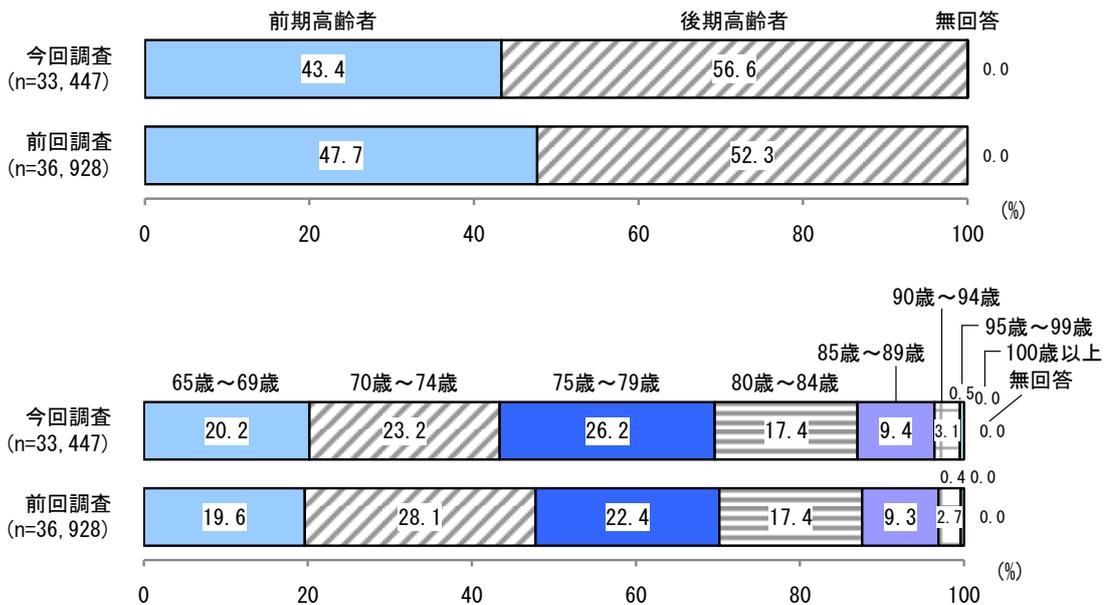
年齢は、「75歳～79歳」の割合が26.2%で最も高く、次いで「70歳～74歳」が23.2%、「65歳～69歳」が20.2%となっている。65～74歳の前期高齢者は43.4%、75歳以上の後期高齢者は56.6%となっている。(図1-3)

前回調査の結果に比べ、後期高齢者の割合が4.3ポイント増加している。

【図1-3 年齢】



【参考 年齢（経年比較）】



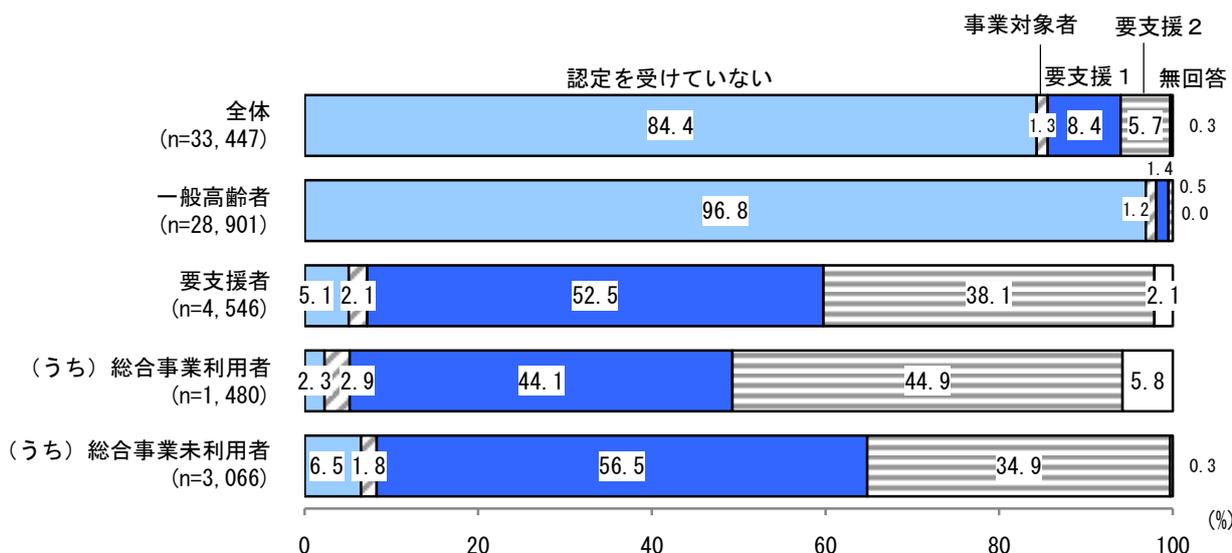
#### (4) 介護保険の認定状況

問 あなたの介護保険の認定状況をお答えください。(○はひとつ)

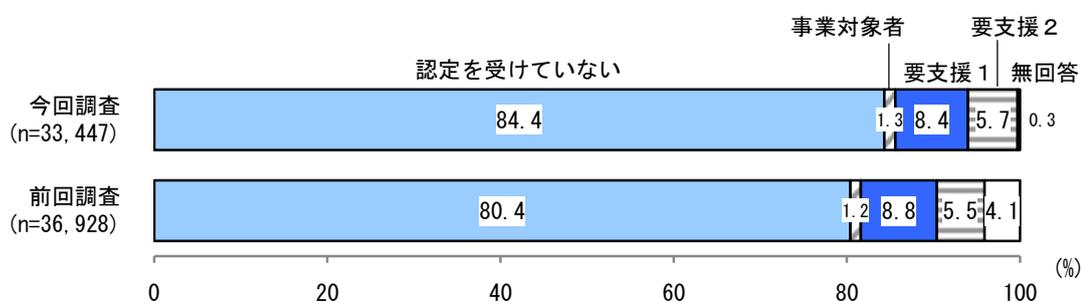
介護保険の認定状況は、「認定を受けていない」の割合が84.4%で最も高く、次いで「要支援1」が8.4%、「要支援2」が5.7%となっている。(図1-4)

前回調査の結果に比べ、「認定を受けていない」の割合が4.0ポイント増加している。

【図1-4 介護保険の認定状況】

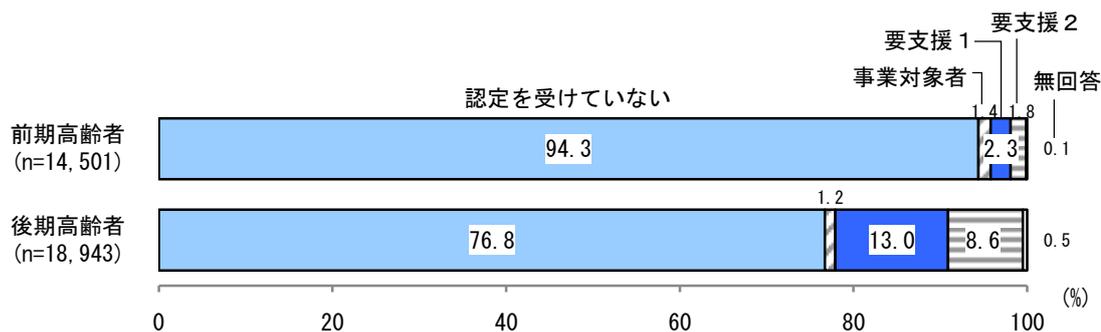


【参考 介護保険の認定状況 (経年比較)】



年齢別では、後期高齢者は「要支援1」の割合が13.0%、「要支援2」が8.6%と、前期高齢者に比べ高くなっている。(図1-4-1)

【図1-4-1 年齢別 介護保険の認定状況】



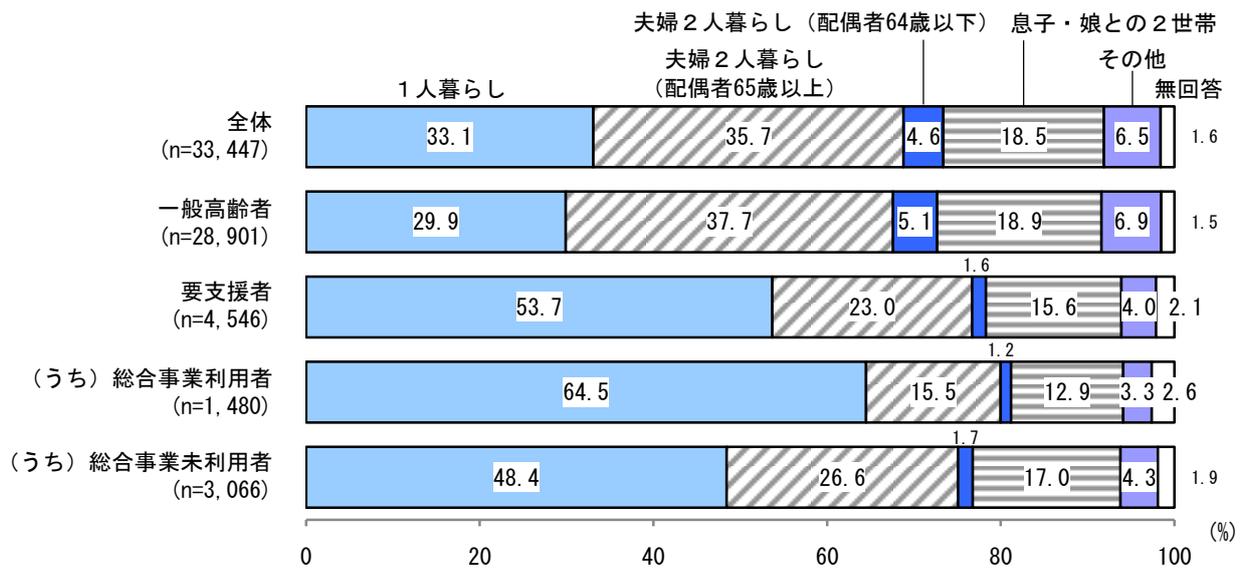
## 2 家族や生活状況について

### (1) 家族構成

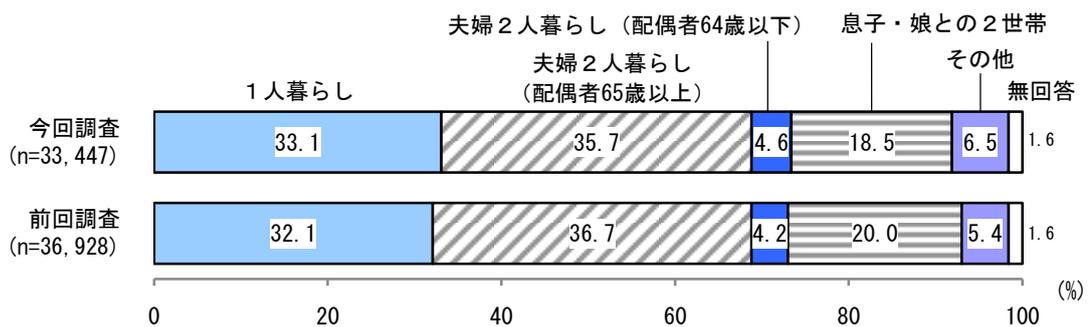
問 家族構成をお教えてください。(○はひとつ)

家族構成は、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」の割合が35.7%で最も高く、次いで「1人暮らし」が33.1%、「息子・娘との2世帯」が18.5%となっている。（図2-1）  
前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図2-1 家族構成】

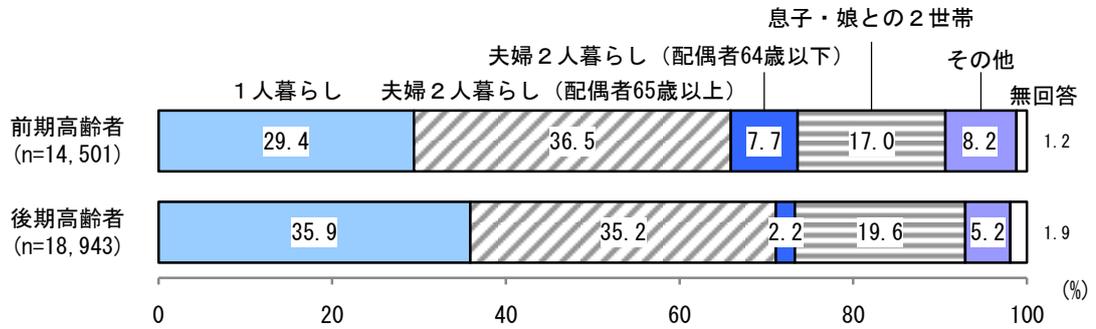


【参考 家族構成（経年比較）】



年齢別では、後期高齢者は「1人暮らし」(35.9%)の割合が前期高齢者(29.4%)より6.5ポイント高くなっている。(図2-1-1)

【図2-1-1 年齢別 家族構成】



## (2) 介護・介助の状況

### ① 介護・介助の必要性

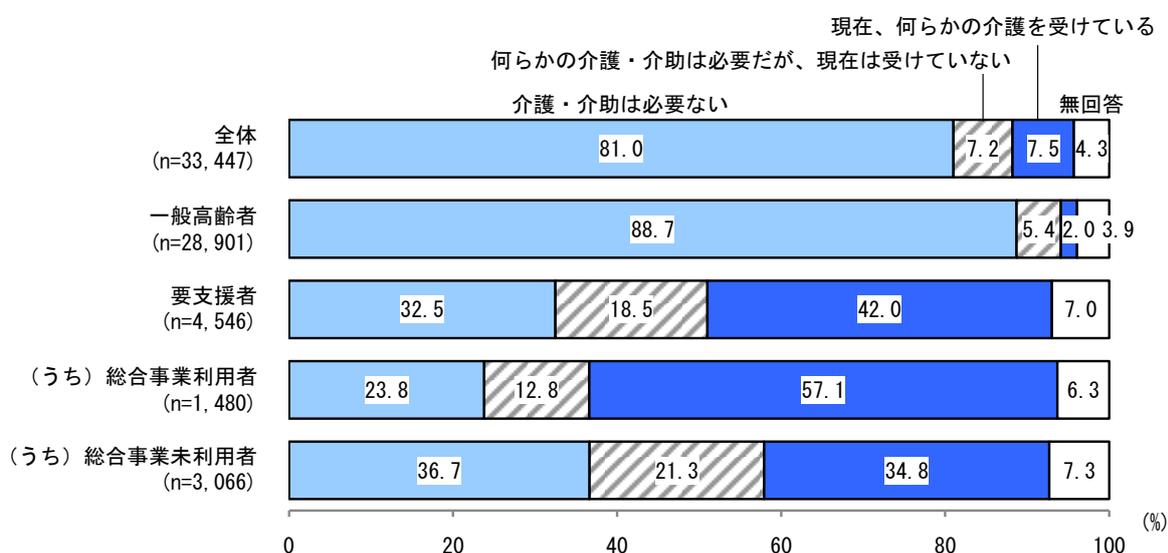
問 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(○はひとつ)

介護・介助の必要性としては、「現在、何らかの介護を受けている」が7.5%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が7.2%となっており、何らかの介護・介助が必要な割合は14.7%となっている。

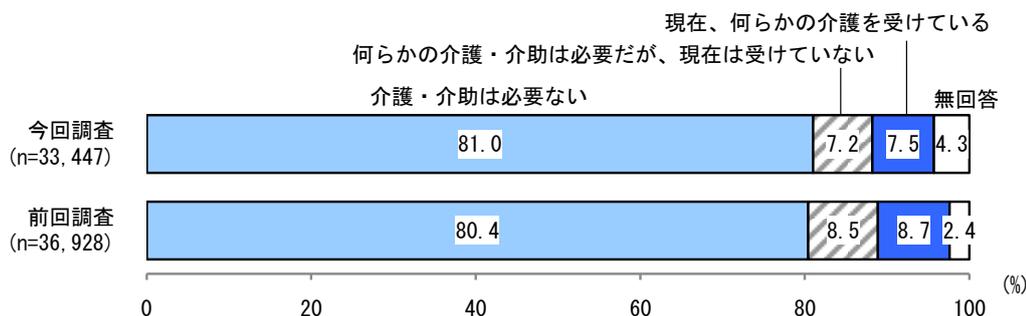
認定状況別では、何らかの介護・介助が必要な割合は、一般高齢者（認定を受けていない）が7.4%、要支援者は60.5%となっている。(図2-2-1)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図2-2-1 介護・介助の必要性】

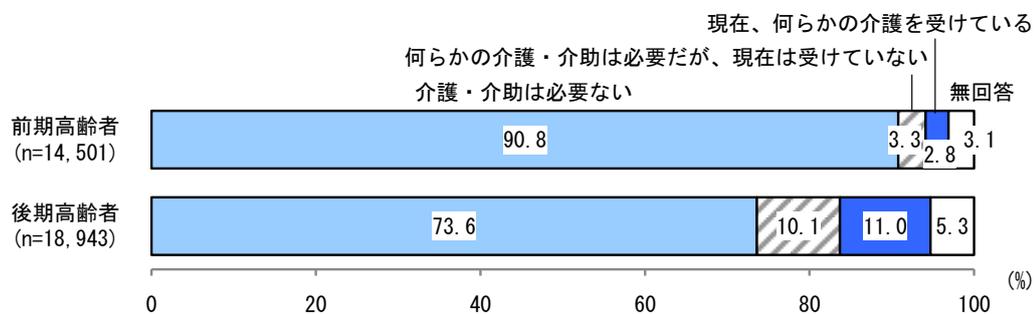


【参考 介護・介助の必要性 (経年比較)】



年齢別では、何らかの介護・介助が必要な割合は、前期高齢者は6.1%、後期高齢者は21.1%となっている。(図2-2-1-1)

【図2-2-1-1 年齢別 介護・介助の必要性】



## ② 介護・介助が必要になった原因

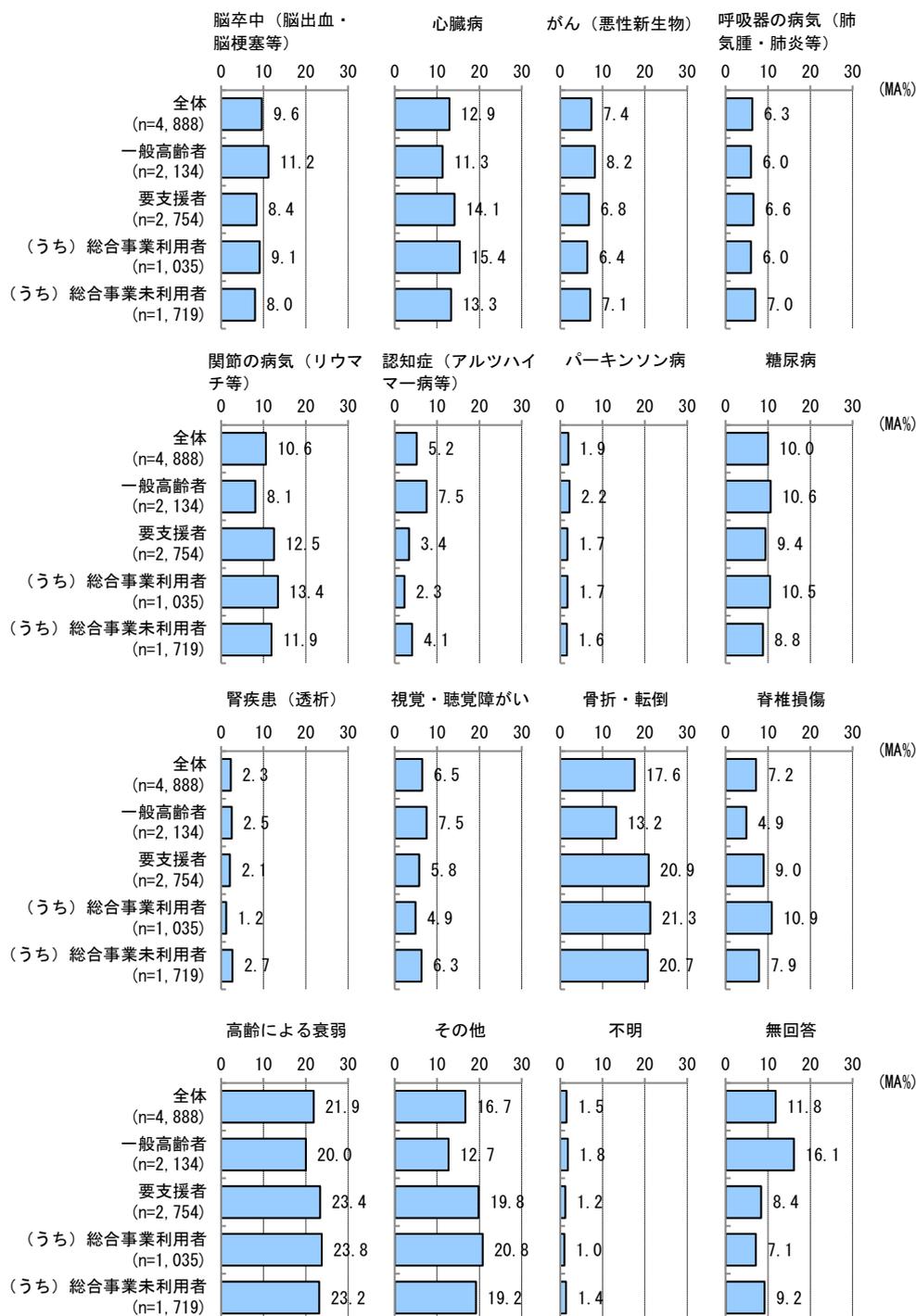
【問1(2)で「2 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「3 現在、何らかの介護を受けている」を回答された方におうかがいします。】

問 ①介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。(○はいくつでも)

介護・介助が必要になった原因は、「高齢による衰弱」の割合が21.9%で最も高く、次いで「骨折・転倒」が17.6%、「心臓病」が12.9%となっている。

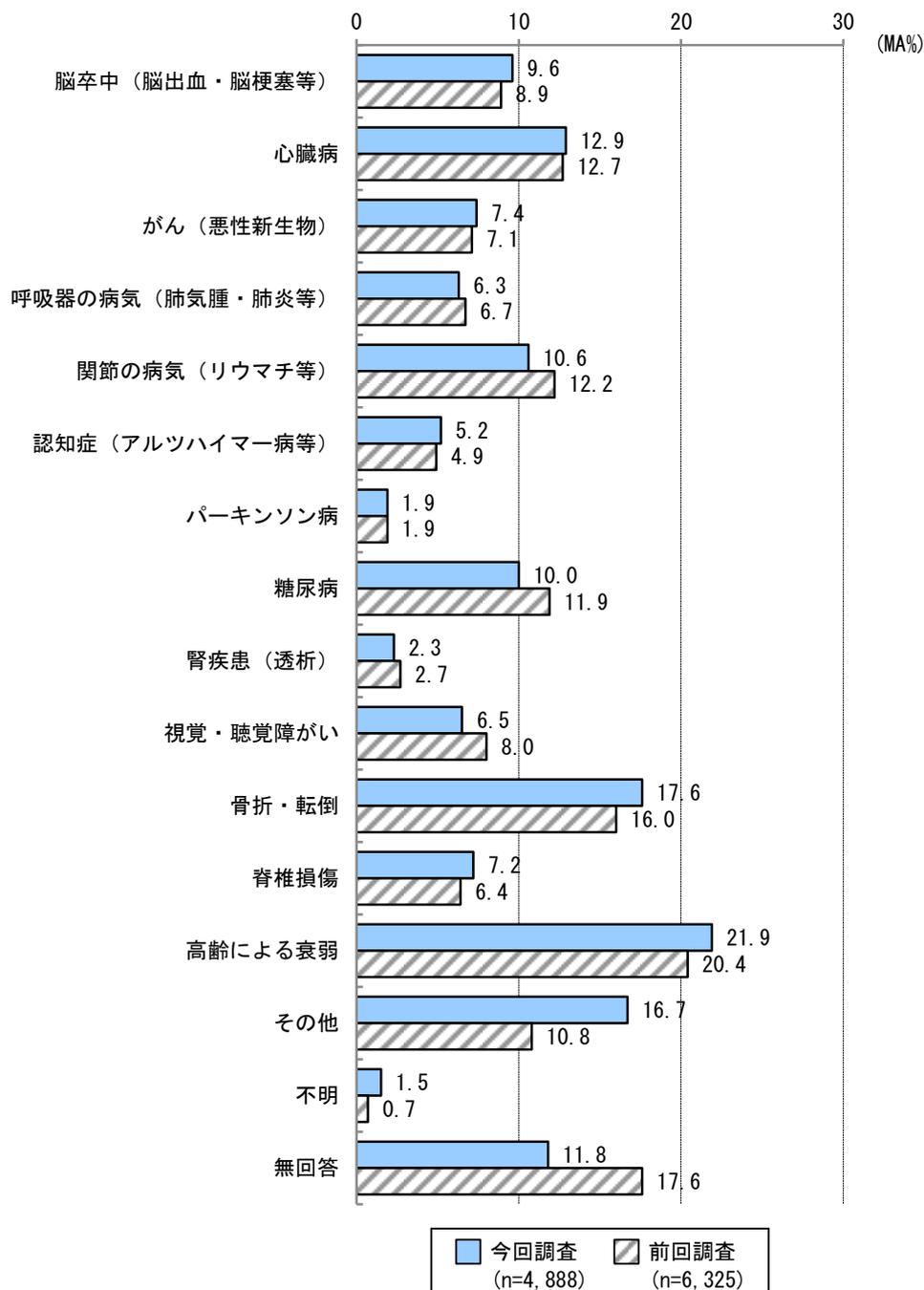
認定状況別では、「心臓病」「呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)」「関節の病気(リウマチ)」「骨折・転倒」「脊椎損傷」「高齢による衰弱」の各割合は、一般高齢者に比べ要支援者が高くなっている。(図2-2-2)

【図2-2-2 介護・介助が必要になった原因】



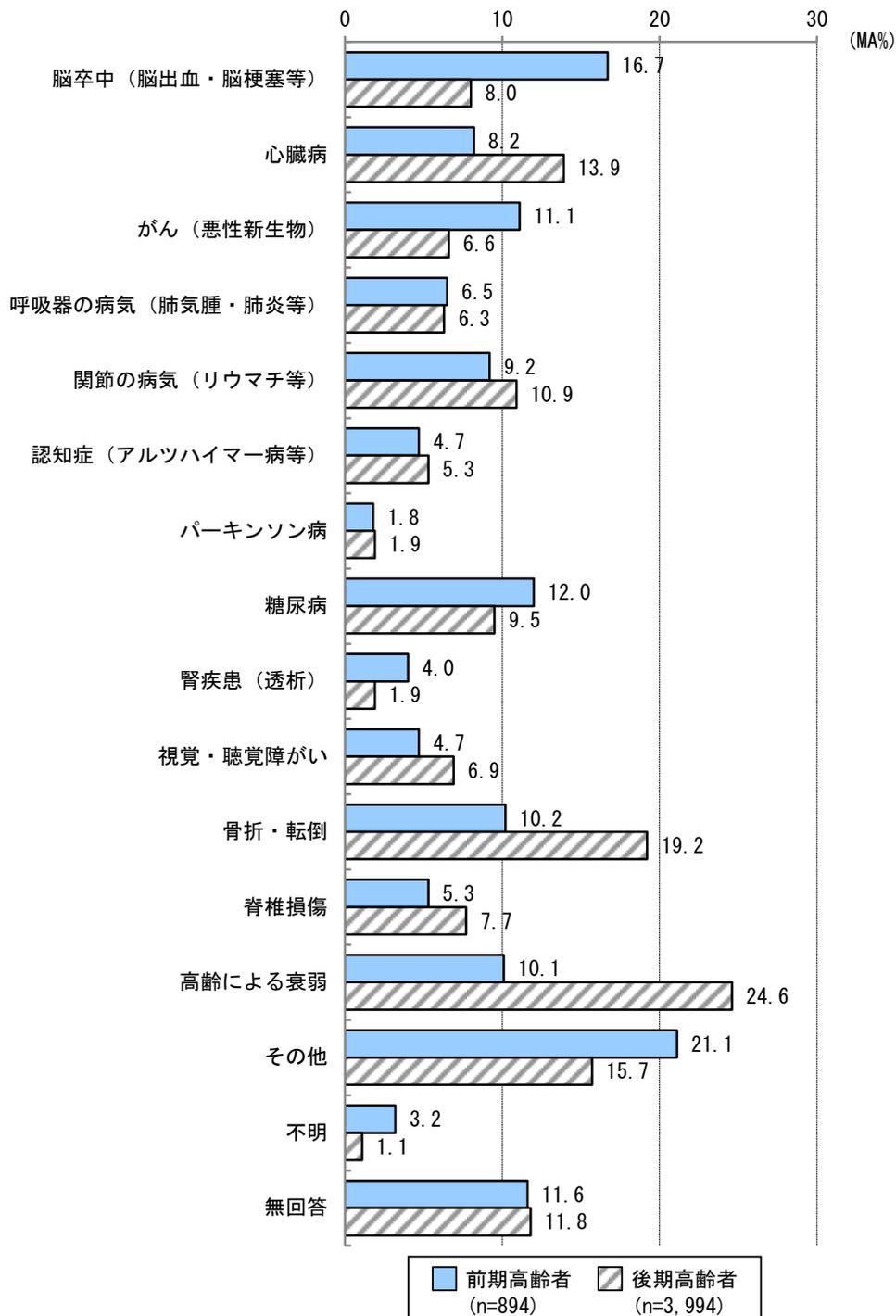
前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【参考 介護・介助が必要になった原因（経年比較）】



年齢別では、前期高齢者は「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」（16.7％）の割合が、後期高齢者は「高齢による衰弱」（24.6％）の割合がそれぞれ最も高くなっている。（図2-2-2-1）

【図2-2-2-1 年齢別 介護・介助が必要になった原因】



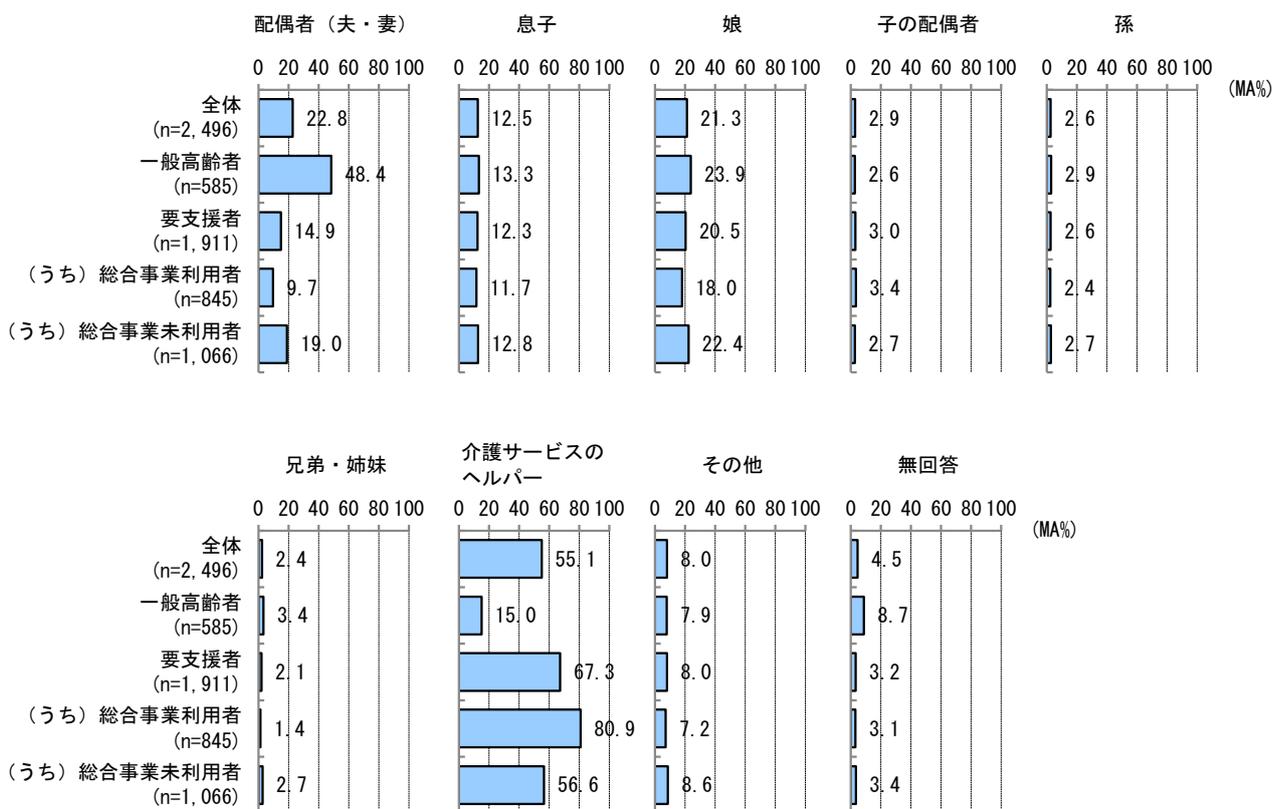
### ③ 介護・介助者

【「3 現在、何らかの介護を受けている」と回答された方におうかがいします。】  
 問 ②主にどなたの介護、介助を受けていますか。(〇はいくつでも)

介護・介助者は、「介護サービスのヘルパー」の割合が55.1%で最も高く、次いで「配偶者（夫・妻）」が22.8%、「娘」が21.3%となっている。

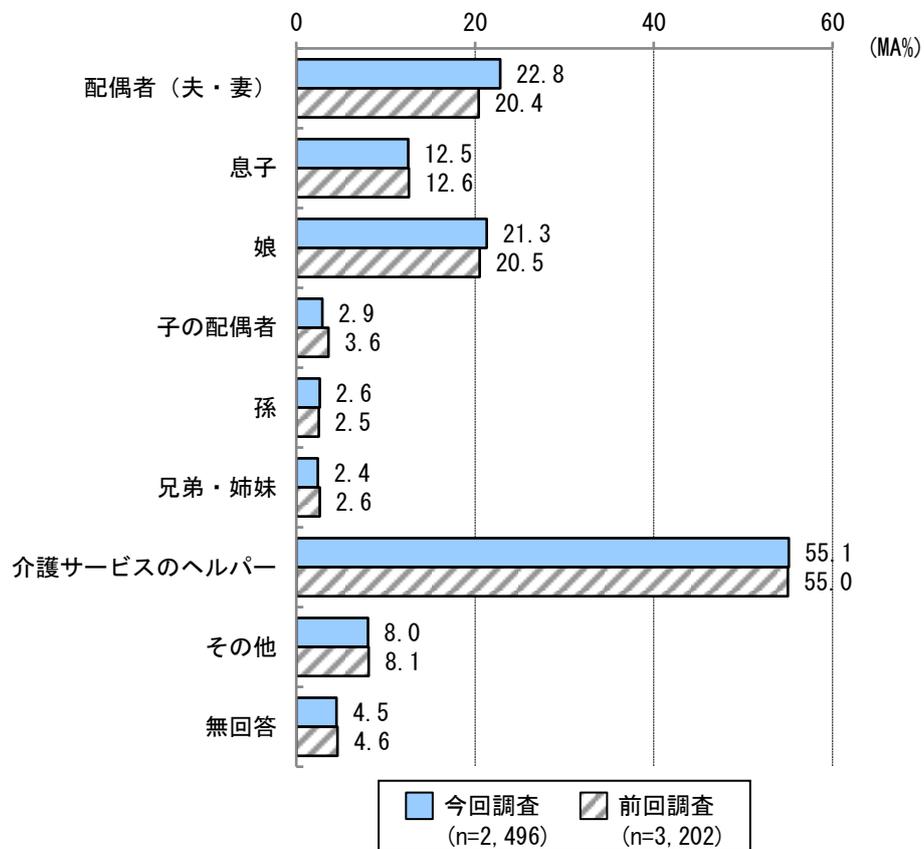
認定状況別では、一般高齢者は「配偶者（夫・妻）」の割合が48.4%で最も高く、要支援者は「介護サービスのヘルパー」の割合が67.3%で最も高くなっている。(図2-2-3)

【図2-2-3 介護・介助者】



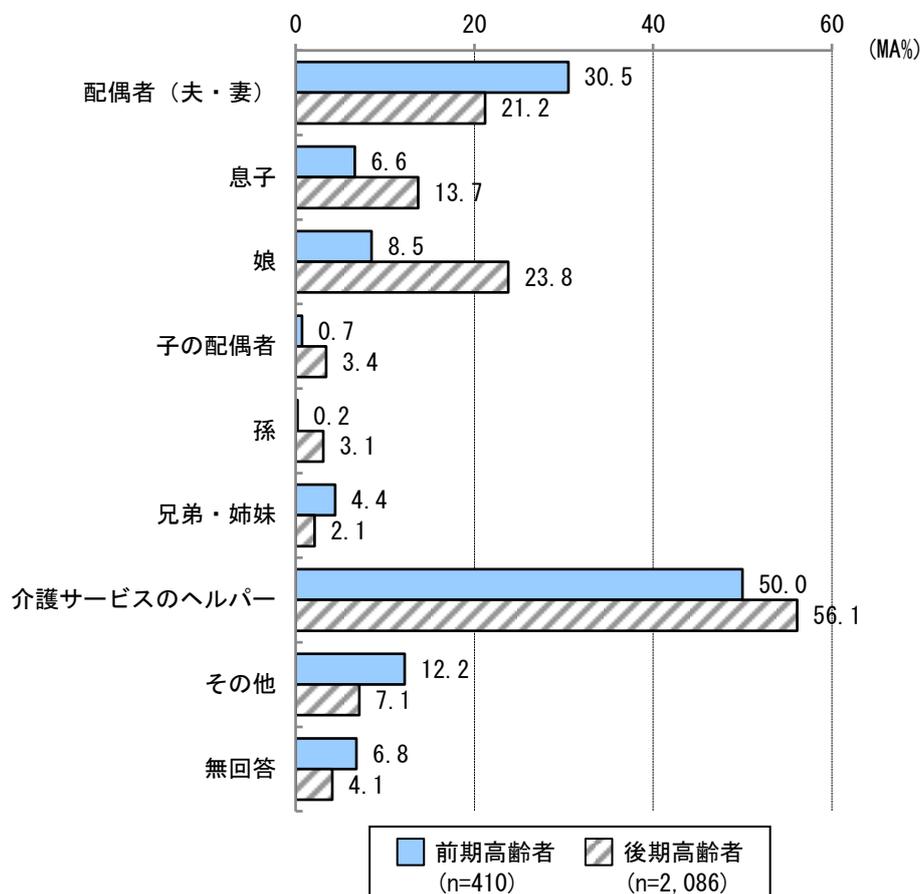
前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【参考 介護・介助者（経年比較）】



年齢別では、前期高齢者・後期高齢者とも「介護サービスのヘルパー」（前期50.0%、後期56.1%）の割合が最も高くなっており、次いで前期高齢者は「配偶者（夫・妻）」（30.5%）、後期高齢者は「娘」（23.8%）が続いている。（図2-2-3-1）

【図2-2-3-1 介護・介助者】



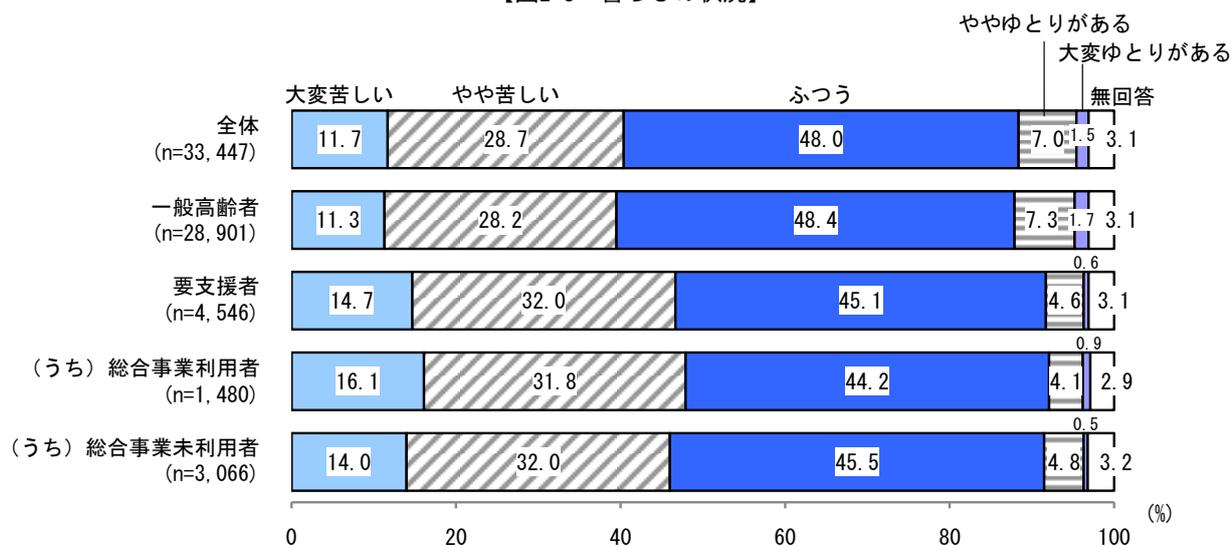
### (3) 暮らしの状況

問 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(〇はひとつ)

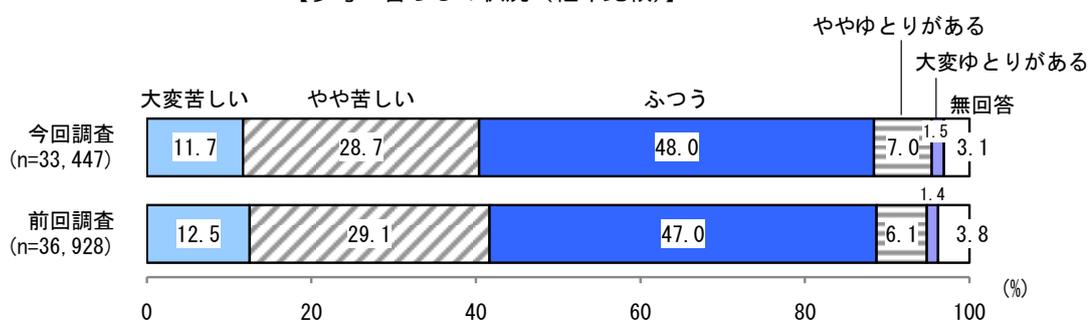
現在の暮らしの状況は、「ふつう」の割合が48.0%で最も高く、次いで「やや苦しい」が28.7%で、経済的に『苦しい』と感じている割合（「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた割合）は40.4%となっている。（図2-3）

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図2-3 暮らしの状況】

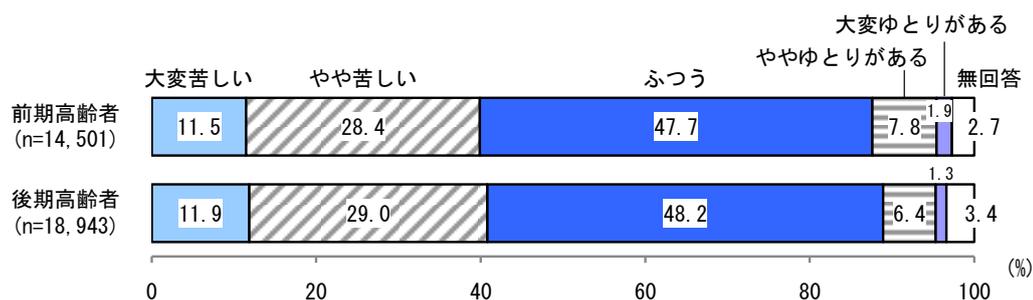


【参考 暮らしの状況（経年比較）】



年齢別では、『苦しい』と感じている割合は、前期高齢者（39.9%）、後期高齢者（40.9%）とも4割前後となっている。（図2-3-1）

【図2-3-1 年齢別 暮らしの状況】



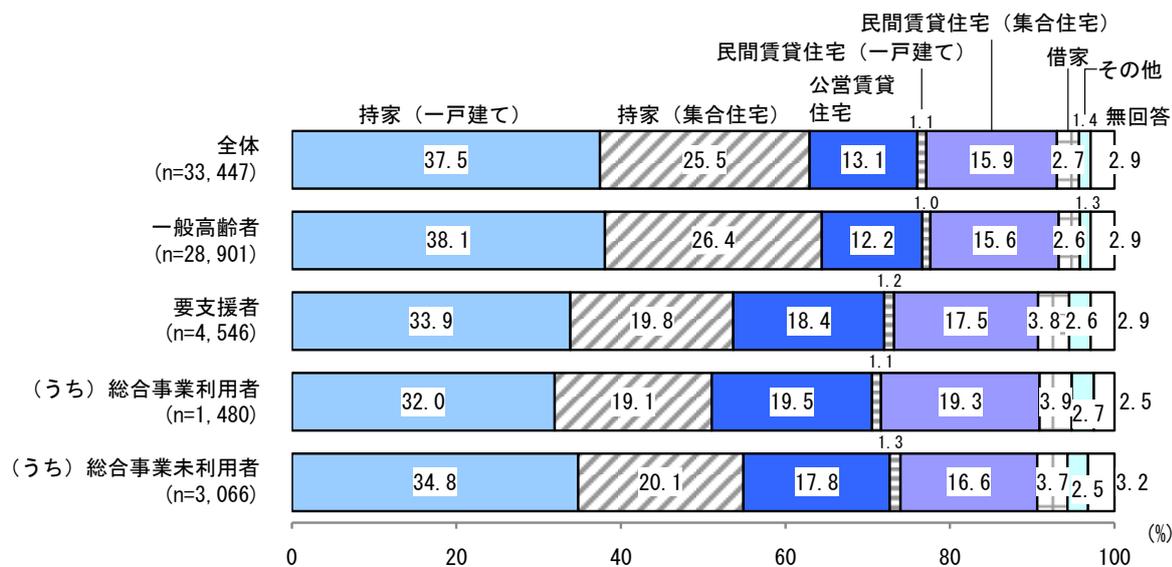
## (4) 住居形態

問 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(〇はひとつ)

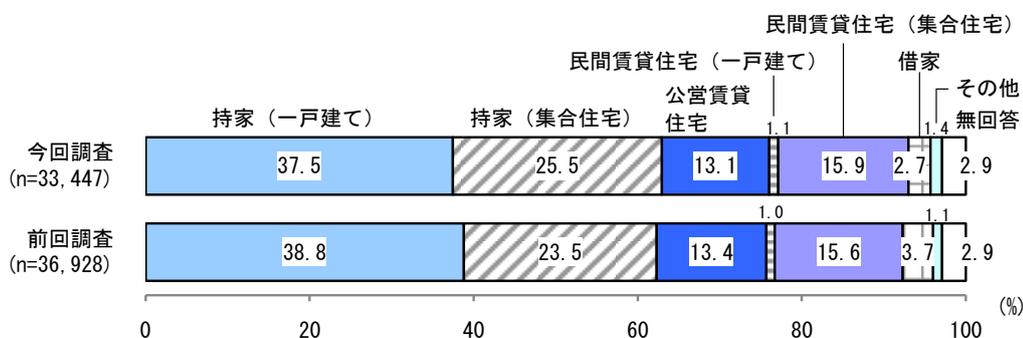
住居形態は、「持家（一戸建て）」の割合が37.5%で最も高く、次いで「持家（集合住宅）」が25.5%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が15.9%となっている。(図2-4)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図2-4 住居形態】

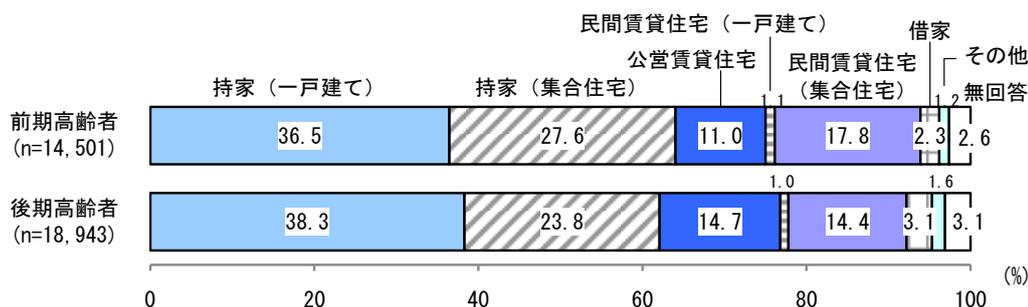


【参考 住居形態(経年比較)】



年齢別では、「持家(集合住宅)」の割合は、後期高齢者(23.8%)に比べ前期高齢者(27.6%)が3.8ポイント高く、「公営賃貸住宅」の割合は前期高齢者(11.0%)に比べ後期高齢者(14.7%)が3.7ポイント高くなっている。(図2-4-1)

【図2-4-1 年齢別 住居形態】



### 3 からだを動かすことについて

#### (1) 運動機能の状況

##### ① 階段を手すりや壁をつたわずに昇ること

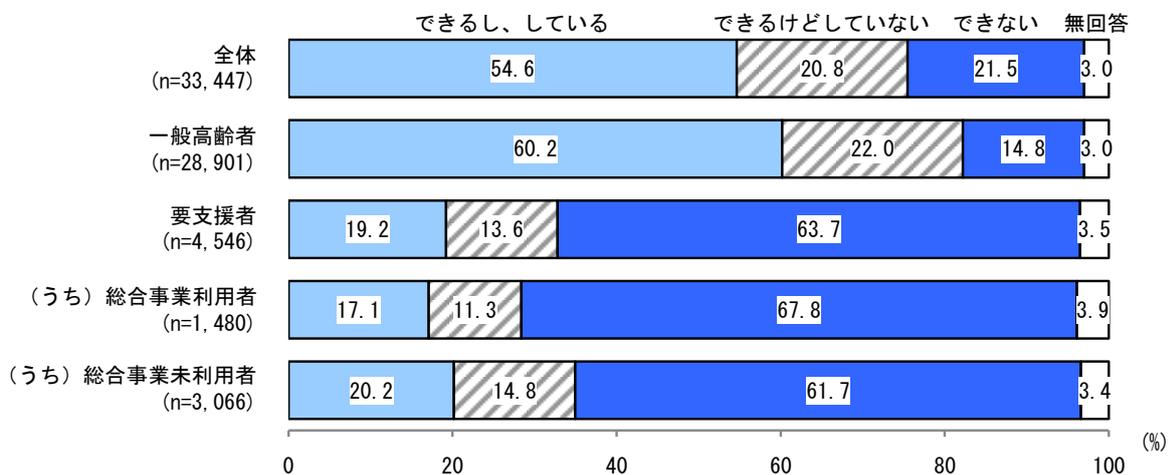
問 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(○はひとつ)

階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかについては、「できるし、している」の割合が54.6%で最も高く、次いで「できない」が21.5%、「できるけどしていない」が20.8%となっている。

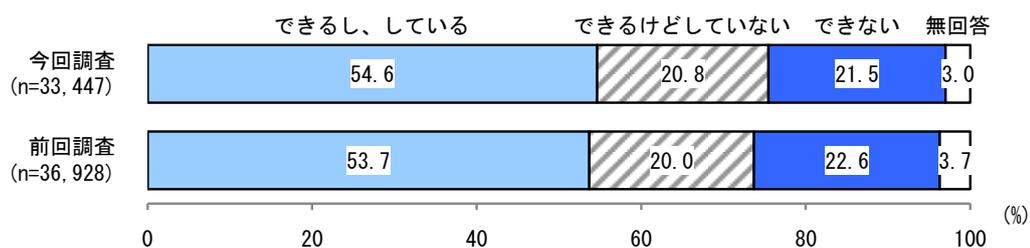
認定状況別では、要支援者は「できない」の割合が63.7%を占め、一般高齢者（14.8%）に比べ48.9ポイント高くなっている。（図3-1-1）

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図3-1-1 階段を手すりや壁をつたわずに昇ること】

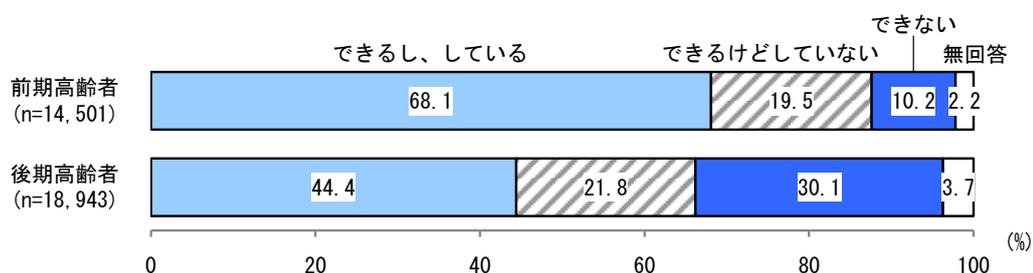


【参考 階段を手すりや壁をつたわずに昇ること（経年比較）】



年齢別では、「できない」の割合は、前期高齢者が10.2%、後期高齢者は30.1%となっている。（図3-1-1-1）

【図3-1-1-1 年齢別 階段を手すりや壁をつたわずに昇ること】



## ② 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること

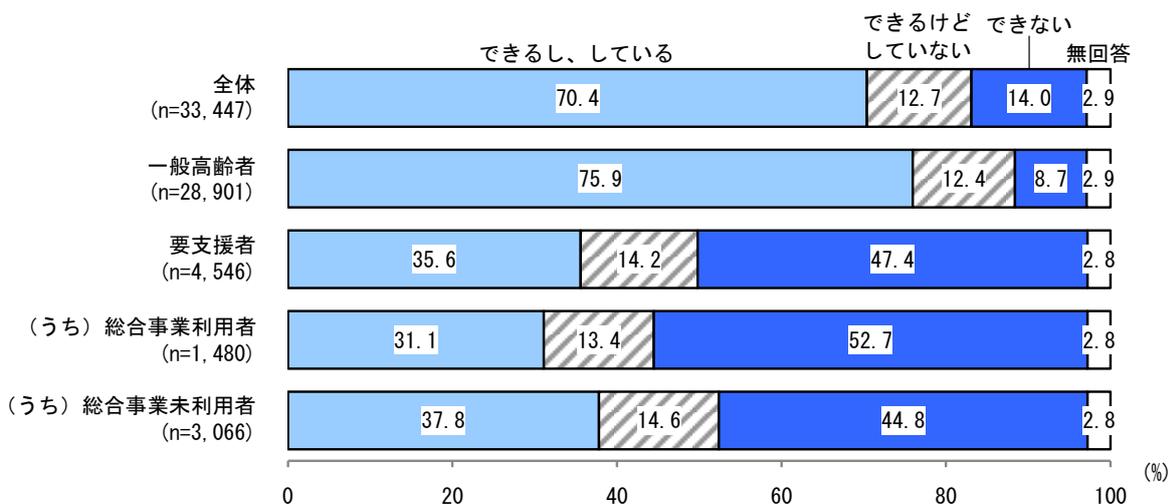
問 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(○はひとつ)

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかについては、「できるし、している」の割合が70.4%で最も高く、次いで「できない」が14.0%となっている。

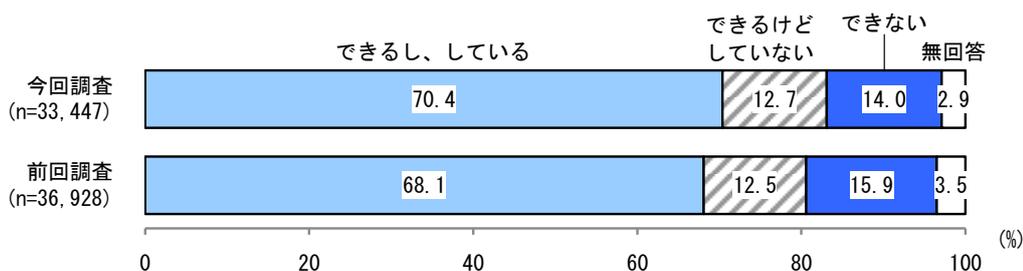
認定状況別では、要支援者は「できない」の割合が47.4%で、一般高齢者（8.7%）に比べ38.7ポイント高くなっている。(図3-1-2)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図3-1-2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること】

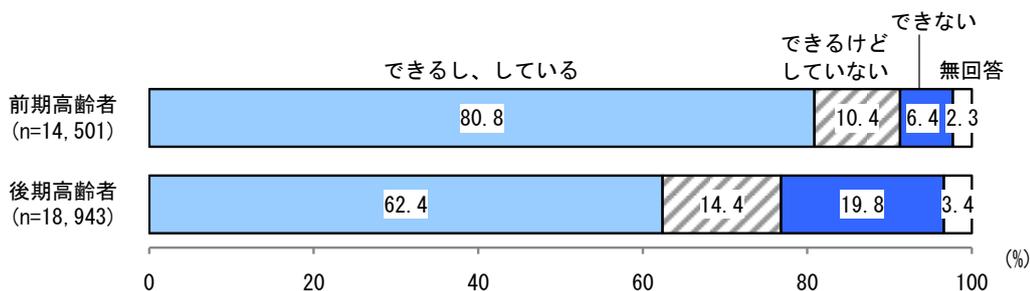


【参考 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること（経年比較）】



年齢別では、「できない」の割合は、前期高齢者が6.4%、後期高齢者は19.8%となっている。(図3-1-2-1)

【図3-1-2-1 年齢別 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること】



### ③ 15分位続けて歩くこと

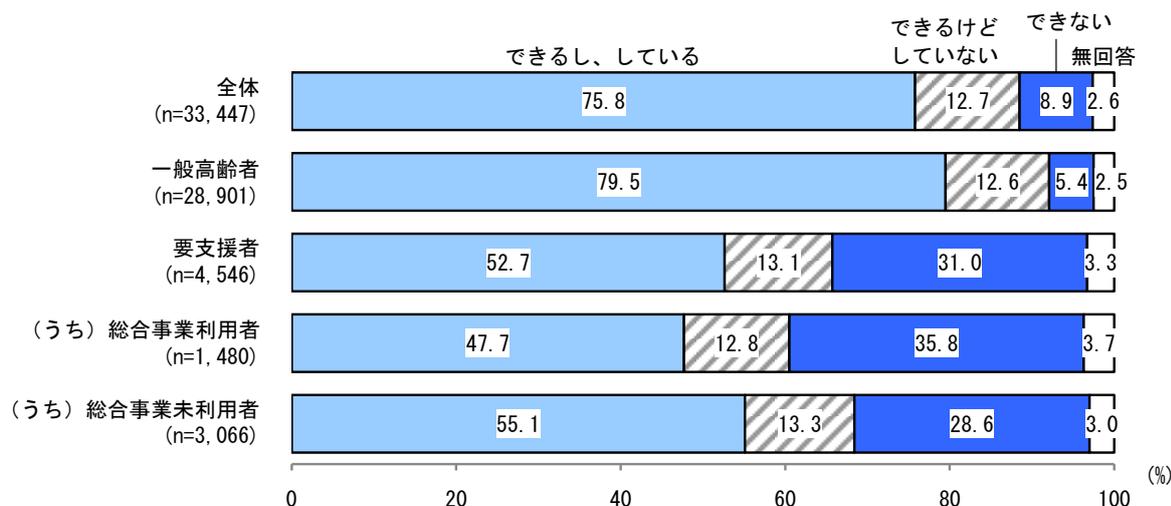
問 15分位続けて歩いていますか。(○はひとつ)

15分位続けて歩いているかについては、「できるし、している」の割合が75.8%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が12.7%、「できない」が8.9%となっている。

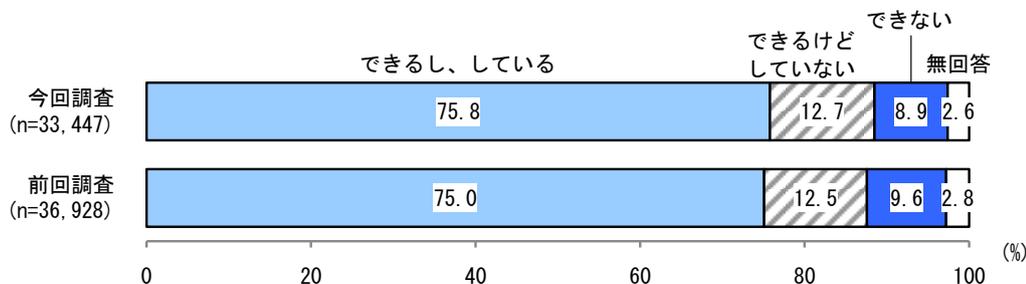
認定状況別では、要支援者は「できない」の割合が31.0%で、一般高齢者（5.4%）に比べ25.6ポイント高くなっている。(図3-1-3)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図3-1-3 15分位続けて歩くこと】

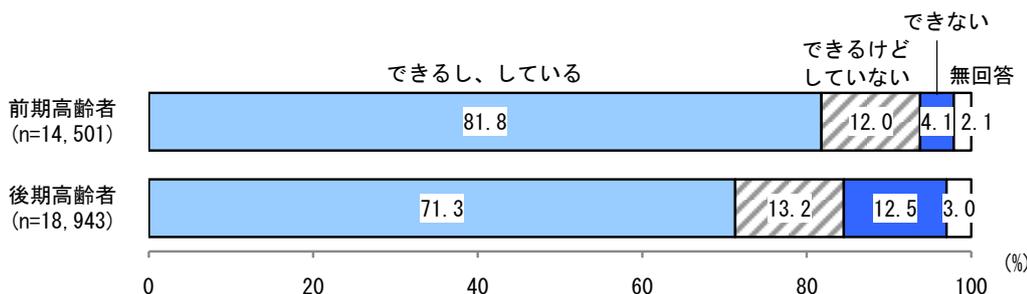


【参考 15分位続けて歩くこと (経年比較)】



年齢別では、「できない」の割合は、前期高齢者が4.1%、後期高齢者は12.5%となっている。(図3-1-3-1)

【図3-1-3-1 年齢別 15分位続けて歩くこと】



#### ④ 過去1年間に転んだ経験

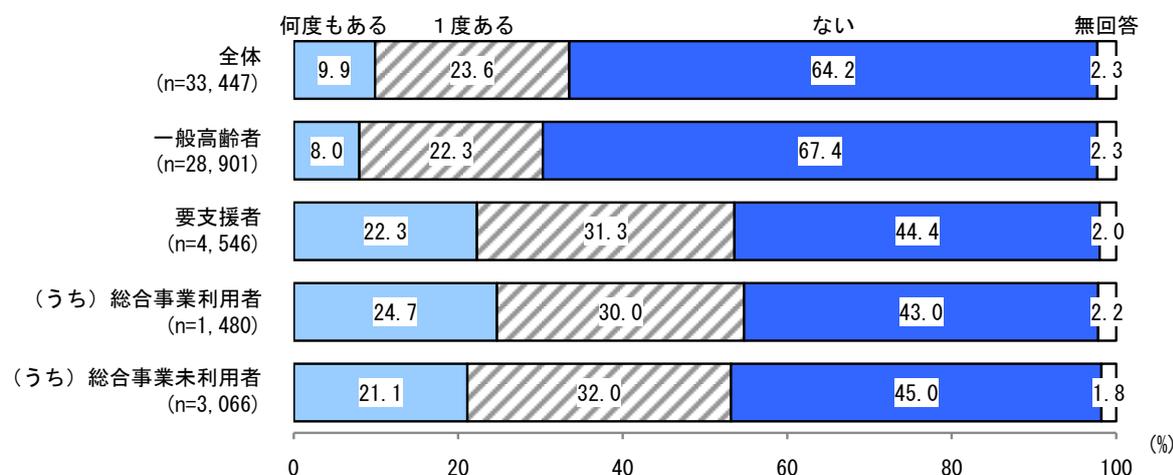
問 過去1年間に転んだ経験がありますか。(○はひとつ)

過去1年間に転んだ経験は、「ない」の割合が64.2%で最も高く、次いで「1度ある」が23.6%、「何度もある」が9.9%となっている。

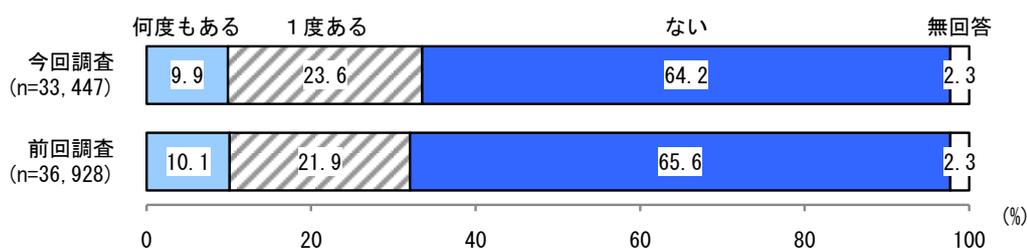
認定状況別では、要支援者は「何度もある」が22.3%、「1度ある」が31.3%となっており、両者をあわせた『転んだ経験がある』の割合は53.6%と過半数を占めている。一般高齢者(30.3%)に比べ23.3ポイント高くなっている。(図3-1-4)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図3-1-4 過去1年間に転んだ経験】

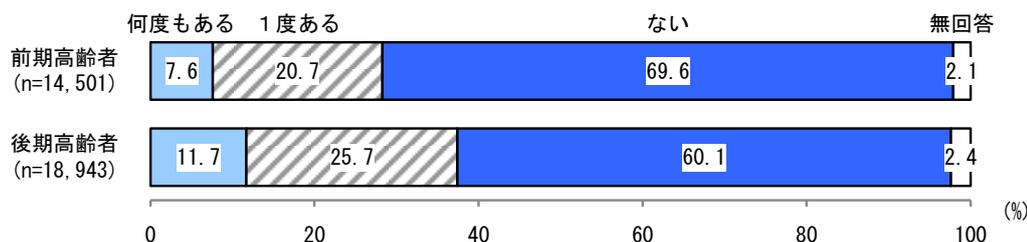


【参考 過去1年間に転んだ経験(経年比較)】



年齢別では、『転んだ経験がある』の割合は、前期高齢者が28.3%、後期高齢者は37.4%となっている。(図3-1-4-1)

【図3-1-4-1 年齢別 過去1年間に転んだ経験】



### ⑤ 転倒に対する不安の大きさ

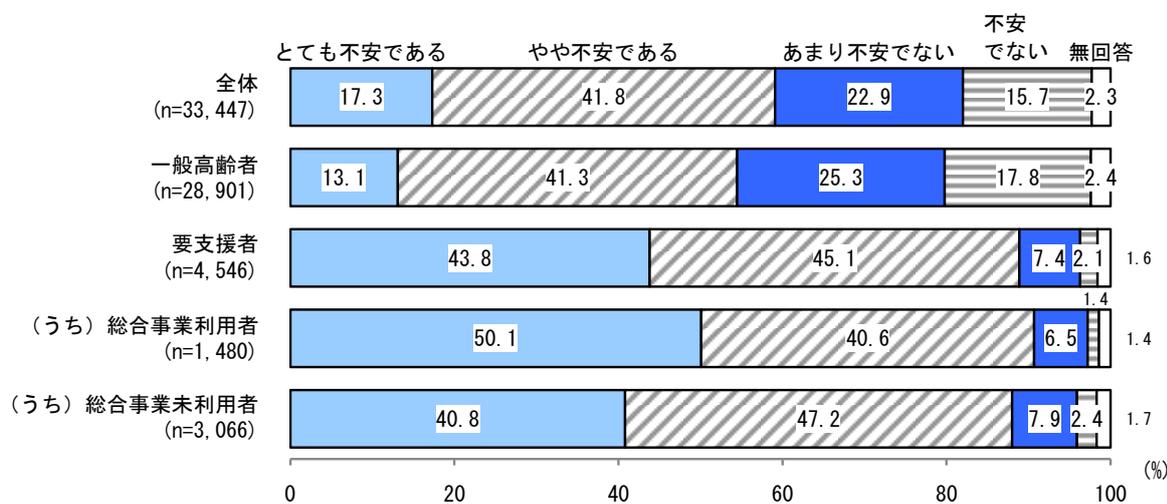
問 転倒に対する不安は大きいですか。(○はひとつ)

転倒に対する不安が大きいかについては、「やや不安である」の割合が41.8%で最も高く、次いで「あまり不安でない」が22.9%、「とても不安である」が17.3%となっている。「とても不安である」と「やや不安である」をあわせた『不安である』の割合は59.1%となっている。

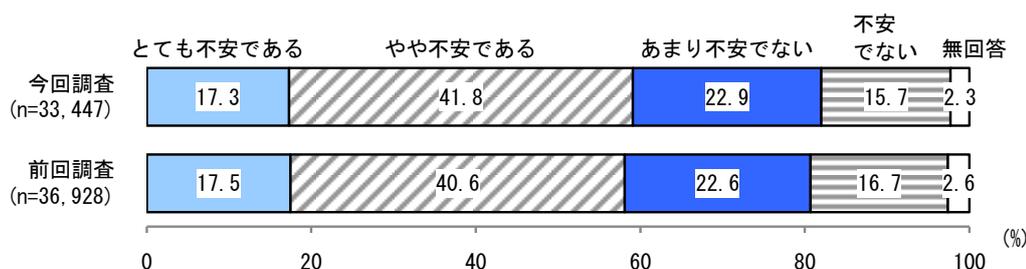
認定状況別では、要支援者は『不安である』の割合が88.9%と約9割を占め、一般高齢者は54.4%で、要支援者の方が34.5ポイント高くなっている。(図3-1-5)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図3-1-5 転倒に対する不安の大きさ】

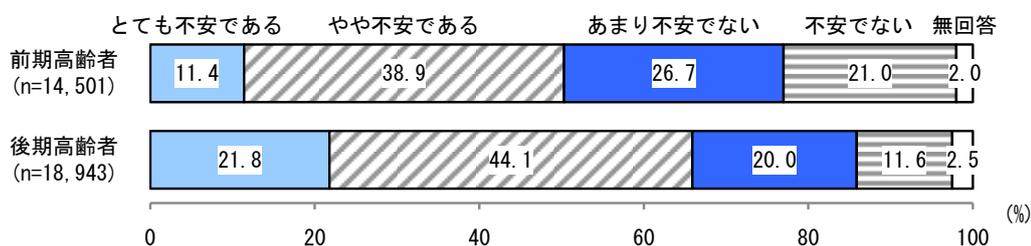


【参考 転倒に対する不安の大きさ (経年比較)】



年齢別では、『不安である』の割合は、前期高齢者が50.3%、後期高齢者は65.9%となっている。(図3-1-5-1)

【図3-1-5-1 年齢別 転倒に対する不安の大きさ】



## (2) 外出の頻度

### ① 週あたりの外出状況

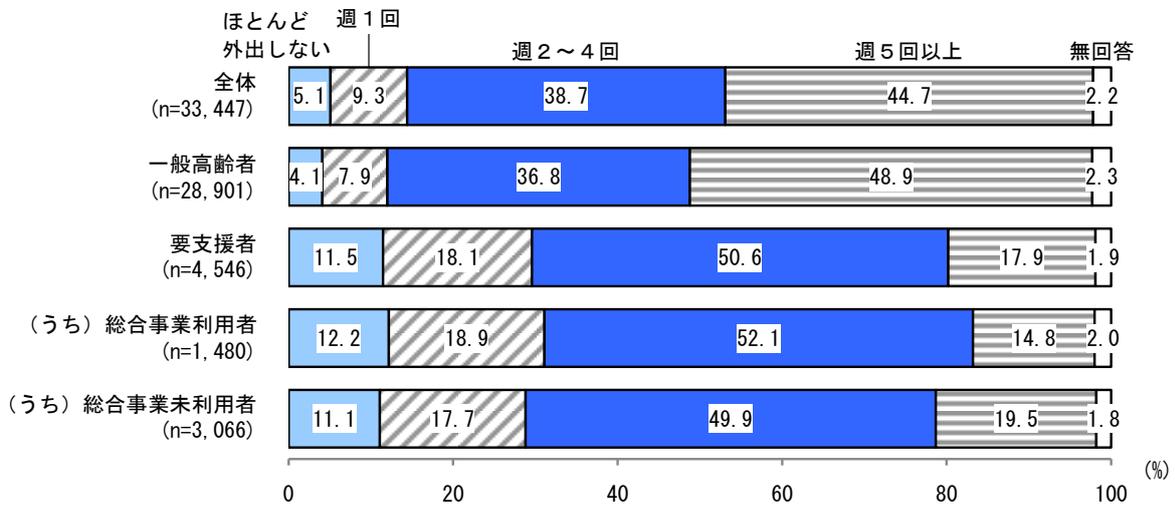
問 週に1回以上は外出していますか。(○はひとつ)

週に1回以上外出しているかについては、「週5回以上」の割合が44.7%で最も高く、次いで「週2～4回」が38.7%、「週1回」が9.3%、「ほとんど外出しない」が5.1%となっている。

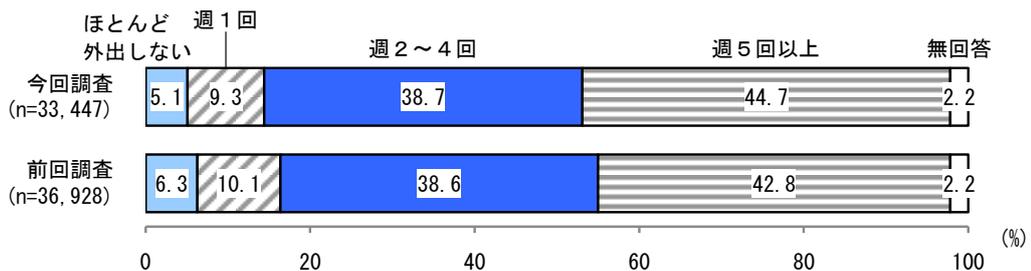
認定状況別では、「ほとんど外出しない」の割合は要支援者が11.5%で、一般高齢者(4.1%)に比べ7.4ポイント高くなっている。(図3-2-1)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図3-2-1 週あたりの外出状況】

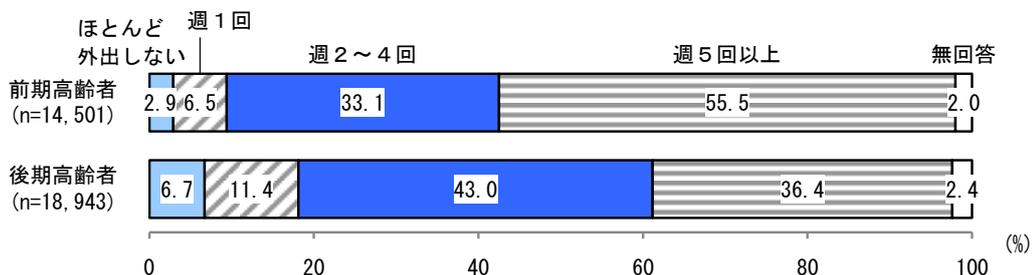


【参考 週あたりの外出状況 (経年比較)】



年齢別では、「ほとんど外出しない」の割合は、前期高齢者が2.9%、後期高齢者は6.7%と、いずれも1割を下回っている。(図3-2-1-1)

【図3-2-1-1 年齢別 週あたりの外出状況】



## ② 昨年と比べた外出回数の状況

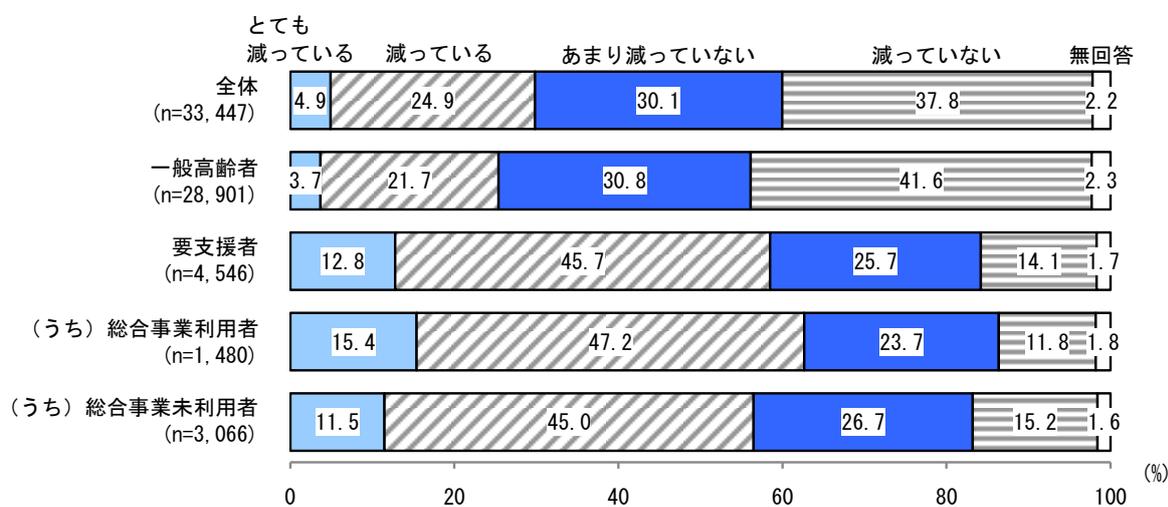
問 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(○はひとつ)

昨年と比べて外出の回数が減っているかについては、「減っていない」の割合が37.8%で最も高く、次いで「あまり減っていない」が30.1%となっている。「とても減っている」(4.9%)と「減っている」(24.9%)をあわせた『外出の回数が減っている』の割合は29.8%となっている。

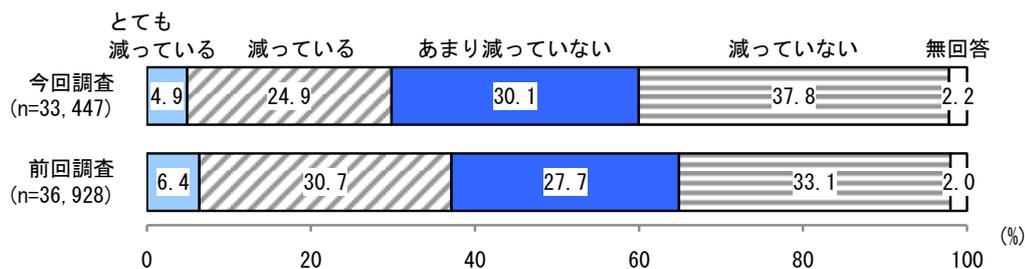
認定状況別では、『外出の回数が減っている』の割合は要支援者が58.5%で、一般高齢者(25.4%)に比べ33.1ポイント高くなっている。(図3-2-2)

前回調査の結果に比べ、『外出の回数が減っている』の割合が7.3ポイント減少している。

【図3-2-2 昨年と比べた外出回数の状況】

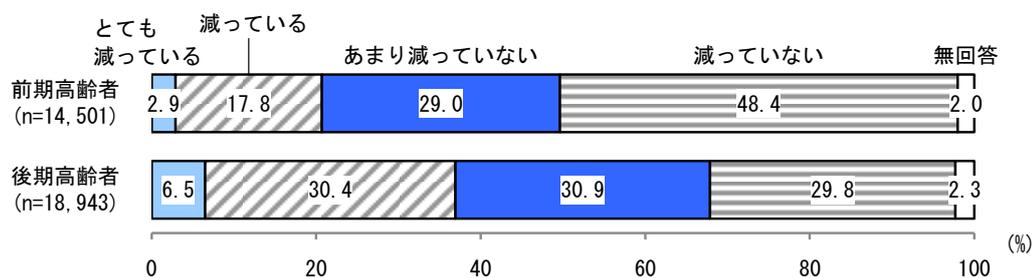


【参考 昨年と比べた外出回数の状況 (経年比較)】



年齢別では、『外出の回数が減っている』の割合は、前期高齢者が20.7%、後期高齢者は36.9%となっている。(図3-2-2-1)

【図3-2-2-1 年齢別 昨年と比べた外出回数の状況】



### (3) 外出控えの状況

#### ① 外出を控えていること

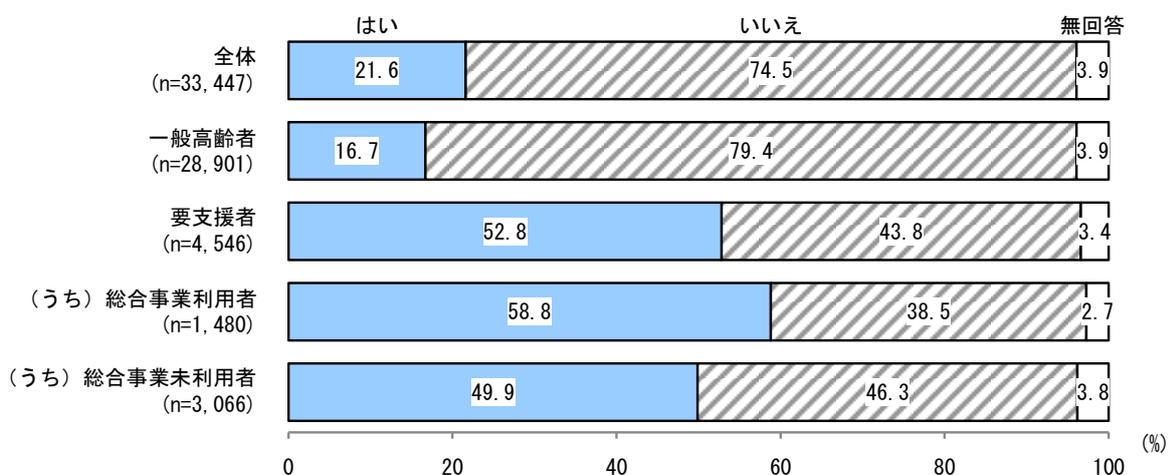
問 外出を控えていますか。(○はひとつ)

外出を控えている(「はい」と回答している)の割合は、全体で21.6%となっている。

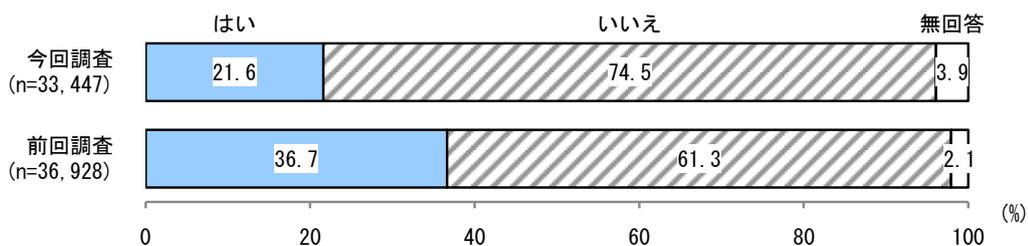
認定状況別では、外出を控えている割合は要支援者が52.8%で、一般高齢者(16.7%)に比べ36.1ポイント高くなっている。(図3-3-1)

前回調査の結果と比べ、外出を控えている割合が15.1ポイント減少している。

【図3-3-1 外出を控えていること】

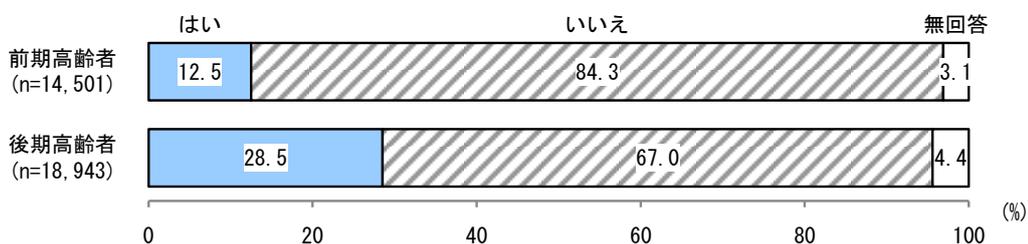


【参考 外出を控えていること(経年比較)】



年齢別では、外出を控えている割合は、前期高齢者が12.5%、後期高齢者は28.5%となっている。(図3-3-1-1)

【図3-3-1-1 年齢別 外出を控えていること】



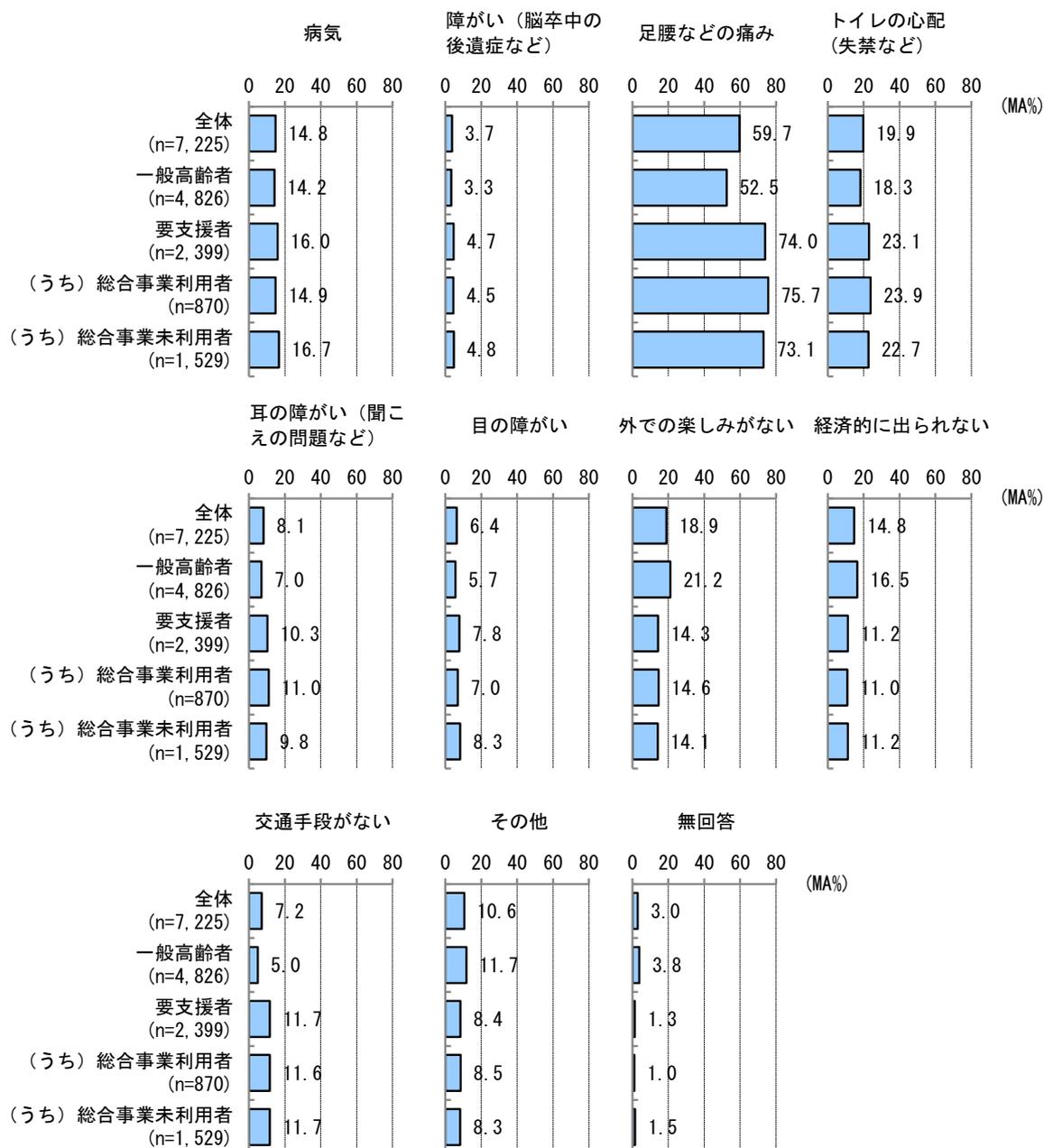
## ② 外出を控えている理由

【「1 はい」(外出を控えている)と回答された方におうかがいします】  
 問 ①外出を控えている理由は、次のどれですか。(〇はいくつでも)

外出を控えている理由は、「足腰などの痛み」の割合が59.7%で最も高く、次いで「トイレの心配(失禁など)」が19.9%、「外での楽しみがない」が18.9%となっている。

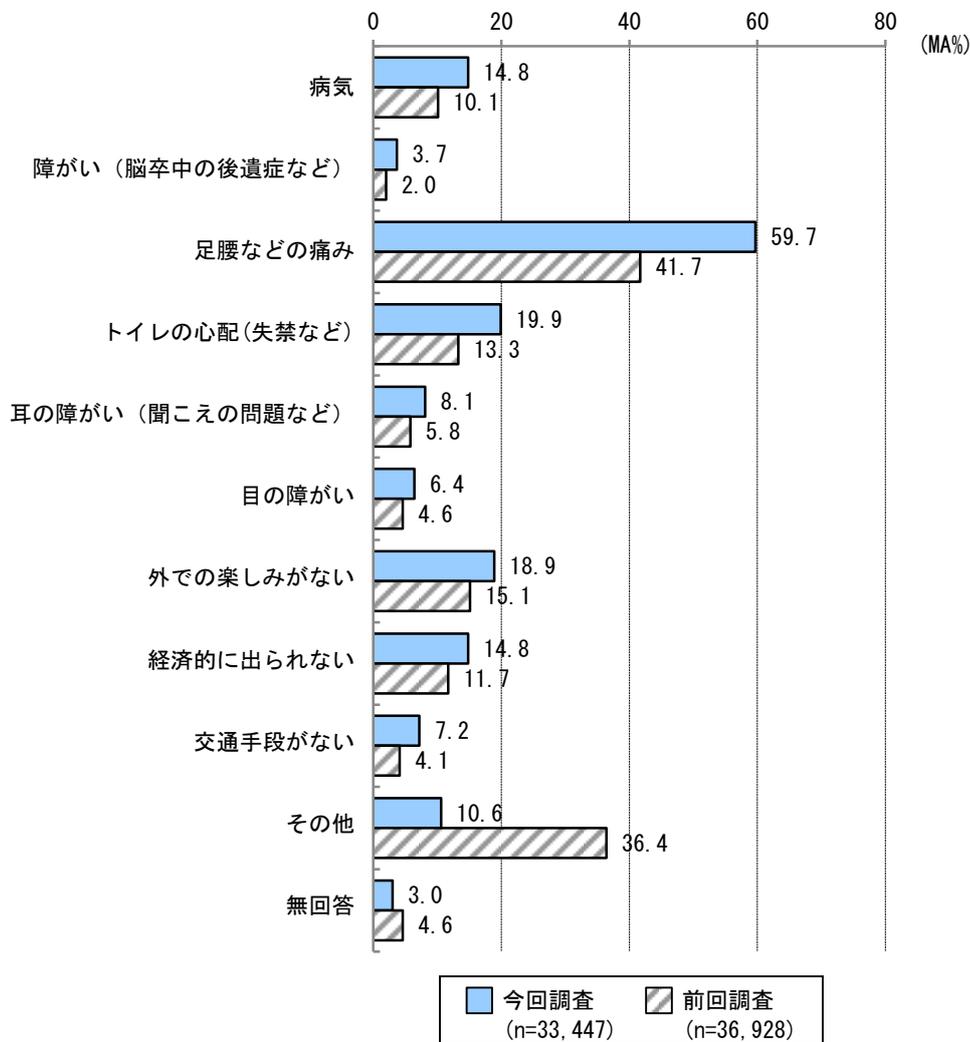
認定状況別では、一般高齢者・要支援者とも「足腰などの痛み」の割合が最も高く、要支援者は74.0%、一般高齢者は52.5%となっている。(図3-3-2)

【図3-3-2 外出を控えている理由】



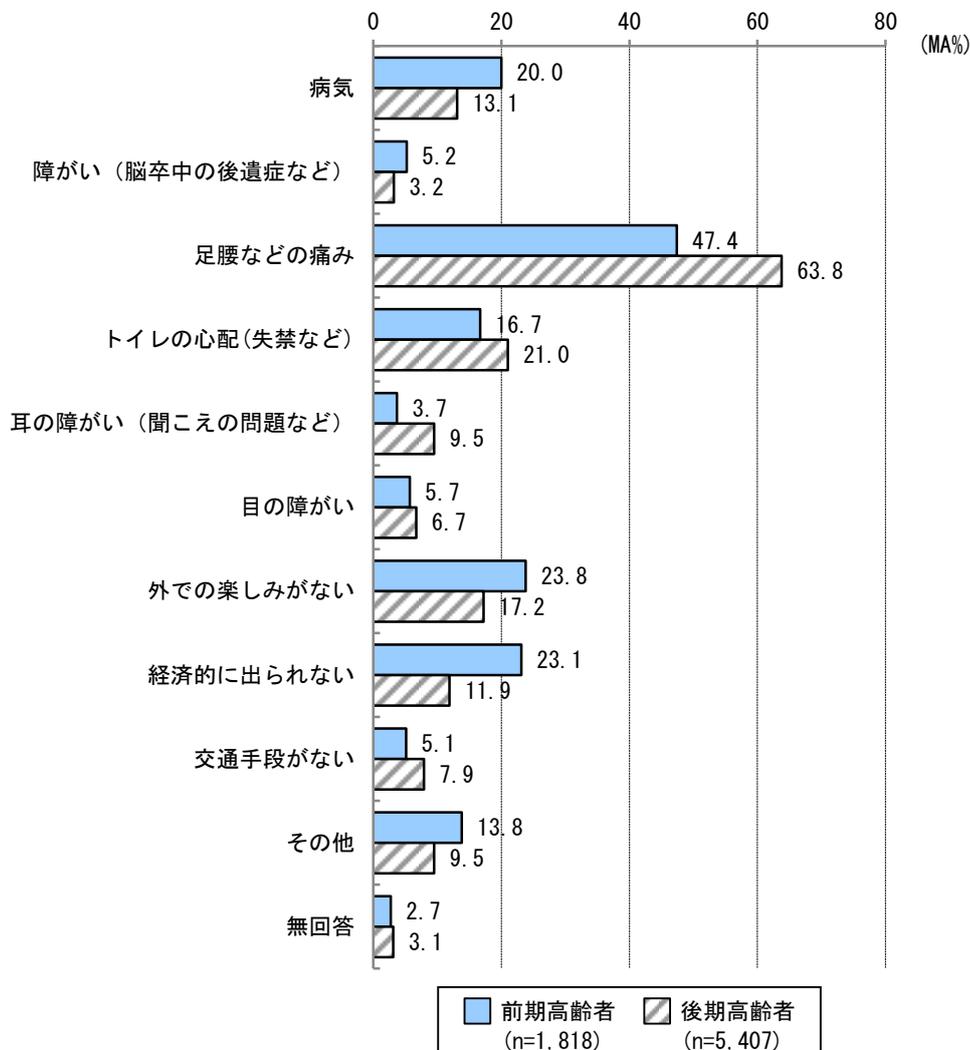
前回調査の結果に比べ、全般的に今回の割合が増加し、最も割合が高い理由の「足腰などの痛み」は18.0ポイント、2番目に高い「トイレの心配(失禁など)」の割合は6.6ポイントそれぞれ増加している。

【参考 外出を控えている理由（経年比較）】



年齢別では、「足腰などの痛み」の割合は前期高齢者が47.4%、後期高齢者は63.8%となっている。これに次いで前期高齢者は「外での楽しみがない」(23.8%)、後期高齢者は「トイレの心配(失禁など)」(21.0%)が続いている。(図3-3-2-1)

【図3-3-2-1 年齢別 外出を控えている理由】



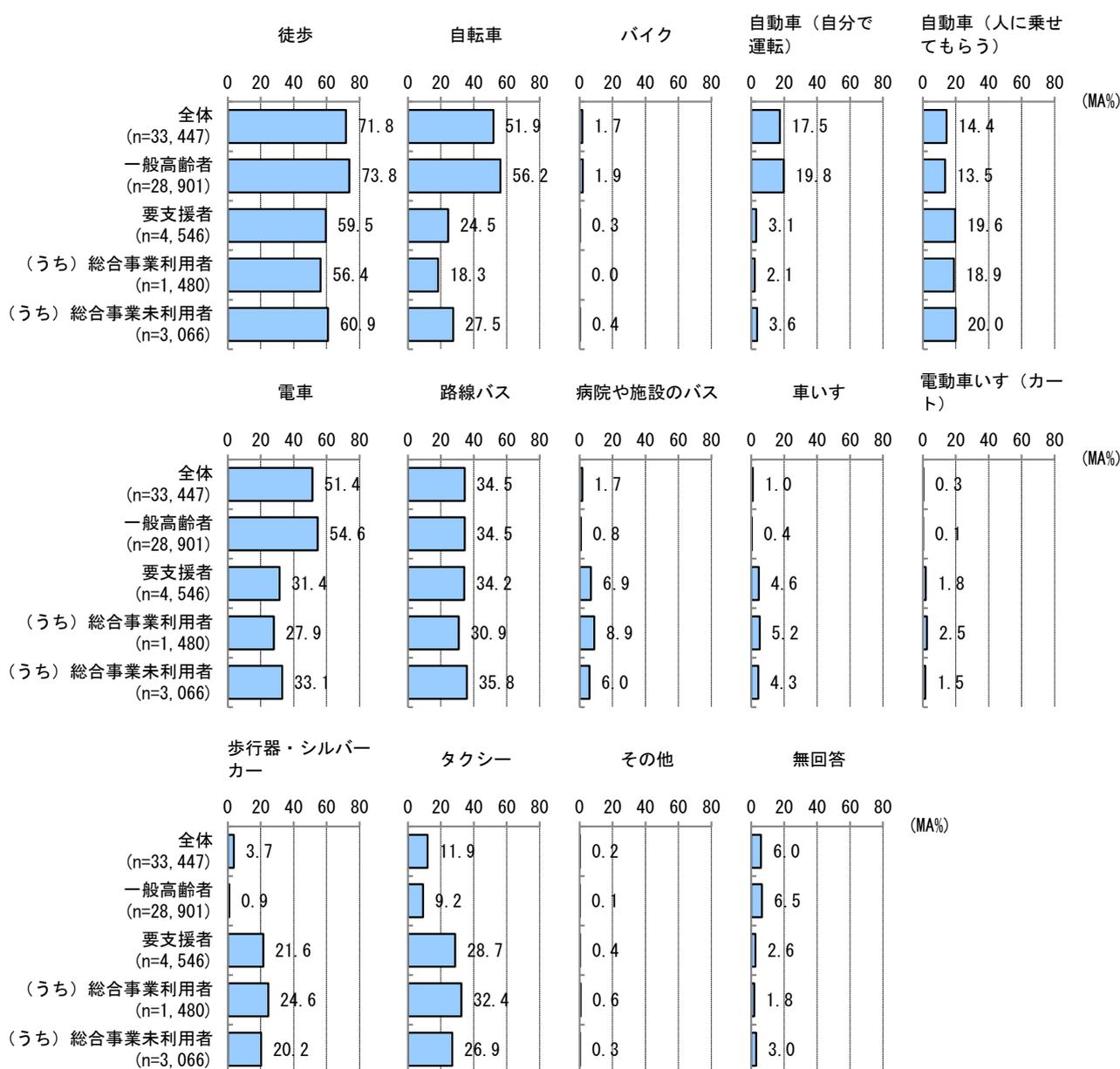
## (4) 移動手段

問 外出する際の移動手段は何ですか。(○はいくつでも)

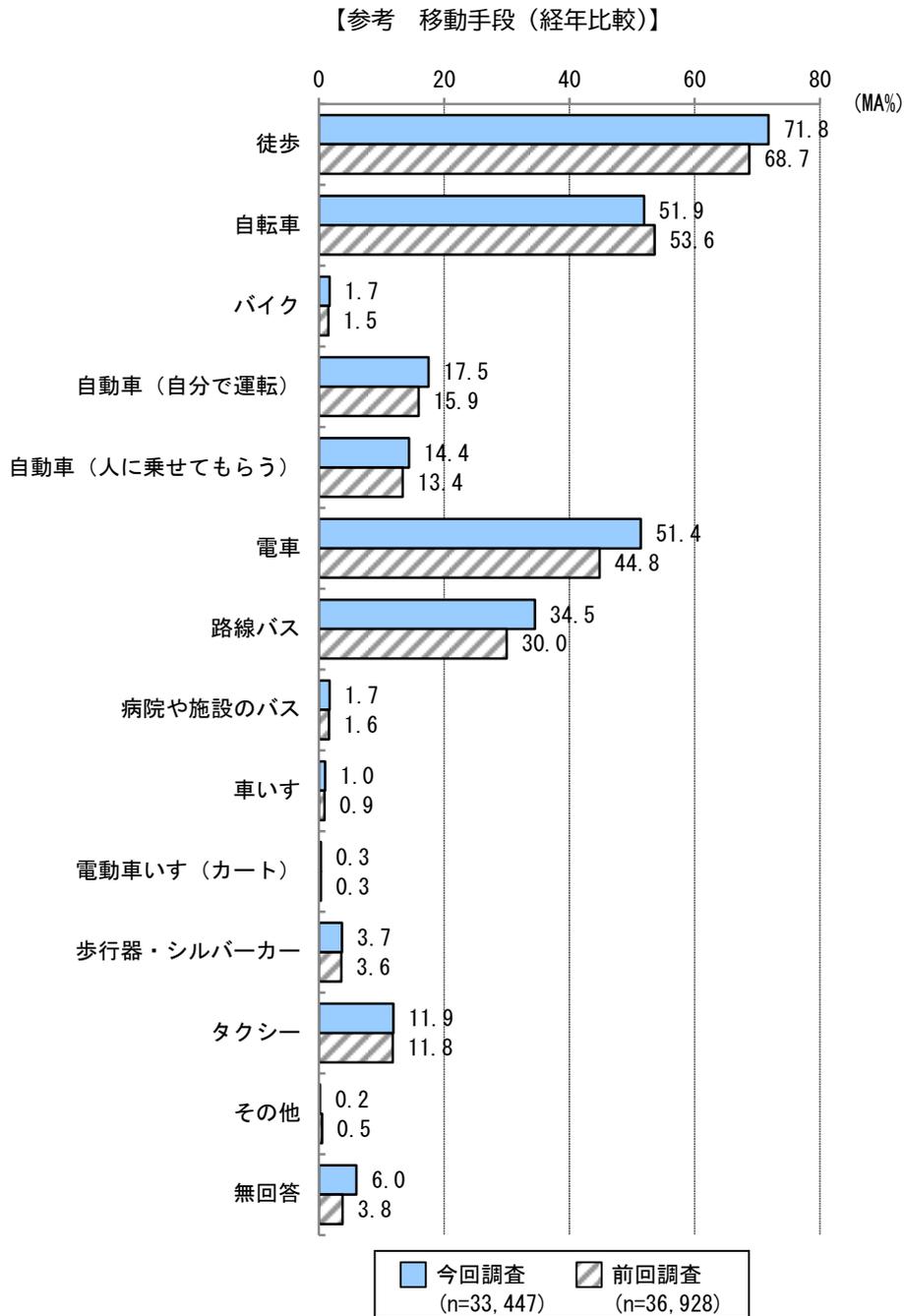
外出する際の移動手段は、「徒歩」の割合が71.8%で最も高く、次いで「自転車」が51.9%、「電車」が51.4%、「路線バス」が34.5%となっている。

認定状況別では、一般高齢者・要支援者とも「徒歩」の割合が最も高く、要支援者が59.5%で、一般高齢者(73.8%)に比べ14.3ポイント低くなっている。(図3-4)

【図3-4 移動手段】

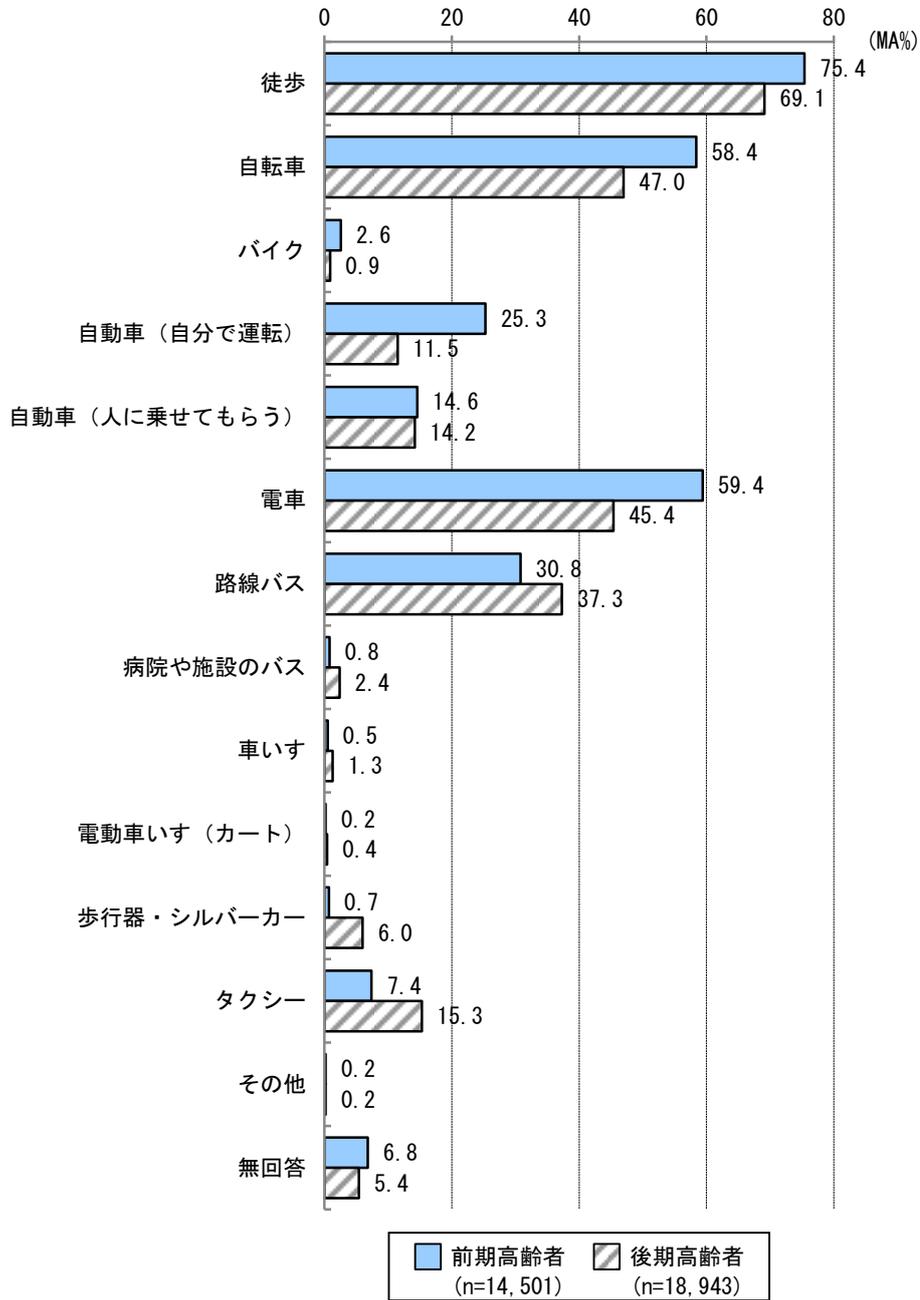


前回調査の結果に比べ、「電車」の割合が6.6ポイント、「路線バス」の割合が4.5ポイント増加している。



年齢別では、前期高齢者・後期高齢者とも「徒歩」の割合が最も高く、前期高齢者は75.4%、後期高齢者は69.1%となっている。これに次いで前期高齢者は「電車」(59.4%)、後期高齢者は「自転車」(47.0%)が続いている。(図3-4-1)

【図3-4-1 年齢別 移動手段】



## 4 食べることについて

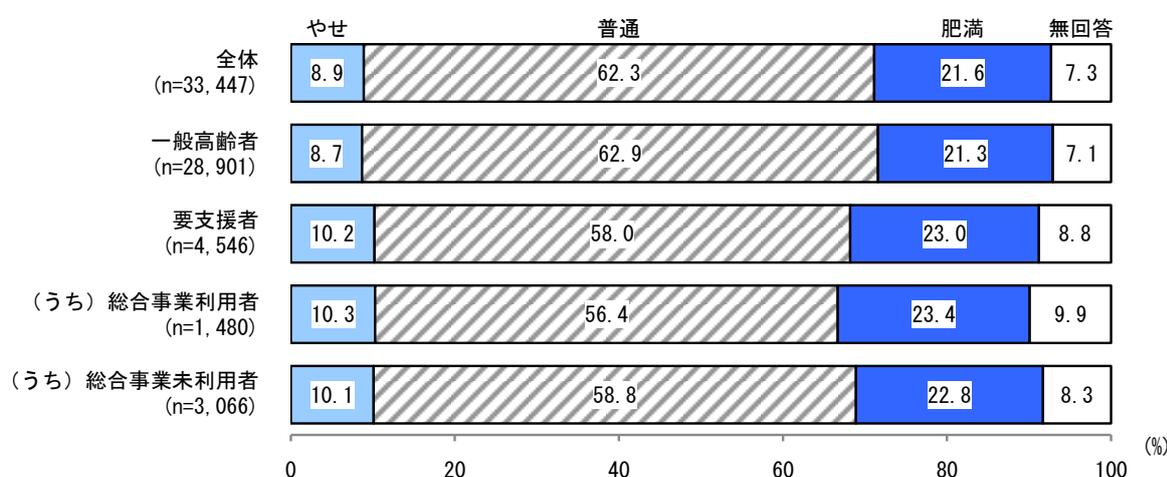
### (1) BMI

問 身長・体重を教えてください。

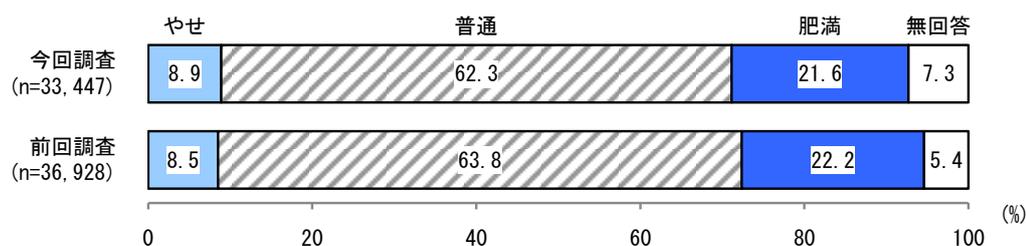
身長・体重から算出したBMI値は、「肥満 (BMI $\geq$ 25)」の割合が21.6%、「やせ (低体重) (BMI $<$ 18.5)」の割合が8.9%となっている。(図4-1)

「やせ」及び「肥満」の各割合は、一般高齢者に比べ要支援者でやや高くなっている。前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図4-1 BMI】

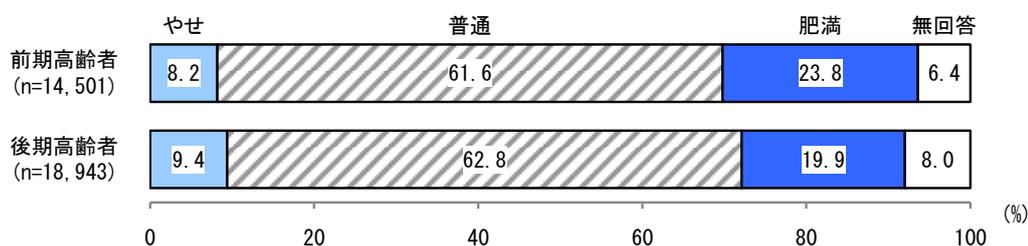


【参考 BMI (経年比較)】



年齢別では、「肥満」の割合は、後期高齢者 (19.9%) に比べ前期高齢者 (23.8%) が3.9ポイント高くなっている。(図4-1-1)

【図4-1-1 年齢別 BMI】



## (2) 口腔機能の状況

### ① 半年前に比べて固いものが食べにくくなったこと

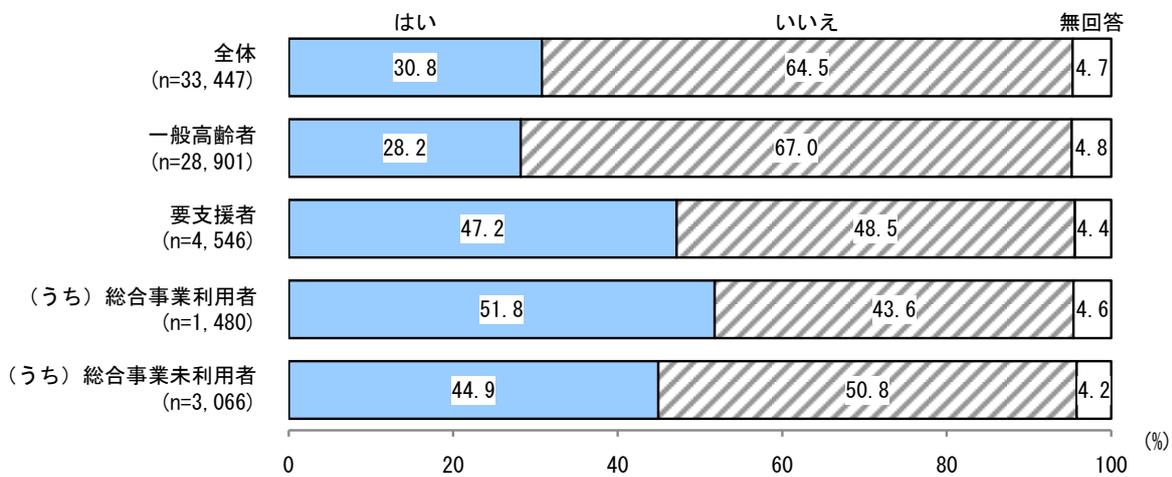
問 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(○はひとつ)

半年前に比べて固いものが食べにくくなった(「はい」と回答している)の割合は、30.8%となっている。

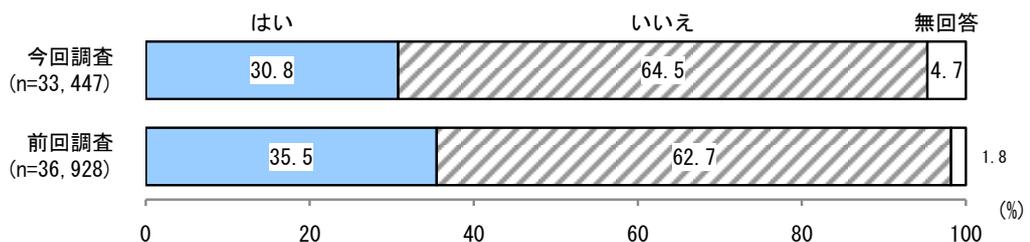
認定状況別では、半年前に比べて固いものが食べにくくなったの割合は、要支援者が47.2%で、一般高齢者(28.2%)に比べ19.0ポイント高くなっている。(図4-2-1)

前回調査の結果に比べ、半年前に比べて固いものが食べにくくなったの割合が4.7ポイント減少している。

【図4-2-1 半年前に比べて固いものが食べにくくなったこと】

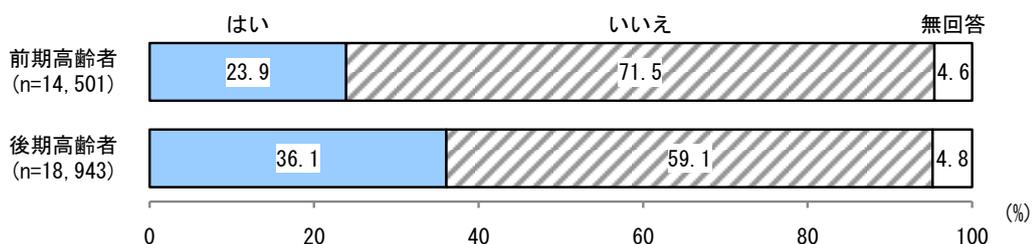


【参考 半年前に比べて固いものが食べにくくなったこと (経年比較)】



年齢別では、半年前に比べて固いものが食べにくくなったの割合は、前期高齢者が23.9%、後期高齢者は36.1%となっている。(図4-2-1-1)

【図4-2-1-1 年齢別 半年前に比べて固いものが食べにくくなったこと】



## ② お茶や汁物等でむせること

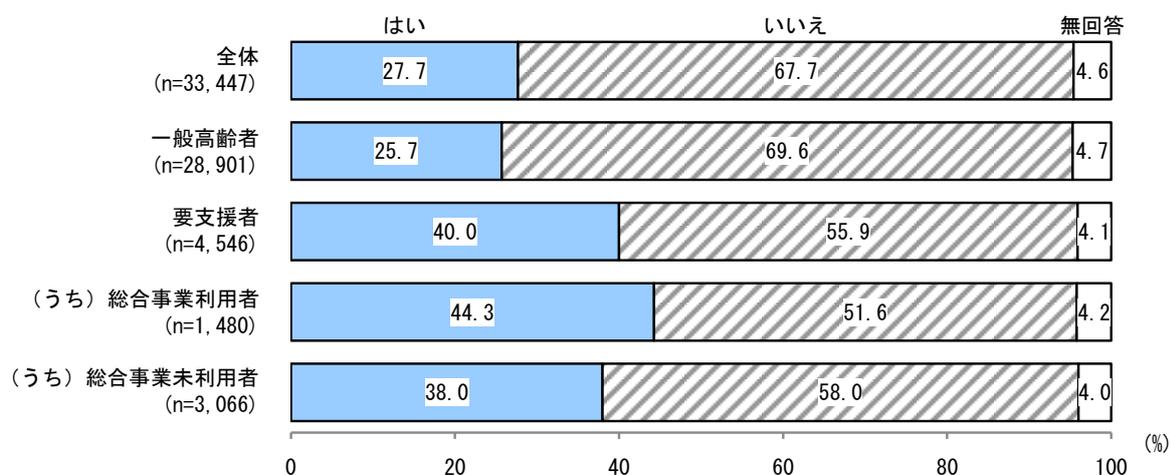
問 お茶や汁物等でむせることがありますか。(○はひとつ)

お茶や汁物等でむせることがある(「はい」と回答している)の割合は27.7%となっている。

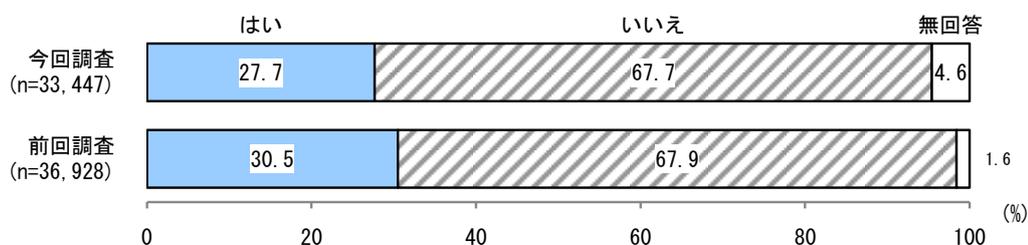
認定状況別では、お茶や汁物等でむせることがあるの割合は、要支援者が40.0%で、一般高齢者(25.7%)に比べ14.3ポイント高くなっている。(図4-2-2)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図4-2-2 お茶や汁物等でむせること】

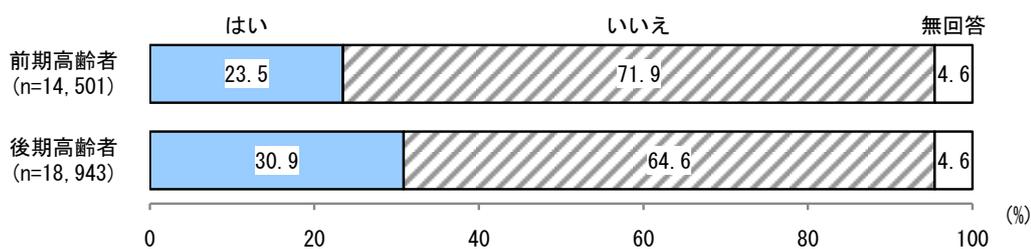


【参考 お茶や汁物等でむせること(経年比較)】



年齢別では、お茶や汁物等でむせることがあるの割合は、前期高齢者が23.5%、後期高齢者は30.9%となっている。(図4-2-2-1)

【図4-2-2-1 年齢別 お茶や汁物等でむせること】

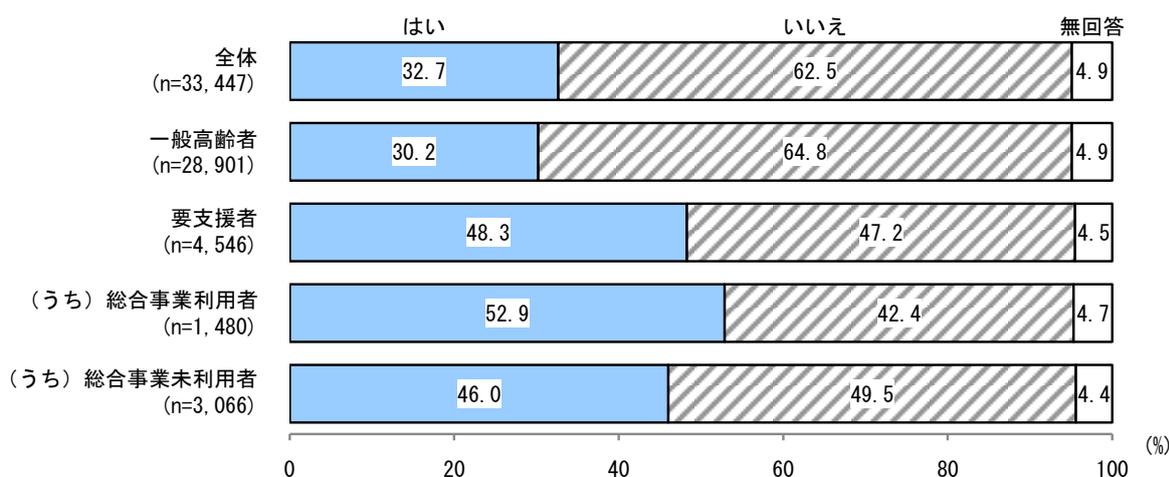


### ③ 口の渇きが気になること

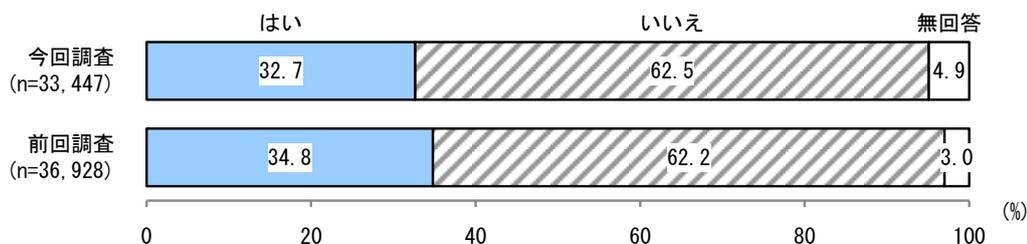
問 口の渇きが気になりますか。(○はひとつ)

口の渇きが気になる(「はい」と回答している)の割合は32.7%となっている。  
 認定状況別では、口の渇きが気になるの割合は、要支援者が48.3%で、一般高齢者(30.2%)に比べ18.1ポイント高くなっている。(図4-2-3)  
 前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図4-2-3 口の渇きが気になること】

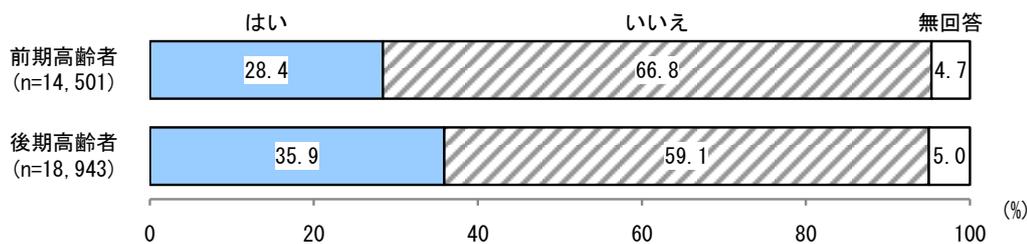


【参考 口の渇きが気になること(経年比較)】



年齢別では、口の渇きが気になるの割合は、前期高齢者が28.4%、後期高齢者は35.9%となっている。(図4-2-3-1)

【図4-2-3-1 年齢別 口の渇きが気になること】



### (3) 口腔ケアの状況

#### ① 歯磨きを毎日していること

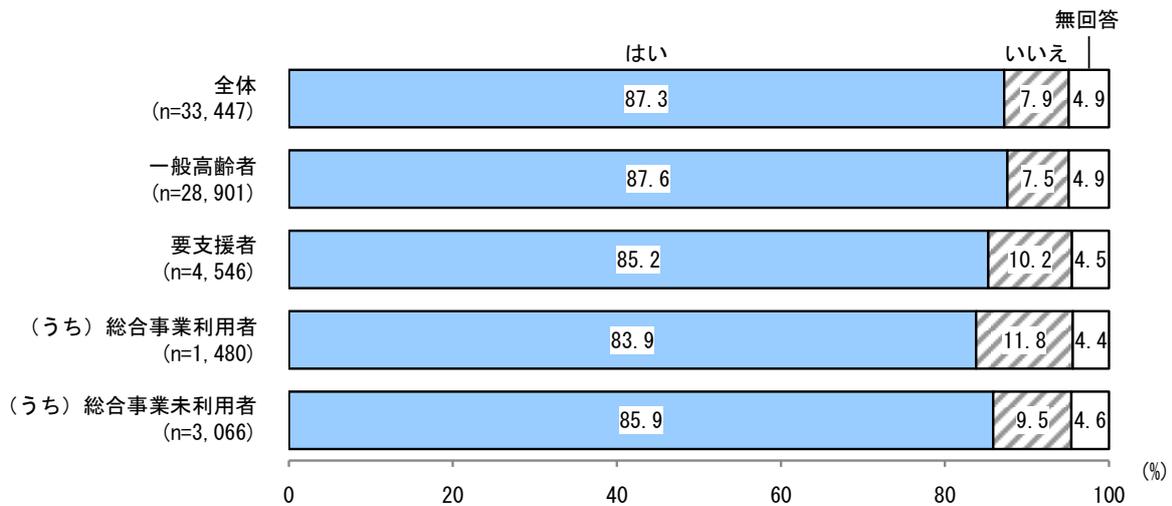
問 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。（○はひとつ）

歯磨きを毎日している（「はい」と回答している）割合は87.3%となっている。

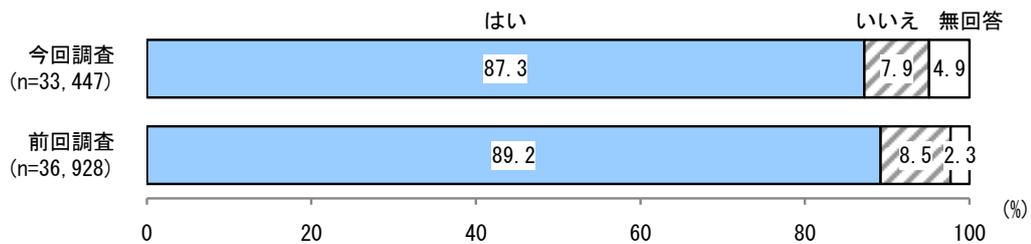
認定状況別では、歯磨きを毎日している割合は、要支援者が85.2%で、一般高齢者（87.6%）との差は2.4ポイントとなっている。（図4-3-1）

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図4-3-1 歯磨きを毎日していること】

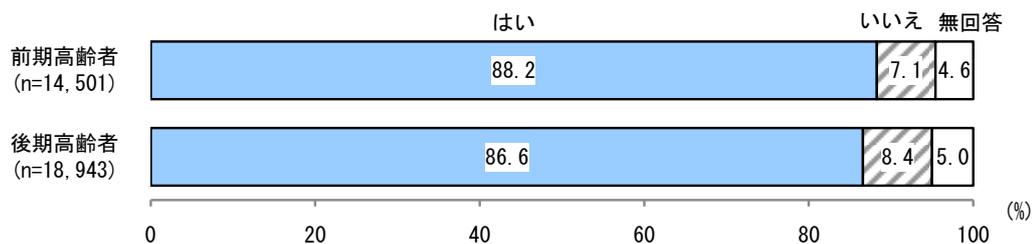


【参考 歯磨きを毎日していること（経年比較）】



年齢別では、歯磨きを毎日している割合は、前期高齢者が88.2%、後期高齢者は86.6%となっている。（図4-3-1-1）

【図4-3-1-1 年齢別 歯磨きを毎日していること】



## ② 歯の数と入れ歯の利用状況

問 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。

(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です) (○はひとつ)

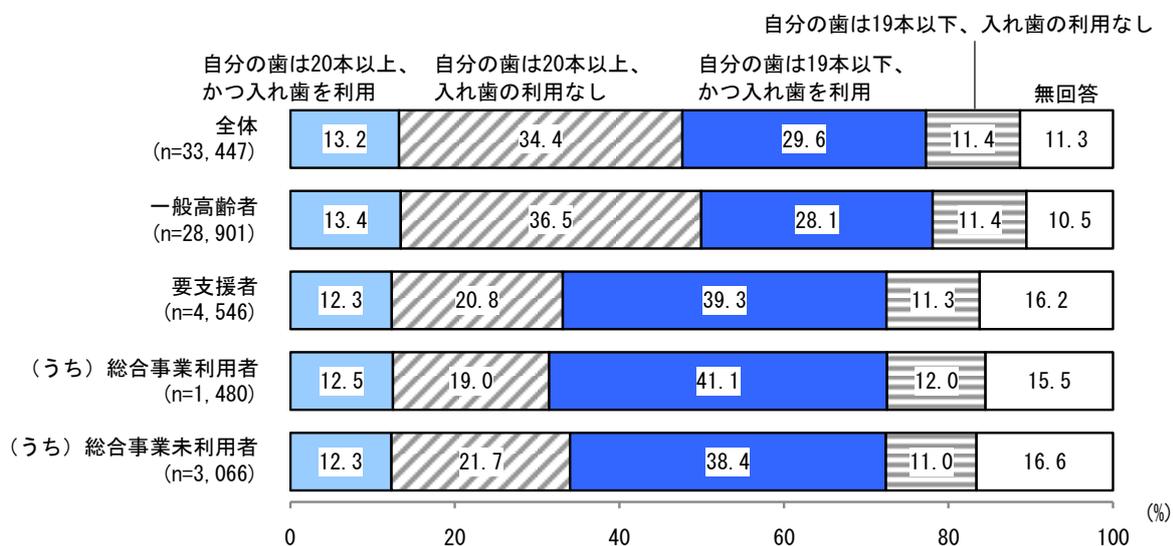
歯の数と入れ歯の利用状況は、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」の割合が34.4%で最も高く、次いで「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が29.6%となっている。

「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」と「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」をあわせた『入れ歯を利用』の割合は42.8%となっている。

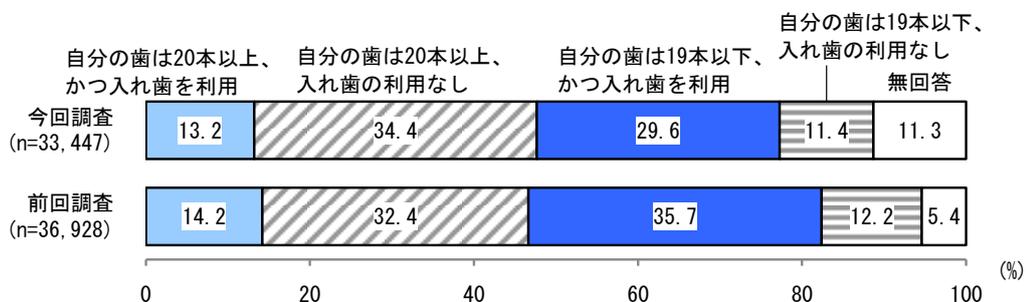
認定状況別では、要支援者は「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が39.3%で、一般高齢者(28.1%)に比べ11.2ポイント高くなっている。(図4-3-2)

前回調査の結果に比べ、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が6.1ポイント減少し、『入れ歯を利用』の割合も7.1ポイント減少している。

【図4-3-2 歯の数と入れ歯の利用状況】

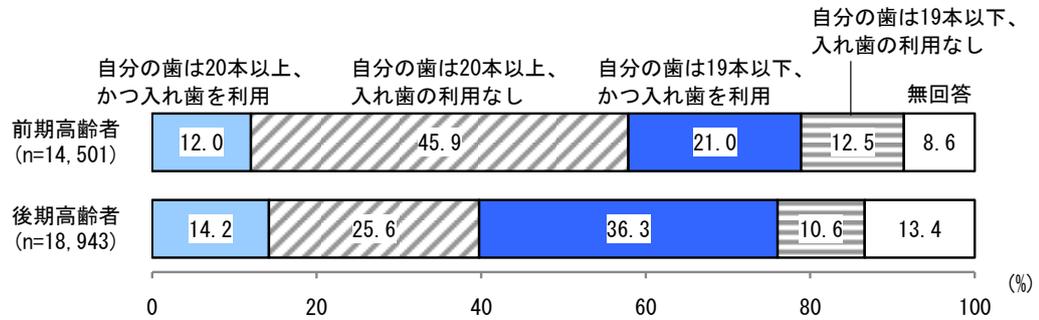


【参考 歯の数と入れ歯の利用状況 (経年比較)】



年齢別では、前期高齢者は「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」の割合が45.9%で最も高く、後期高齢者は「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が36.3%で最も高くなっている。(図4-3-2-1)

【図4-3-2-1 年齢別 歯の数と入れ歯の利用状況】



### ③ 毎日入れ歯の手入れをしていること

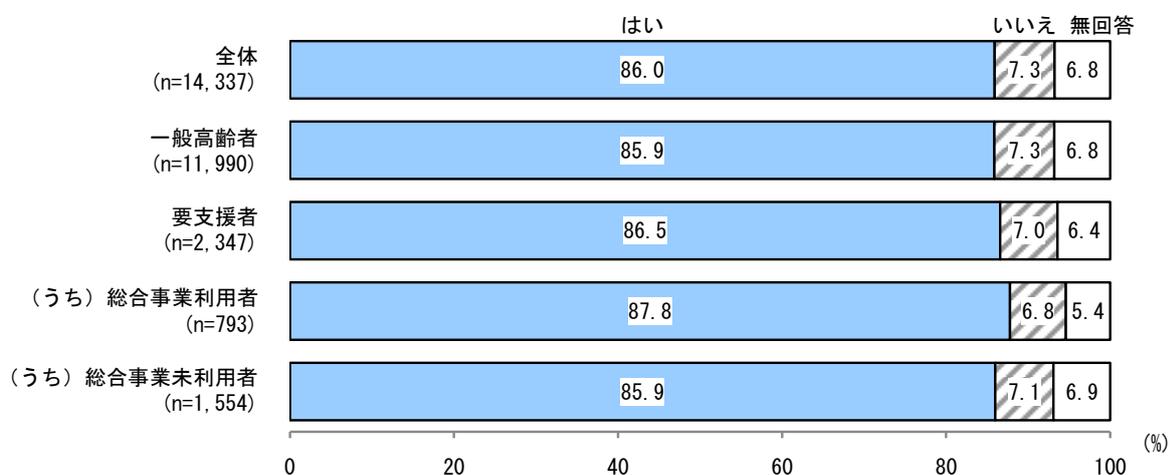
【「1 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「3 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と回答された方におうかがいします】

問 ①毎日入れ歯の手入れをしていますか。(○はひとつ)

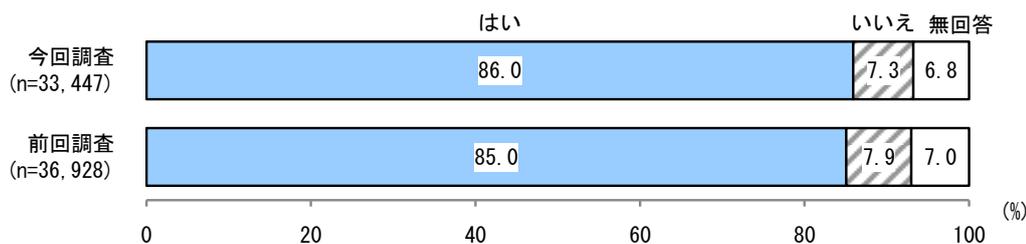
入れ歯を利用していると回答した人の入れ歯の手入れの状況は、毎日入れ歯の手入れをしている(「はい」と回答している)割合は、全体では86.0%となっている。毎日入れ歯の手入れをしている割合は、一般高齢者・要支援者との間では大きな差はみられない。(図4-3-3)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図4-3-3 毎日入れ歯の手入れをしていること】

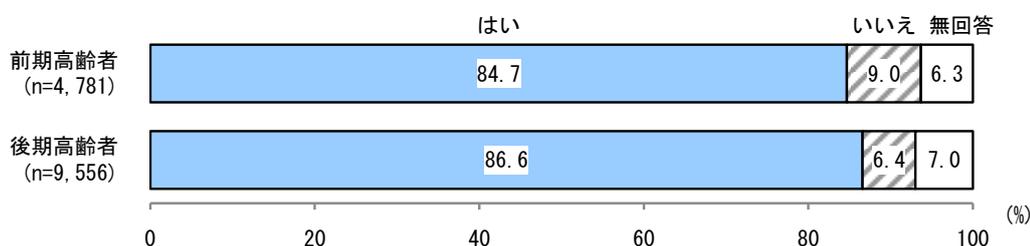


【参考 毎日入れ歯の手入れをしていること (経年比較)】



年齢別では、毎日入れ歯の手入れをしている割合は、前期高齢者が84.7%、後期高齢者は86.6%となっている。(図4-3-3-1)

【図4-3-3-1 年齢別 毎日入れ歯の手入れをしていること】



#### ④ 噛み合わせが良いこと

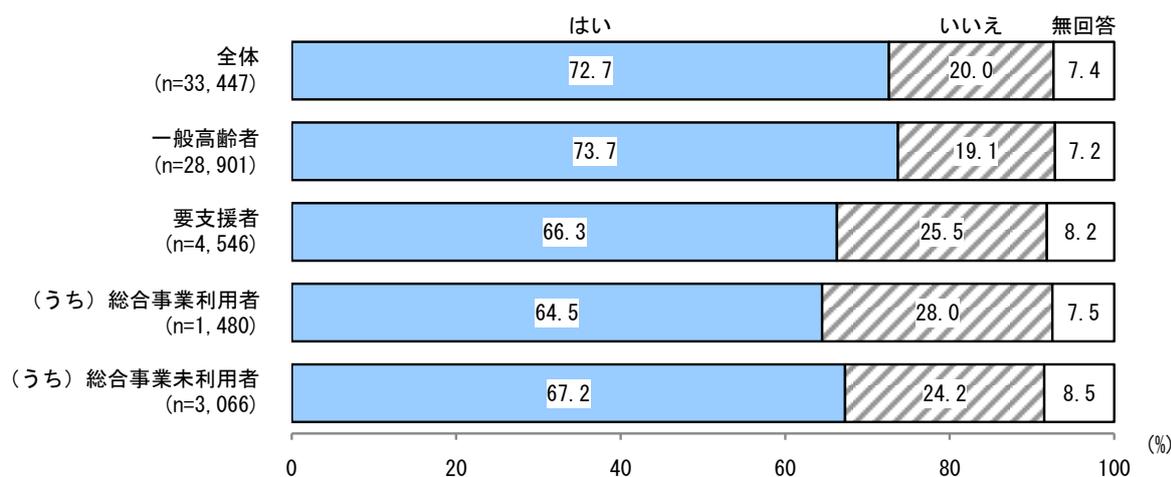
問 ②噛み合わせは良いですか。(○はひとつ)

噛み合わせが良い(「はい」と回答している)の割合は72.7%となっている。

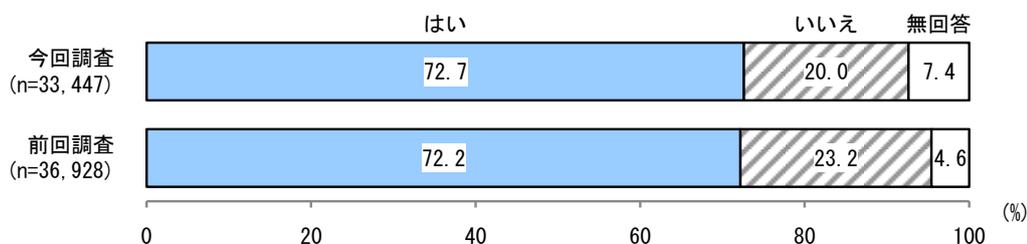
認定状況別では、要支援者で噛み合わせが良い人の割合は66.3%で、一般高齢者(73.7%)に比べ7.4ポイント低くなっている。(図4-3-4)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図4-3-4 噛み合わせが良いこと】

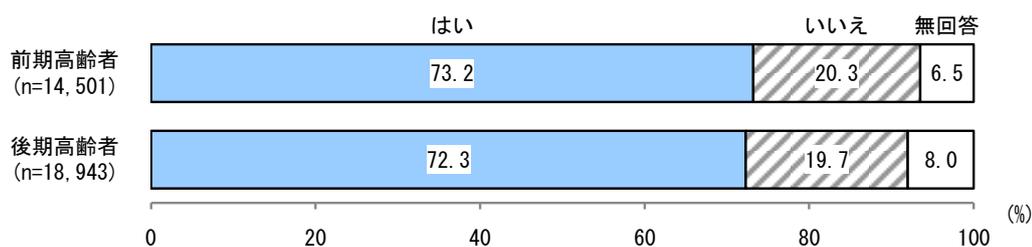


【参考 噛み合わせが良いこと (経年比較)】



年齢別では、噛み合わせが良いの割合は、前期高齢者が73.2%、後期高齢者は72.3%となっている。(図4-3-4-1)

【図4-3-4-1 年齢別 噛み合わせが良いこと】



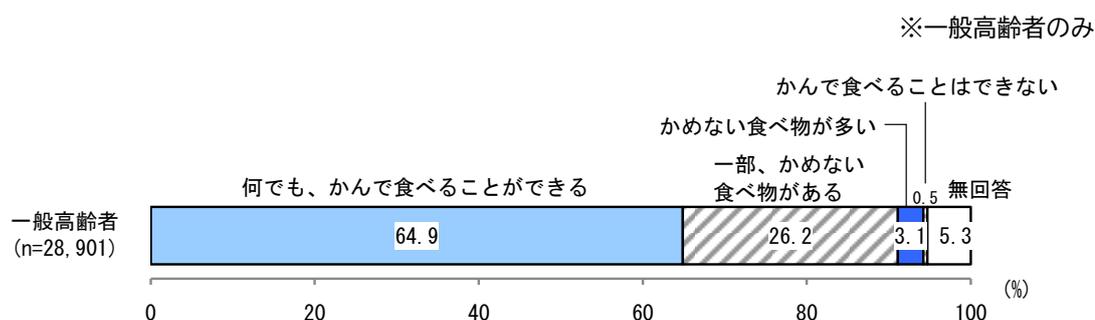
#### (4) かんて食べる時の状態

問 あなたはかんて食べる時の状態は、次のどれにあてはまりますか。(○はひとつ)

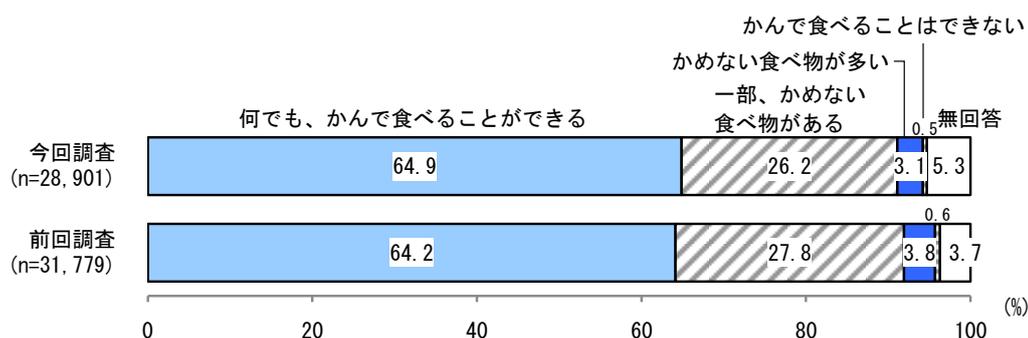
かんて食べる時の状態は、「何でも、かんて食べることができる」の割合が64.9%で最も高く、次いで「一部、かめない食べ物がある」が26.2%となっている。(図4-4)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図4-4 かんて食べる時の状態】

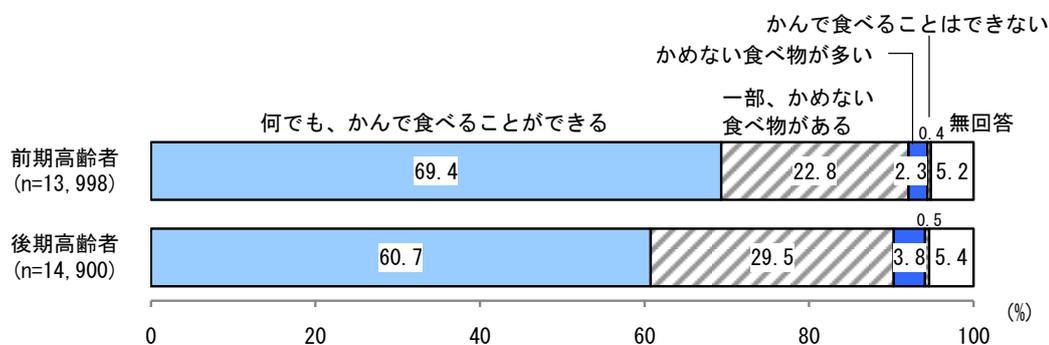


【参考 かんて食べる時の状態 (経年比較)】



年齢別では、「何でも、かんて食べることができる」の割合は、前期高齢者が69.4%、後期高齢者は60.7%となっている。(図4-4-1)

【図4-4-1 年齢別 かんて食べる時の状態】



## (5) 体重減少の有無

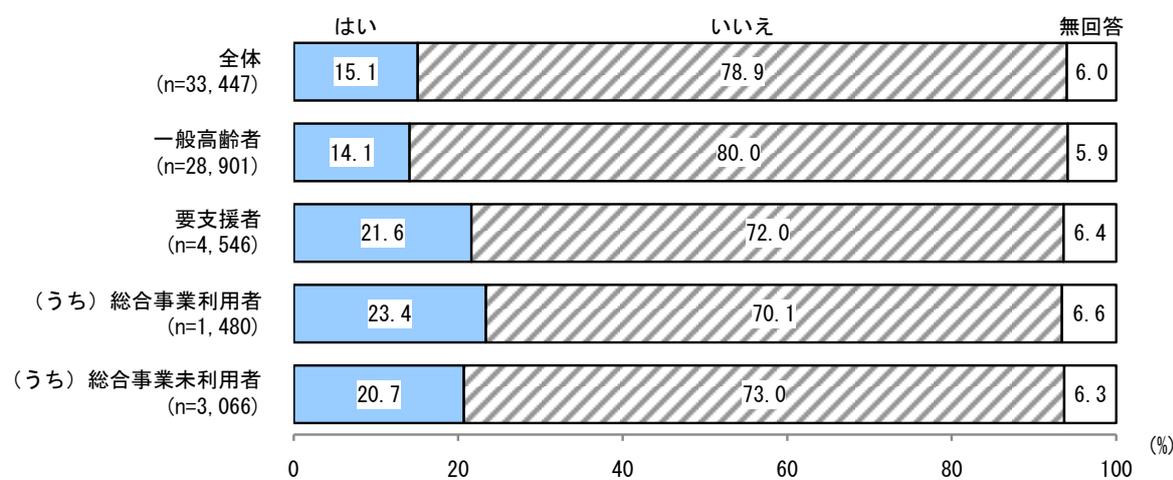
問 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(○はひとつ)

6か月間で2～3kg以上の体重減少があった(「はい」と回答している)割合は15.1%となっている。

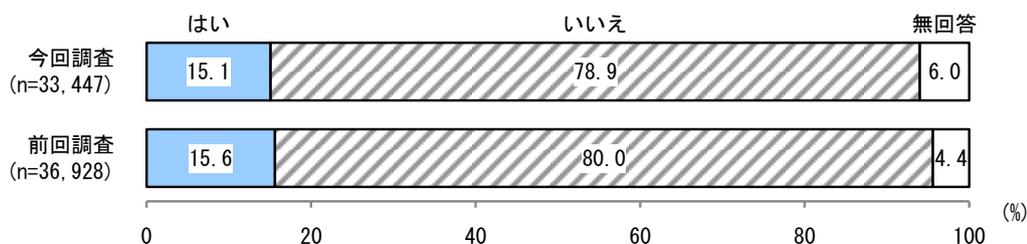
認定状況別では、体重減少があった割合は、要支援が21.6%で、一般高齢者(14.1%)に比べ7.5ポイント高くなっている。(図4-5)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図4-5 体重減少の有無】

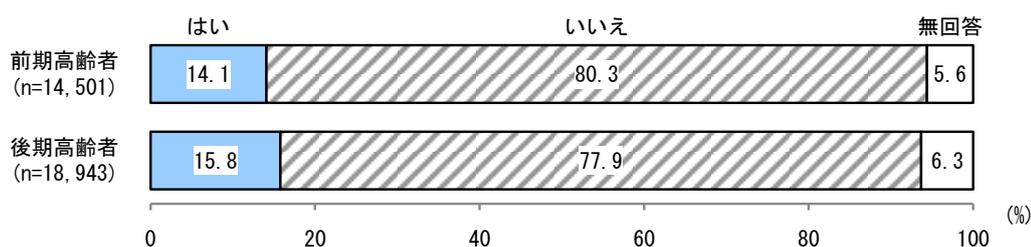


【参考 体重減少の有無(経年比較)】



年齢別では、体重減少があった割合は、前期高齢者が14.1%、後期高齢者は15.8%となっている。(図4-5-1)

【図4-5-1 年齢別 体重減少の有無】



## (6) 共食の状況

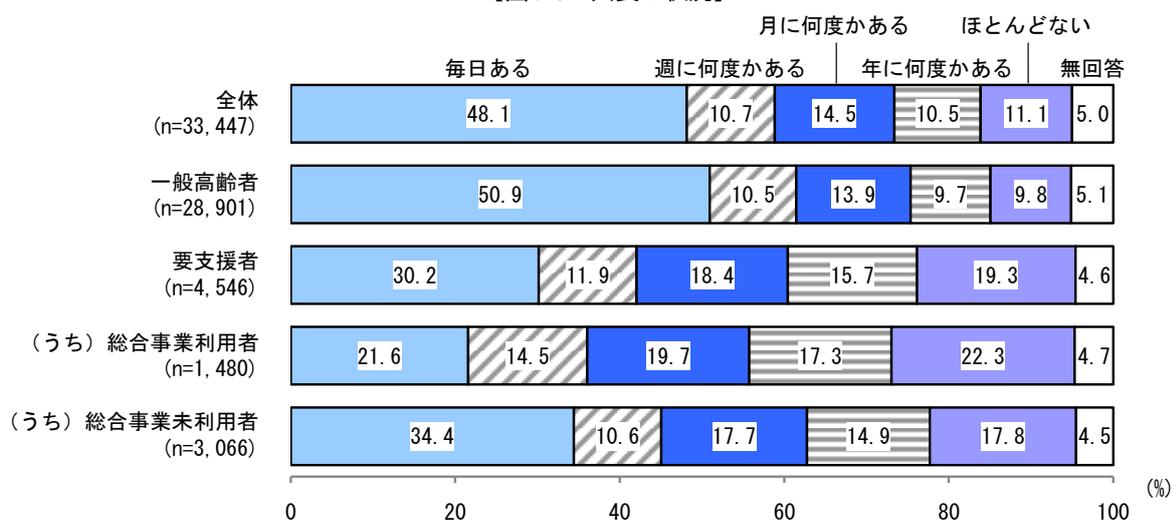
問 どなたかと食事をとにもする機会がありますか。(○はひとつ)

誰かと食事をとにもする機会の有無は、「毎日ある」の割合が48.1%で最も高く、『月に数回以下』（「月に何度かある」「年に何度かある」「ほとんどない」の合計）は36.1%となっている。

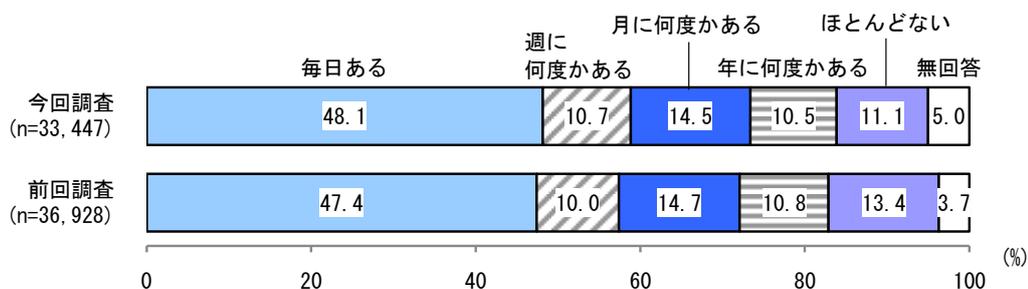
認定状況別では、「毎日ある」の割合は、要支援者は30.2%で、一般高齢者（50.9%）に比べ20.7ポイント低くなっている。（図4-6）

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図4-6 共食の状況】

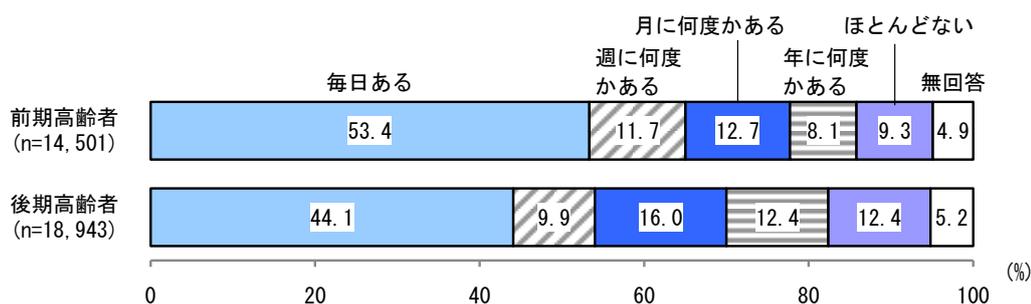


【参考 共食の状況（経年比較）】



年齢別では、『月に数回以下』の割合は、前期高齢者が30.1%、後期高齢者は40.8%となっている。（図4-6-1）

【図4-6-1 年齢別 共食の状況】



## 5 毎日の生活について

### (1) 認知機能の状況

#### ① 物忘れが多いと感じること

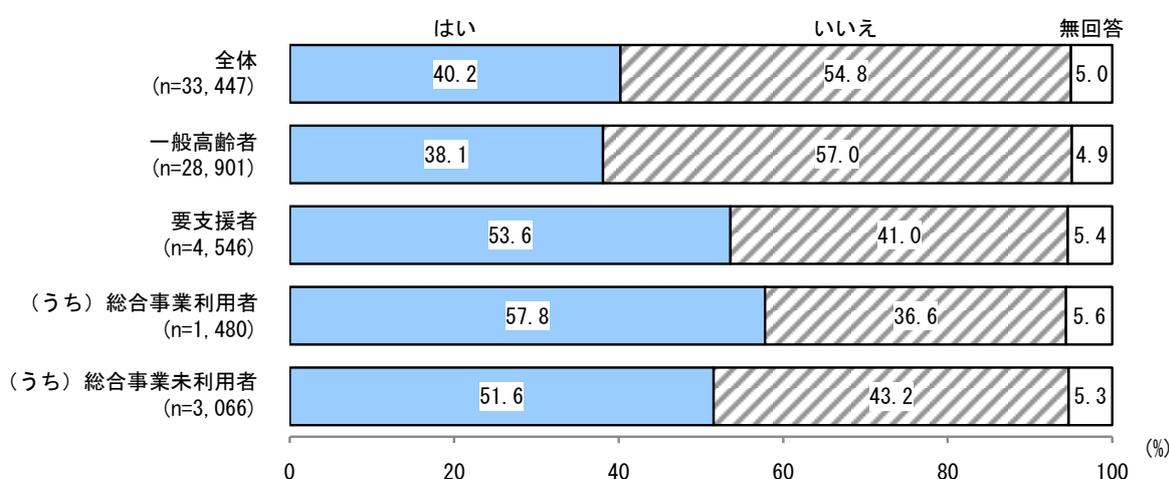
問 物忘れが多いと感じますか。(○はひとつ)

物忘れが多いと感じる(「はい」と回答している)割合は40.2%となっている。

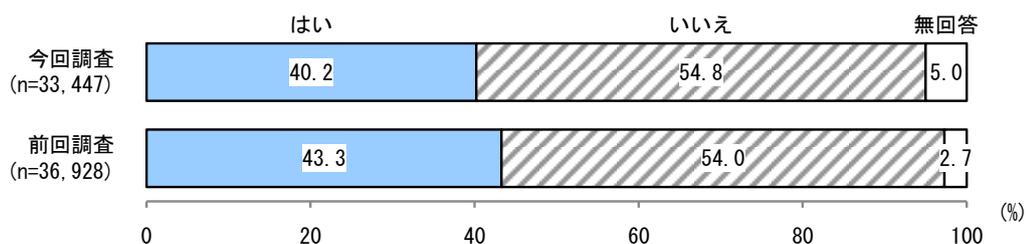
認定状況別では、物忘れが多いと感じる割合は、要支援者が53.6%で、一般高齢者(38.1%)に比べ15.5ポイント高くなっている。(図5-1-1)

前回調査の結果に比べ、物忘れが多いと感じる割合が3.1ポイント減少している。

【図5-1-1 物忘れが多いと感じること】

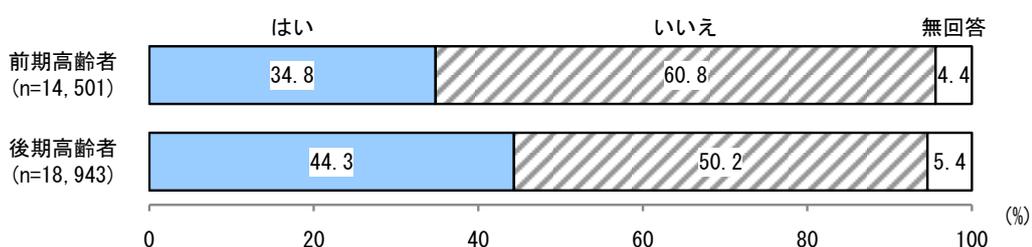


【参考 物忘れが多いと感じること(経年比較)】



年齢別では、物忘れが多いと感じる割合は、前期高齢者が34.8%、後期高齢者は44.3%となっている。(図5-1-1-1)

【図5-1-1-1 年齢別 物忘れが多いと感じること】



## ② 自分で電話番号を調べて、電話をかけること

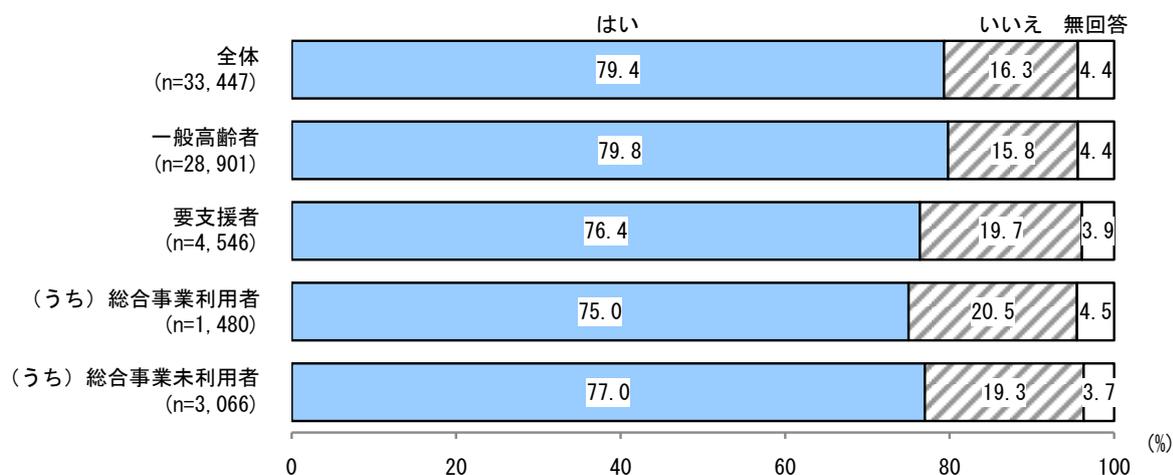
問 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。(○はひとつ)

自分で電話番号を調べて、電話をかける(「はい」と回答している)割合は79.4%となっている。

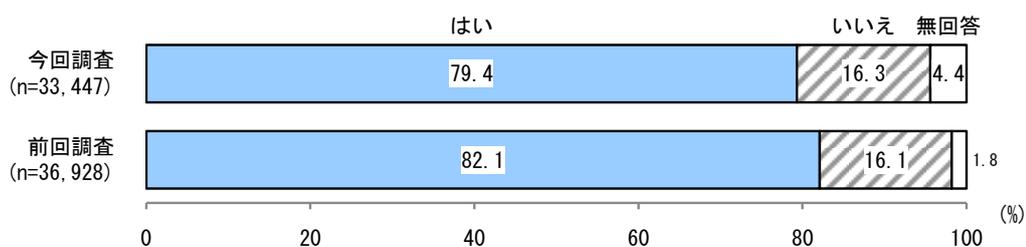
認定状況別では、自分で電話番号を調べて、電話をかける割合は、要支援者が76.4%で、一般高齢者(79.8%)に比べ3.4ポイント低くなっている。(図5-1-2)

前回調査の結果に比べ、自分で電話番号を調べて、電話をかける人の割合が2.7ポイント減少している。

【図5-1-2 自分で電話番号を調べて、電話をかけること】

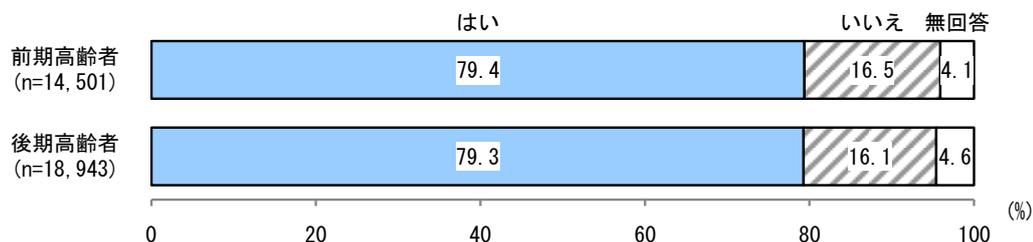


【参考 自分で電話番号を調べて、電話をかけること (経年比較)】



年齢別では、自分で電話番号を調べて、電話をかける人の割合は、前期高齢者が79.4%、後期高齢者は79.3%となっている。(図5-1-2-1)

【図5-1-2-1 年齢別 自分で電話番号を調べて、電話をかけること】



### ③ 今日が何月何日かわからない時があること

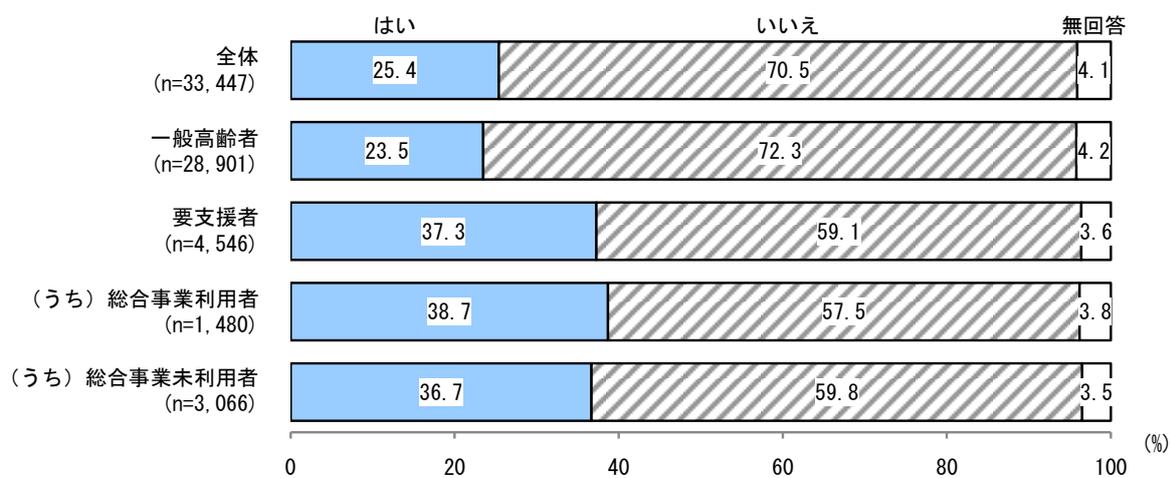
問 今日が何月何日かわからない時がありますか。(○はひとつ)

今日が何月何日かわからない時がある(「はい」と回答している)割合は、25.4%となっている。

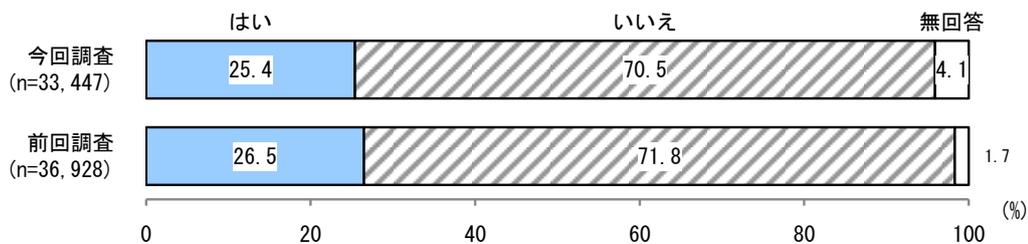
認定状況別では、今日が何月何日かわからない時がある割合は、要支援者が37.3%で、一般高齢者(23.5%)に比べ13.8ポイント高くなっている。(図5-1-3)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図5-1-3 今日が何月何日かわからない時があること】

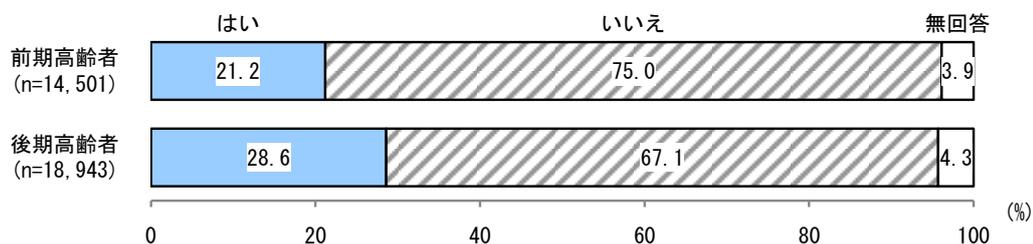


【参考 今日が何月何日かわからない時があること(経年比較)】



年齢別では、今日が何月何日かわからない時がある割合は、前期高齢者が21.2%、後期高齢者は28.6%となっている。(図5-1-3-1)

【図5-1-3-1 年齢別 今日が何月何日かわからない時があること】



## (2) 手段的日常生活動作の状況

### ① バスや電車を使って1人で外出すること

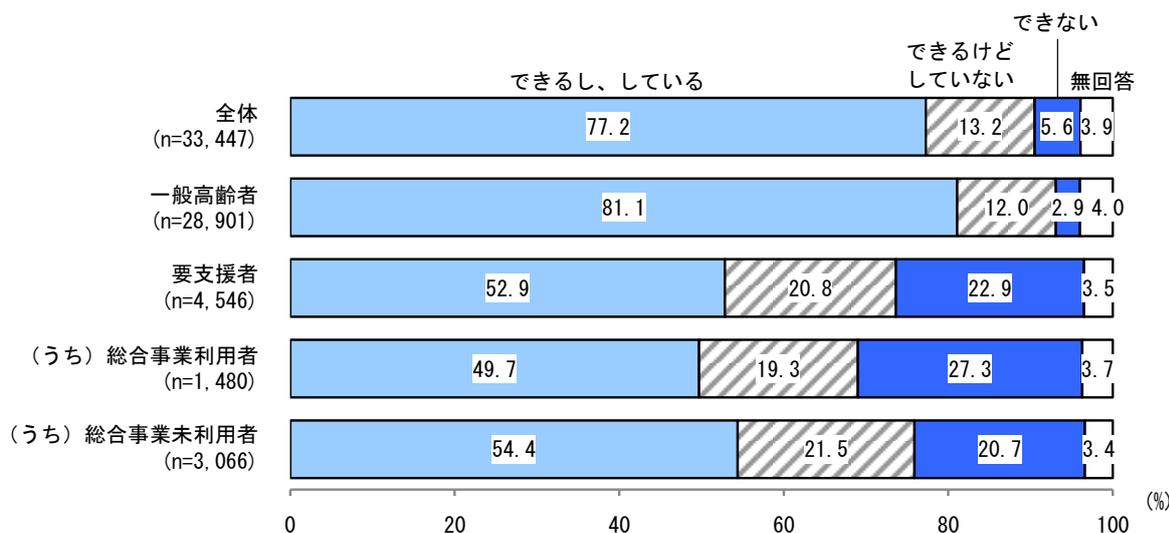
問 バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可) (○はひとつ)

バスや電車を使って1人での外出が「できない」割合は5.6%、「できるけどしていない」割合は13.2%で、両者をあわせた『1人で外出していない』割合は18.8%となっている。

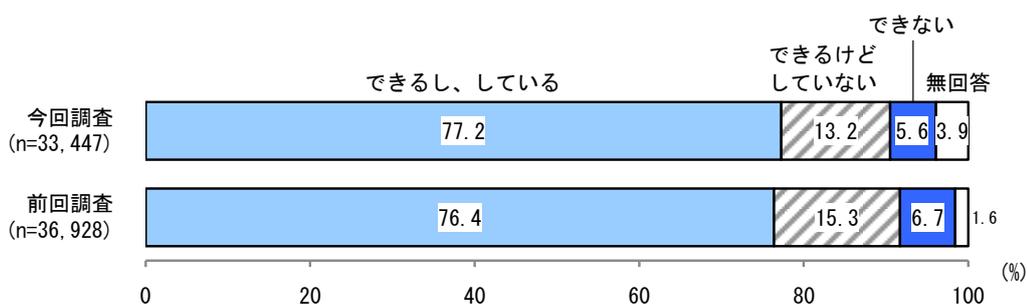
認定状況別では、『1人で外出していない』割合は、要支援者が43.7%で、一般高齢者(14.9%)に比べ28.8ポイント高くなっている。(図5-2-1)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図5-2-1 バスや電車を使って1人で外出すること】

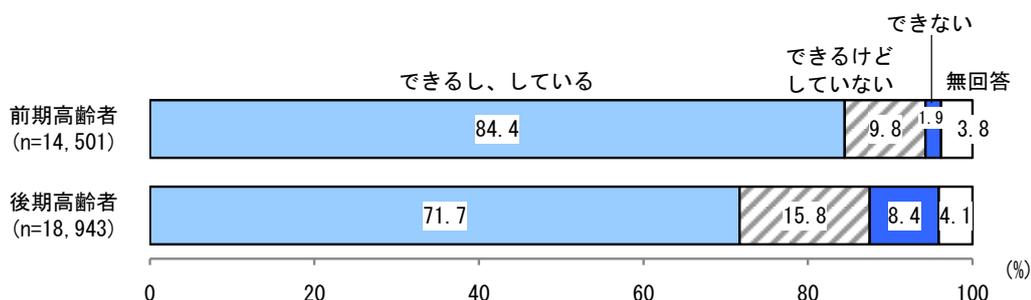


【参考 バスや電車を使って1人で外出すること (経年比較)】



年齢別では、『1人で外出していない』割合は、前期高齢者が11.7%、後期高齢者は24.2%となっている。(図5-2-1-1)

【図5-2-1-1 年齢別 バスや電車を使って1人で外出すること】



## ② 自分で食品・日用品の買物をする事

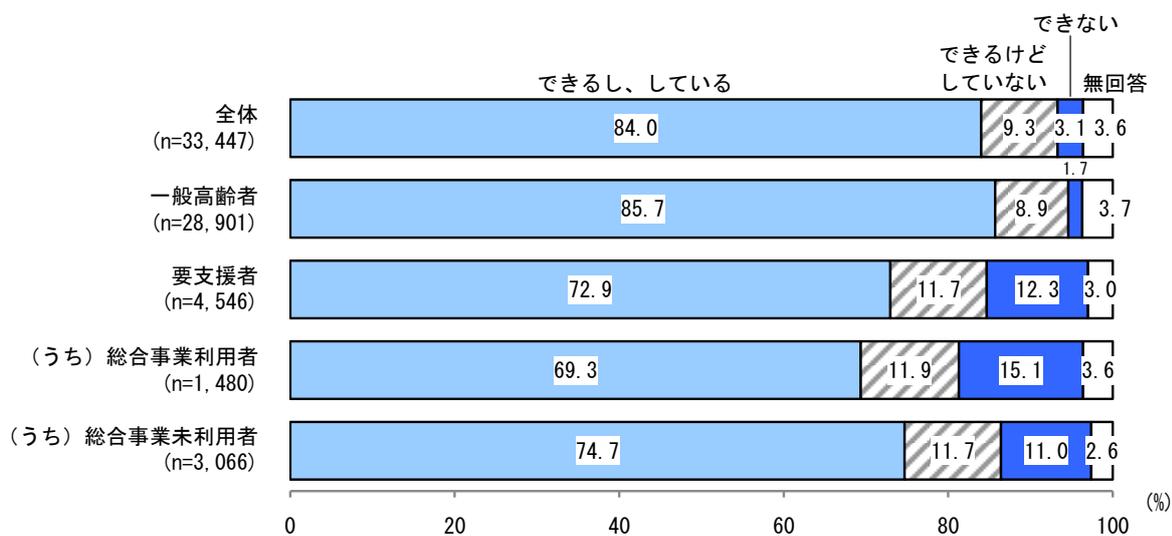
問 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(○はひとつ)

自分で食品・日用品の買物が「できない」割合は3.1%、「できるけどしていない」割合は9.3%で、両者をあわせた『自分で食品・日用品の買物をしていない』割合は12.4%となっている。

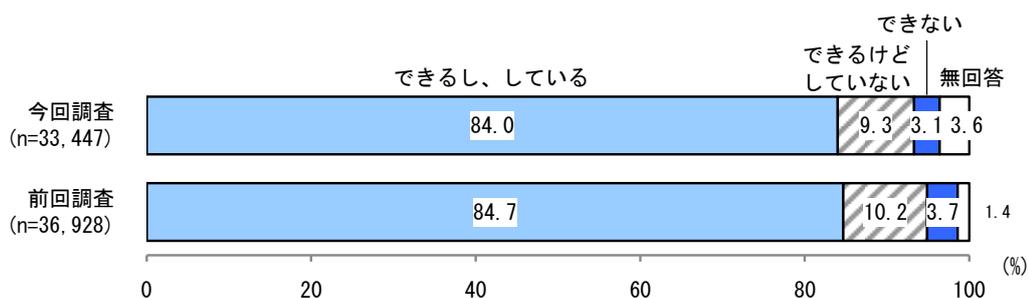
認定状況別では、『自分で食品・日用品の買物をしていない』割合は、要支援者が24.0%で、一般高齢者（10.6%）に比べ13.4ポイント高くなっている。（図5-2-2）

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図5-2-2 自分で食品・日用品の買物をする事】

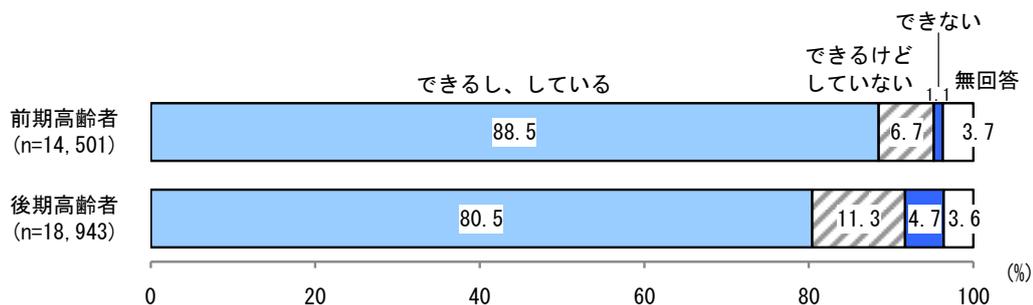


【参考 自分で食品・日用品の買物をする事（経年比較）】



年齢別では、『自分で食品・日用品の買物をしていない』割合は、前期高齢者が7.8%、後期高齢者は16.0%となっている。（図5-2-2-1）

【図5-2-2-1 年齢別 自分で食品・日用品の買物をする事】



### ③ 自分で食事の用意をすること

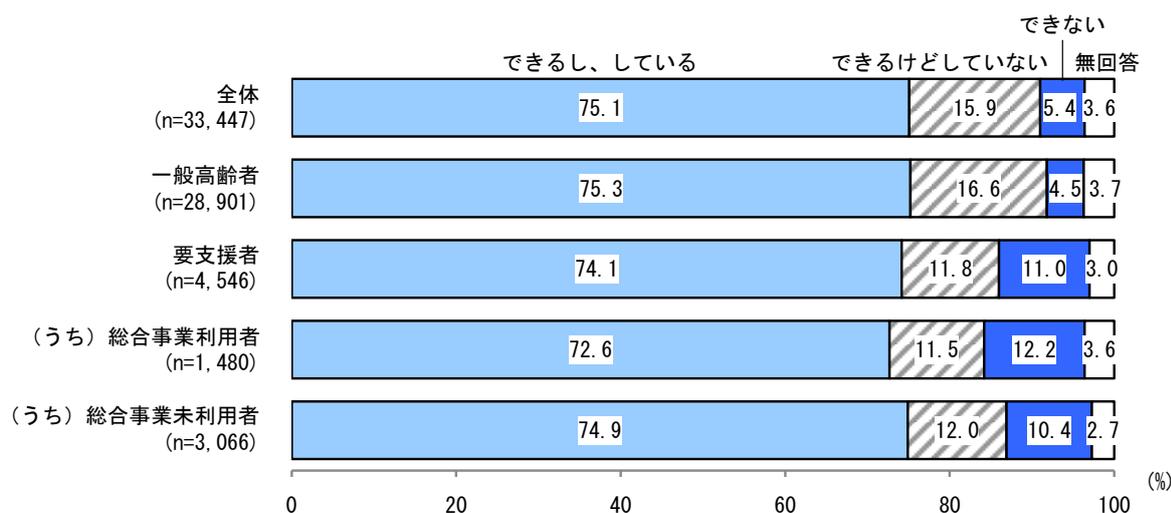
問 自分で食事の用意をしていますか。(○はひとつ)

自分で食事の用意が「できない」割合は5.4%、「できるけどしていない」割合は15.9%で、両者をあわせた『自分で食事の用意をしていない』割合は21.3%となっている。

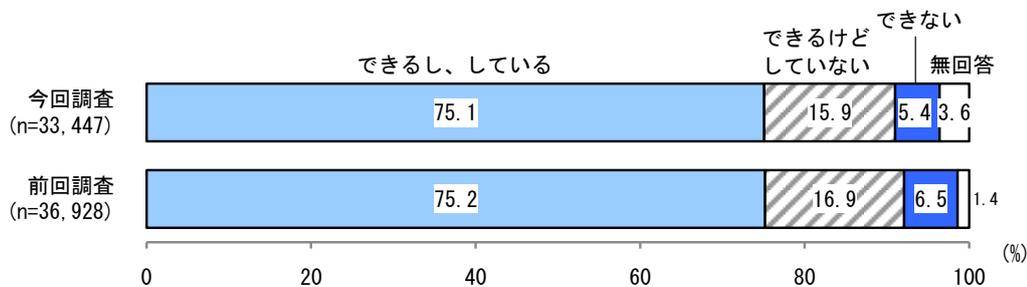
認定状況別では、『自分で食事の用意をしていない』割合は、要支援者が22.8%で、一般高齢者の21.1%との差は1.7ポイントとなっている。(図5-2-3)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図5-2-3 自分で食事の用意をすること】

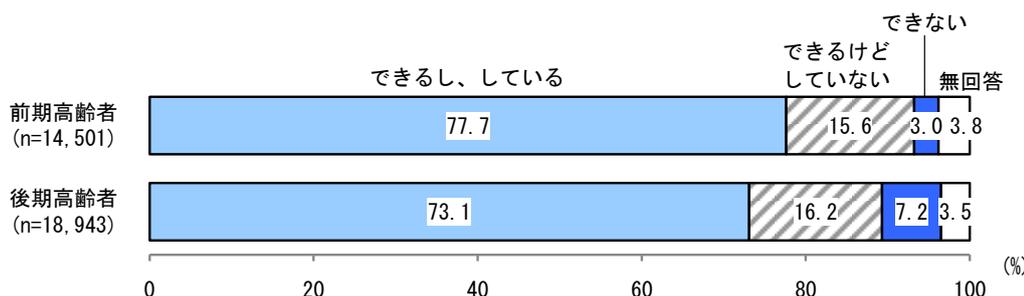


【参考 自分で食事の用意をすること (経年比較)】



年齢別では、『自分で食事の用意をしていない』割合は、前期高齢者が18.6%、後期高齢者は23.4%となっている。(図5-2-3-1)

【図5-2-3-1 年齢別 自分で食事の用意をすること】



#### ④ 自分で請求書の支払いをすること

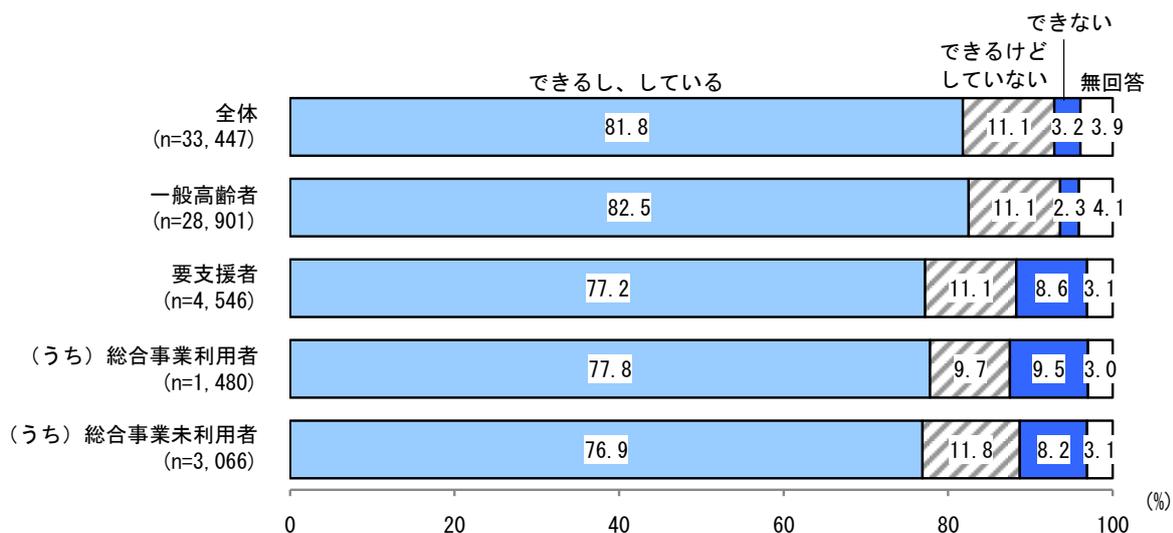
問 自分で請求書の支払いをしていますか。(○はひとつ)

自分で請求書の支払いが「できない」割合は3.2%、「できるけどしていない」割合は11.1%で、両者をあわせた『自分で請求書の支払いをしていない』割合は14.3%となっている。

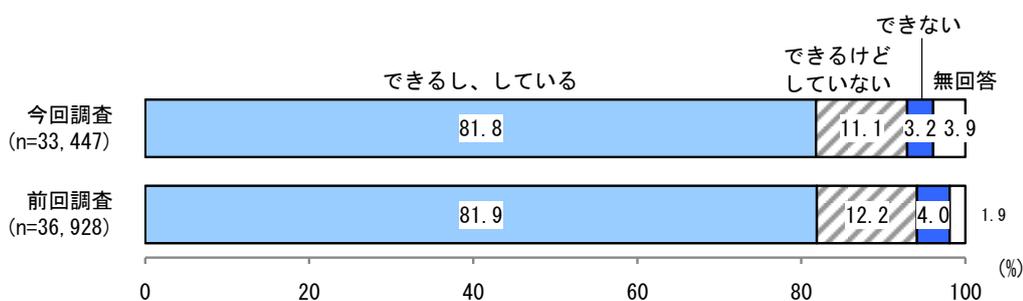
認定状況別では、『自分で請求書の支払いをしていない』割合は、要支援者が19.7%で、一般高齢者（13.4%）に比べ6.3ポイント高くなっている。（図5-2-4）

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図5-2-4 自分で請求書の支払いをすること】

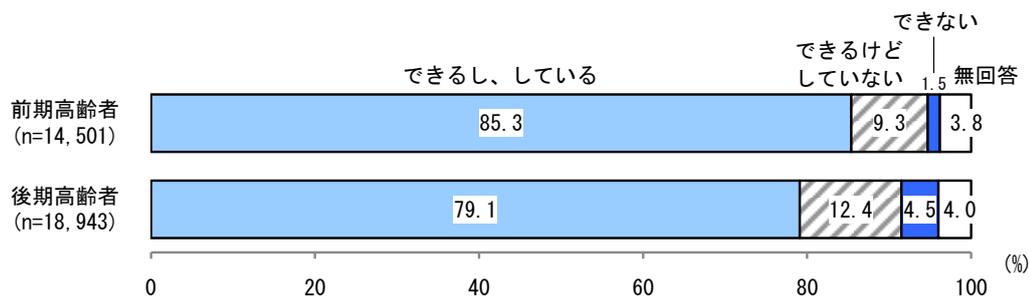


【参考 自分で請求書の支払いをすること（経年比較）】



年齢別では、『自分で請求書の支払いをしていない』割合は、前期高齢者が10.8%、後期高齢者は16.9%となっている。（図5-2-4-1）

【図5-2-4-1 年齢別 自分で請求書の支払いをすること】



### ⑤ 自分で預貯金の出し入れをすること

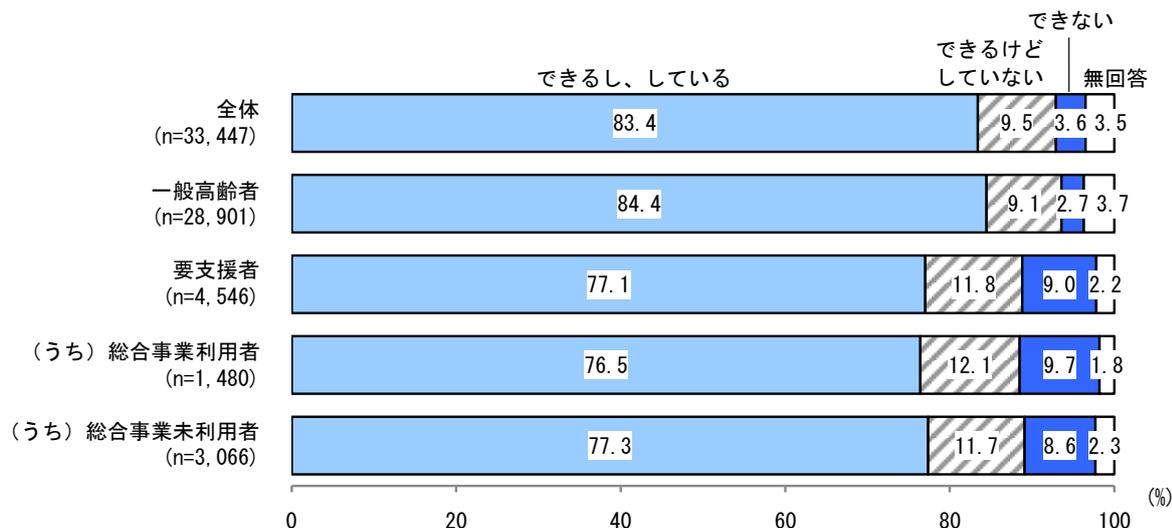
問 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(○はひとつ)

自分で預貯金の出し入れが「できない」割合は3.6%、「できるけどしていない」割合は9.5%で、両者をあわせた『自分で預貯金の出し入れをしていない』割合は13.1%となっている。

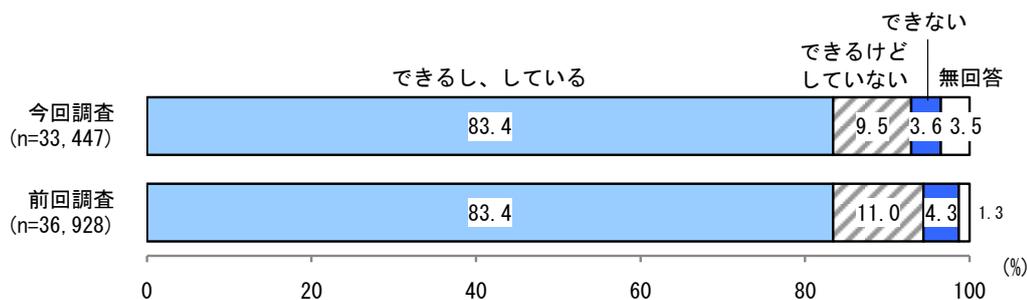
認定状況別では、『自分で預貯金の出し入れをしていない』割合は、要支援者が20.8%で、一般高齢者（11.8%）に比べ9.0ポイント高くなっている。（図5-2-5）

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図5-2-5 自分で預貯金の出し入れをすること】

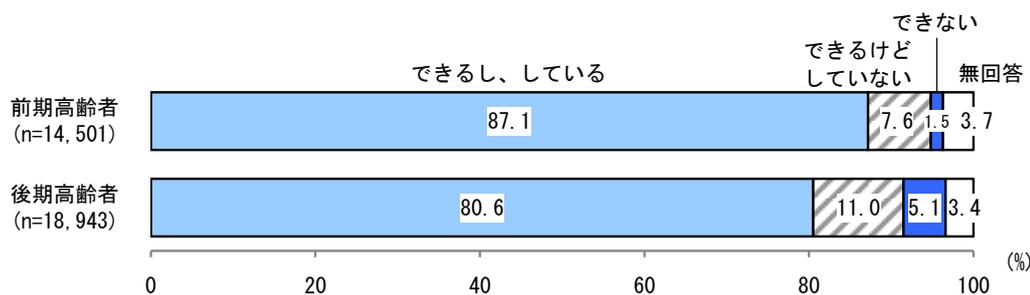


【参考 自分で預貯金の出し入れをすること（経年比較）】



年齢別では、『自分で預貯金の出し入れをしていない』割合は、前期高齢者が9.1%、後期高齢者は16.1%となっている。（図5-2-5-1）

【図5-2-5-1 年齢別 自分で預貯金の出し入れをすること】



### (3) 知的能動性の状況

#### ① 年金などの書類が書けること

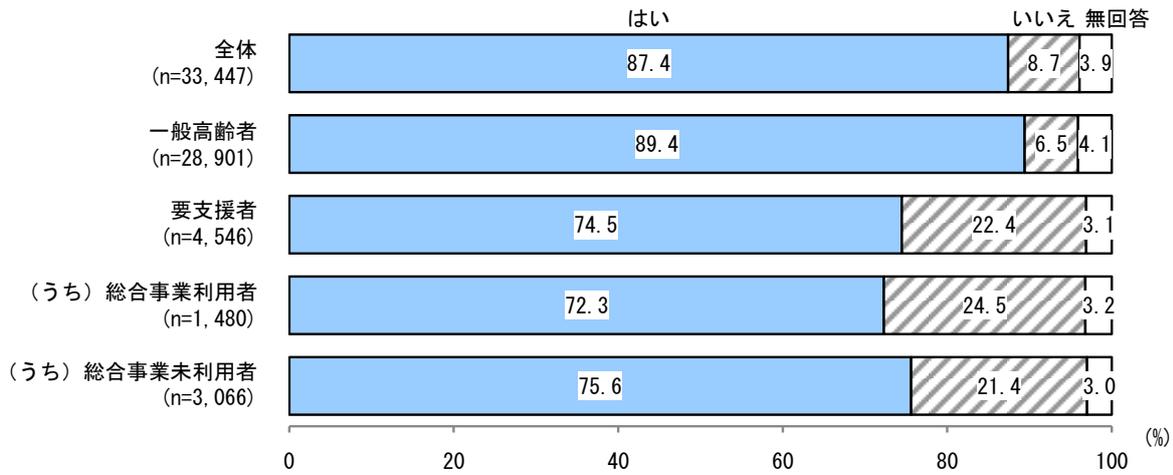
問 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。（○はひとつ）

年金などの書類が書ける（「はい」と回答している）割合は87.4%となっている。

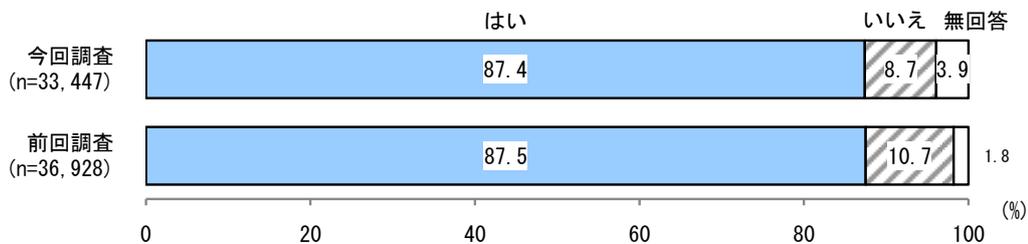
認定状況別では、年金などの書類が書ける割合は、要支援者が74.5%で、一般高齢者（89.4%）に比べ14.9ポイント低くなっている。（図5-3-1）

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図5-3-1 年金などの書類が書けること】

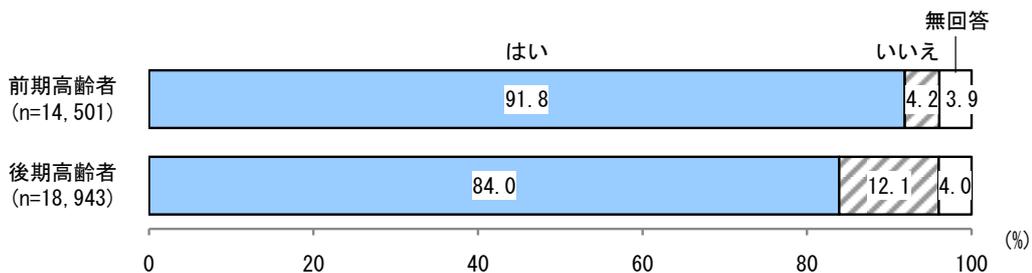


【参考 年金などの書類が書けること（経年比較）】



年齢別では、年金などの書類が書ける割合は、前期高齢者が91.8%、後期高齢者は84.0%となっている。（図5-3-1-1）

【図5-3-1-1 年齢別 年金などの書類が書けること】



## ② 新聞を読んでいること

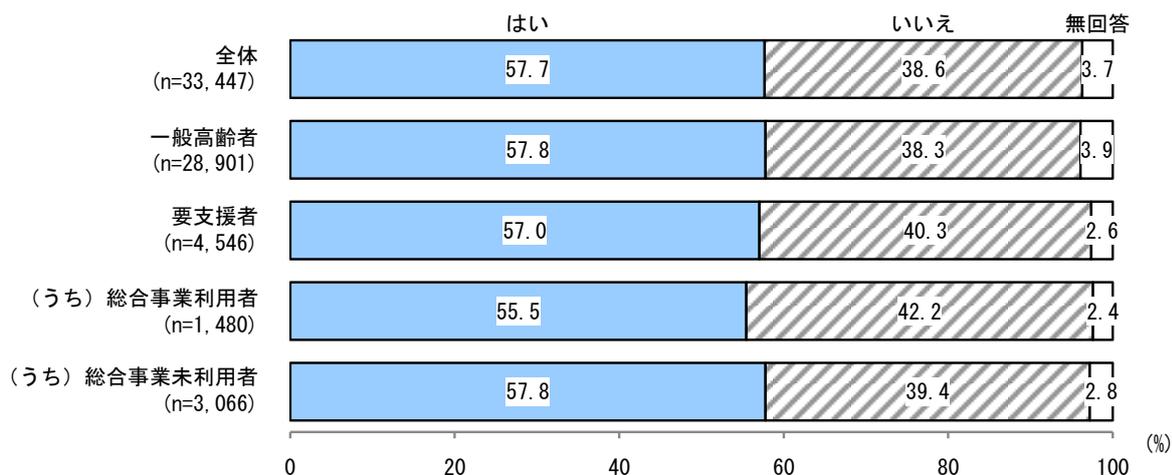
問 新聞を読んでいますか。(○はひとつ)

新聞を読んでいる(「はい」と回答している)割合は57.7%となっている。

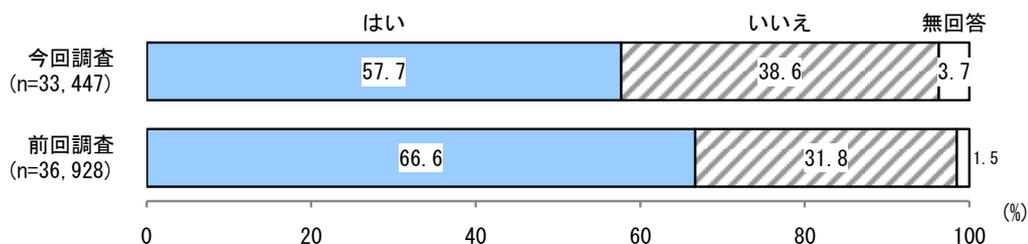
認定状況別では、新聞を読んでいる割合は、一般高齢者・要支援者の間に大きな差はみられない。(図5-3-2)

前回調査の結果に比べ、新聞を読んでいる割合が8.9ポイント減少している。

【図5-3-2 新聞を読んでいること】

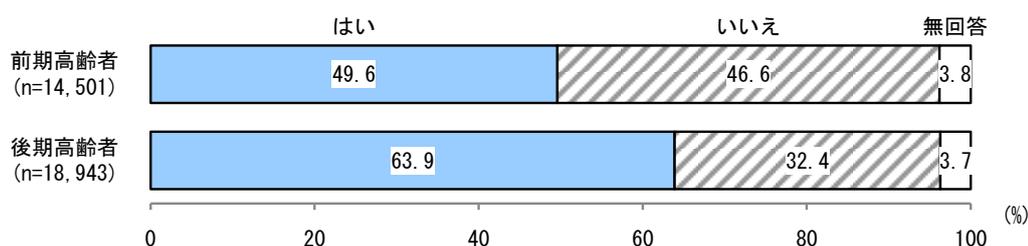


【参考 新聞を読んでいること (経年比較)】



年齢別では、新聞を読んでいる割合は、前期高齢者が49.6%、後期高齢者は63.9%となっている。(図5-3-2-1)

【図5-3-2-1 年齢別 新聞を読んでいること】

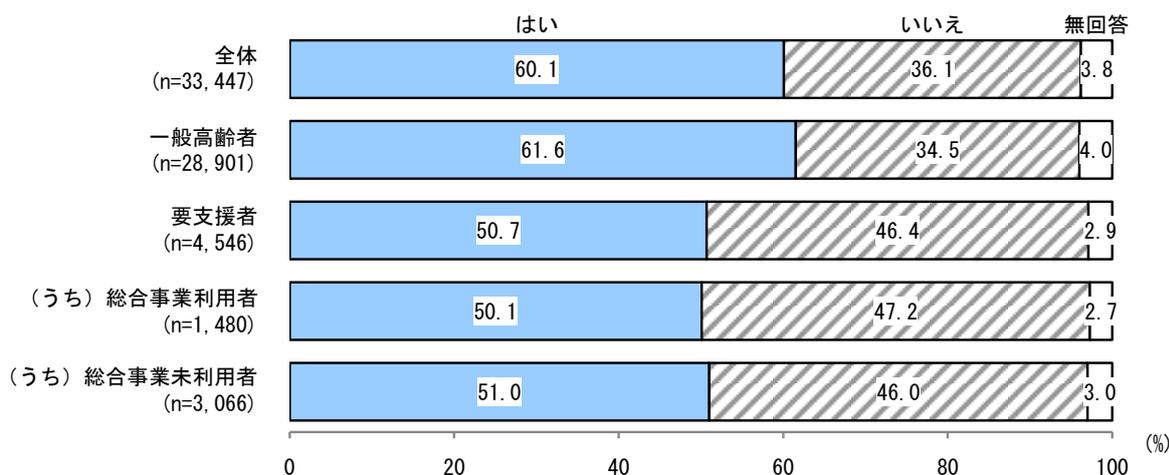


### ③ 本や雑誌を読んでいること

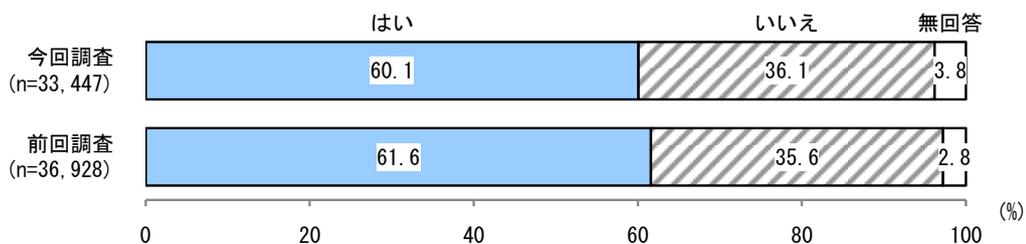
問 本や雑誌を読んでいますか。(○はひとつ)

本や雑誌を読んでいる（「はい」と回答している）割合は60.1%となっている。  
 認定状況別では、本や雑誌を読んでいる割合は、要支援者が50.7%で、一般高齢者（61.6%）に比べ10.9ポイント低くなっている。（図5-3-3）  
 前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図5-3-3 本や雑誌を読んでいること】

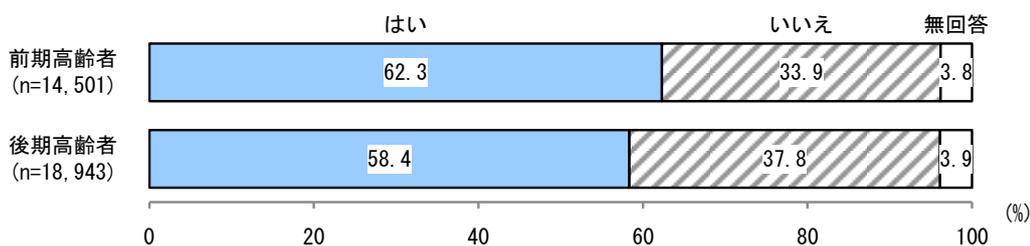


【参考 本や雑誌を読んでいること（経年比較）】



年齢別では、本や雑誌を読んでいる割合は、前期高齢者が62.3%、後期高齢者は58.4%となっている。（図5-3-3-1）

【図5-3-3-1 年齢別 本や雑誌を読んでいること】



#### ④ 健康についての記事や番組に関心があること

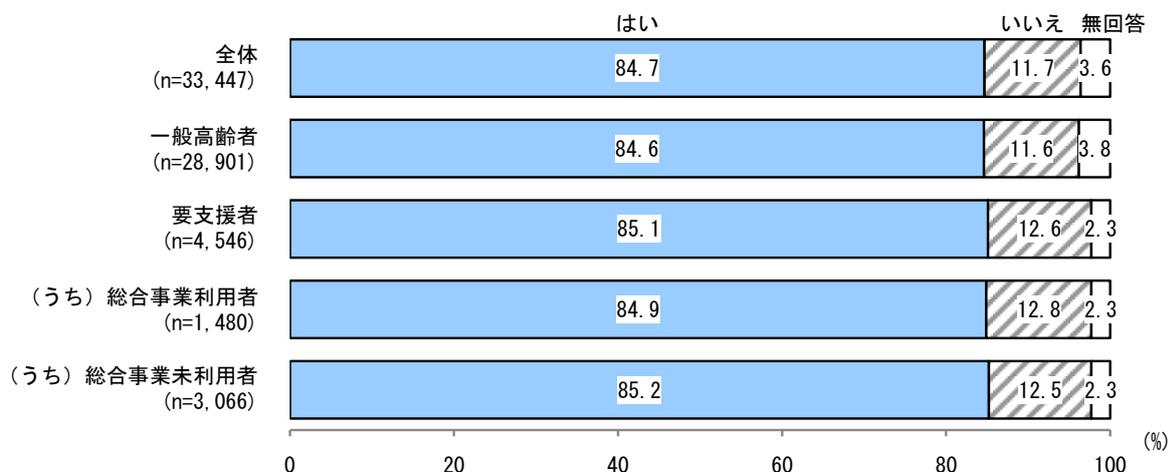
問 健康についての記事や番組に関心がありますか。(○はひとつ)

健康についての記事や番組に関心がある(「はい」と回答している)割合は84.7%となっている。

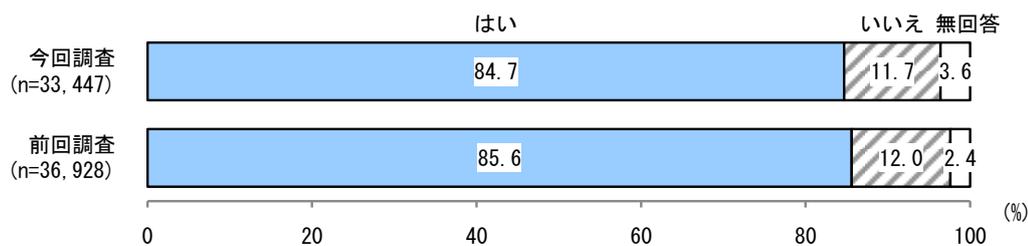
認定状況別では、健康についての記事や番組に関心がある割合は、一般高齢者・要支援者の間に大きな差はみられない。(図5-3-4)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図5-3-4 健康についての記事や番組に関心があること】

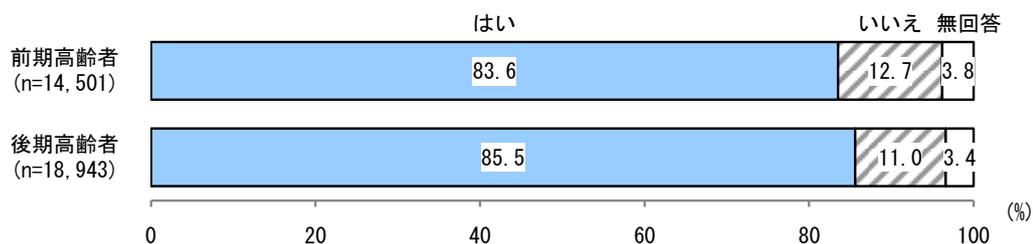


【参考 健康についての記事や番組に関心があること (経年比較)】



年齢別では、健康についての記事や番組に関心がある割合は、前期高齢者が83.6%、後期高齢者は85.5%となっている。(図5-3-4-1)

【図5-3-4-1 年齢別 健康についての記事や番組に関心があること】



## (4) 他者との関わりの状況

### ① 友人の家を訪ねていること

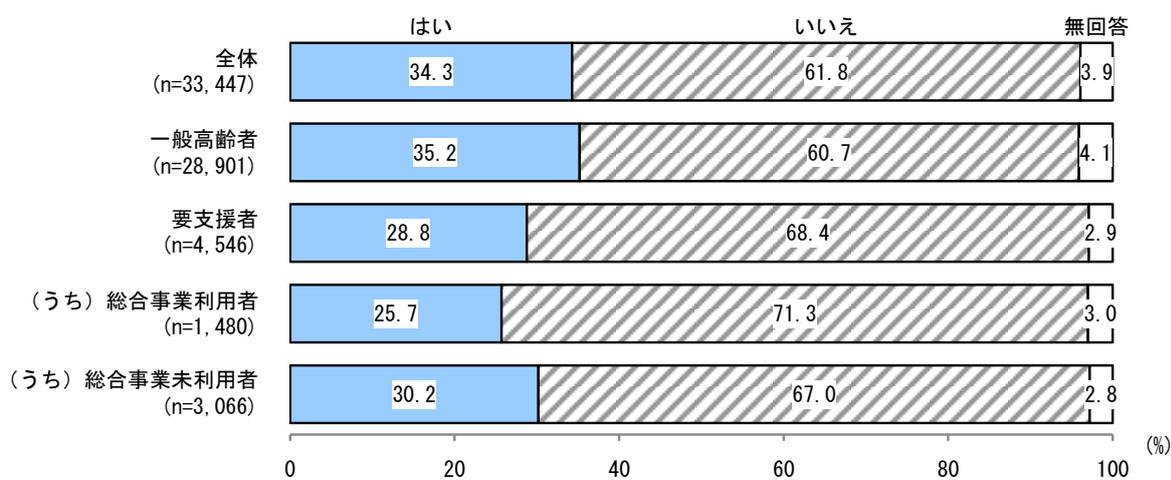
問 友人の家を訪ねていますか。(○はひとつ)

友人の家を訪ねている(「はい」と回答している)割合は34.3%となっている。

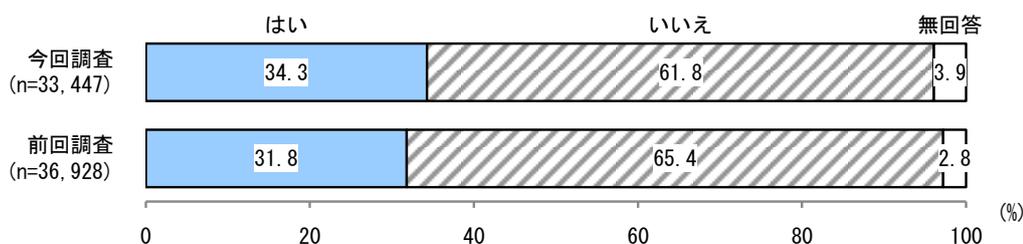
認定状況別では、友人の家を訪ねている割合は、要支援者が28.8%で、一般高齢者(35.2%)に比べ6.4ポイント低くなっている。(図5-4-1)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図5-4-1 友人の家を訪ねていること】

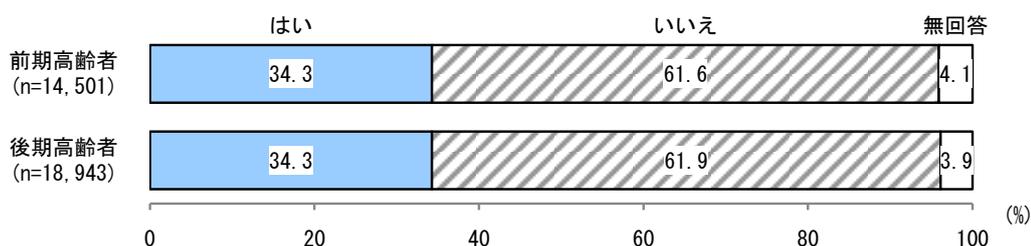


【参考 友人の家を訪ねていること (経年比較)】



年齢別では、友人の家を訪ねている割合は、前期高齢者・後期高齢者とも34.3%となっている。(図5-4-1-1)

【図5-4-1-1 年齢別 友人の家を訪ねていること】

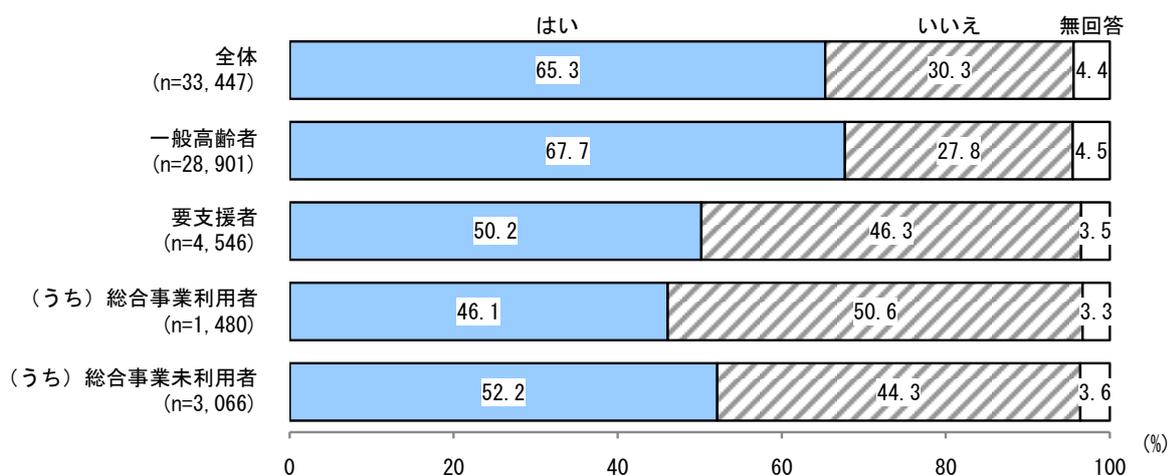


## ② 家族や友人の相談にのっていること

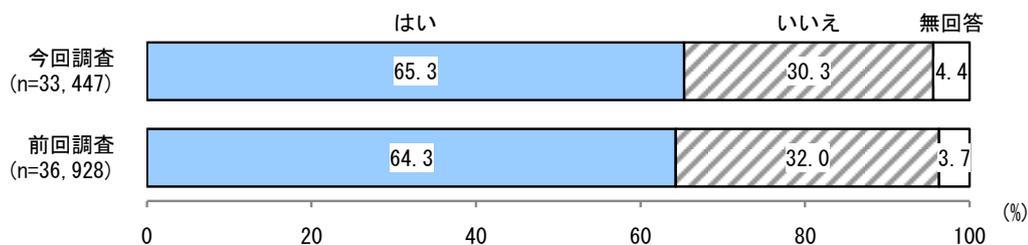
問 家族や友人の相談にのっていますか。(○はひとつ)

家族や友人の相談にのっている（「はい」と回答している）割合は65.3%となっている。  
 認定状況別では、家族や友人の相談にのっている割合は、要支援者が50.2%で、一般高齢者（67.7%）に比べ17.5ポイント低くなっている。（図5-4-2）  
 前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図5-4-2 家族や友人の相談にのっていること】

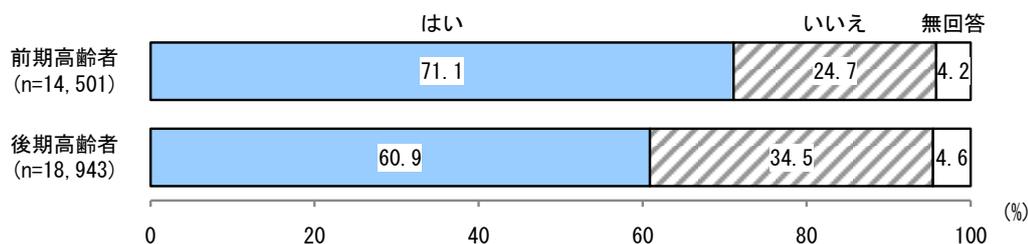


【参考 家族や友人の相談にのっていること（経年比較）】



年齢別では、家族や友人の相談にのっている人の割合は、前期高齢者が71.1%、後期高齢者は60.9%となっている。（図5-4-2-1）

【図5-4-2-1 年齢別 家族や友人の相談にのっていること】

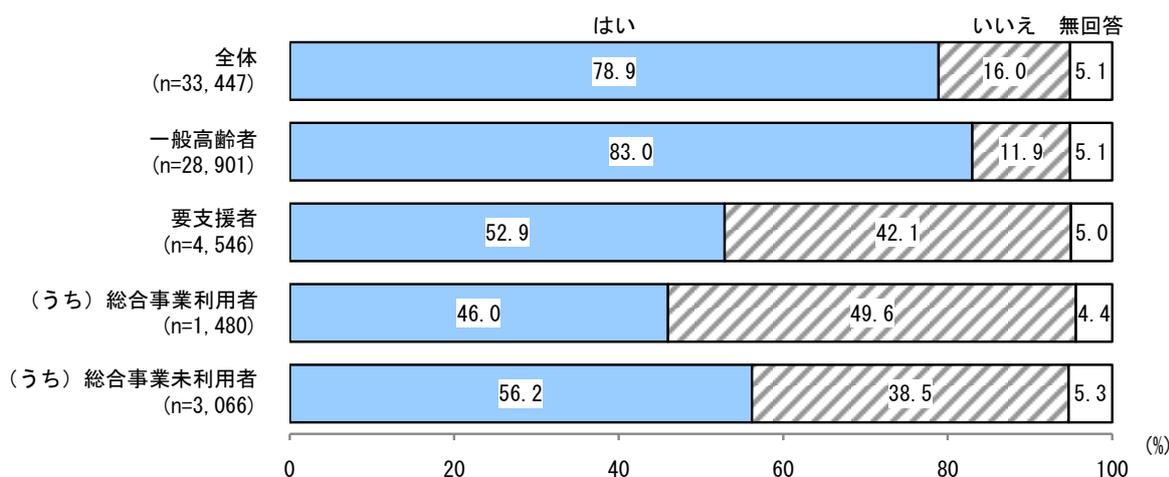


### ③ 病人を見舞うことができること

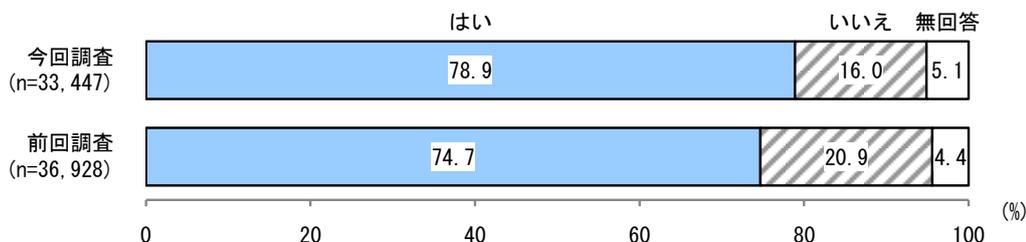
問 病人を見舞うことができますか。(○はひとつ)

病人を見舞うことができる（「はい」と回答している）割合は78.9%となっている。  
 認定状況別では、病人を見舞うことができる割合は、要支援者が52.9%で、一般高齢者（83.0%）に比べ30.1ポイント低くなっている。（図5-4-3）  
 前回調査の結果に比べ、病人を見舞うことができる割合が4.2ポイント増加している。

【図5-4-3 病人を見舞うことができること】

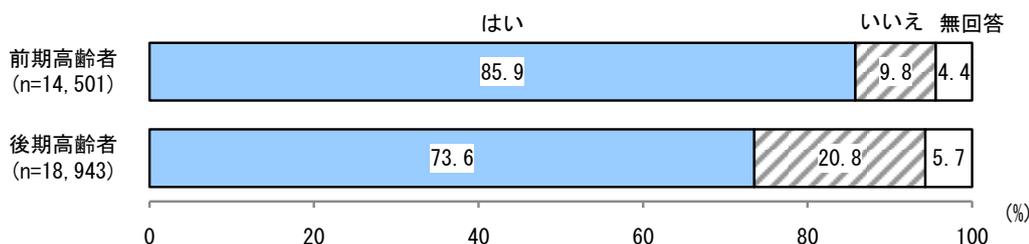


【参考 病人を見舞うことができること（経年比較）】



年齢別では、病人を見舞うことができる割合は、前期高齢者が85.9%、後期高齢者は73.6%となっている。（図5-4-3-1）

【図5-4-3-1 年齢別 病人を見舞うことができること】



#### ④ 若い人に自分から話しかけること

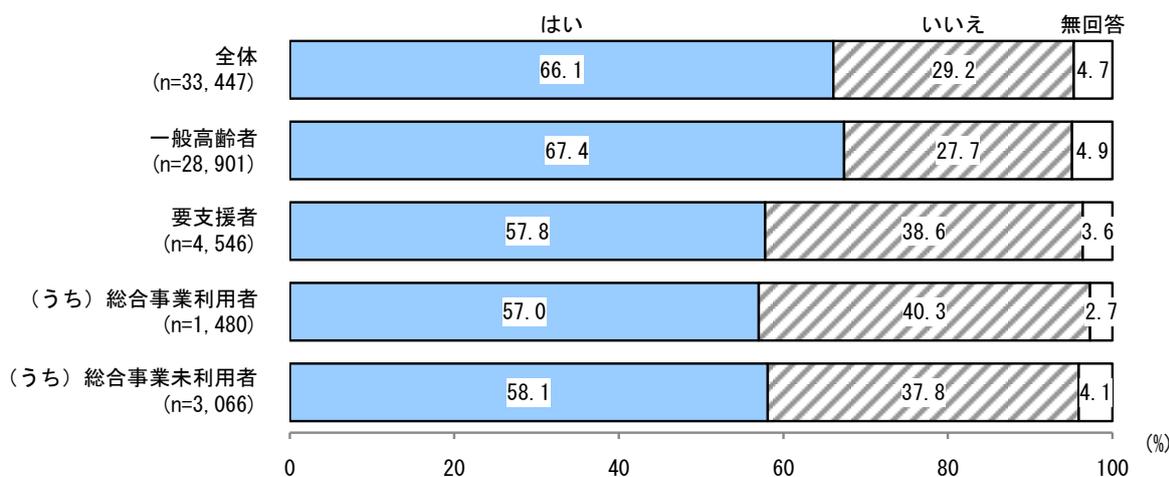
問 若い人に自分から話しかけることがありますか。(○はひとつ)

若い人に自分から話しかけることがある(「はい」と回答している)割合は66.1%となっている。

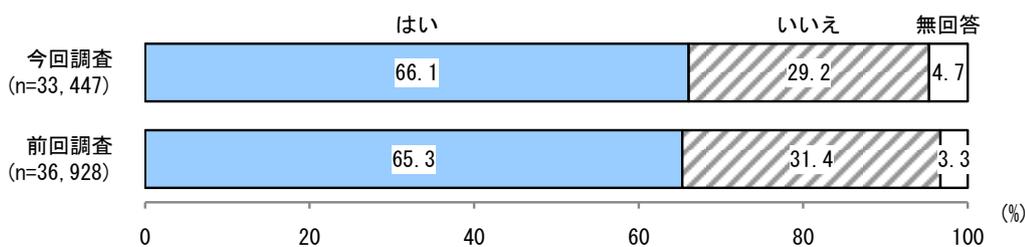
認定状況別では、若い人に自分から話しかけることがある割合は、要支援者が57.8%で、一般高齢者(67.4%)に比べ9.6ポイント低くなっている。(図5-4-4)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図5-4-4 若い人に自分から話しかけること】

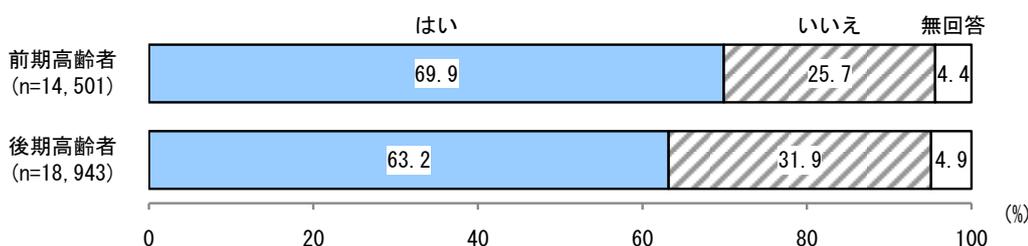


【参考 若い人に自分から話しかけること (経年比較)】



年齢別では、若い人に自分から話しかけることがある割合は、前期高齢者が69.9%、後期高齢者は63.2%となっている。(図5-4-4-1)

【図5-4-4-1 年齢別 若い人に自分から話しかけること】



## (5) 趣味や生きがいの有無

### ① 趣味の有無

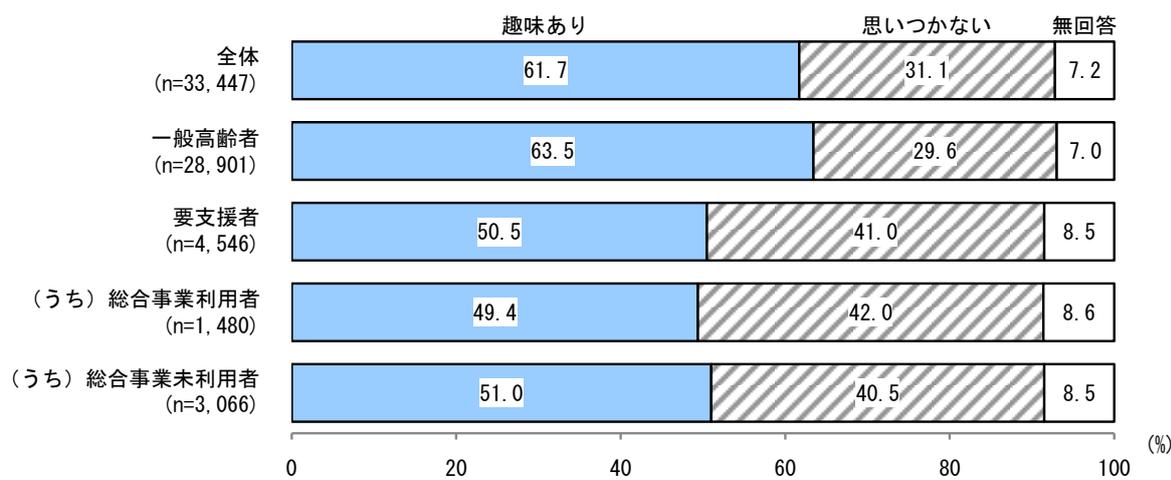
問 趣味はありますか。(〇はひとつ)

趣味があるの割合は61.7%となっている。

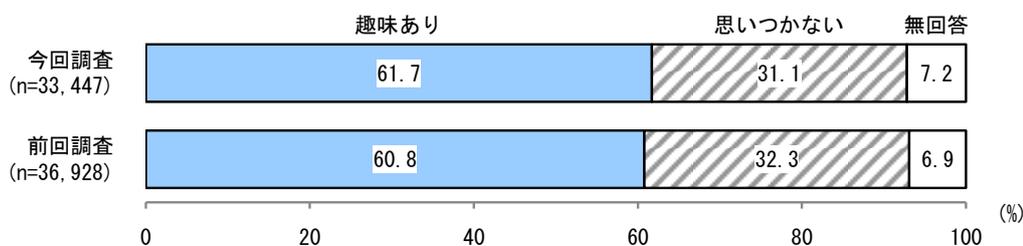
認定状況別では、趣味があるの割合は、要支援者が50.5%で、一般高齢者（63.5%）に比べ13.0ポイント低くなっている。(図5-5-1)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図5-5-1 趣味の有無】

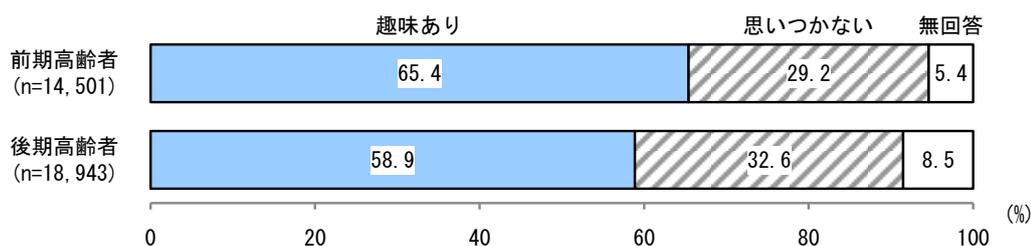


【参考 趣味の有無 (経年比較)】



年齢別では、趣味があるの割合は、前期高齢者が65.4%、後期高齢者は58.9%となっている。(図5-5-1-1)

【図5-5-1-1 年齢別 趣味の有無】



## ② 生きがいの有無

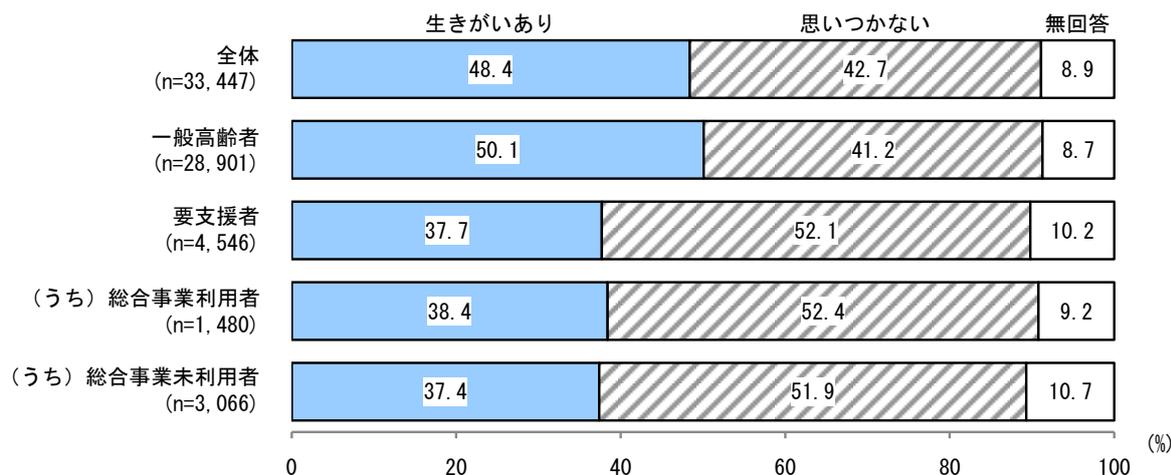
問 生きがいはありますか。(○はひとつ)

生きがいがあるの割合は48.4%となっている。

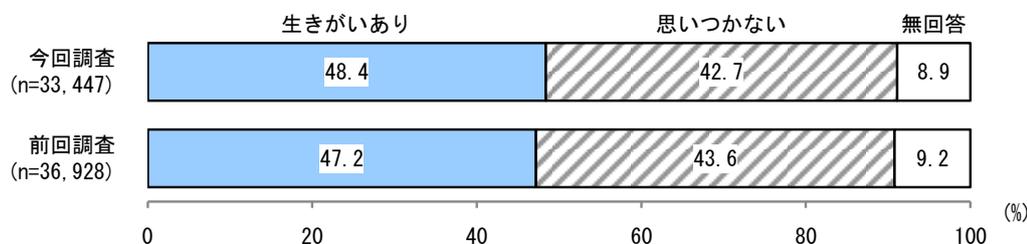
認定状況別では、生きがいがあるの割合は、要支援者が37.7%で、一般高齢者（50.1%）に比べ12.4ポイント低くなっている。（図5-5-2）

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図5-5-2 生きがいの有無】

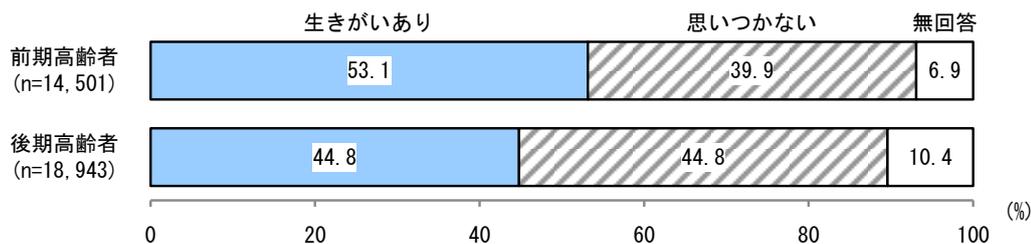


【参考 生きがいの有無（経年比較）】



年齢別では、生きがいがあるの割合は、前期高齢者が53.1%、後期高齢者は44.8%となっている。（図5-5-2-1）

【図5-5-2-1 年齢別 生きがいの有無】



## 6 地域での活動について

### (1) 地域の会・グループ等への参加状況

問 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

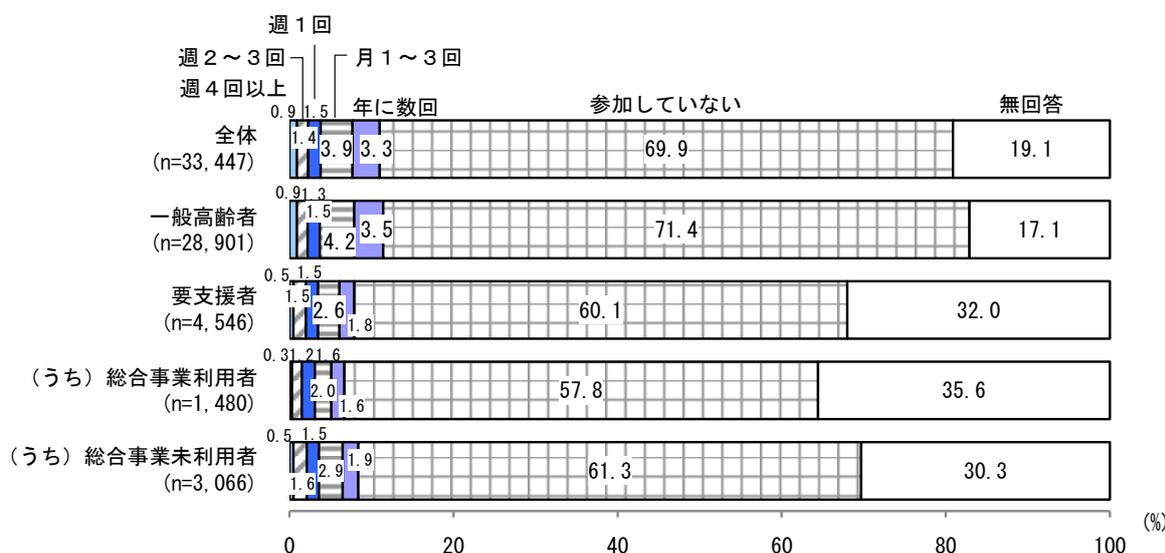
※①～⑧それぞれに回答してください。(それぞれ○はひとつ)

#### ① ボランティアのグループ

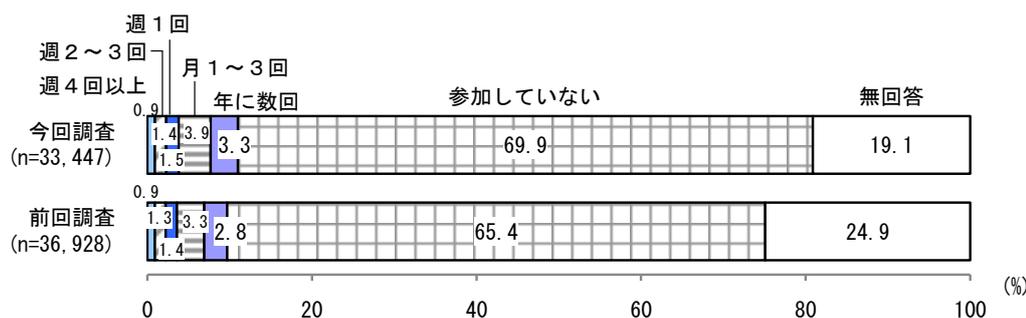
ボランティアのグループに『参加している』(「年に数回」以上の頻度の合計)割合は11.0%となっている。(図6-1-1)

前回調査の結果に比べ、『参加している』割合が1.3ポイント増加する一方、「参加していない」の割合は4.5ポイント増加している。

【図6-1-1 地域の会・グループ等への参加状況 ①ボランティアのグループ】

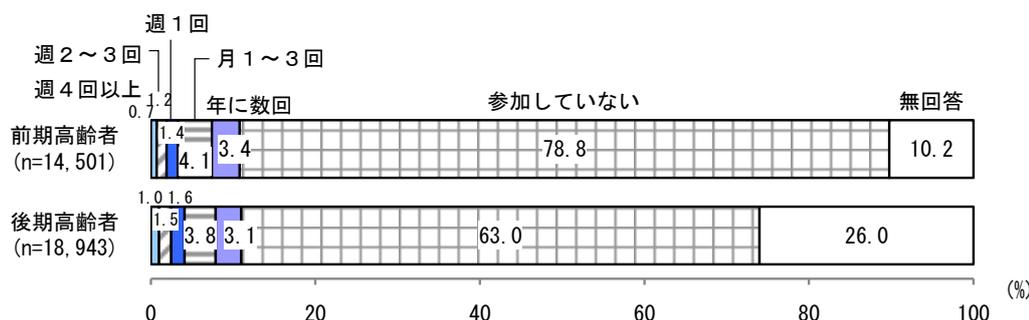


【参考 地域の会・グループ等への参加状況 ①ボランティアのグループ (経年比較)】



年齢別では、『参加している』割合は、前期高齢者が10.8%、後期高齢者は11.0%となっている。(図6-1-1-1)

【図6-1-1-1 年齢別 地域の会・グループ等への参加状況 ①ボランティアのグループ】

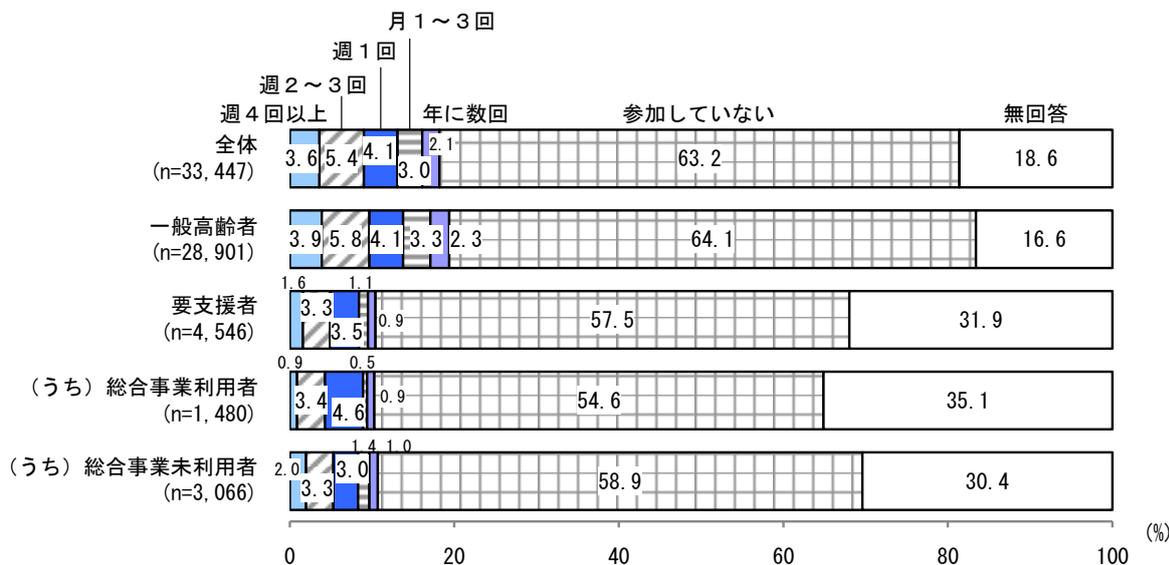


## ② スポーツ関係のグループやクラブ

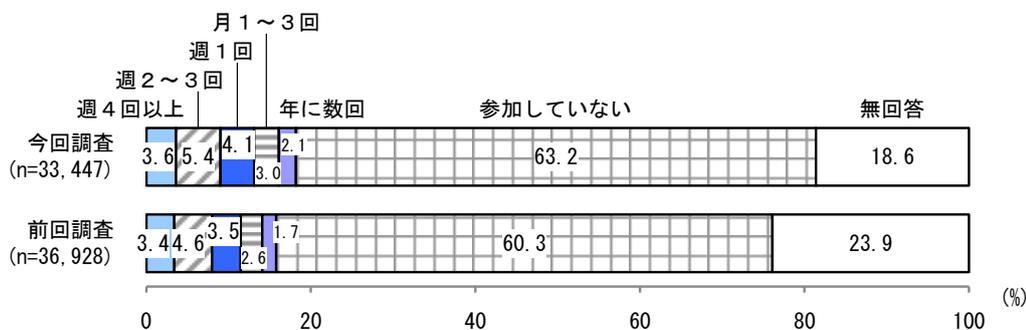
スポーツ関係のグループやクラブに『参加している』割合は18.2%となっている。(図6-1-2)

前回調査の結果に比べ、『参加している』割合が2.4ポイント増加する一方、「参加していない」割合は2.9ポイント増加している。

【図6-1-2 地域の会・グループ等への参加状況 ②スポーツ関係のグループやクラブ】

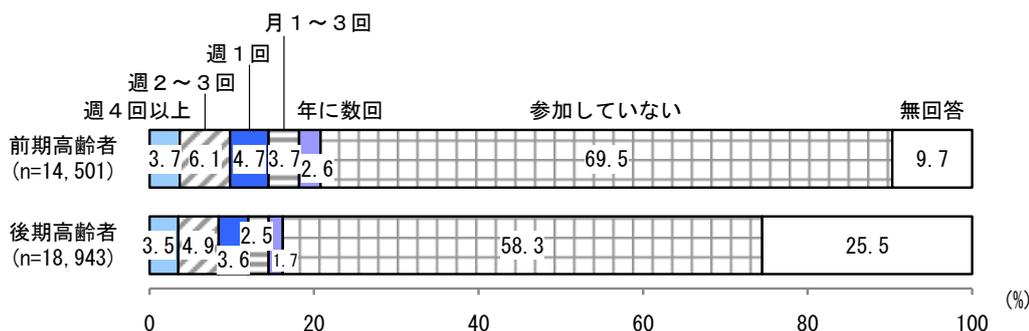


【参考 地域の会・グループ等への参加状況 ②スポーツ関係のグループやクラブ (経年比較)】



年齢別では、『参加している』割合は、前期高齢者が20.8%、後期高齢者は16.2%となっている。(図6-1-2-1)

【図6-1-2-1 年齢別 地域の会・グループ等への参加状況 ②スポーツ関係のグループやクラブ】

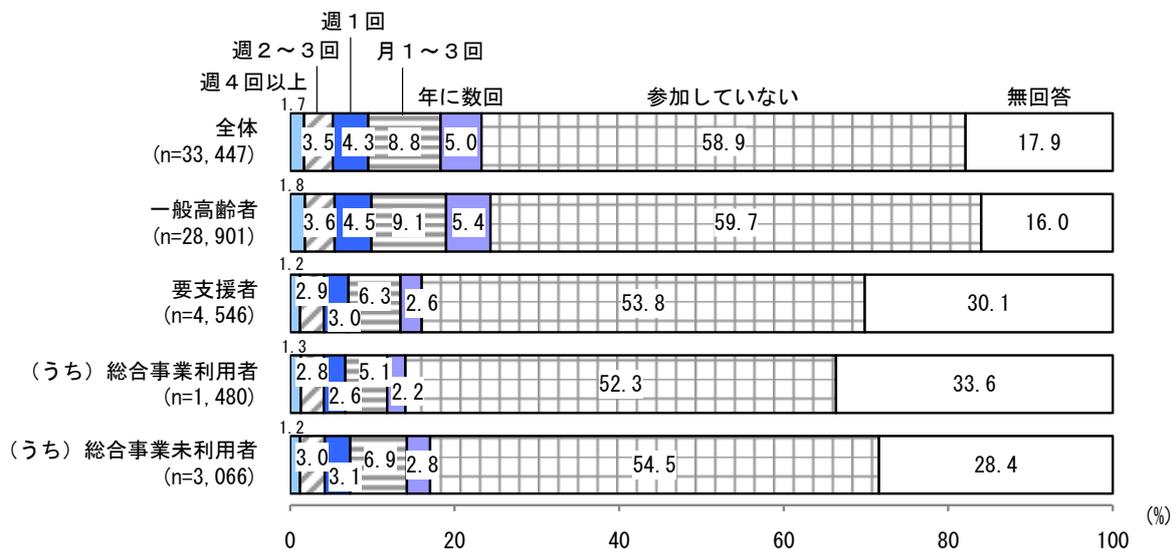


### ③ 趣味関係のグループ

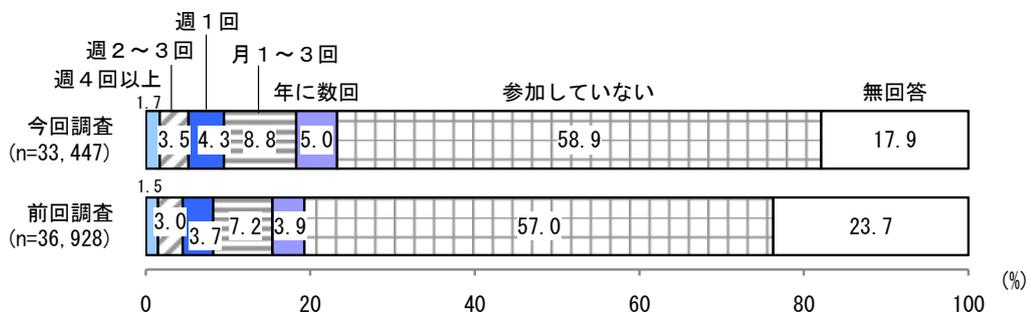
趣味関係のグループに『参加している』割合は23.3%となっている。(図6-1-3)

前回調査の結果に比べ、『参加している』割合が4.0ポイント増加する一方、「参加していない」割合は1.9ポイント増加している。

【図6-1-3 地域の会・グループ等への参加状況 ③趣味関係のグループ】

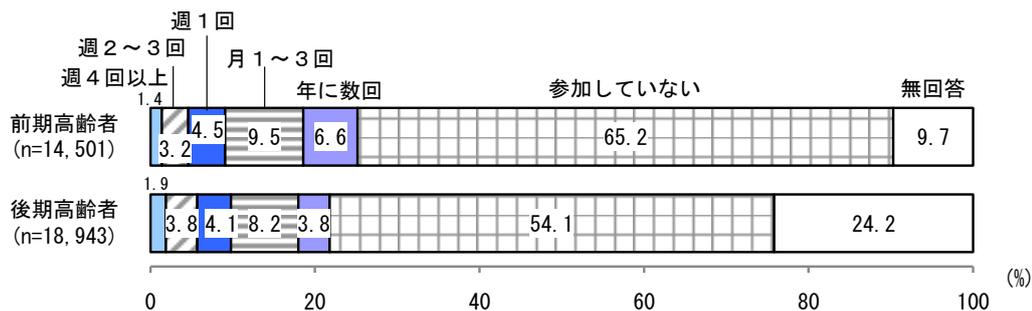


【参考 地域の会・グループ等への参加状況 ③趣味関係のグループ (経年比較)】



年齢別では、『参加している』割合は、前期高齢者が25.2%、後期高齢者は21.8%となっている。(図6-1-3-1)

【図6-1-3-1 年齢別 地域の会・グループ等への参加状況 ③趣味関係のグループ】

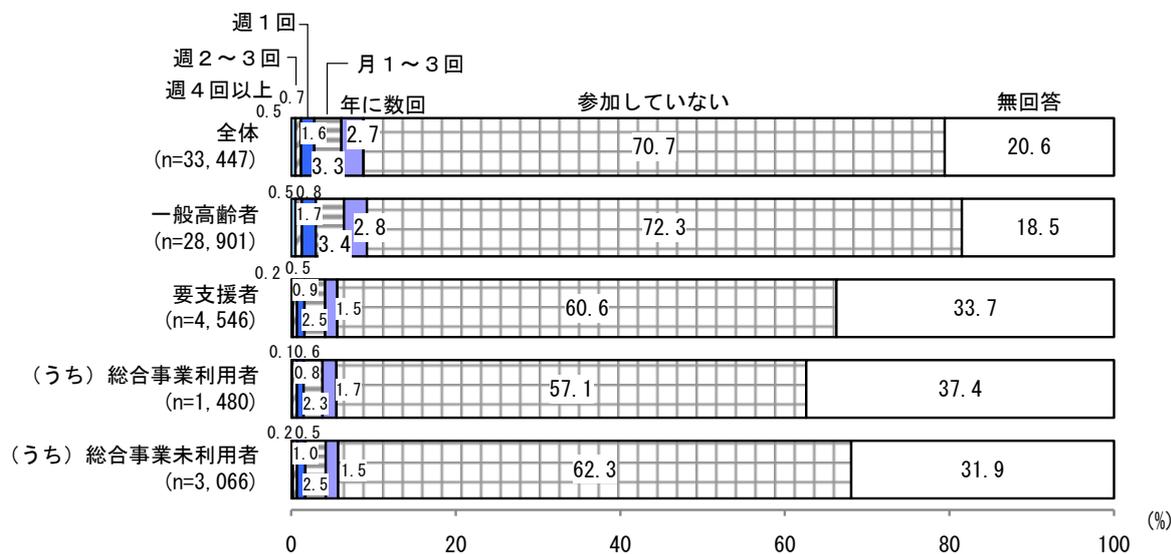


#### ④ 学習・教養サークル

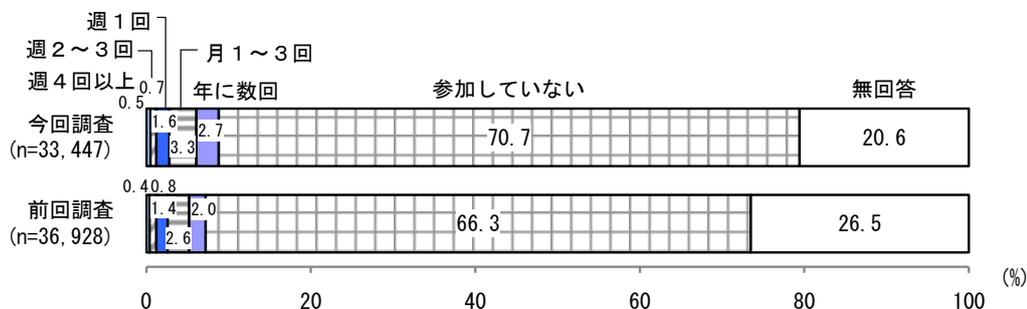
学習・教養サークルに『参加している』割合は8.8%となっている。(図6-1-4)

前回調査の結果に比べ、『参加している』割合が1.6ポイント増加する一方、「参加していない」の割合は4.4ポイント増加している。

【図6-1-4 地域の会・グループ等への参加状況 ④学習・教養サークル】

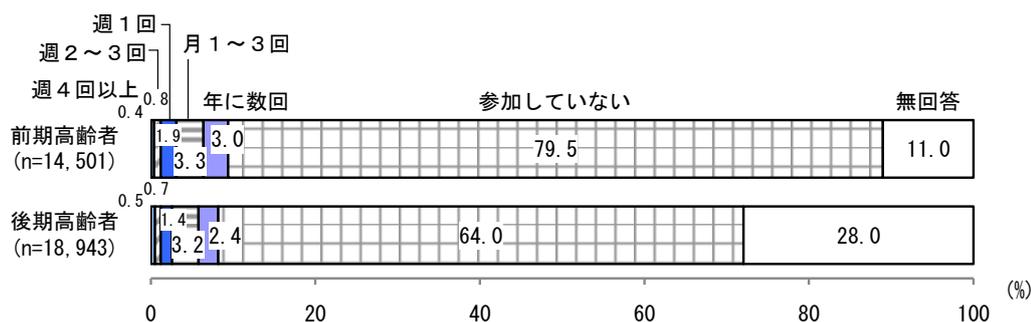


【参考 地域の会・グループ等への参加状況 ④学習・教養サークル (経年比較)】



年齢別では、『参加している』の割合は、前期高齢者が9.4%、後期高齢者は8.2%となっている。(図6-1-4-1)

【図6-1-4-1 年齢別 地域の会・グループ等への参加状況 ④学習・教養サークル】

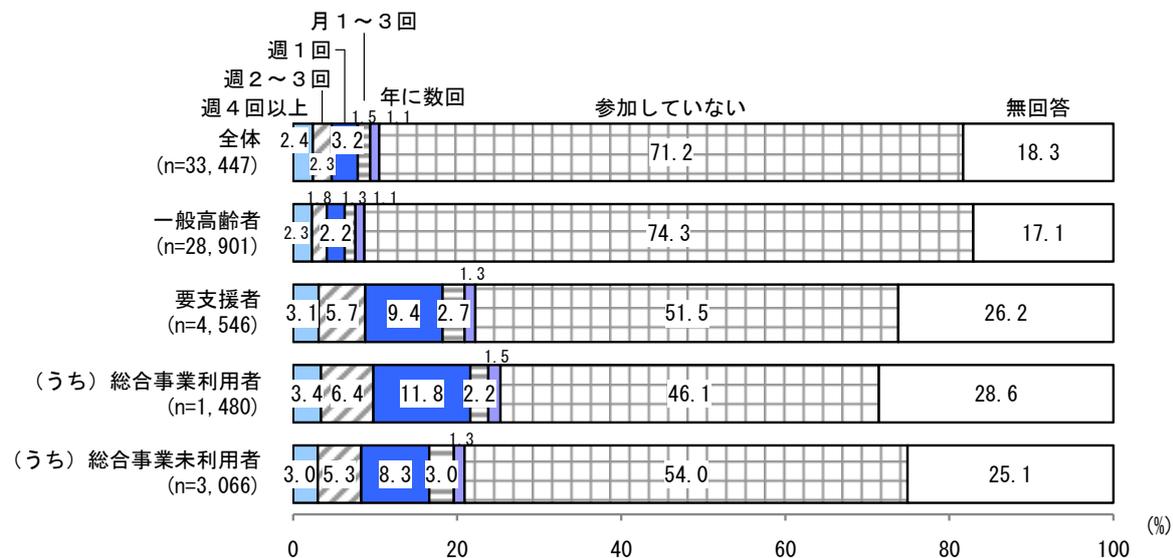


### ⑤-1 百歳体操やラジオ体操等の介護予防のための体操・運動の通いの場

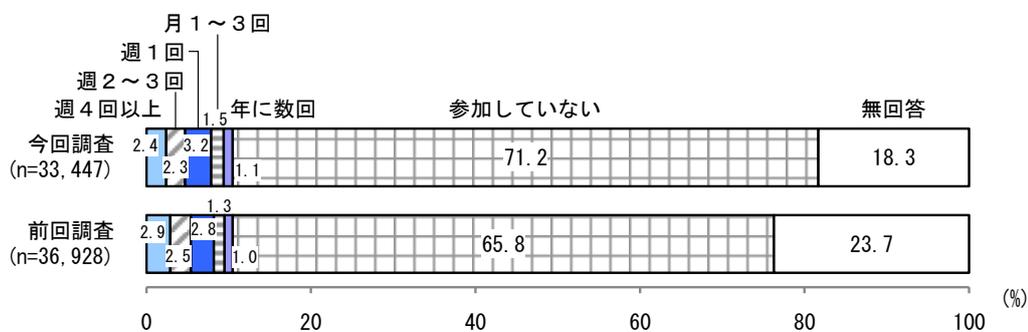
百歳体操やラジオ体操等の介護予防のための体操・運動の通いの場に『参加している』割合は10.5%となっている。(図6-1-5-1)

前回調査の結果では、『参加している』割合は10.5%で変化はなく、「参加していない」の割合が5.4ポイント増加している。

【図6-1-5-1 地域の会・グループ等への参加状況 ⑤-1 百歳体操やラジオ体操等の介護予防のための体操・運動の通いの場】

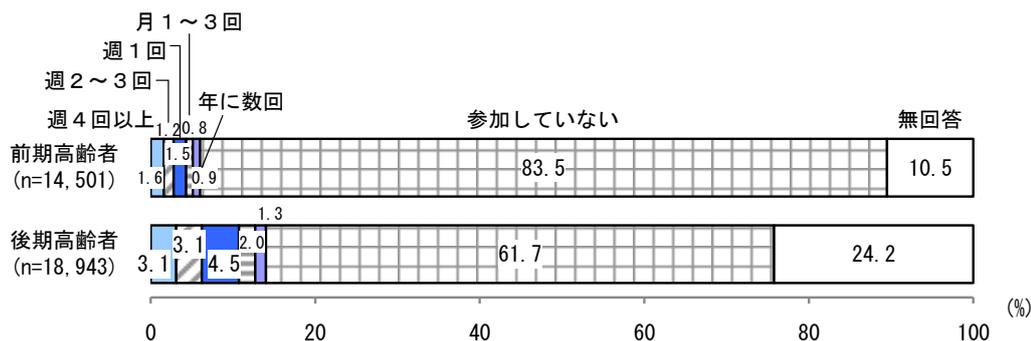


【参考 年齢別 地域の会・グループ等への参加状況 ⑤-1 百歳体操やラジオ体操等の介護予防のための体操・運動の通いの場 (経年比較)】



年齢別では、『参加している』の割合は、前期高齢者が6.0%、後期高齢者は14.0%となっている。(図6-1-5-1-1)

【図6-1-5-1-1 年齢別 地域の会・グループ等への参加状況 ⑤-1 百歳体操やラジオ体操等の介護予防のための体操・運動の通いの場】

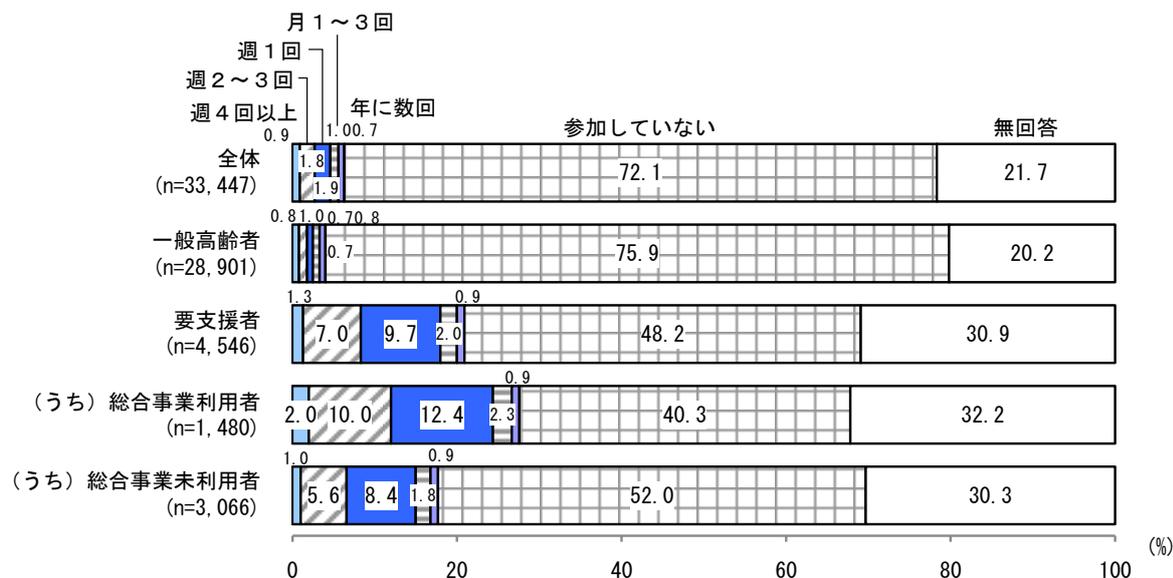


## ⑤-2 ⑤-1以外の介護予防のための通いの場

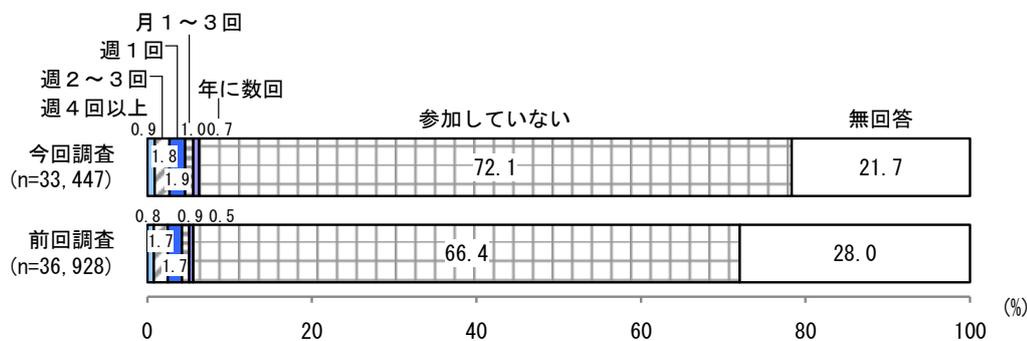
⑤-1以外の介護予防のための通いの場に『参加している』割合は6.3%となっている。(図6-1-5-2)

前回調査の結果に比べ、『参加している』割合が0.7ポイント微増する一方、「参加していない」の割合は5.7ポイント増加している。

【図6-1-5-2 地域の会・グループ等への参加状況 ⑤-2 ⑤-1以外の介護予防のための通いの場】

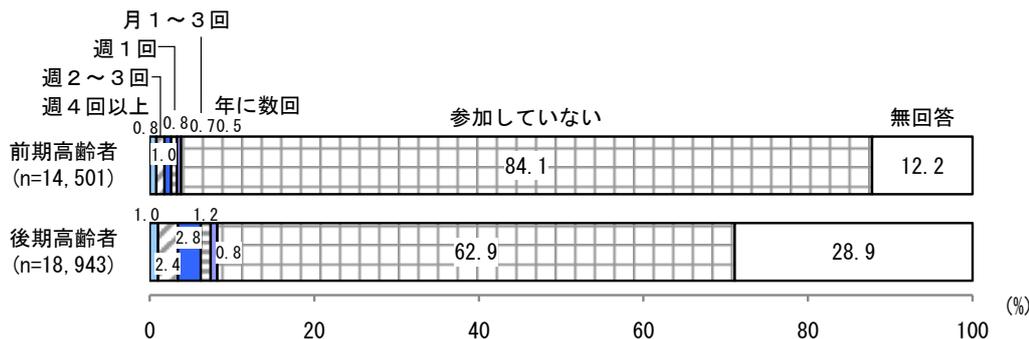


【参考 地域の会・グループ等への参加状況 ⑤-2 ⑤-1以外の介護予防のための通いの場 (経年比較)】



年齢別では、『参加している』の割合は、前期高齢者が3.8%、後期高齢者は8.2%となっている。(図6-1-5-2-1)

【図6-1-5-2-1 年齢別 地域の会・グループ等への参加状況 ⑤-2 ⑤-1以外の介護予防のための通いの場】

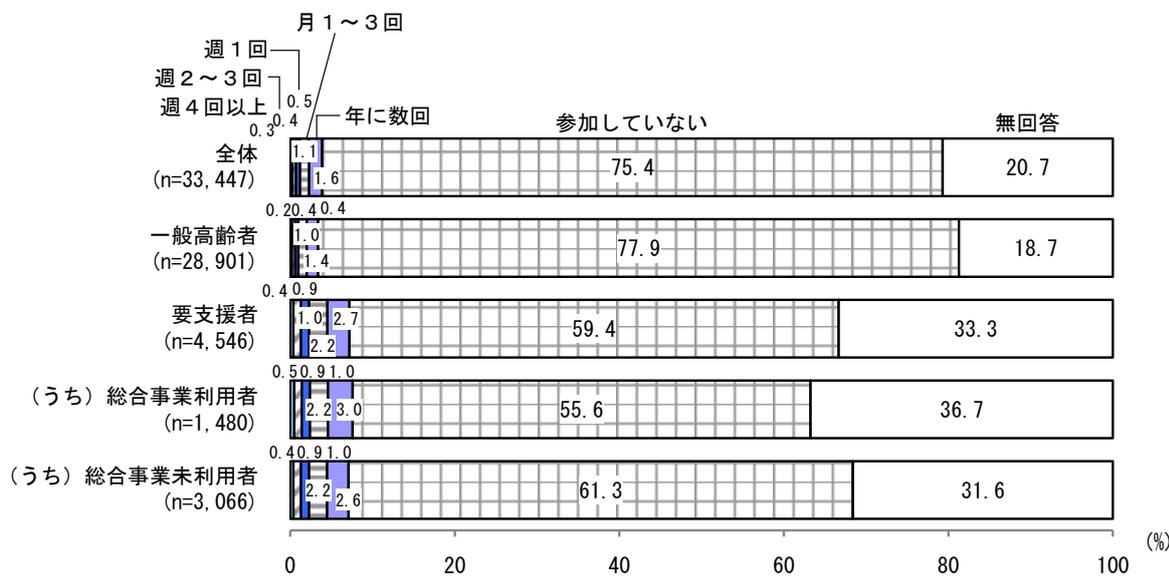


## ⑥ 老人クラブ

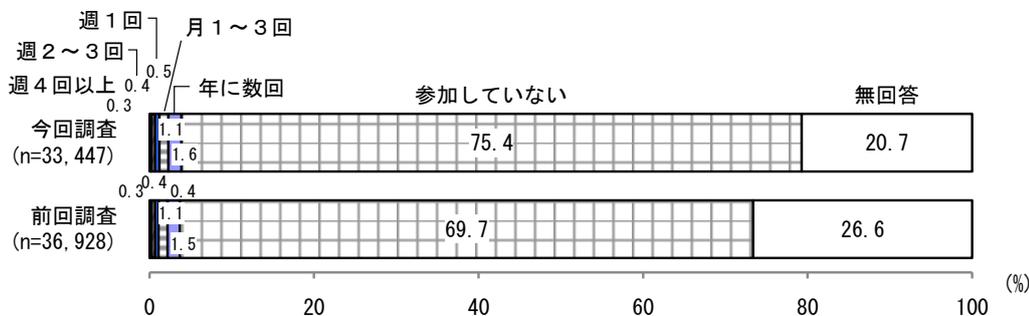
老人クラブに『参加している』割合は3.9%となっている。(図6-1-6)

前回調査の結果では、『参加している』割合が3.7%で大きな変化はないが、「参加していない」の割合は5.7ポイント増加している。

【図6-1-6 地域の会・グループ等への参加状況 ⑥老人クラブ】

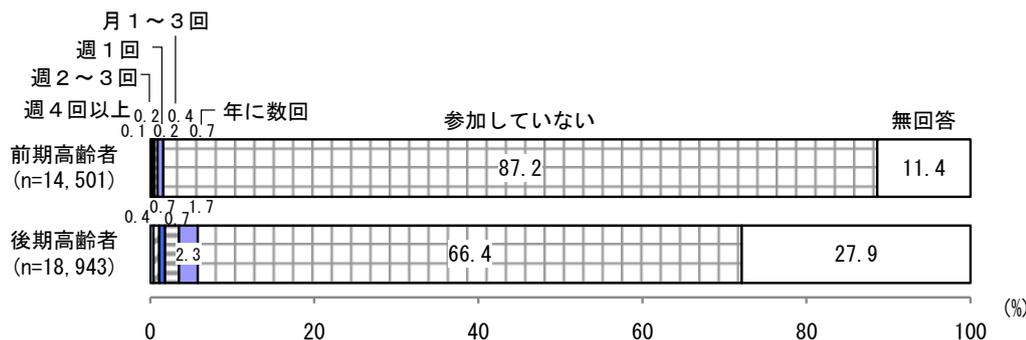


【参考 地域の会・グループ等への参加状況 ⑥老人クラブ (経年比較)】



年齢別では、『参加している』の割合は、前期高齢者では1.6%、後期高齢者では5.8%となっている。(図6-1-6-1)

【図6-1-6-1 年齢別 地域の会・グループ等への参加状況 ⑥老人クラブ】

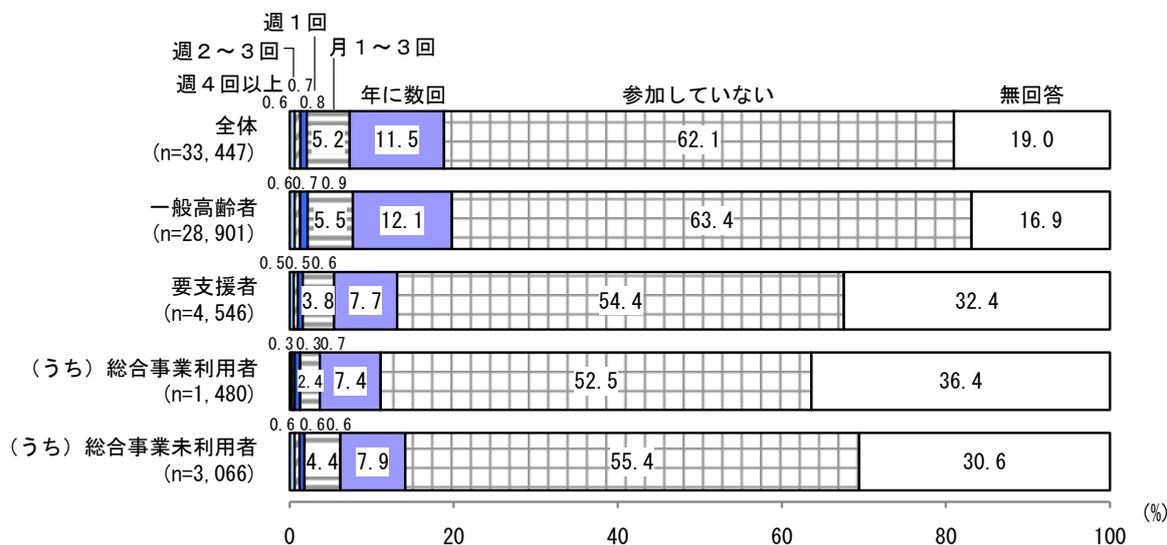


## ⑦ 町内会・自治会

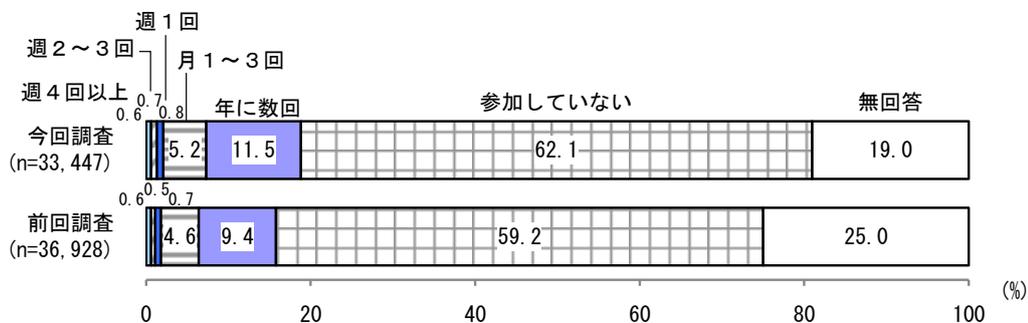
町内会・自治会に『参加している』割合は18.8%となっている。(図6-1-7)

前回調査の結果に比べ、『参加している』割合が3.0ポイント増加する一方、『参加していない』割合も2.9ポイント増加している。

【図6-1-7 地域の会・グループ等への参加状況 ⑦町内会・自治会】

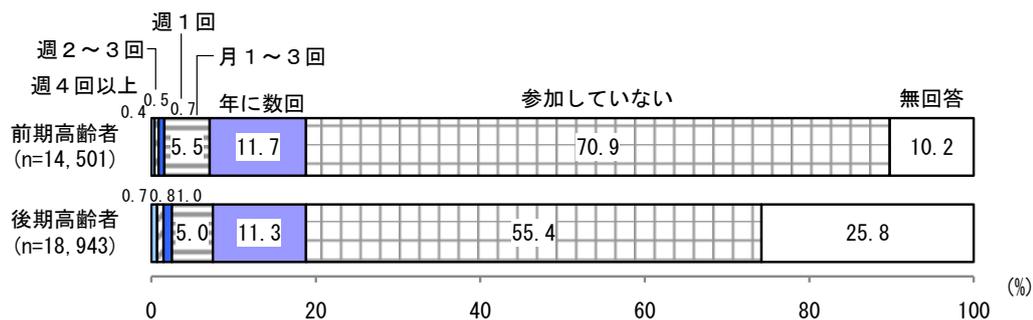


【参考 地域の会・グループ等への参加状況 ⑦町内会・自治会 (経年比較)】



年齢別では、『参加している』の割合は、前期高齢者・後期高齢者とも18.8%となっている。(図6-1-7-1)

【図6-1-7-1 年齢別 地域の会・グループ等への参加状況 ⑦町内会・自治会】

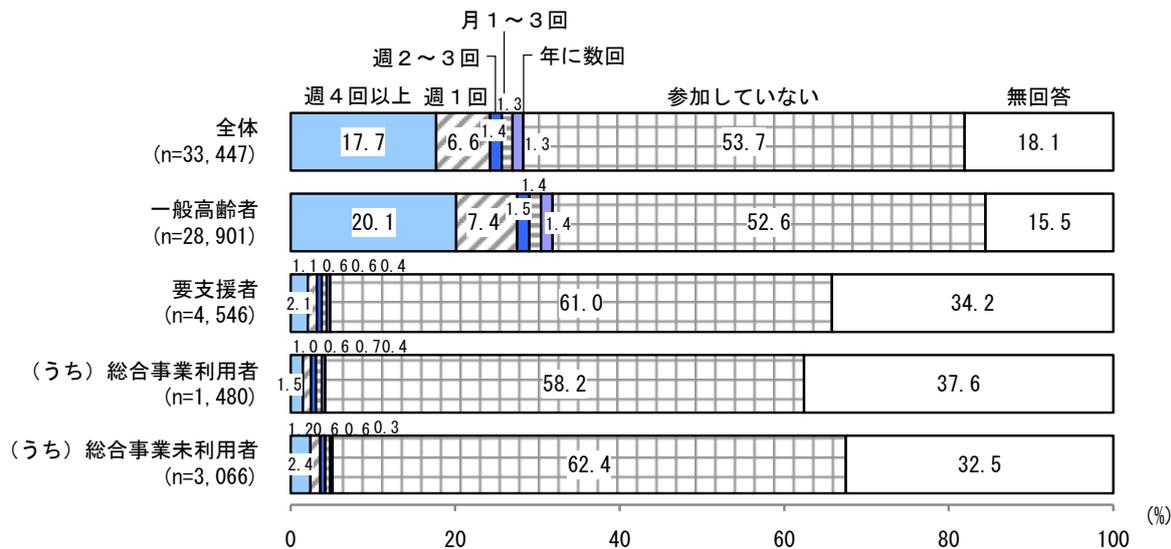


### ⑧ 収入のある仕事

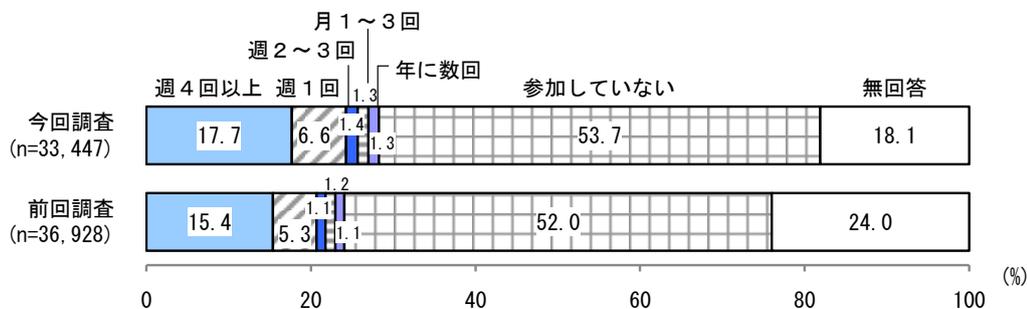
収入のある仕事に『参加している』割合は28.3%となっており、地域の会・グループ等で最も高い参加率となっている。(図6-1-8)

前回調査の結果に比べ、『参加している』割合が4.2ポイント増加する一方、『参加していない』割合も1.7ポイント増加している。

【図6-1-8 地域の会・グループ等への参加状況 ⑧収入のある仕事】

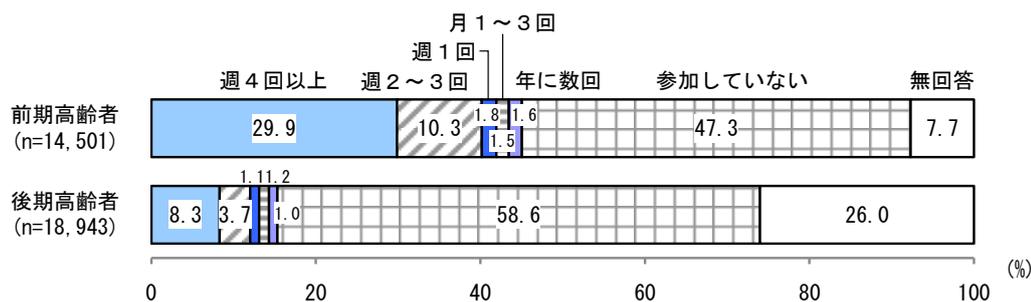


【参考 地域の会・グループ等への参加状況 ⑧収入のある仕事 (経年比較)】



年齢別では、『参加している』の割合は、前期高齢者が45.1%、後期高齢者は15.3%となっている。(図6-1-8-1)

【図6-1-8-1 年齢別 地域の会・グループ等への参加状況 ⑧収入のある仕事】



## (2) 地域の会・グループ等への参加意向

### ① 参加者としての参加

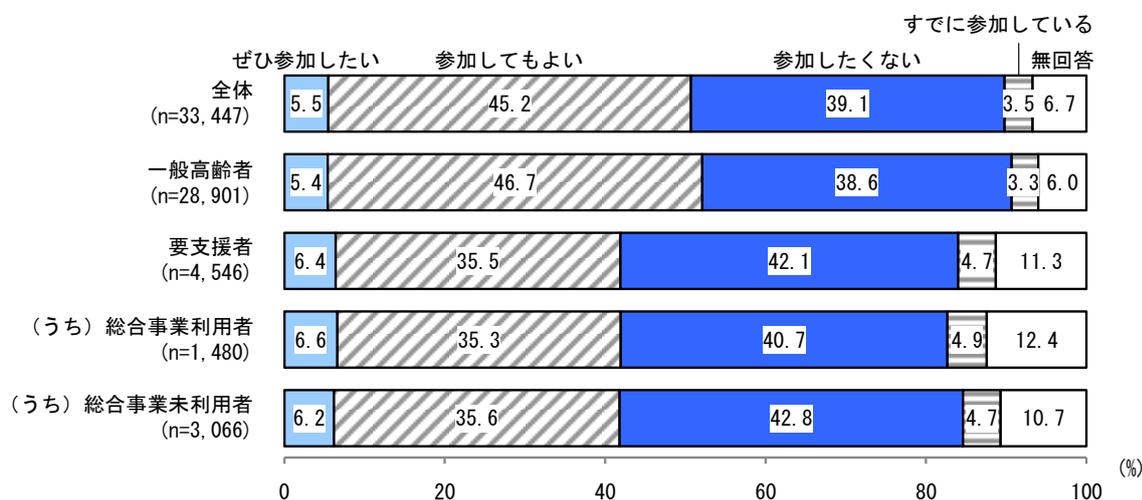
問 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(〇はひとつ)

地域の会・グループ等への参加者としての参加意向は、「参加してもよい」の割合が45.2%で最も高く、「すでに参加している」(3.5%)、「ぜひ参加したい」(5.5%)とあわせると、『参加中または参加意向がある』割合は54.2%となっている。

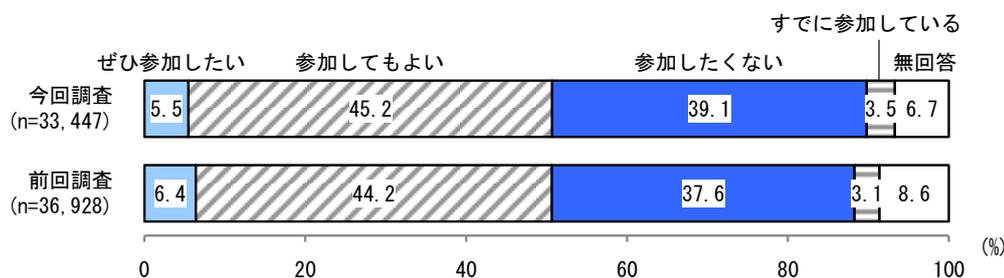
認定状況別では、『参加中または参加意向がある』割合は、要支援者が46.6%で、一般高齢者(55.4%)に比べ8.8ポイント低くなっている。(図6-2-1)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図6-2-1 地域の会・グループ等への参加意向 ①参加者としての参加】

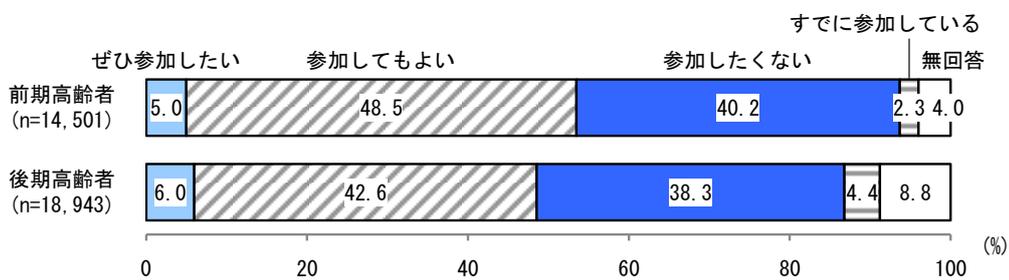


【参考 地域の会・グループ等への参加意向 ①参加者としての参加 (経年比較)】



年齢別では、『参加中または参加意向がある』割合は、前期高齢者が55.8%、後期高齢者は53.0%となっている。(図6-2-1-1)

【図6-2-1-1 年齢別 地域の会・グループ等への参加意向 ①参加者としての参加】



## ② 企画・運営としての参加

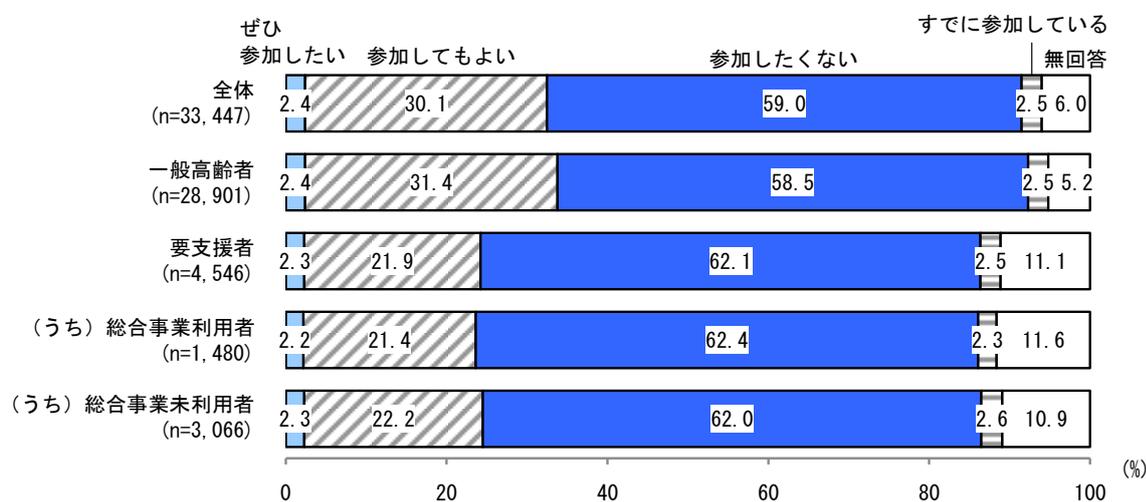
問 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（○はひとつ）

地域の会・グループ等への企画・運営としての参加意向は、「参加したくない」の割合が59.0%で最も高い。「すでに参加している」（2.5%）、「ぜひ参加したい」（2.4%）、「参加してもよい」（30.1%）をあわせた『参加中または参加意向がある』割合は35.0%となっている。

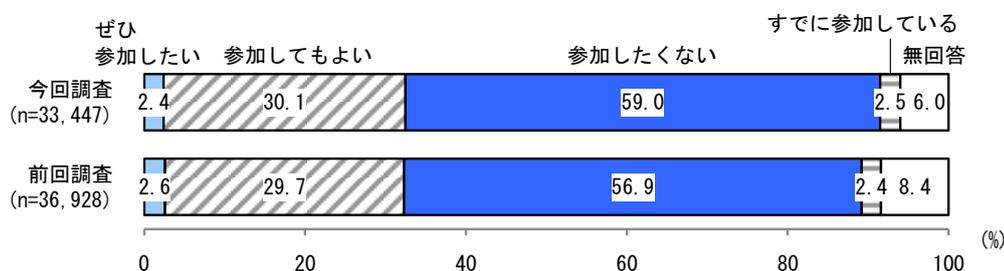
認定状況別では、『参加中または参加意向がある』割合は、要支援者が26.7%で、一般高齢者（36.3%）に比べ9.6ポイント低くなっている。（図6-2-2）

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図6-2-2 地域の会・グループ等への参加意向 ②企画・運営としての参加】

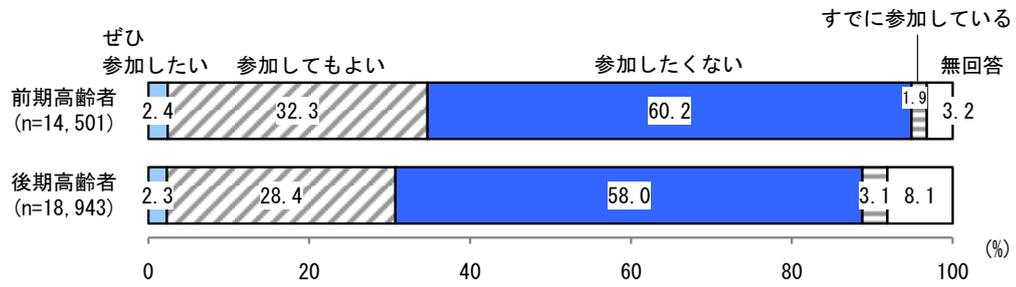


【参考 地域の会・グループ等への参加意向 ②企画・運営としての参加（経年比較）】



年齢別では、『参加中または参加意向がある』割合は、前期高齢者が36.6%、後期高齢者は33.8%となっている。(図6-2-2-1)

【図6-2-2-1 年齢別 地域の会・グループ等への参加意向 ②企画・運営としての参加】



## 7 介護予防について

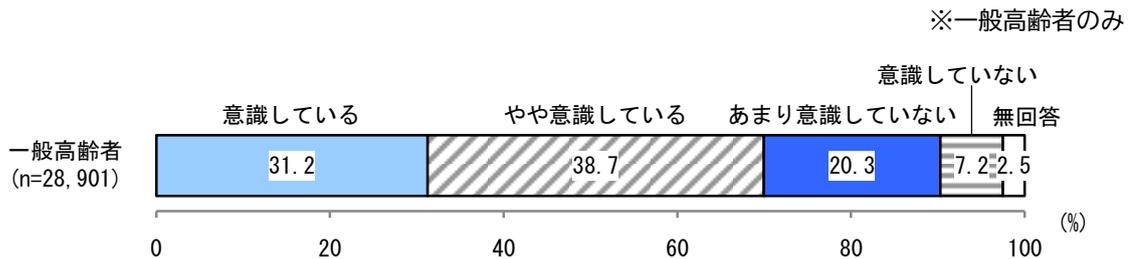
### (1) 介護予防についての意識

問 あなたは、介護予防についてどれほど意識していますか。(○はひとつ)

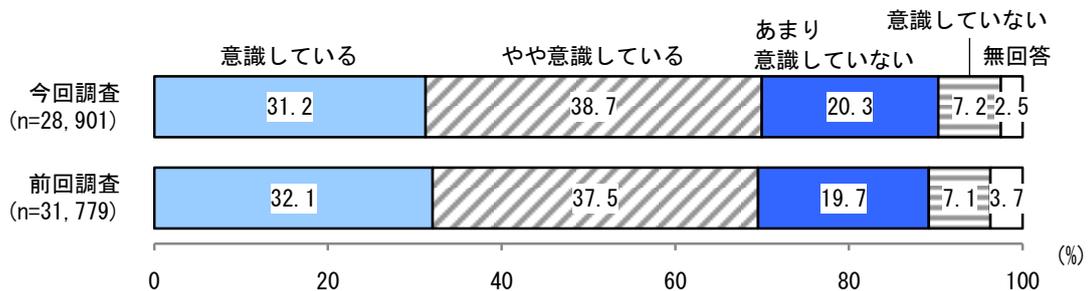
介護予防について、「やや意識している」の割合が38.7%で最も高く、次いで「意識している」が31.2%で、『意識している』（「意識している」と「やや意識している」の合計）割合は69.9%となっている。（図7-1）

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図7-1 介護予防についての意識】

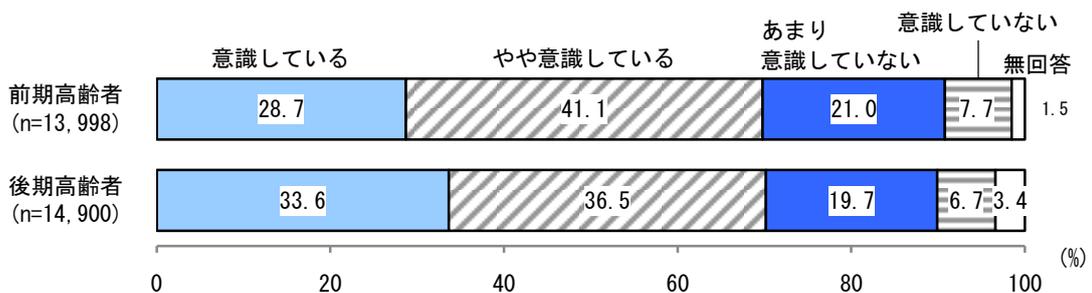


【参考 介護予防についての意識（経年比較）】



年齢別では、『意識している』割合は、前期高齢者が69.8%、後期高齢者は70.1%となっている。（図7-1-1）

【図7-1-1 年齢別 介護予防についての意識】



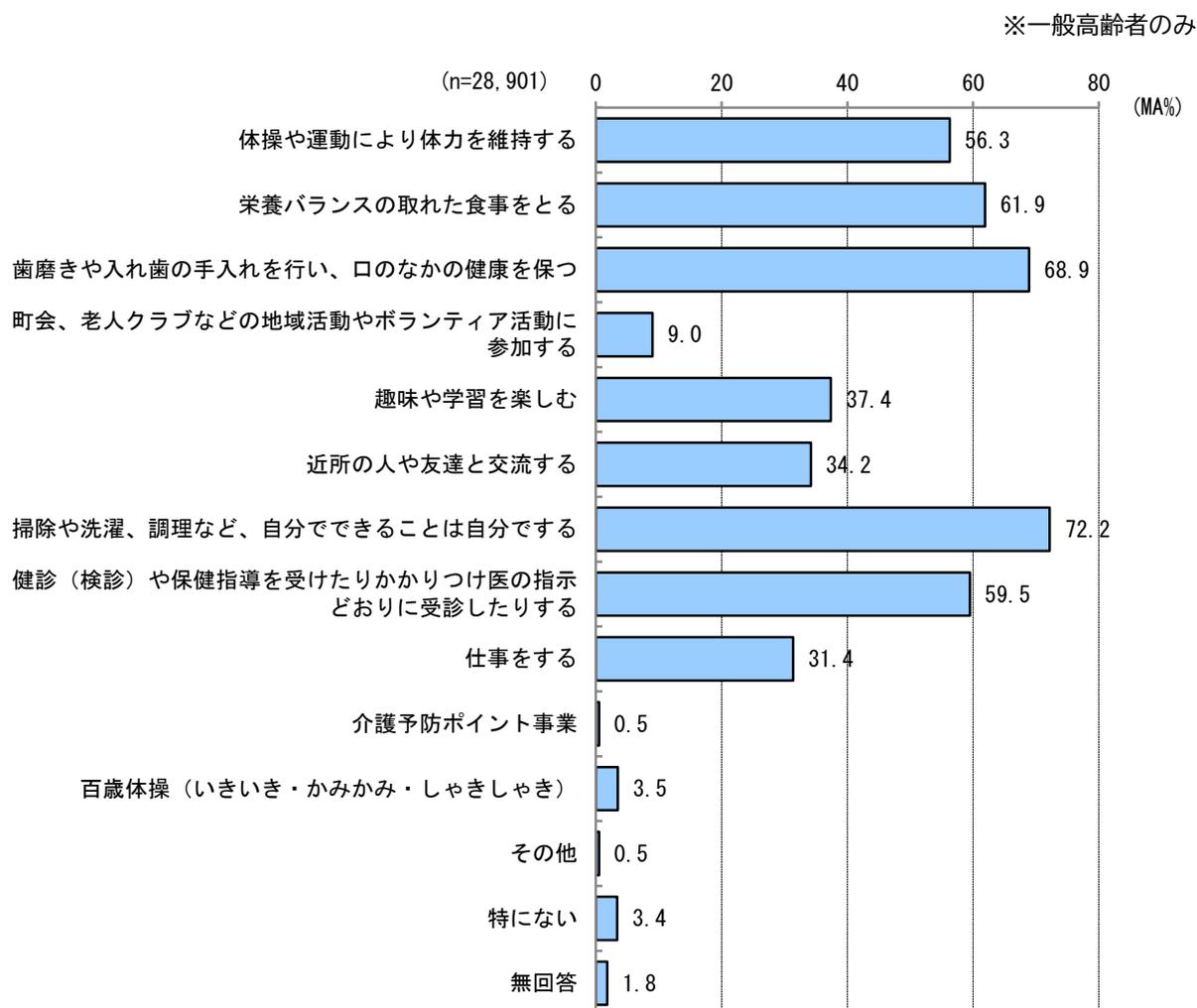
## (2) 介護予防としての取組

### ① 介護予防として今取り組んでいること

問 あなたが、介護予防として、今取り組んでいること、今後取り組んでみたいことに○をつけてください。

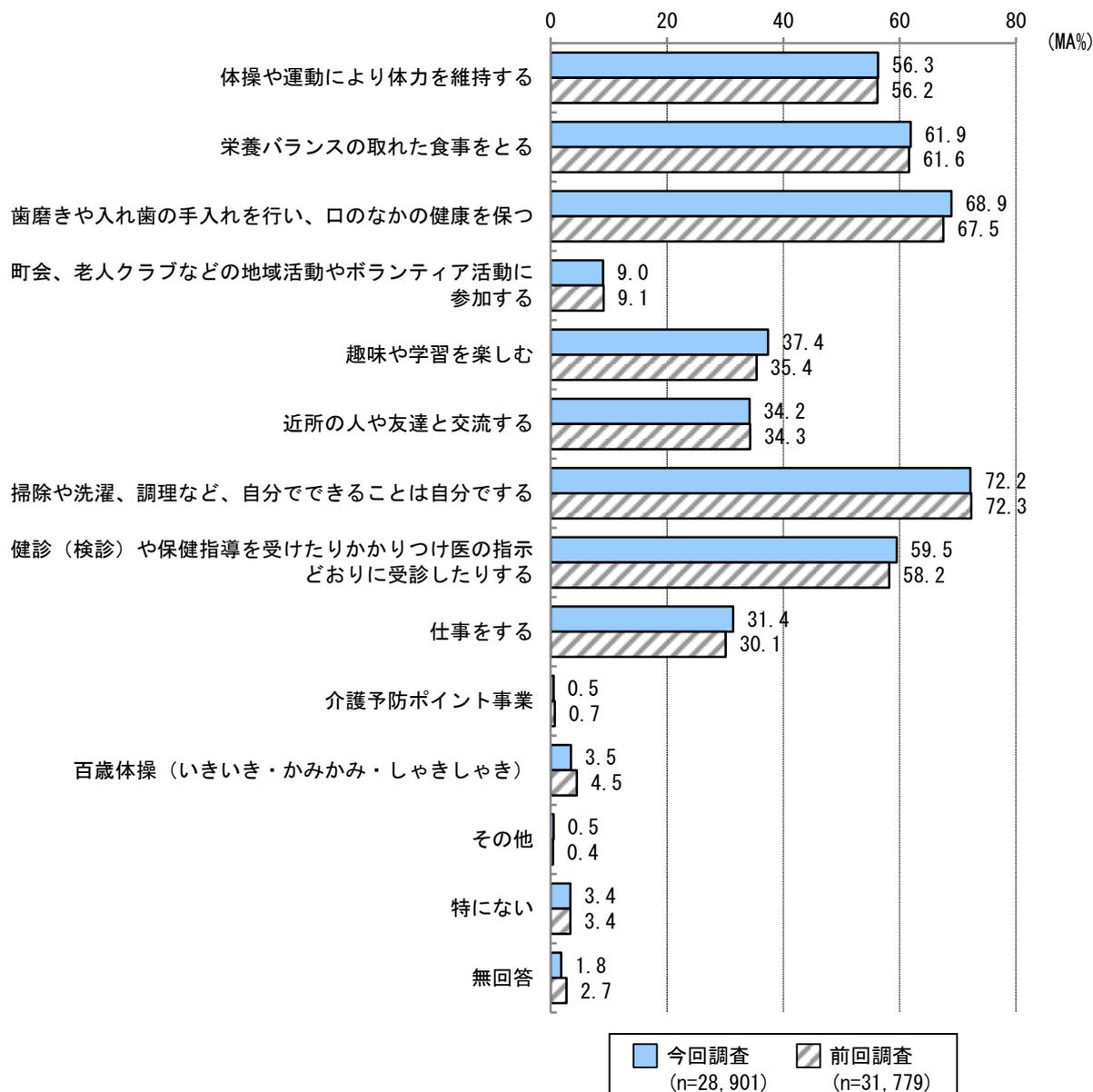
介護予防として今取り組んでいる高齢者の割合は94.8%（100%から「特にない」3.4%と「無回答」1.8%を差し引いた割合）を占め、具体的な取組の上位は、「掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分です」の割合が72.2%で最も高く、次いで「歯磨きや入れ歯の手入れを行い、口のなかの健康を保つ」が68.9%、「栄養バランスの取れた食事をとる」が61.9%となっている。（図7-2-1）

【図7-2-1 介護予防として今取り組んでいること】



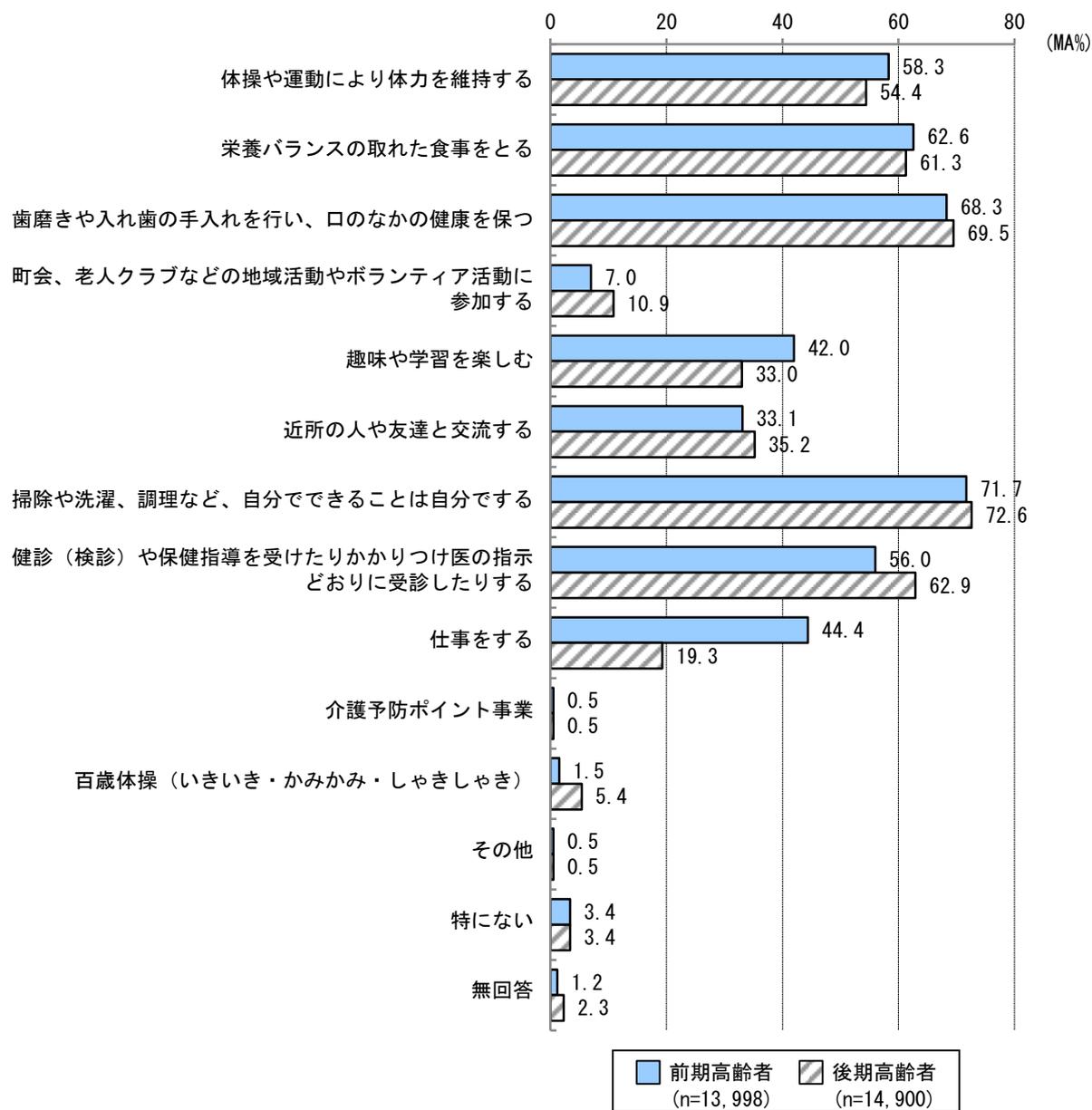
各項目の傾向は、いずれも前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【参考 介護予防として今取り組んでいること（経年比較）】



年齢別では、介護予防として今取り組んでいる割合は、前期高齢者が95.4%、後期高齢者が94.3%となっている。後期高齢者に比べ、「趣味や学習を楽しむ」「仕事をする」の各割合は5ポイント以上前期高齢者の方が高く、特に「仕事をする」の割合は、後期高齢者が19.3%に対し前期高齢者は44.4%で、25.1ポイントの差となっている。「健診（検診）や保健指導を受けたりかかりつけ医の指示どおりに受診したりする」の割合は、前期高齢者（56.0%）に比べ後期高齢者（62.9%）の方が6.9ポイント高くなっている。（図7-2-1-1）

【図7-2-1-1 年齢別 介護予防として今取り組んでいること】

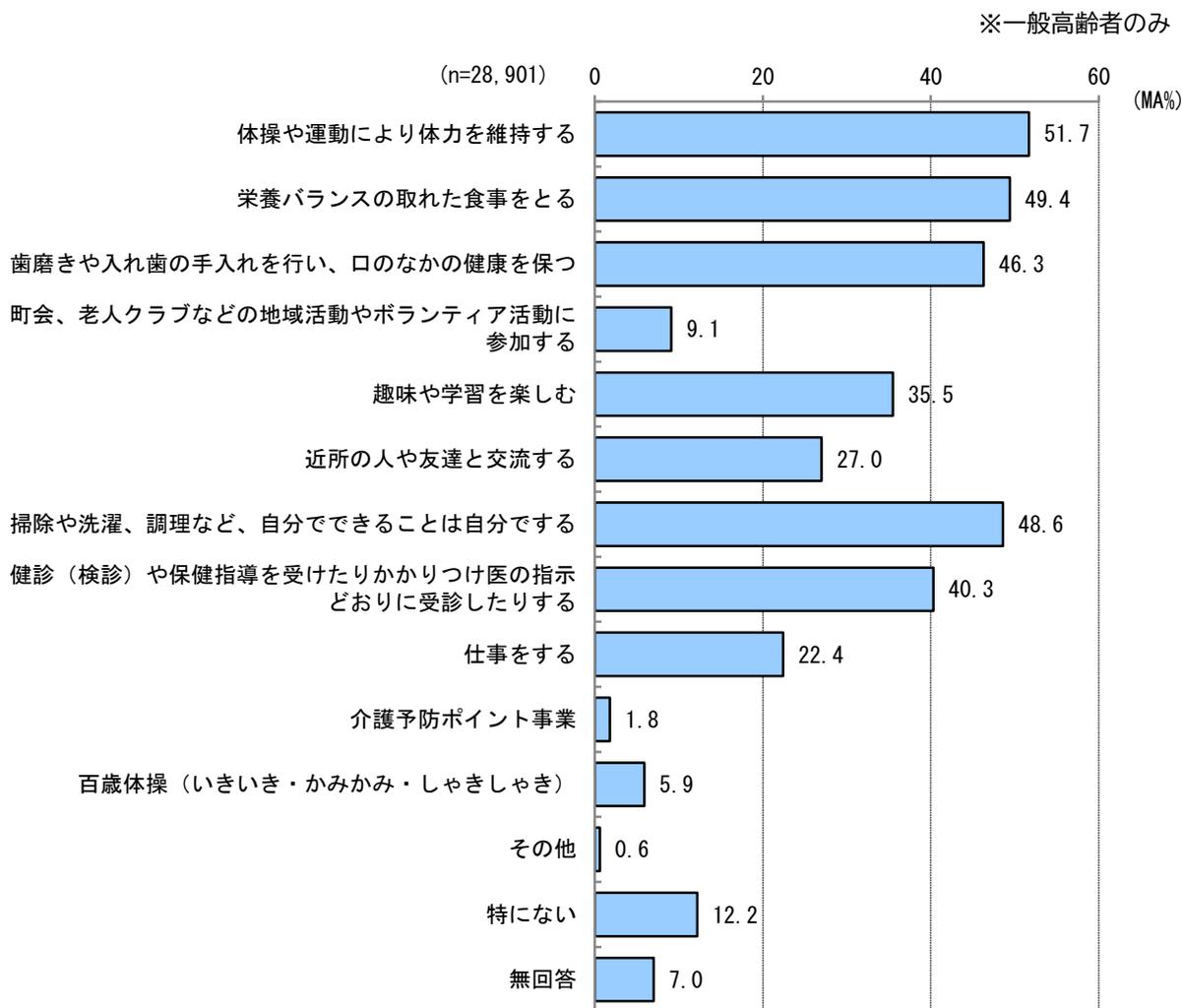


## ② 介護予防として今後取り組んでみたいこと

問 あなたが、介護予防として、今取り組んでいること、今後取り組んでみたいことに○をつけてください。

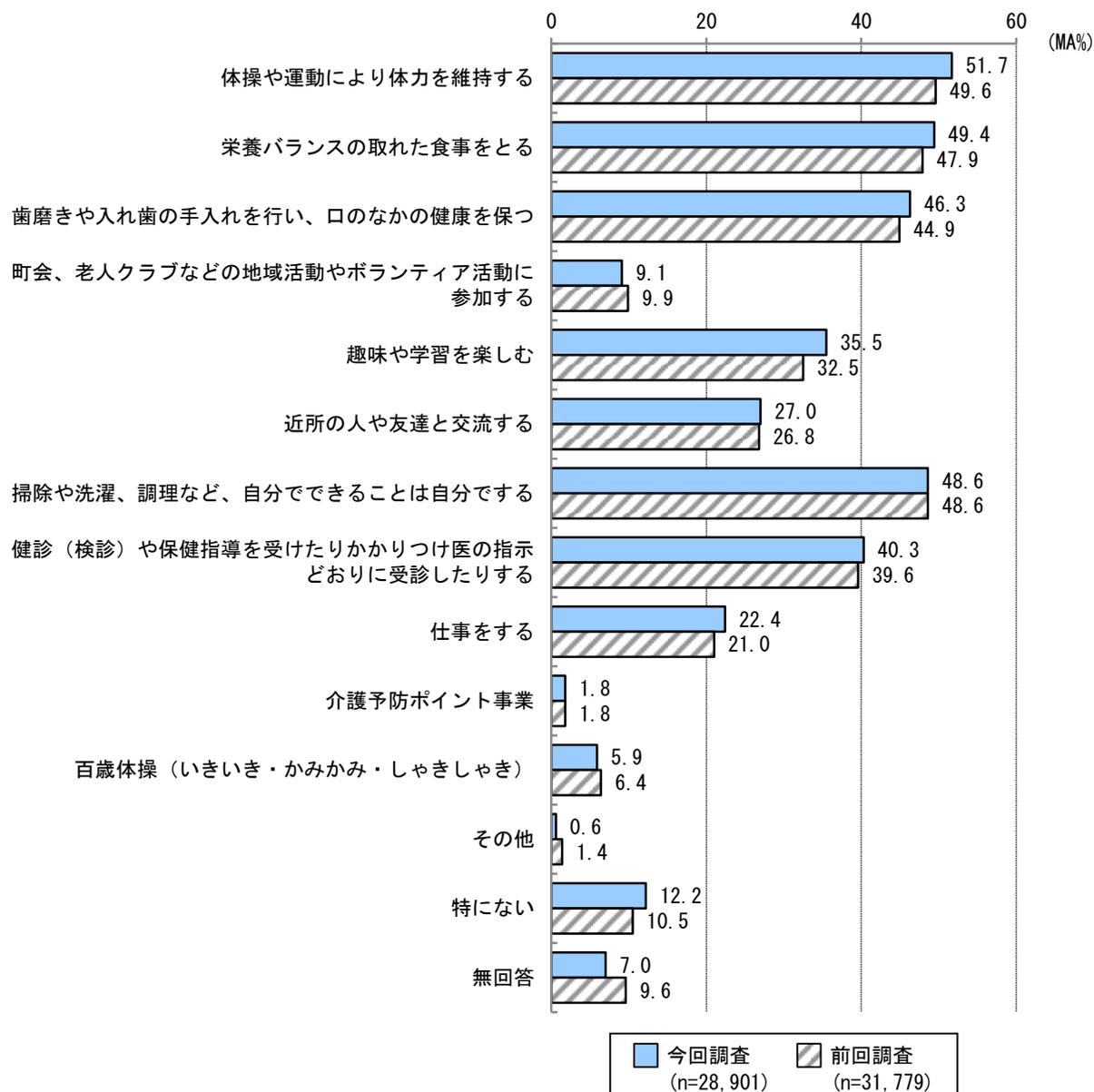
介護予防として今後取り組んでみたいことの上位は、「体操や運動により体力を維持する」の割合が51.7%で最も高く、次いで「栄養バランスの取れた食事をとる」が49.4%、「掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする」が48.6%となっている。(図7-2-2)

【図7-2-2 介護予防として今後取り組んでみたいこと】



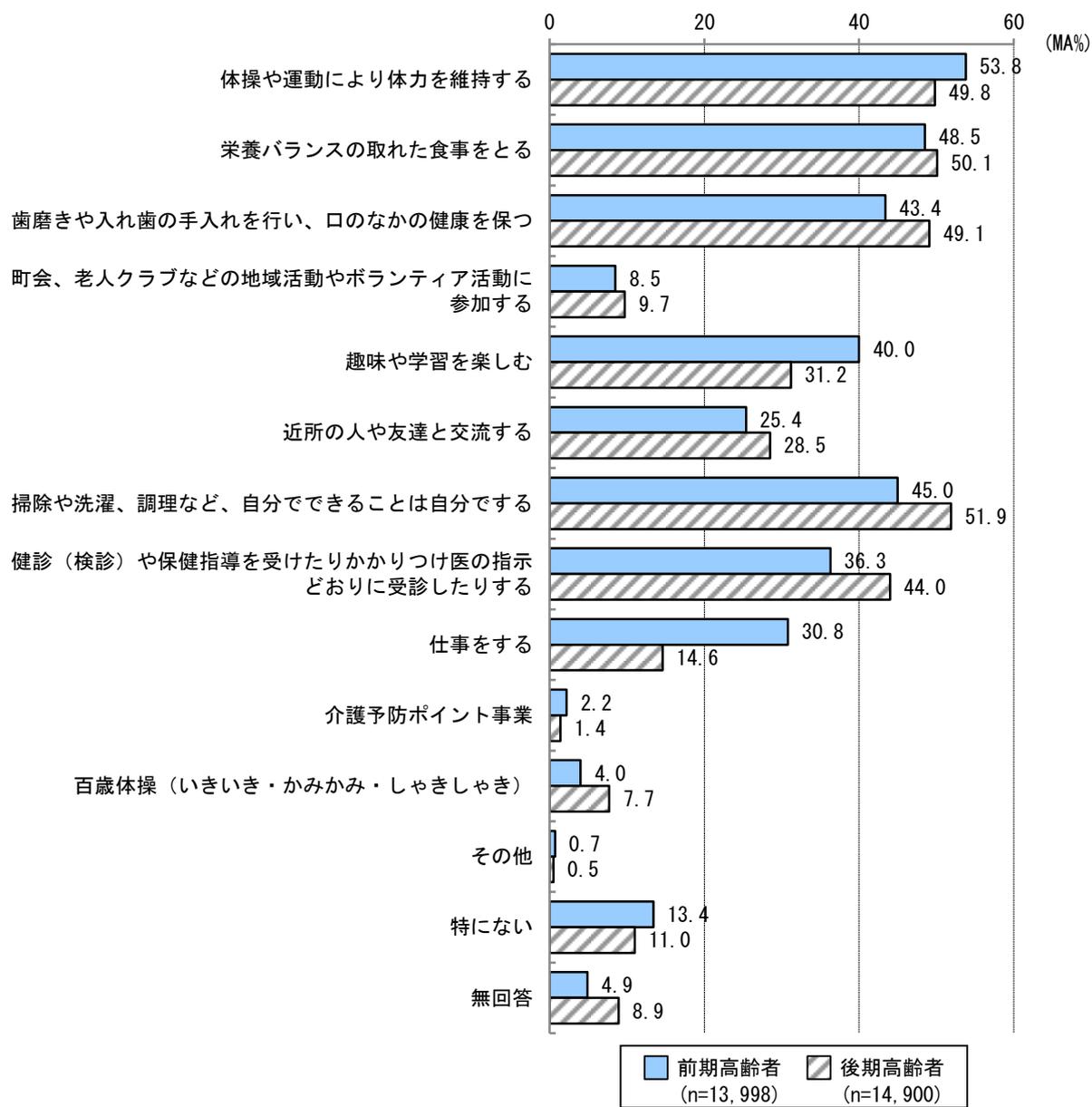
具体的な取組のうち、前回調査の結果に比べ、「町会、老人クラブなどの地域活動やボランティア活動に参加する」及び「百歳体操（いきいき・かみかみ・しゃきしゃき）」「その他」の3項目を除く割合は増加または横ばいとなっている。その中で「趣味や学習を楽しむ」の割合は3.0ポイント増加している。

【参考 介護予防として今後取り組んでみたいこと（経年比較）】



年齢別では、前期高齢者は「体操や運動により体力を維持する」の割合が53.8%で最も高く、次いで「栄養バランスの取れた食事をとる」(48.5%)となっている。後期高齢者では「掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする」の割合が51.9%で最も高く、次いで「栄養バランスの取れた食事をとる」(50.1%)となっている。(図7-2-2-1)

【図7-2-2-1 年齢別 介護予防として今後取り組んでみたいこと】



### (3) 介護予防に取り組んでいない、取り組んでみたいと思わない理由

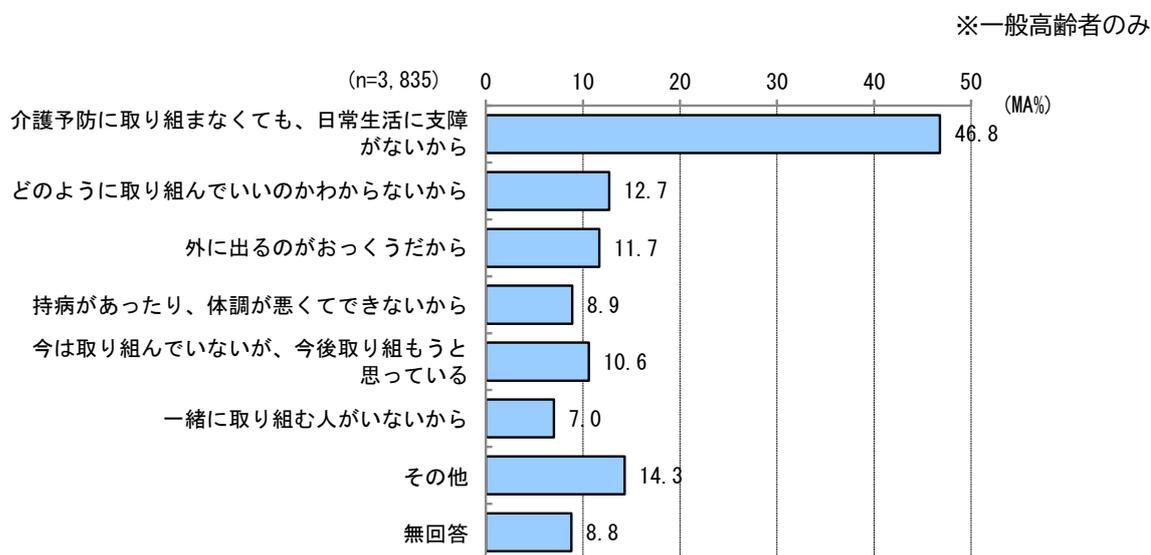
【①または②で「13 特にない」と回答された方におうかがいします。】

問 あなたが、介護予防について、取り組んでいない、または、取り組んでみたいと思わない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

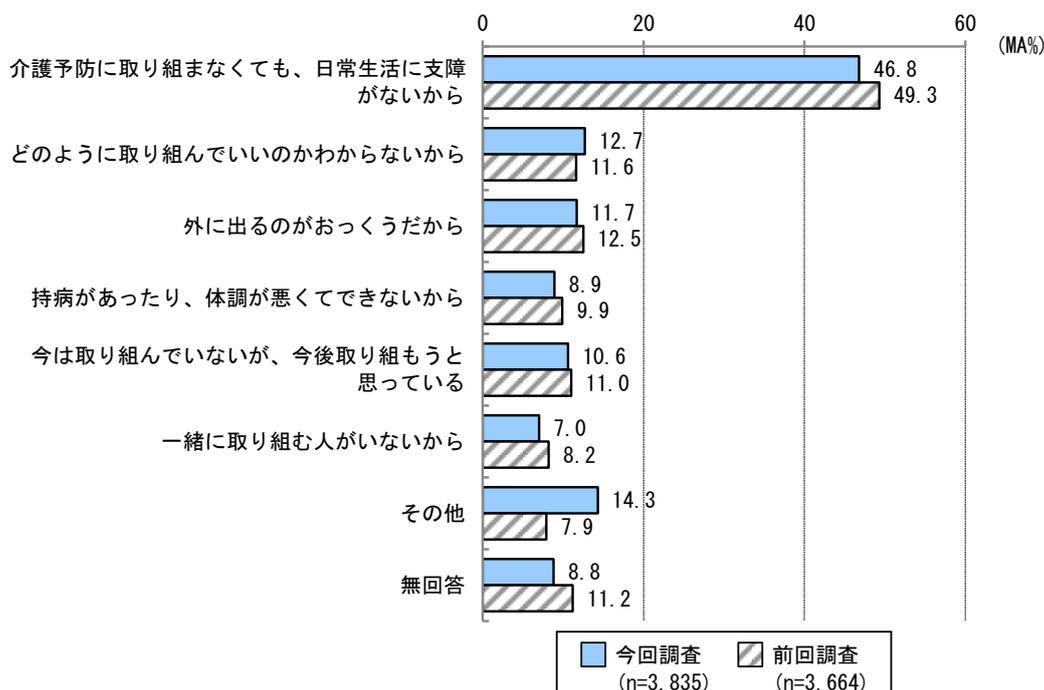
介護予防に取り組んでいない、取り組んでみたいと思わない理由は、「介護予防に取り組まなくても、日常生活に支障がないから」の割合が46.8%で最も高く、次いで「どのように取り組んでいいのかわからないから」が12.7%、「外に出るのがおっくうだから」が11.7%となっている。(図7-3)

前回調査の結果に比べ割合の増減や順位の変動がややあるものの、回答内容の傾向には大きな変化はみられない。

【図7-3 介護予防に取り組んでいない、取り組んでみたいと思わない理由】

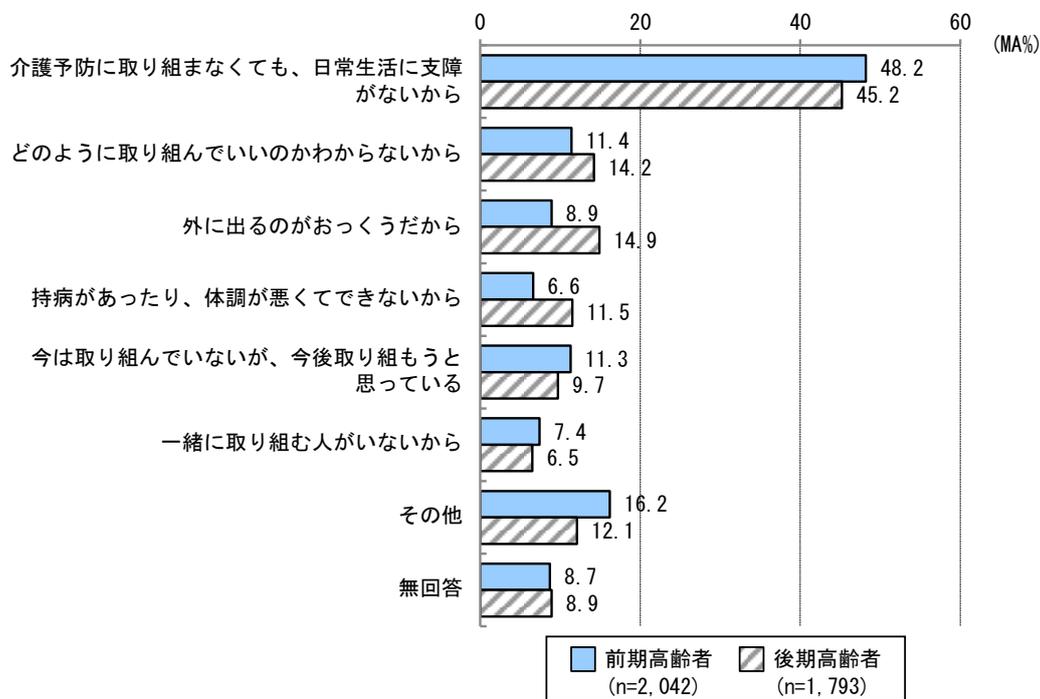


【参考 介護予防に取り組んでいない、取り組んでみたいと思わない理由（経年比較）】



年齢別では、「介護予防に取り組まなくても、日常生活に支障がないから」の割合は前期高齢者が48.2%、後期高齢者が45.2%となっている。(図7-3-1)

【図7-3-1 年齢別 介護予防に取り組んでいない、取り組んでみたいと思わない理由】



## 8 就労について

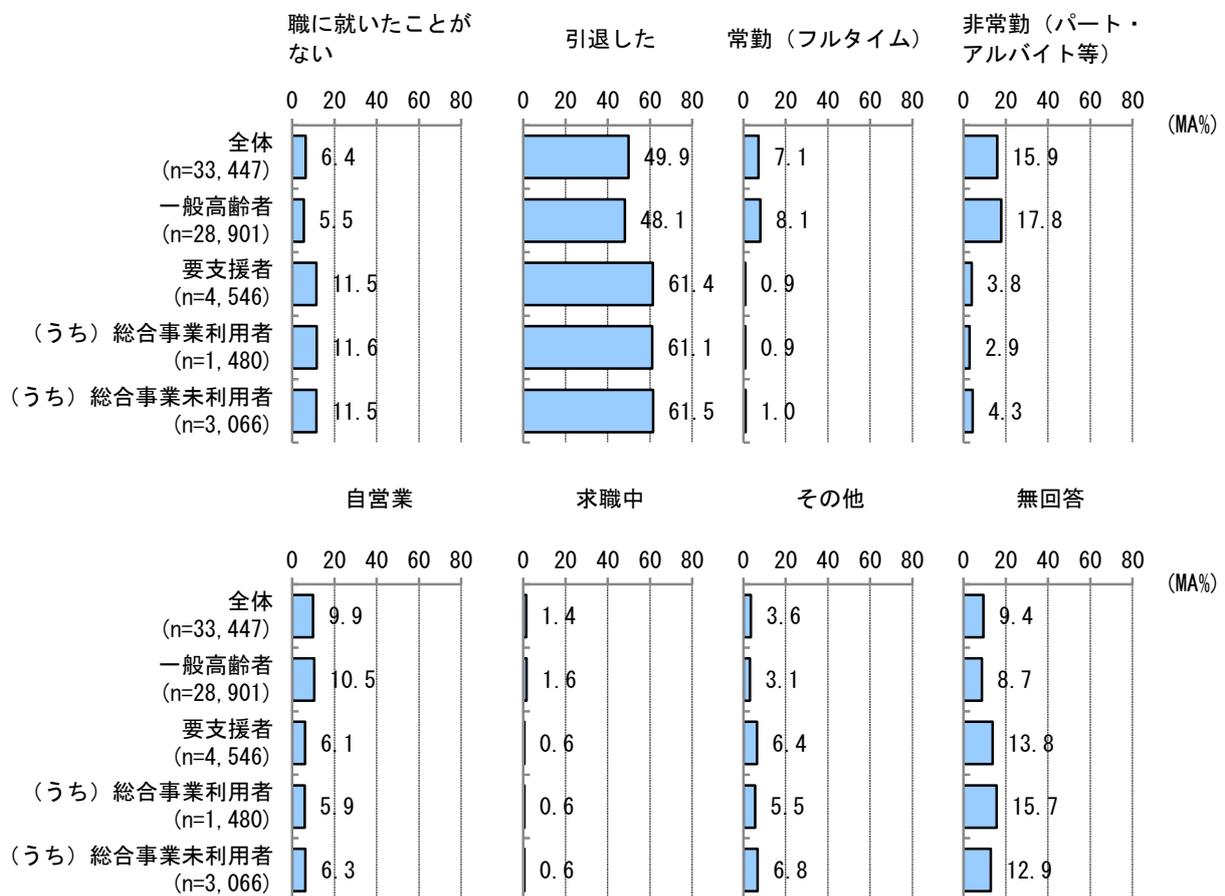
### (1) 現在の就労状態

問 現在のあなたの就労状態はどれですか。(○はいくつでも)

現在の就労状態は、「引退した」の割合が49.9%で最も高く、次いで「非常勤（パート・アルバイト等）」が15.9%、「自営業」が9.9%となっている。「常勤（フルタイム）」（7.1%）、「非常勤（パート・アルバイト等）」「自営業」をあわせた『現在就労している』割合は32.9%となっている。

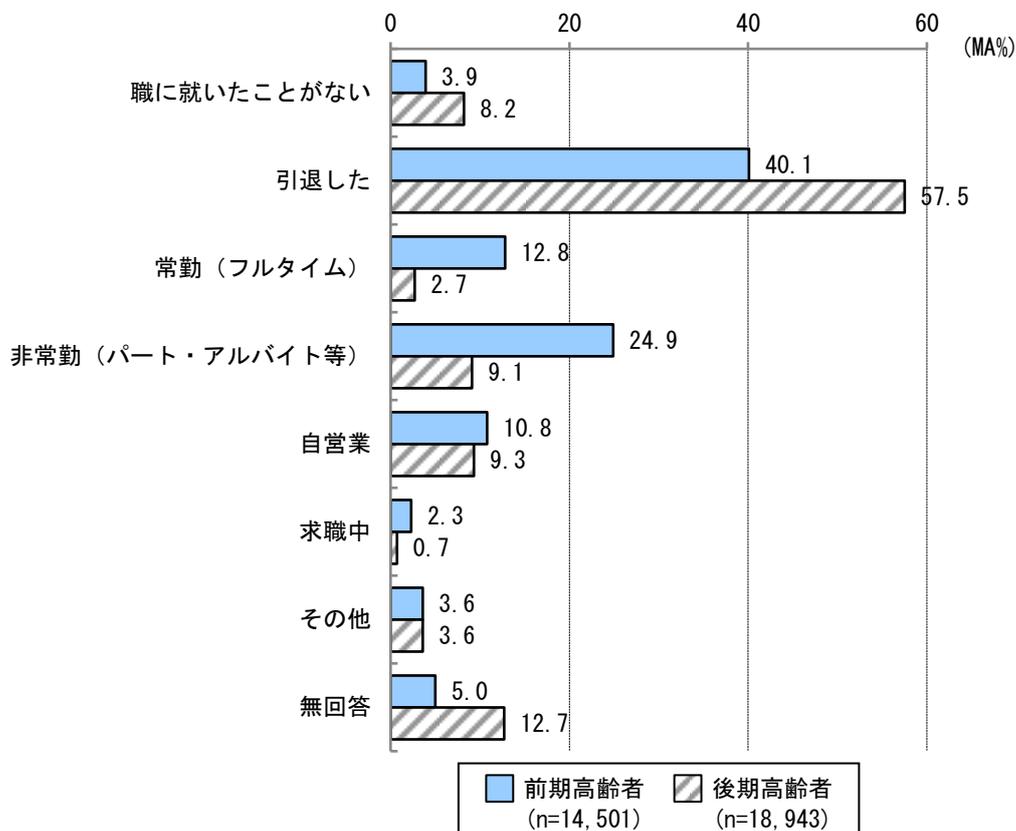
認定状況別では、『現在就労している』割合は、要支援者が10.8%で、一般高齢者（36.4%）に比べ25.6ポイント低くなっている。（図8-1）

【図8-1 現在の就労状態】



年齢別では、『現在就労している』割合は、前期高齢者が48.5%、後期高齢者が21.1%となっている。「引退した」割合は、前期高齢者（40.1%）に比べ、後期高齢者（57.5%）の方が17.4ポイント高い。（図8-1-1）

【図8-1-1 年齢別 現在の就労状態】



## (2) 引退した時期

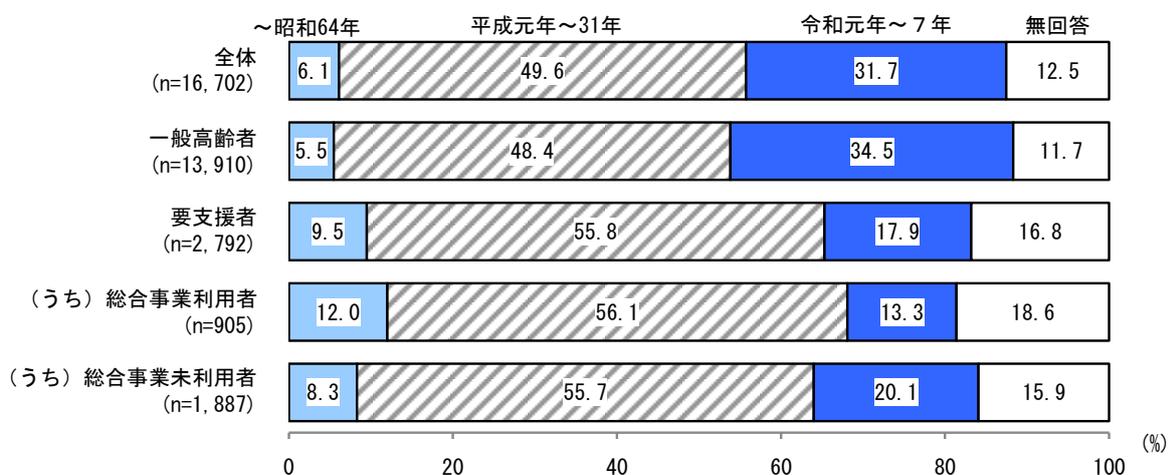
「2 引退した」と回答された方におうかがいします。

問 あなたはいつ引退しましたか。

引退した時期は、「平成元年～31年」の割合が49.6%で最も高く、次いで「令和元年～7年」が31.7%、「～昭和64年」が6.1%となっている。

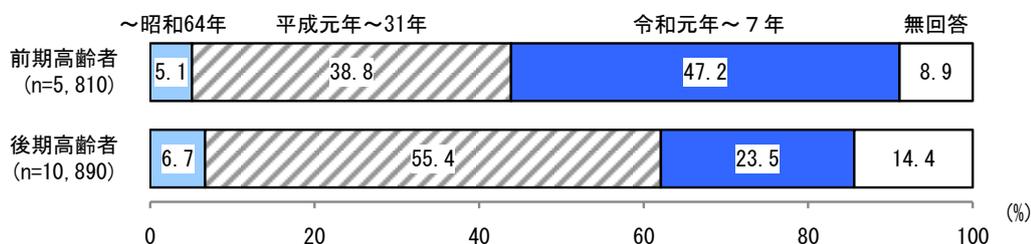
認定状況別では、一般高齢者・要支援者とも「平成元年～31年」の割合が5割前後で最も高く、「令和元年～7年」の割合は、一般高齢者（34.5%）の方が要支援者（17.9%）に比べ16.6ポイント高くなっている。（図8-2）

【図8-2 引退した時期】



年齢別では、前期高齢者は「令和元年～7年」の割合が47.2%で最も高く、後期高齢者は「平成元年～31年」が55.4%で最も高くなっている。（図8-2-1）

【図8-2-1 年齢別 引退した時期】



## 9 たすけあいについて

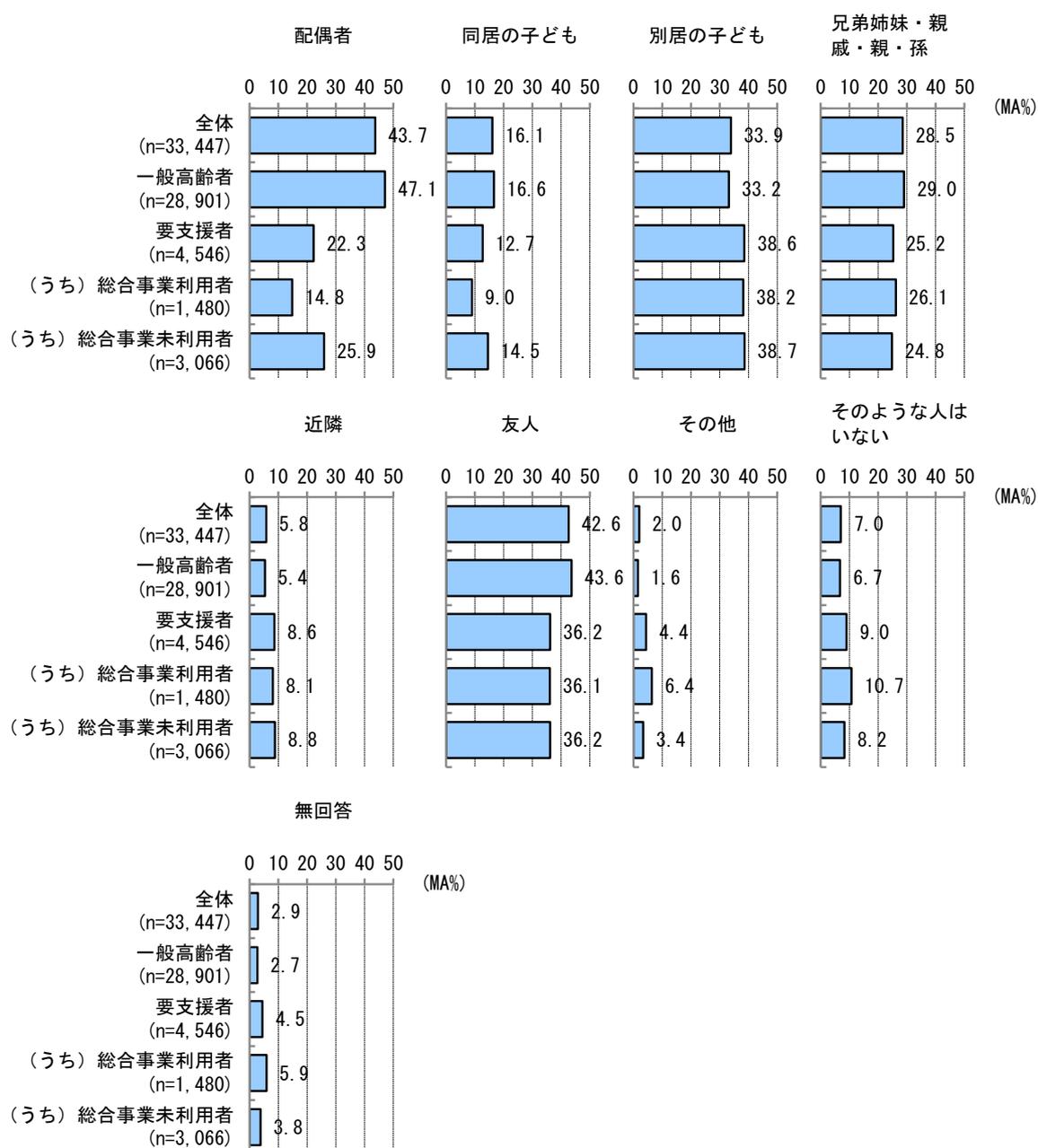
### (1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人

問 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人 (〇はいくつでも)

心配事や愚痴を聞いてくれる人は、「配偶者」の割合が43.7%で最も高く、次いで「友人」が42.6%、「別居の子ども」が33.9%となっている。

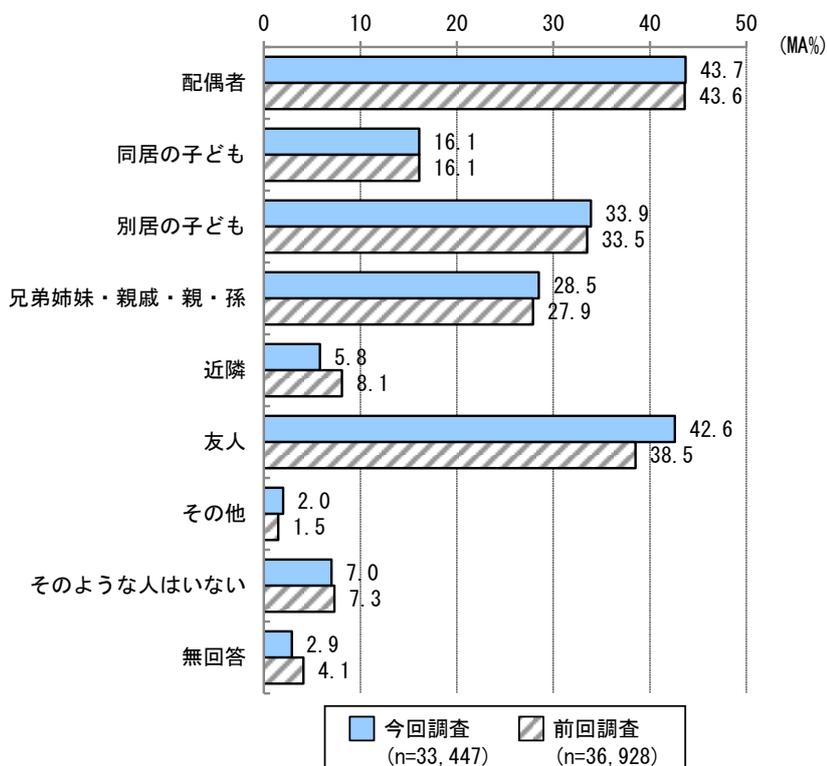
認定状況別では、一般高齢者は「配偶者」の割合が47.1%で最も高く、要支援者は「別居の子ども」の割合が38.6%で最も高くなっている。(図9-1)

【図9-1 心配事や愚痴を聞いてくれる人】



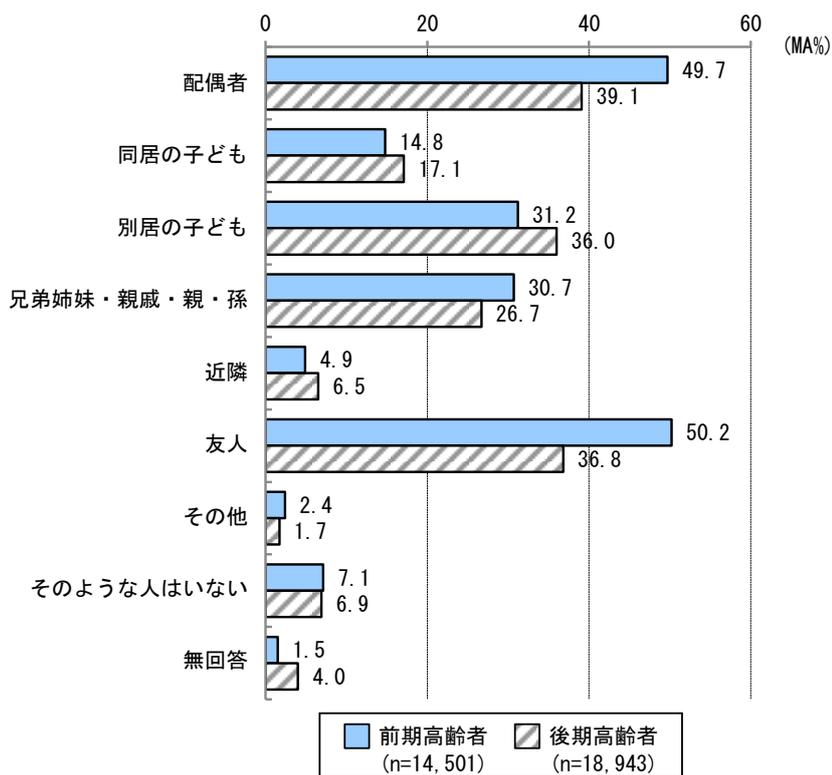
前回調査の結果に比べ、「友人」の割合が4.1ポイント増加している。

【参考 心配事や愚痴を聞いてくれる人（経年比較）】



年齢別では、前期高齢者は「友人」(50.2%)の割合が最も高く、後期高齢者は「配偶者」(39.1%)の割合が最も高くなっている。(図9-1-1)

【図9-1-1 年齢別 心配事や愚痴を聞いてくれる人】



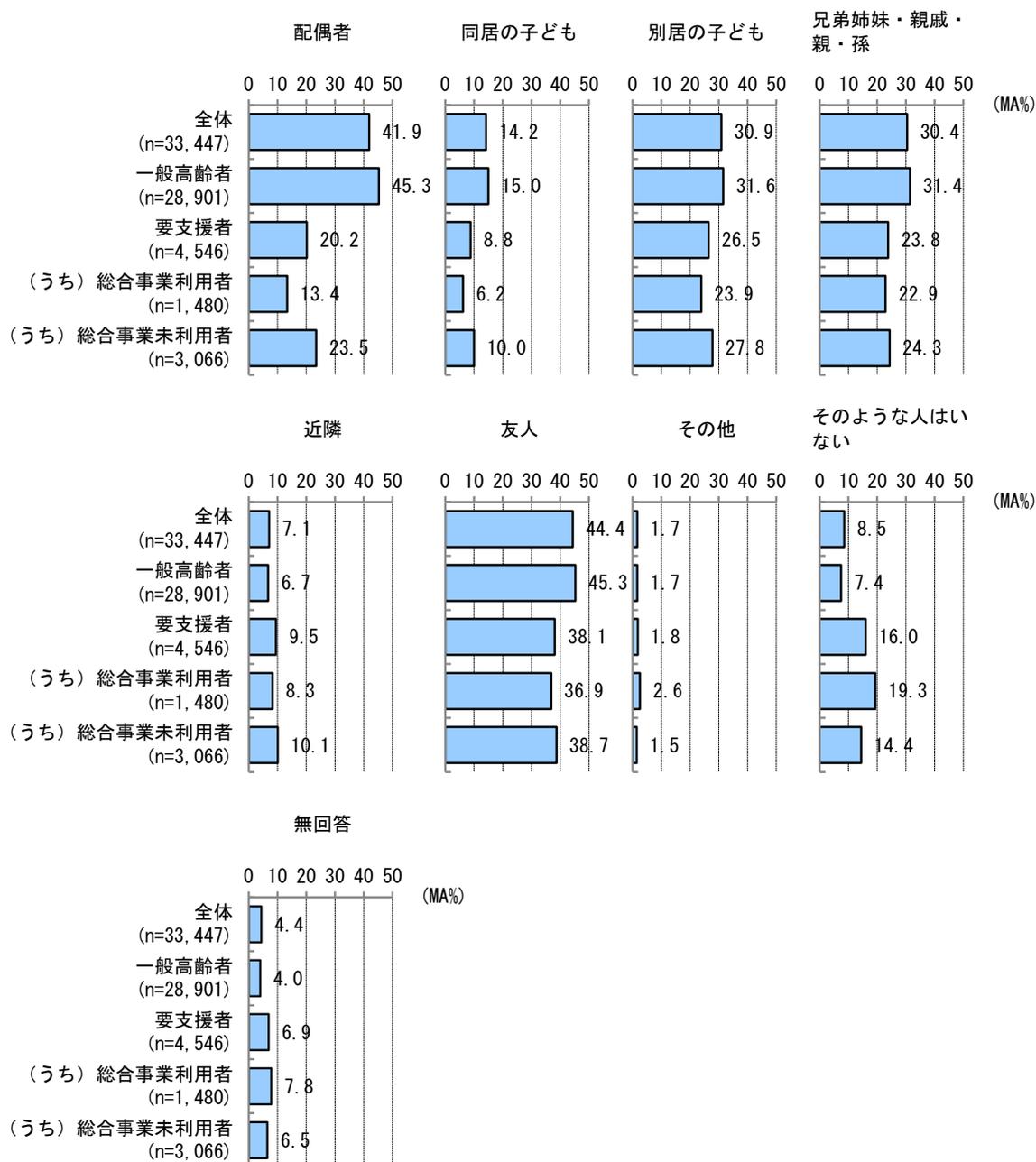
## (2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人

問 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人 (〇はいくつでも)

心配事や愚痴を聞いてあげる人は、「友人」の割合が44.4%で最も高く、次いで「配偶者」が41.9%、「別居の子ども」が30.9%となっている。

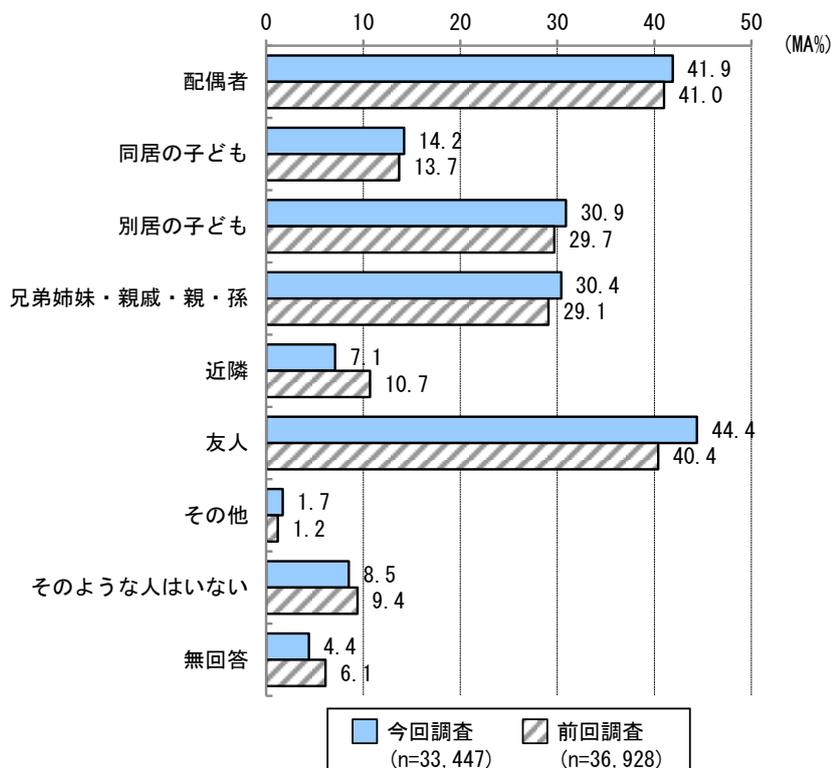
認定状況別では、一般高齢者は「配偶者」と「友人」の割合がともに45.3%で最も高く、要支援者は「友人」の割合が38.1%で最も高くなっている。(図9-2)

【図9-2 心配事や愚痴を聞いてあげる人】



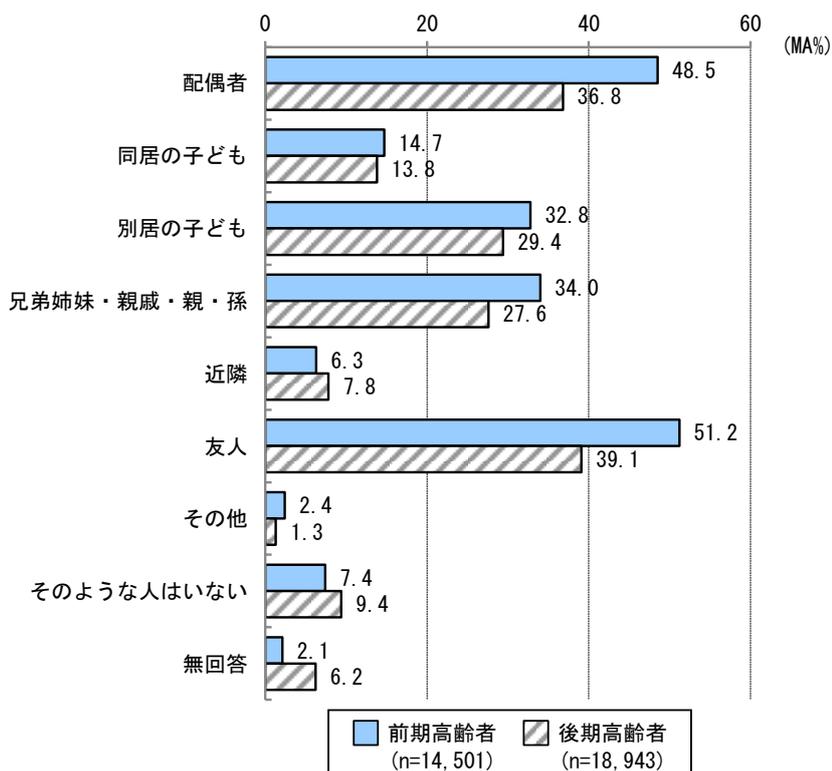
前回調査の結果に比べ、「友人」の割合が4.0ポイント増加している。

【参考 心配事や愚痴を聞いてあげる人（経年比較）】



年齢別では、「友人」の割合は、前期高齢者が51.2%、後期高齢者が39.1%で最も高くなっている。(図9-2-1)

【図9-2-1 年齢別 心配事や愚痴を聞いてあげる人】



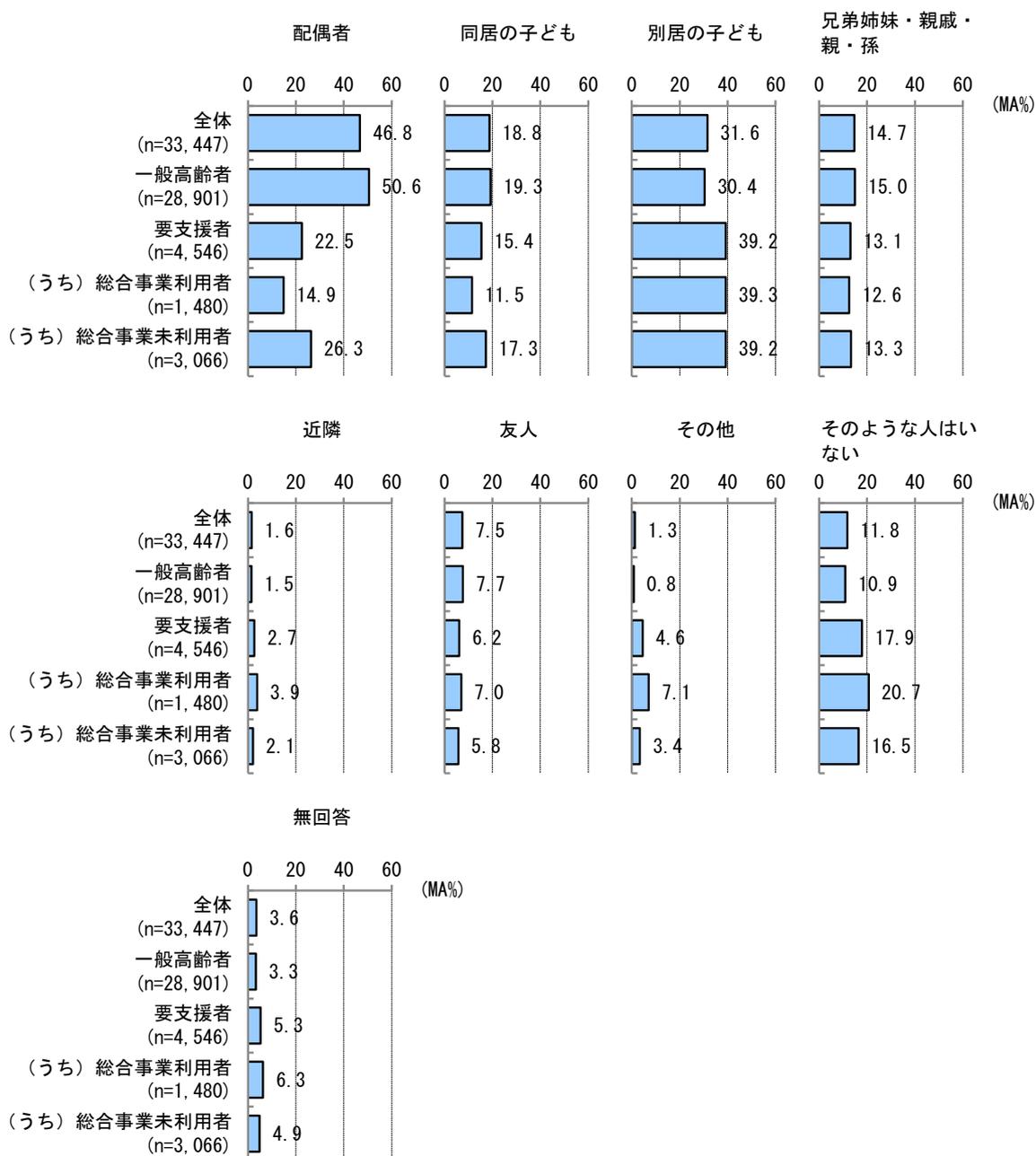
### (3) 看病や世話をしてくれる人

問 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人 (〇はいくつでも)

看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」の割合が46.8%で最も高く、次いで「別居の子ども」が31.6%、「同居の子ども」が18.8%となっている。

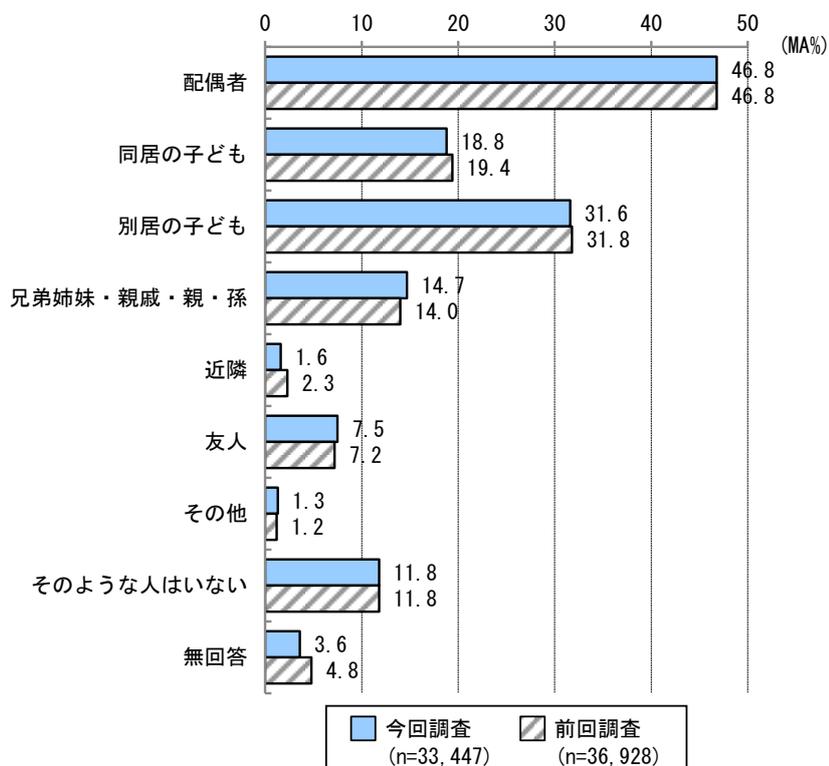
認定状況別では、一般高齢者は「配偶者」の割合が50.6%で最も高く、要支援者では「別居の子ども」の割合が39.2%で最も高くなっている。(図9-3)

【図9-3 看病や世話をしてくれる人】



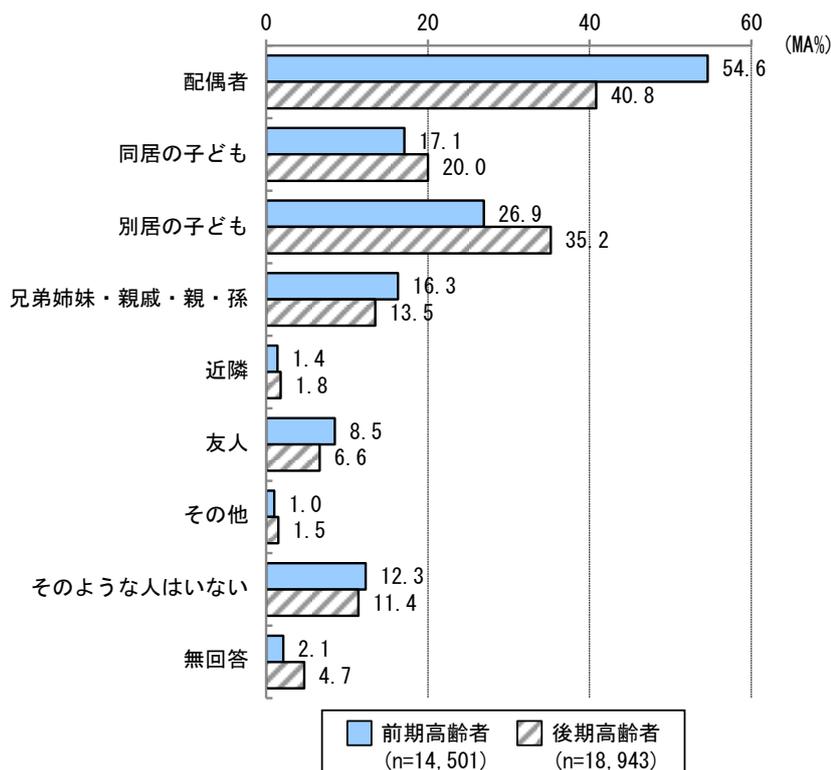
前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【参考 看病や世話をしてくれる人（経年比較）】



年齢別では、前期高齢者・後期高齢者とも「配偶者」の割合が最も高く、前期高齢者は54.6%、後期高齢者は40.8%となっている。（図9-3-1）

【図9-3-1 年齢別 看病や世話をしてくれる人】



## (4) 看病や世話をしている人

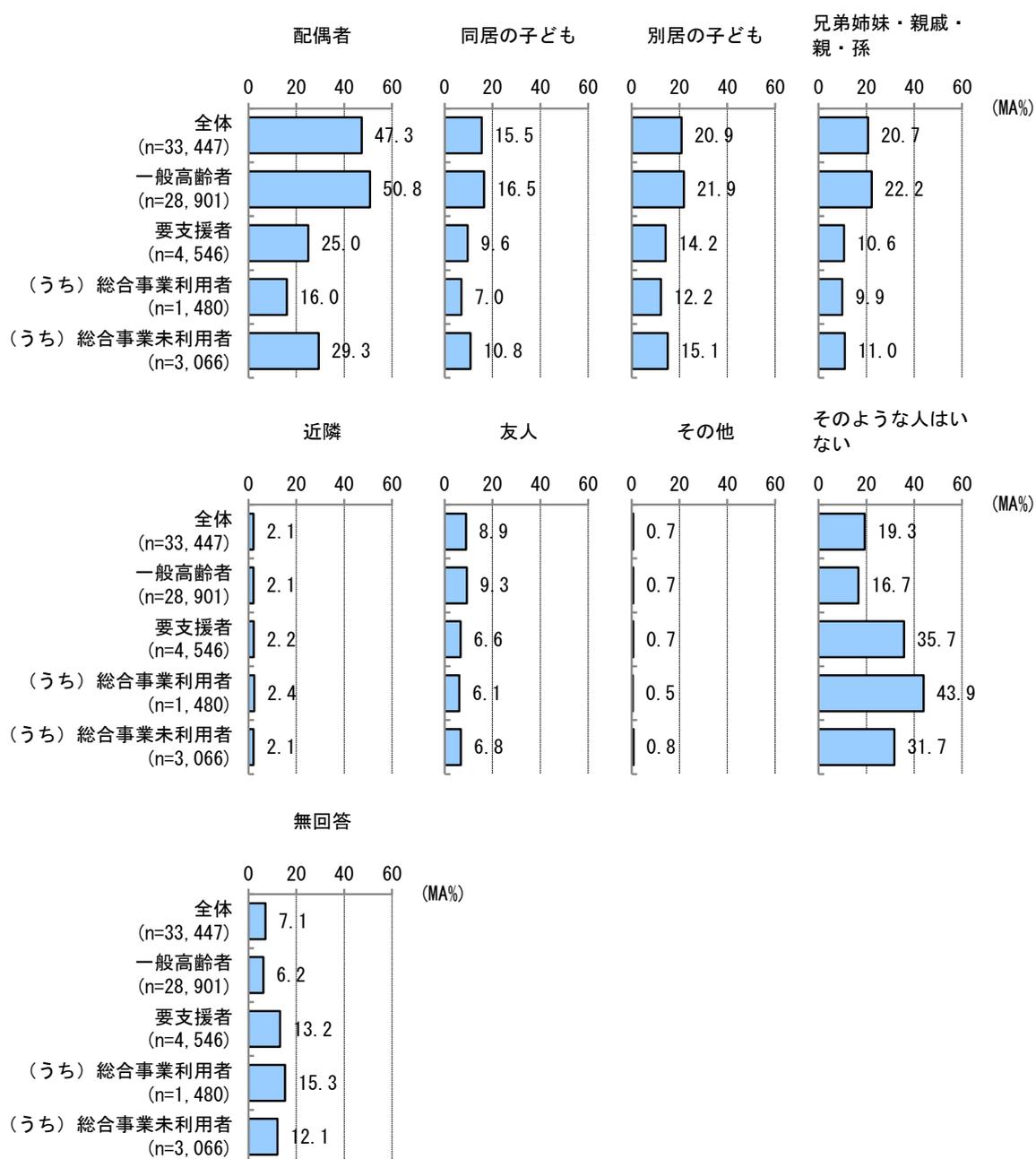
問 反対に、看病や世話をしている人 (〇はいくつでも)

看病や世話をしている人は、「配偶者」の割合が47.3%で最も高く、次いで「別居の子ども」が20.9%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が20.7%となっている。

認定状況別では、一般高齢者は「配偶者」の割合が50.8%で最も高く、要支援者は「そのような人はいない」の割合が35.7%で最も高く、次いで「配偶者」(25.0%)となっている。

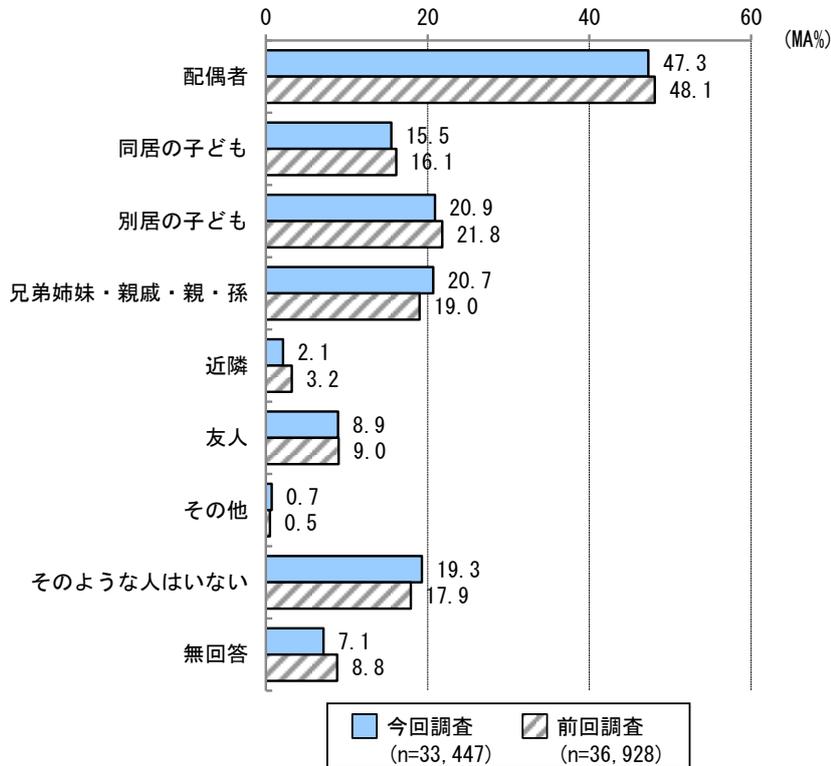
(図9-4)

【図9-4 看病や世話をしている人】



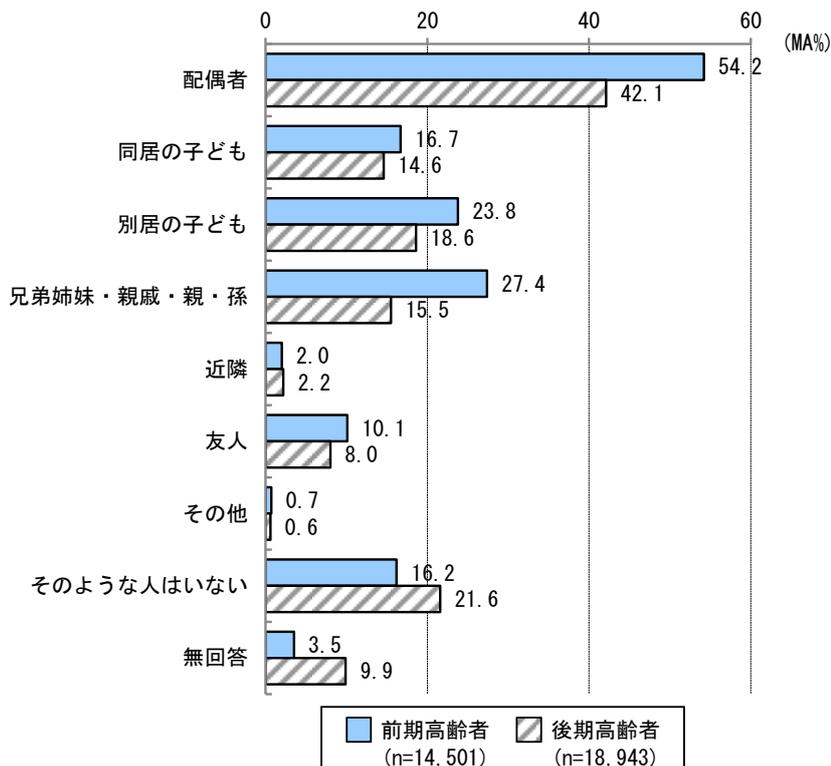
前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【参考 看病や世話をしあける人（経年比較）】



年齢別では、前期高齢者・後期高齢者とも「配偶者」の割合が最も高く、前期高齢者が54.2%、後期高齢者は42.1%となっている。（図9-4-1）

【図9-4-1 年齢別 看病や世話をしあける人】

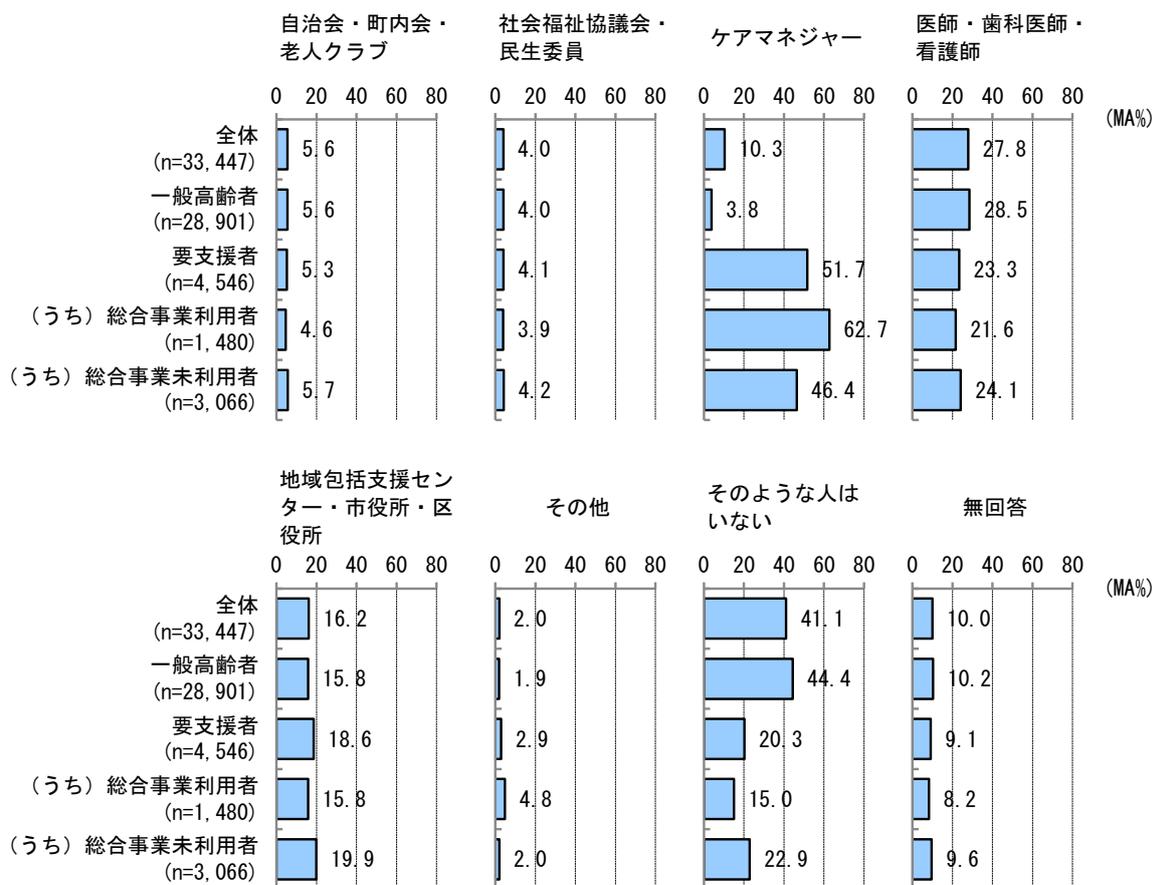


## (5) 相談相手

問 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。  
(○はいくつでも)

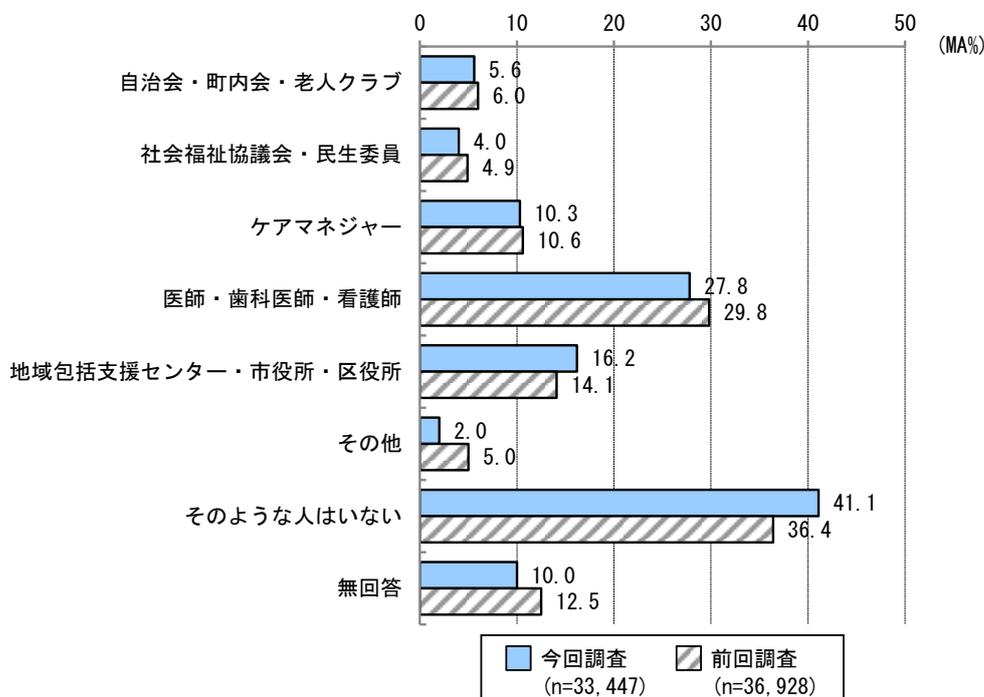
家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手は、「医師・歯科医師・看護師」の割合が27.8%で最も高く、次いで「地域包括支援センター・市役所・区役所」が16.2%、「ケアマネジャー」が10.3%となっている。一方、「そのような人はいない」の割合は41.1%となっている。(図9-5)

【図9-5 相談相手】



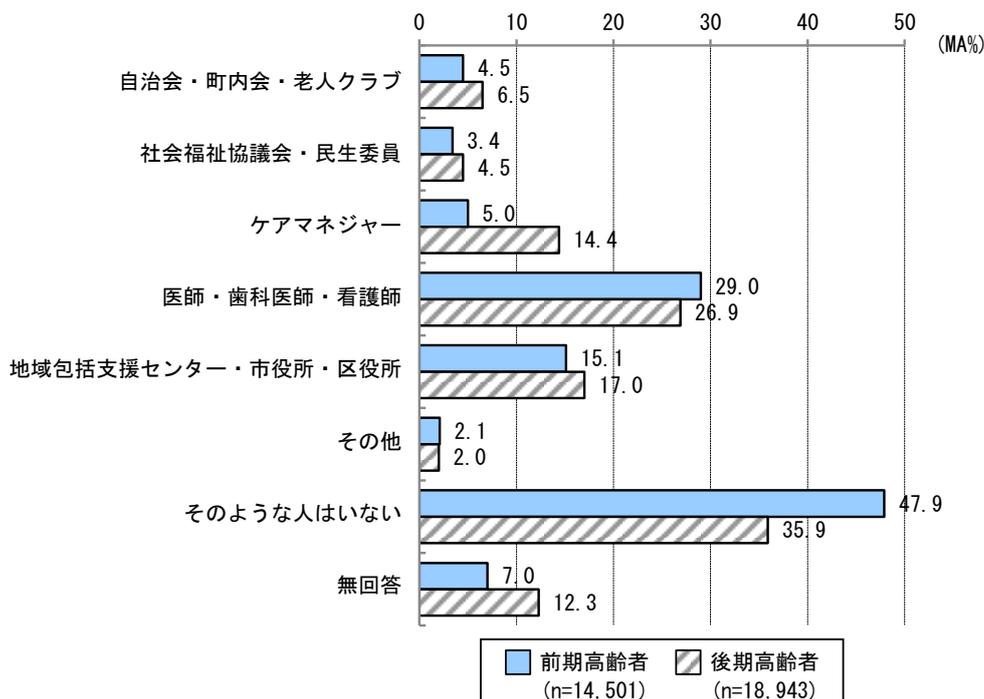
前回調査の結果から大きな変化はみられないが、「そのような人はいない」の割合が前回調査の結果から4.7ポイント増加している。

【参考 相談相手（経年比較）】



年齢別では、家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手は、「医師・歯科医師・看護師」の割合が前期高齢者（29.0%）、後期高齢者（26.9%）とも最も高くなっている。「そのような人はいない」の割合は、前期高齢者では47.9%、後期高齢者では35.9%となっている。（図9-5-1）

【図9-5-1 年齢別 相談相手】



## (6) 友人・知人との交流状況

### ① 友人・知人と会う頻度

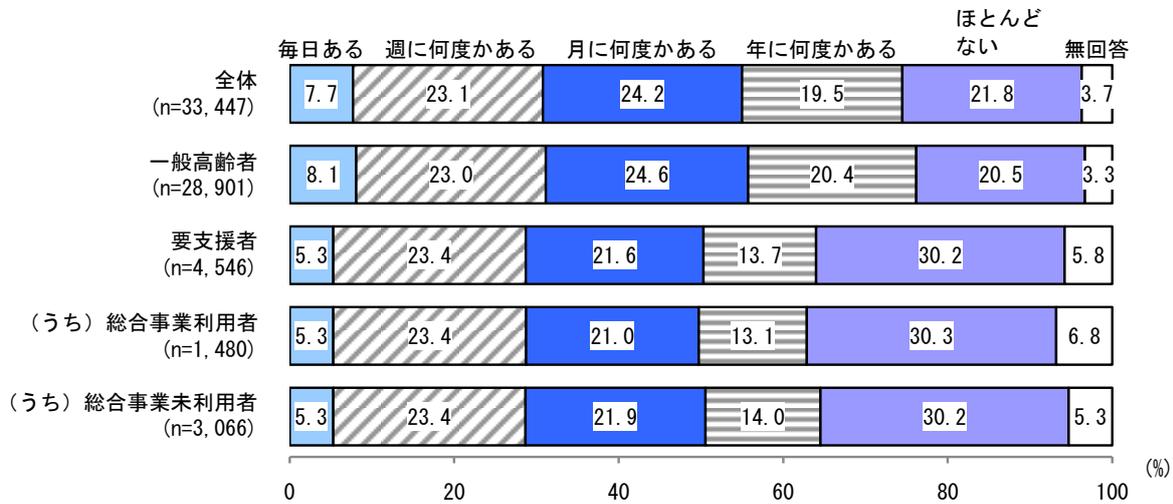
問 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(○はひとつ)

友人・知人と会う頻度は、「月に何度かある」の割合が24.2%で最も高く、次いで「週に何度かある」が23.1%、「ほとんどない」が21.8%となっている。一方、『年に何度か以下』（「年に何度かある」「ほとんどない」の合計）は41.3%となっている。

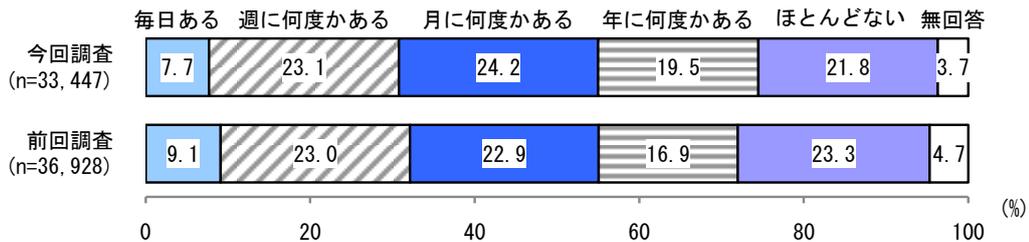
認定状況別では、『年に何度か以下』の割合は、要支援者が43.9%で、一般高齢者（40.9%）との差は3.0ポイントとなっている。（図9-6-1）

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図9-6-1 友人・知人と会う頻度】

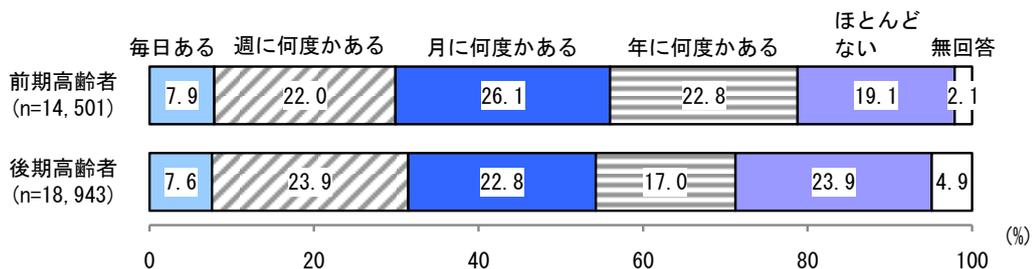


【参考 友人・知人と会う頻度（経年比較）】



年齢別では、前期高齢者は「月に何度かある」の割合が26.1%で最も高く、後期高齢者は「週に何度かある」と「ほとんどない」がともに23.9%で最も高くなっている。（図9-6-1-1）

【図9-6-1-1 年齢別 友人・知人と会う頻度】



## ② 1か月に会う友人・知人の人数

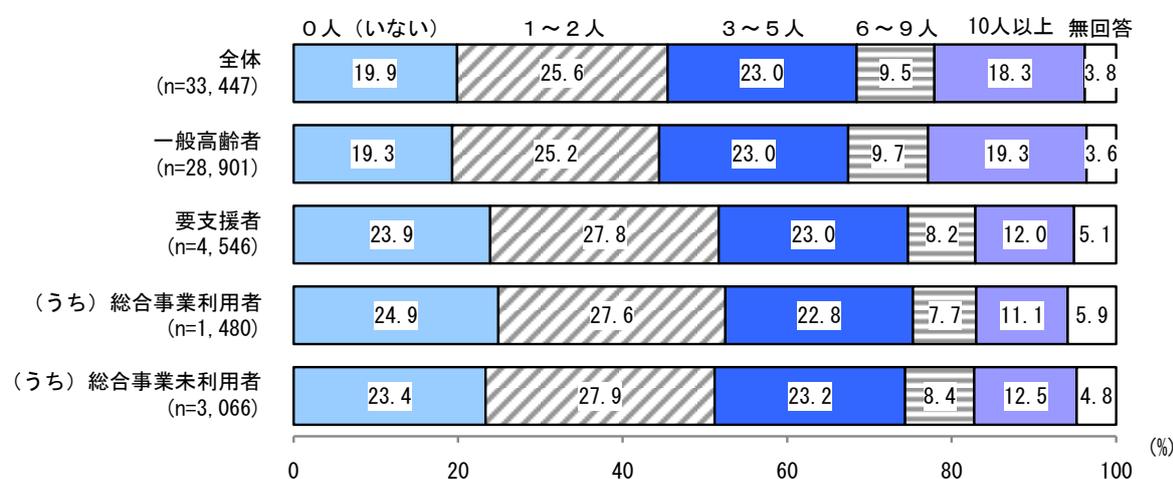
問 この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。  
 同じ人には何度会っても1人と数えることとします。(〇はひとつ)

この1か月間、何人の友人・知人と会ったかについては、「1～2人」の割合が25.6%で最も高く、次いで「3～5人」が23.0%、「0人(いない)」が19.9%となっている。

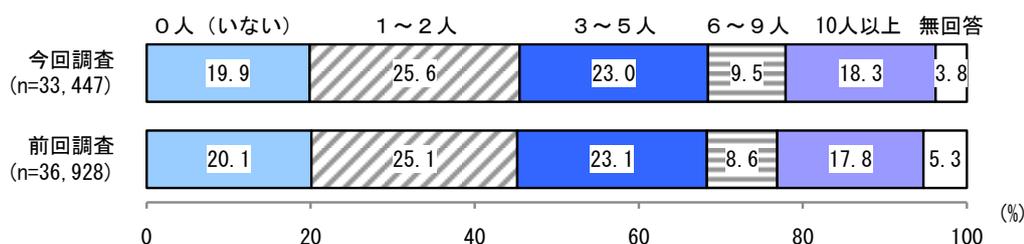
認定状況別では、一般高齢者・要支援者とも「1～2人」の割合が最も高く、要支援者は「0人(いない)」の割合が23.9%で、一般高齢者(19.3%)に比べ4.6ポイント高くなっている。(図9-6-2)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図9-6-2 1か月に会う友人・知人の人数】

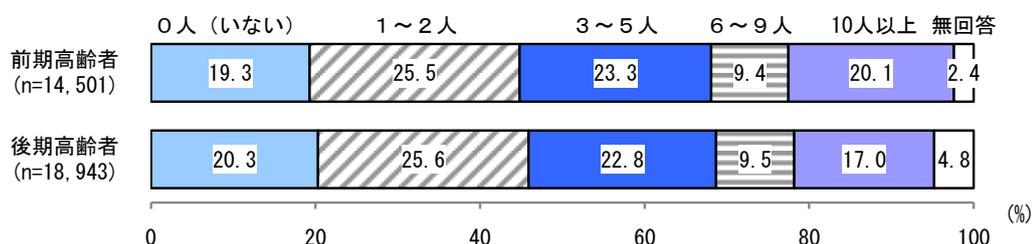


【参考 1か月に会う友人・知人の人数(経年比較)】



年齢別では、「10人以上」の割合は、後期高齢者(17.0%)に比べ前期高齢者(20.1%)の方が3.1ポイント高くなっている。(図9-6-2-1)

【図9-6-2-1 年齢別 1か月に会う友人・知人の人数】



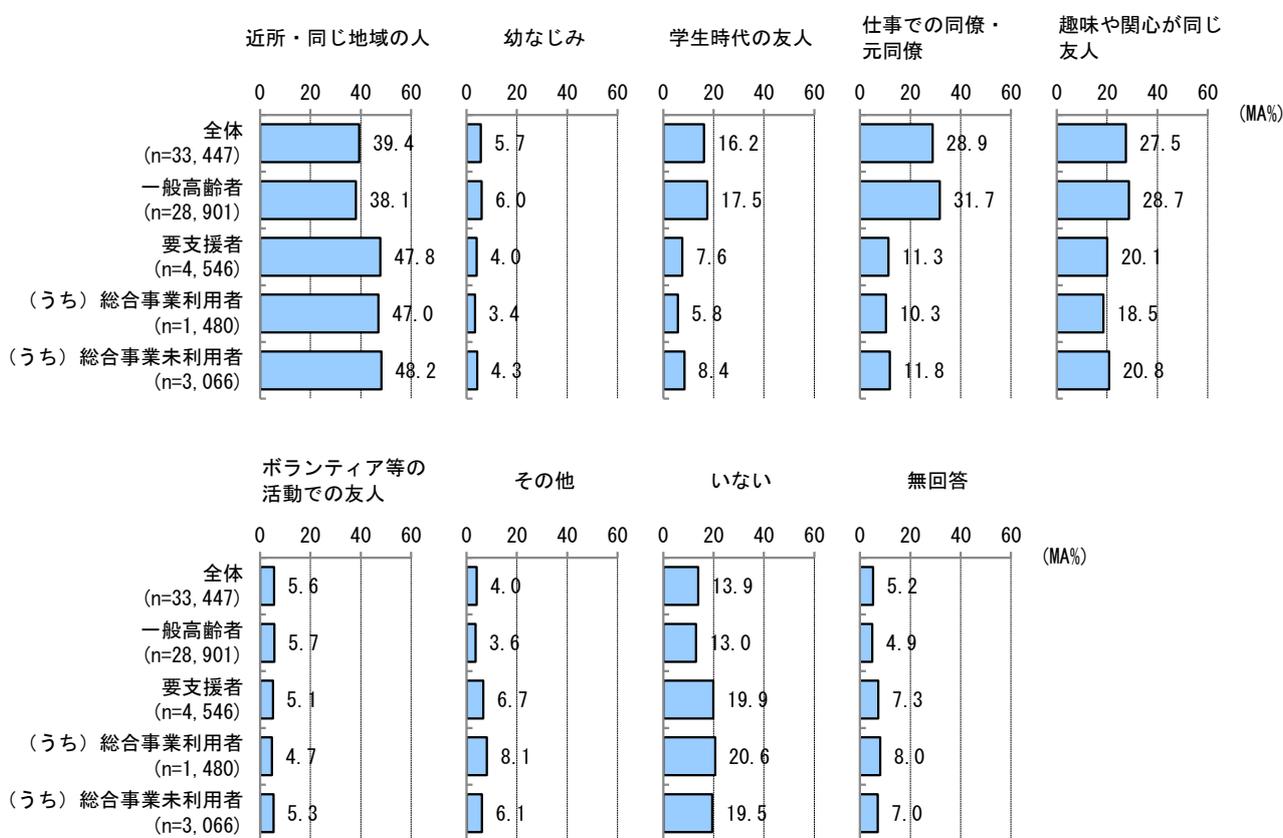
### ③ 友人・知人の関係

問 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(〇はいくつでも)

よく会う友人・知人の関係は、「近所・同じ地域の人」の割合が39.4%で最も高く、次いで「仕事での同僚・元同僚」が28.9%、「趣味や関心が同じ友人」が27.5%となっている。

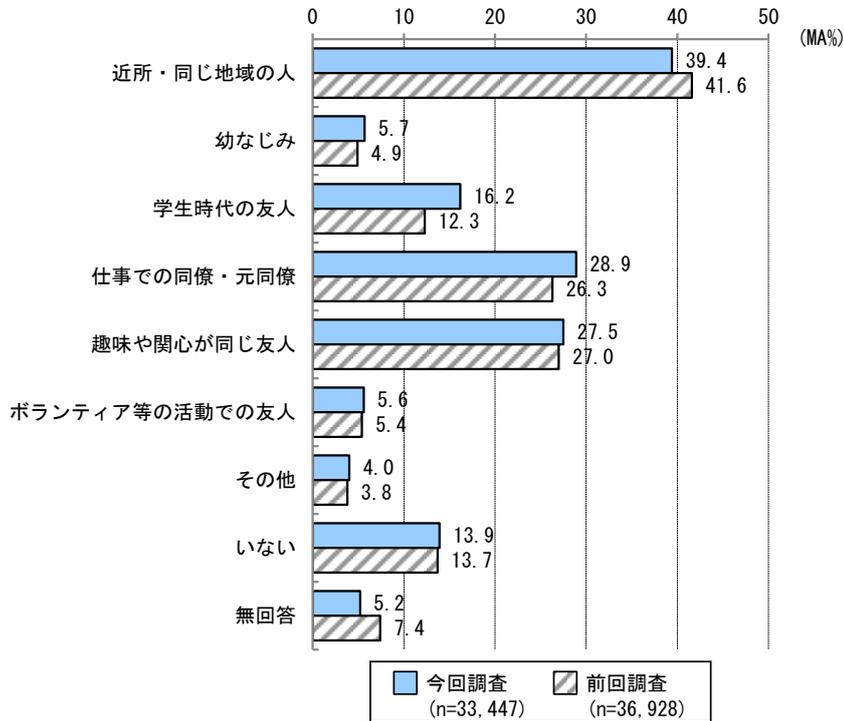
認定状況別では、「近所・同じ地域の人」の割合は、一般高齢者（38.1%）に比べ要支援者（47.8%）の方が高く、「学生時代の友人」「仕事での同僚・元同僚」「趣味や関心が同じ友人」の各割合は、要支援者に比べ一般高齢者の方が高くなっている。また、「いない」の割合は、一般高齢者（13.0%）に比べ要支援者（19.9%）の方が高い。（図9-6-3）

【図9-6-3 友人・知人の関係】



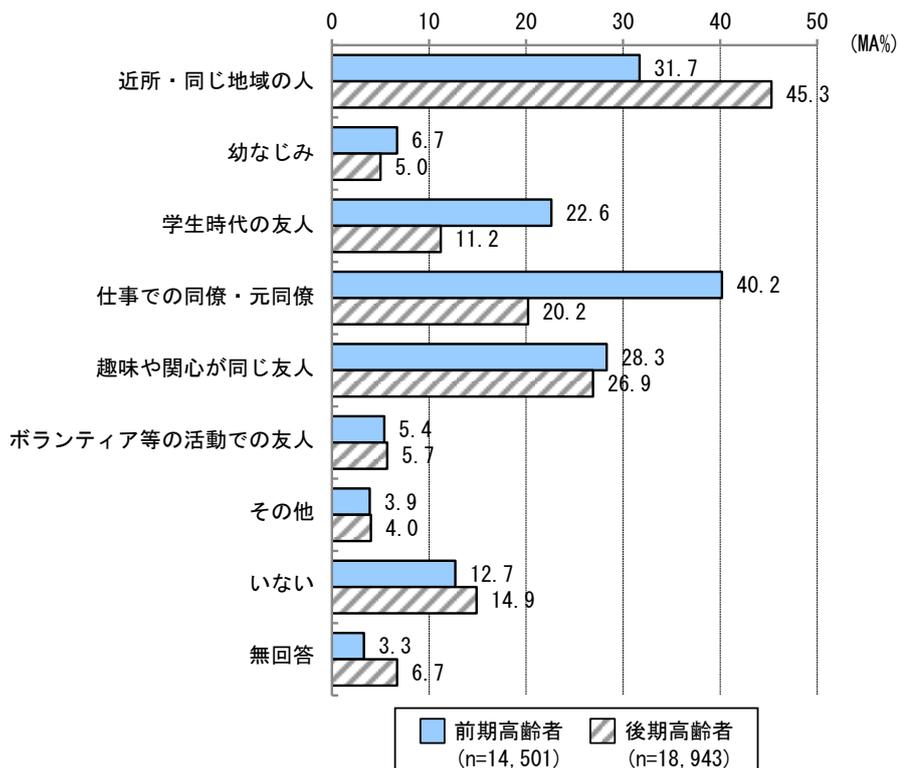
前回調査の結果に比べ、「学生時代の友人」の割合が3.9ポイント増加している。

【参考 友人・知人の関係（経年比較）】



年齢別では、前期高齢者は「仕事での同僚・元同僚」（40.2％）の割合が最も高く、後期高齢者は「近所・同じ地域の人」（45.3％）の割合が最も高くなっている。（図9-6-3-1）

【図9-6-3-1 年齢別 友人・知人の関係】



## 10 健康について

### (1) 主観的健康観

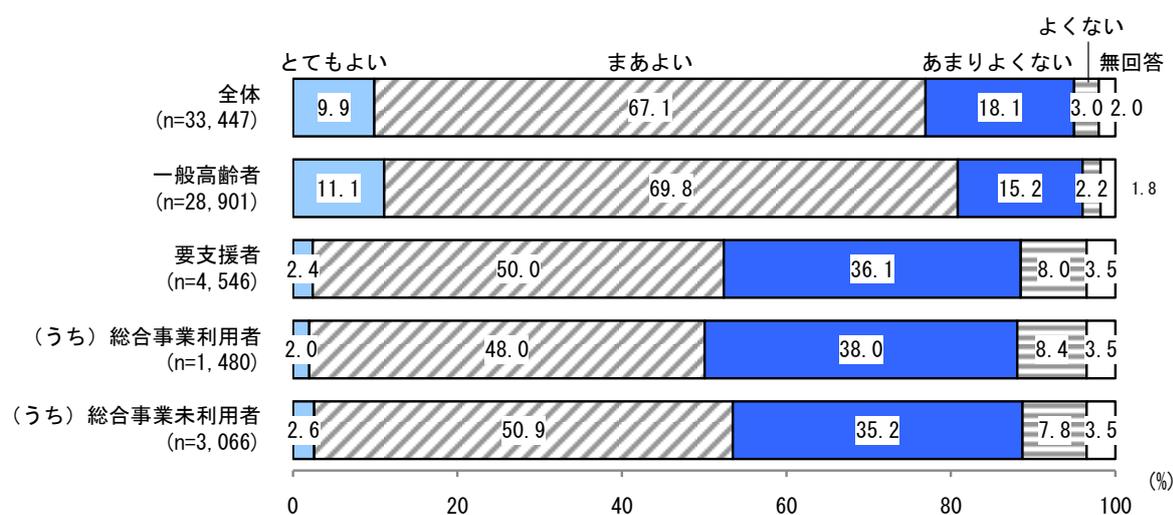
問 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(○はひとつ)

現在の健康状態は、「とてもよい」が9.9%、「まあよい」が67.1%で、両者をあわせた『健康状態はよい』の割合は77.0%となっている。

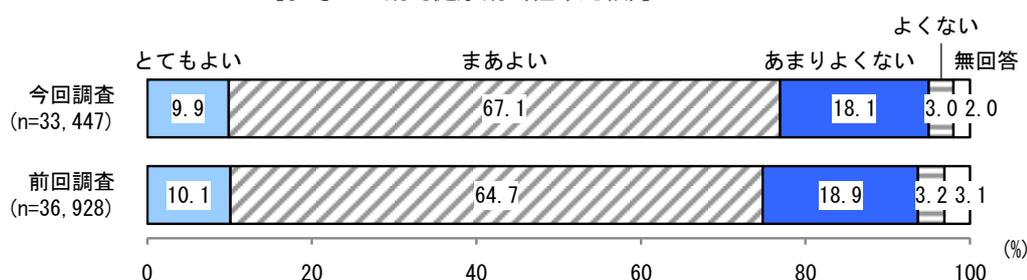
認定状況別では、『健康状態はよい』の割合は、要支援が52.4%で、一般高齢者(80.9%)に比べ28.5ポイント低くなっている。(図10-1)

前回調査の結果に比べ『健康状態はよい』の割合が2.2ポイント増加している。

【図10-1 主観的健康観】

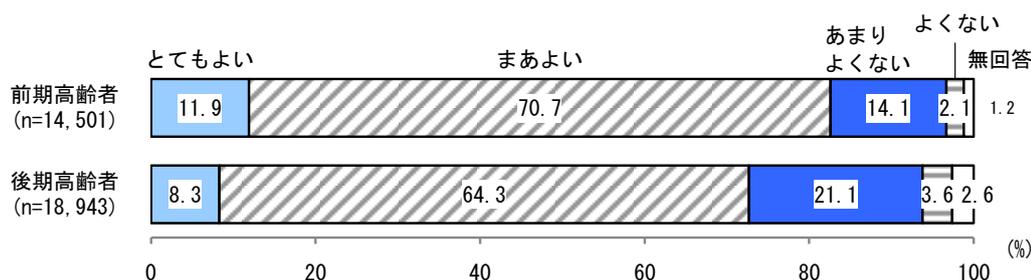


【参考 主観的健康観(経年比較)】



年齢別では、『健康状態はよい』の割合は、後期高齢者(72.6%)に比べ前期高齢者(82.6%)の方が10.0ポイント高くなっている。(図10-1-1)

【図10-1-1 年齢別 主観的健康観】



## (2) 主観的幸福観

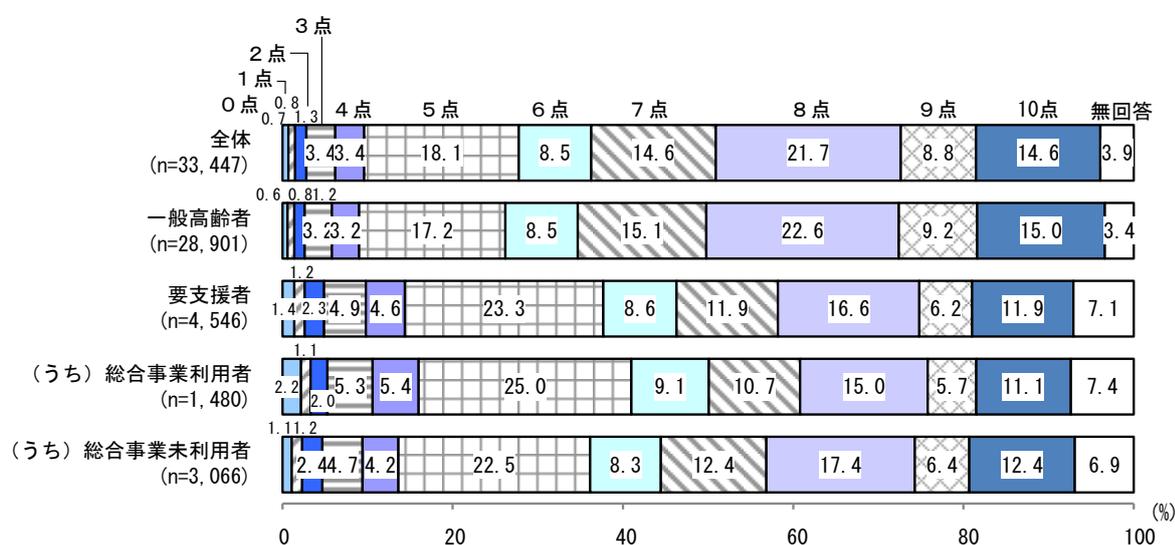
問 あなたは、現在どの程度幸せですか。(〇はひとつ)

(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、あてはまる点数に〇印をつけてください)

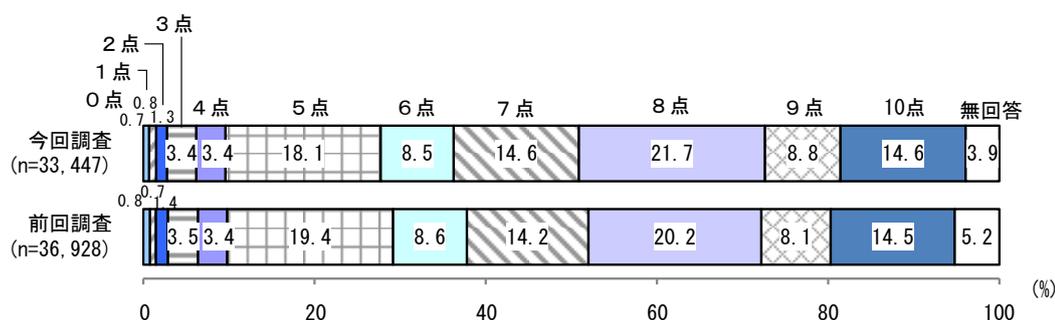
現在どの程度幸せかを10点満点でたずねたところ、「8点」の割合が21.7%で最も高く、次いで「5点」が18.1%で、平均値は7.0点となっている。

認定状況別では、一般高齢者は「8点」の割合が22.6%で最も高く、要支援者では「5点」の割合が23.3%で最も高くなっている。0～5点までの割合の合計は、一般高齢者が26.2%、要支援者が37.7%で、要支援者の方が11.5ポイント高くなっている。(図10-2) 前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図10-2 主観的幸福観】

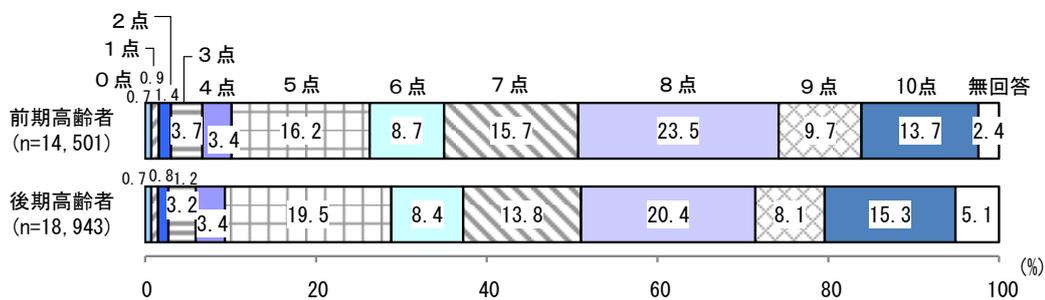


【参考 主観的幸福観 (経年比較)】



年齢別では、前期高齢者・後期高齢者とも「8点」の割合が最も高く、前期高齢者が23.5%、後期高齢者は20.4%となっている。(図10-2-1)

【図10-2-1 年齢別 主観的幸福観】



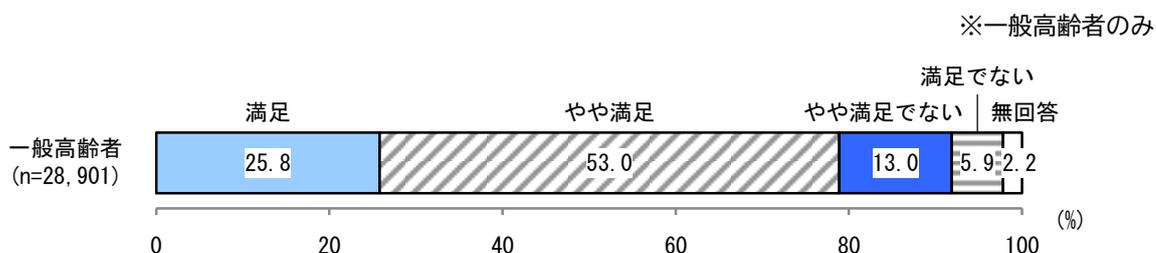
### (3) 現在の生活の満足度

問 あなたの現在の生活の満足度は次のどれにあてはまりますか。(○はひとつ)

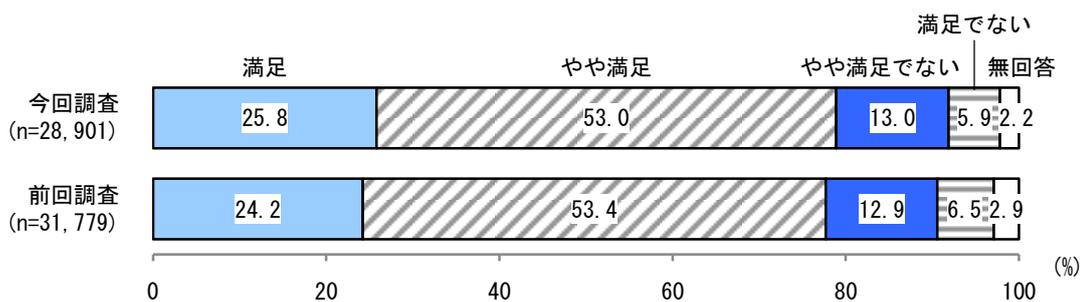
現在の生活について、「やや満足」の割合が53.0%で最も高く、次いで「満足」が25.8%で、両者をあわせた『満足している』割合は78.8%となっている。(図10-3)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図10-3 現在の生活の満足度】

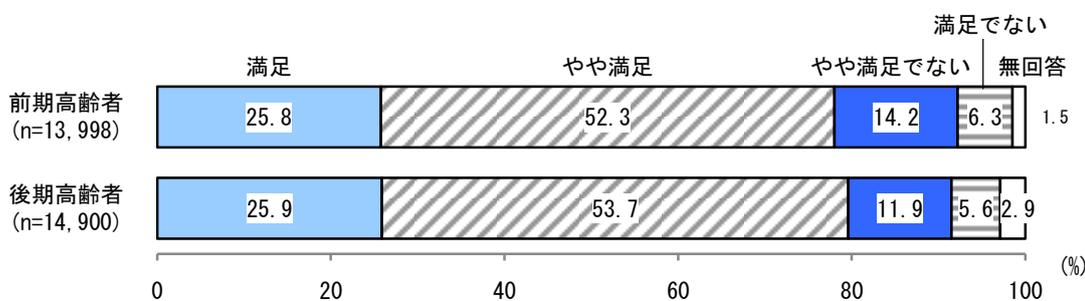


【参考 主観的健康観 (経年比較)】



年齢別では、『満足している』割合は、前期高齢者が78.1%、後期高齢者が79.6%となっている。(図10-3-1)

【図10-3-1 年齢別 現在の生活の満足度】



#### (4) ゆううつな気持ちになったりすること

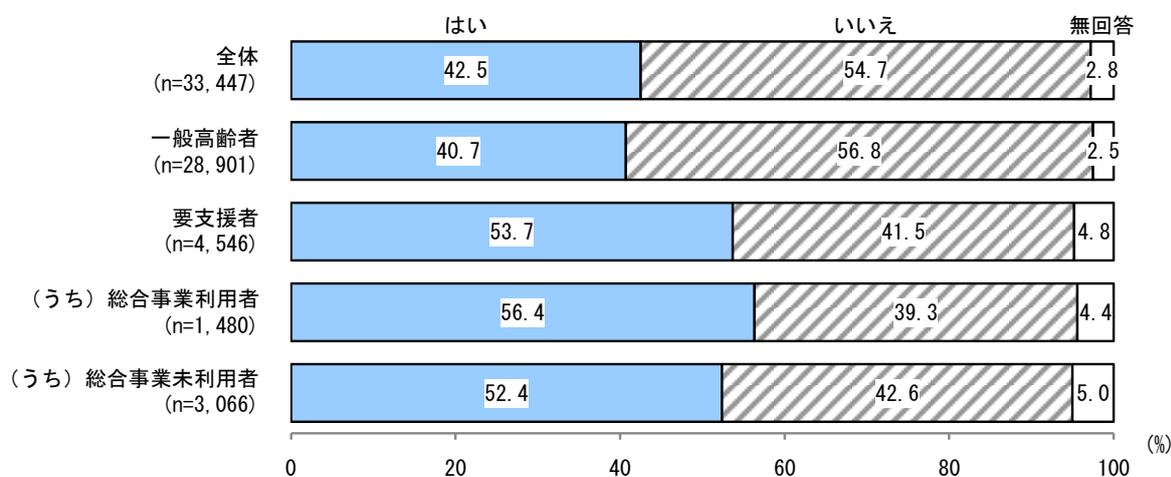
問 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。  
(○はひとつ)

この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりした(「はい」と回答している)割合は42.5%となっている。

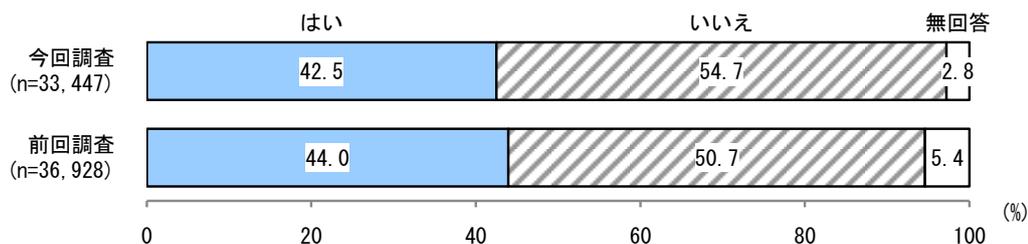
認定状況別では、ゆううつな気持ちになったりした割合は、要支援者が53.7%で、一般高齢者(40.7%)に比べ13.0ポイント高くなっている。(図10-4)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図10-4 ゆううつな気持ちになったりすること】

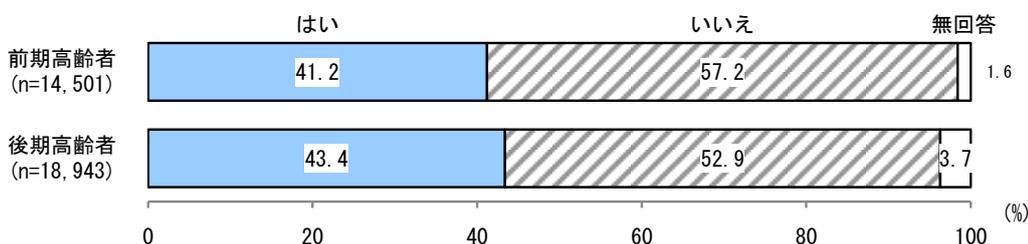


【参考 ゆううつな気持ちになったりすること (経年比較)】



年齢別では、ゆううつな気持ちになったりした割合は、前期高齢者が41.2%、後期高齢者が43.4%となっている。(図10-4-1)

【図10-4-1 年齢別 ゆううつな気持ちになったりすること】



## (5) 物事に対する興味の喪失感

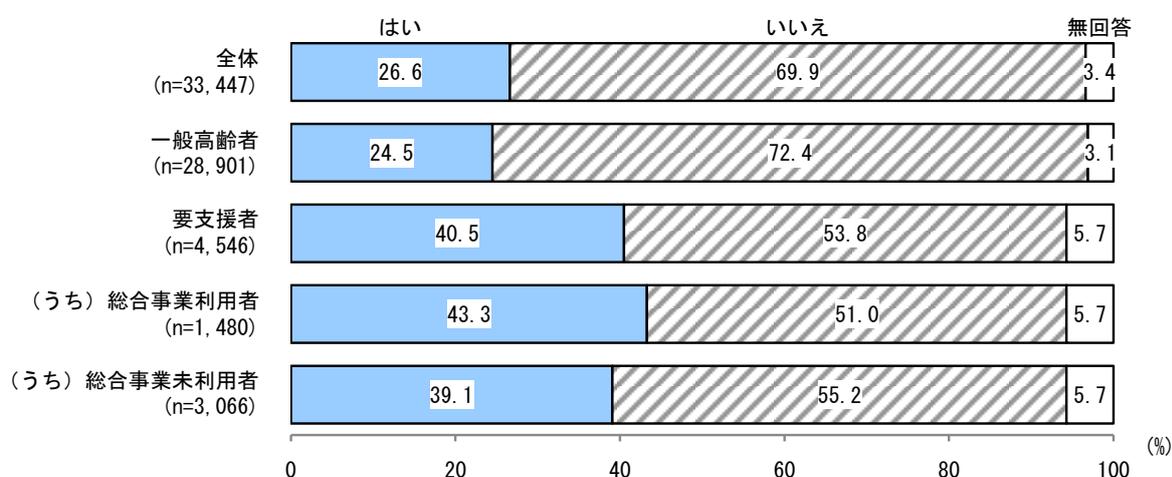
問 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(〇はひとつ)

この1か月間に、物事に対して興味がわからない感じがよくあった(「はい」と回答している)割合は26.6%となっている。

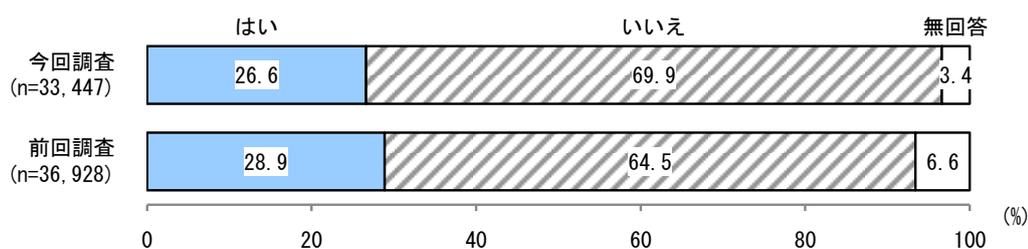
認定状況別では、物事に対して興味がわからない感じがよくあった割合は、要支援者が40.5%で、一般高齢者(24.5%)に比べ16.0ポイント高くなっている。(図10-5)

前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【図10-5 物事に対する興味の喪失感】

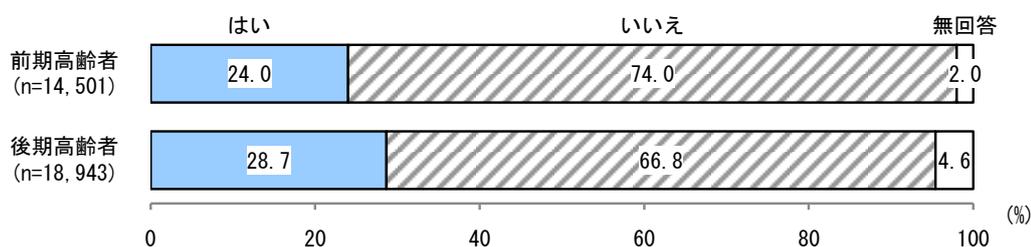


【参考 物事に対する興味の喪失感(経年比較)】



年齢別では、物事に対して興味がわからない感じがよくあった割合は、前期高齢者(24.0%)に比べ後期高齢者(28.7%)の方が4.7ポイント高くなっている。(図10-5-1)

【図10-5-1 物事に対する興味の喪失感】



## (6) 飲酒習慣

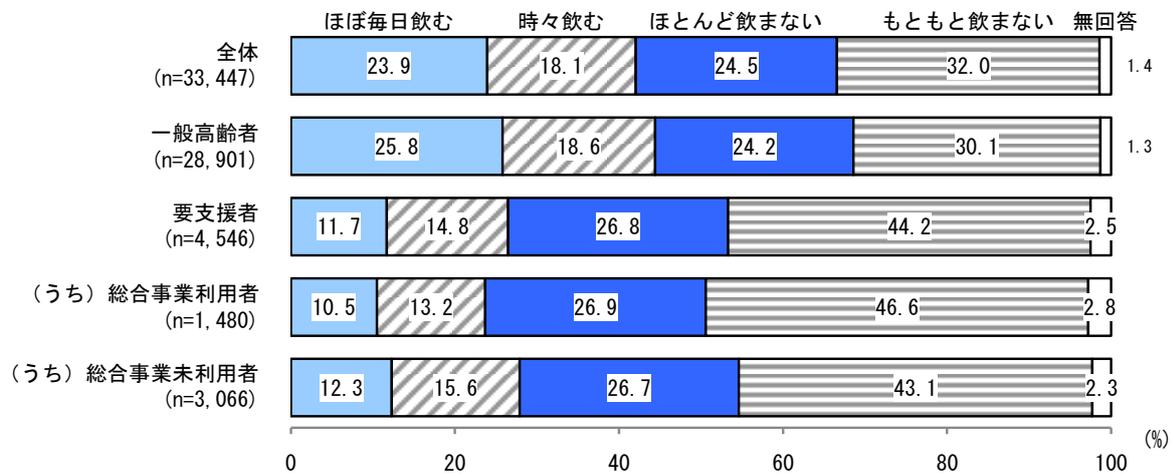
問 お酒は飲みますか。(○はひとつ)

飲酒について、「もともと飲まない」の割合が32.0%で最も高く、次いで「ほとんど飲まない」が24.5%となっている。『飲酒習慣のある』（「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」の合計）割合は42.0%となっている。

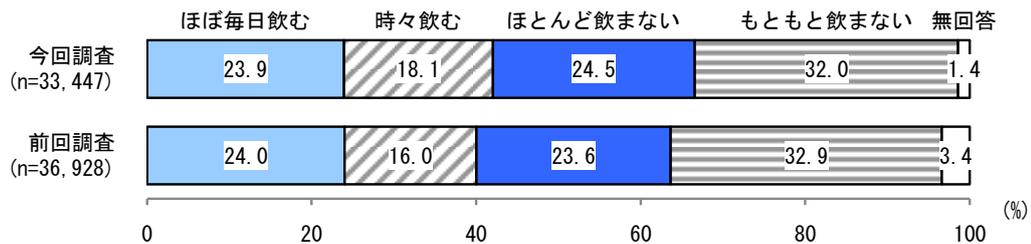
認定状況別では、『飲酒習慣のある』割合は、一般高齢者が44.4%で、要支援者（26.5%）に比べ17.9ポイント高くなっている。（図10-6）

前回調査の結果に比べ、「ほとんど飲まない」と「もともと飲まない」合わせた『飲酒習慣のない』割合は変化がない一方で、『飲酒習慣のある』割合は増加している。

【図10-6 飲酒習慣】

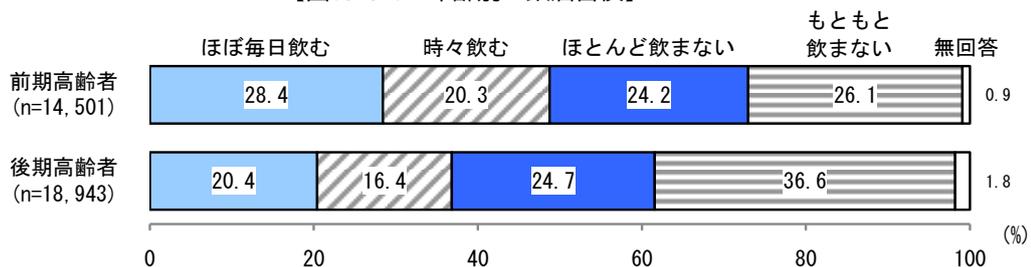


【参考 飲酒習慣（経年比較）】



年齢別では、『飲酒習慣のある』の割合は、後期高齢者（36.8%）に比べ前期高齢者（48.7%）の方が11.9ポイント高くなっている。（図10-6-1）

【図10-6-1 年齢別 飲酒習慣】



## (7) 喫煙習慣

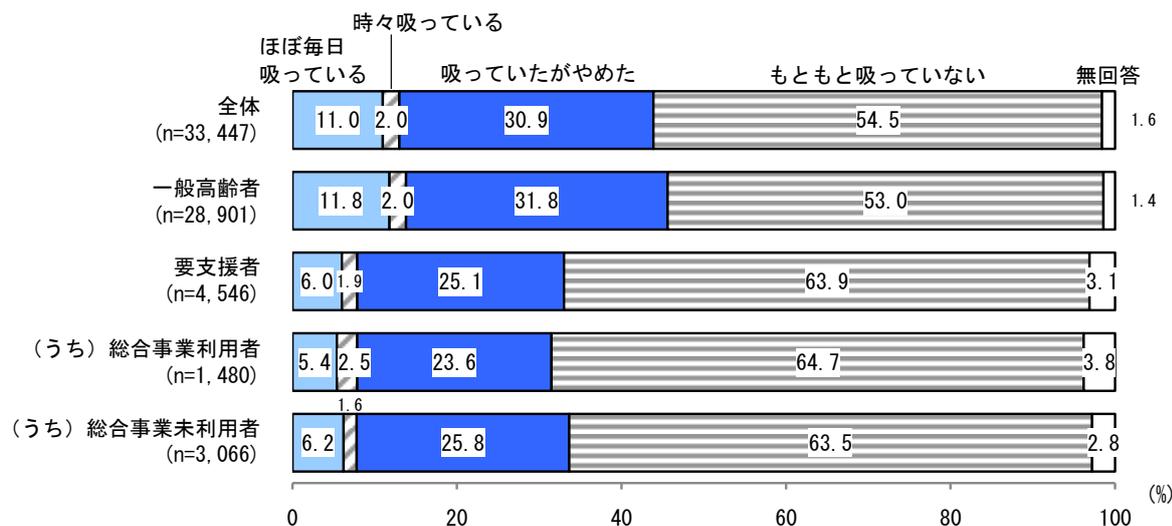
問 タバコは吸っていますか。(〇はひとつ)

喫煙について、「もともと吸っていない」の割合が54.5%で最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が30.9%となっている。『喫煙習慣のある』（「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」の合計）割合は13.0%となっている。

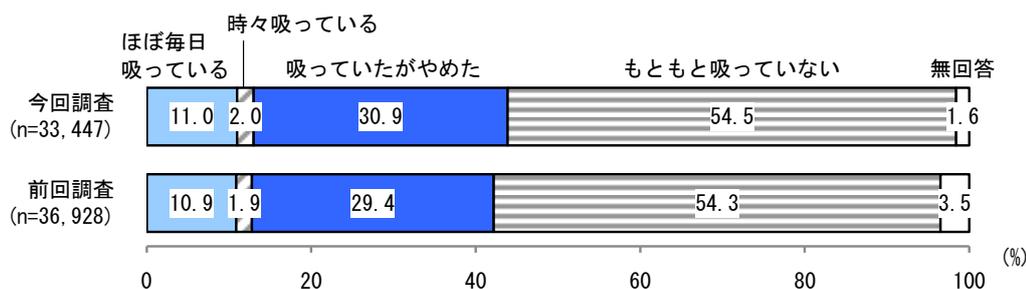
認定状況別では、『喫煙習慣のある』割合は、一般高齢者が13.8%で、要支援者（7.9%）に比べ5.9ポイント高くなっている。（図10-7）

前回調査の結果に比べ、『喫煙習慣のある』割合は大きな変化はみられない。

【図10-7 喫煙習慣】

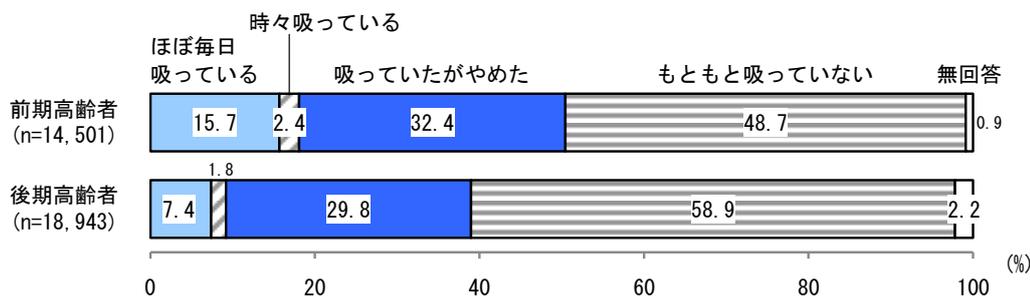


【参考 喫煙習慣（経年比較）】



年齢別では、『喫煙習慣のある』人の割合は、前期高齢者が18.1%、要支援者は9.2%となっている。（図10-7-1）

【図10-7-1 年齢別 喫煙習慣】



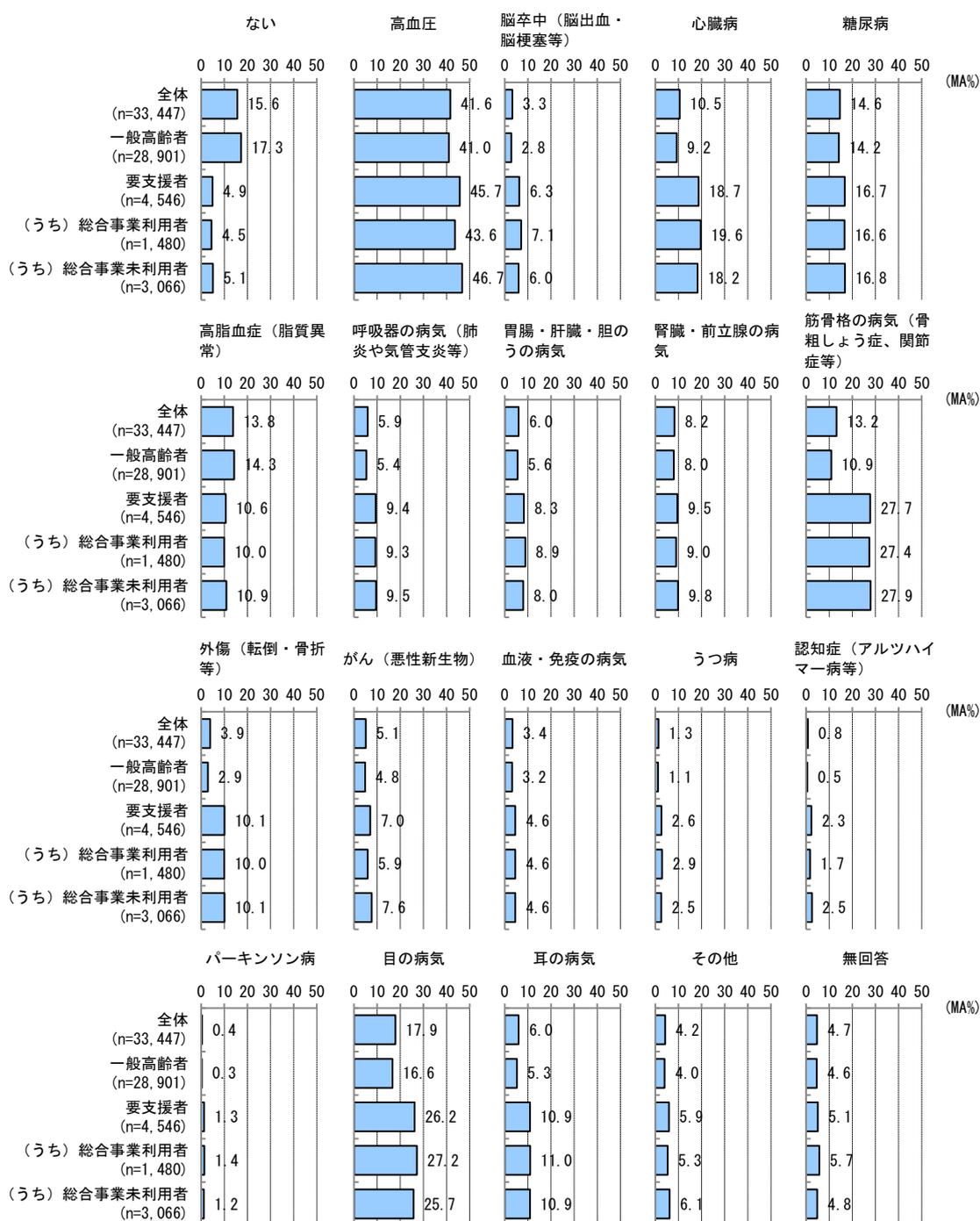
## (8) 治療中や後遺症のある病気

問 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(〇はいくつでも)

現在治療中または後遺症のある病気は、「ない」の割合が15.6%で、何らかの病気がある高齢者は79.7%（100.0%から「ない」15.6%と「無回答」4.7%を除いた割合）となっている。具体的にある病気は、「高血圧」の割合が41.6%で最も高く、次いで「目の病気」が17.9%、「糖尿病」が14.6%となっている。

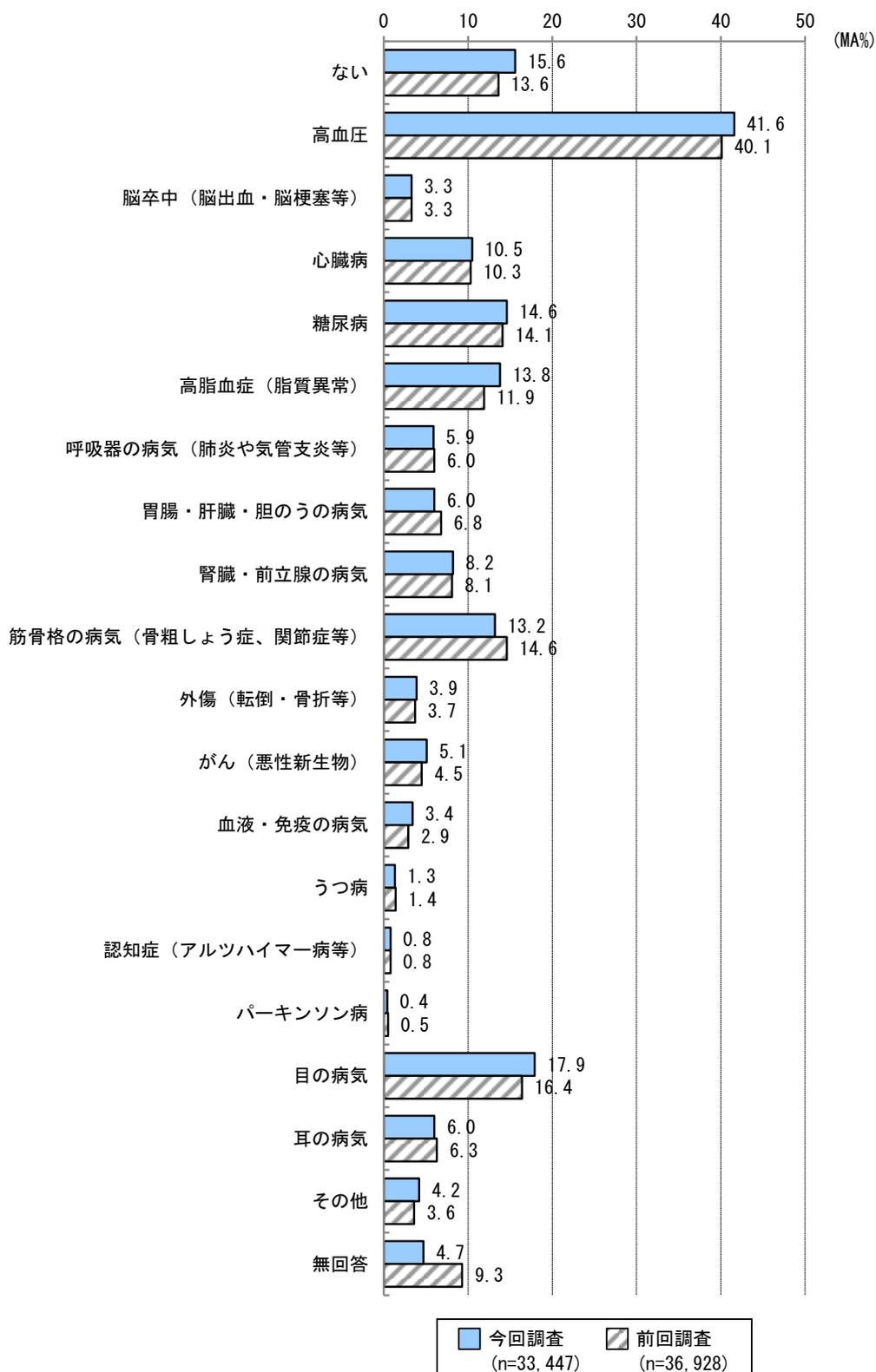
認定状況別では、「高脂血症（脂質異常）」を除く各病気の割合は、一般高齢者に比べ要支援者で高くなっている。（図10-8）

【図10-8 治療中や後遺症のある病気】



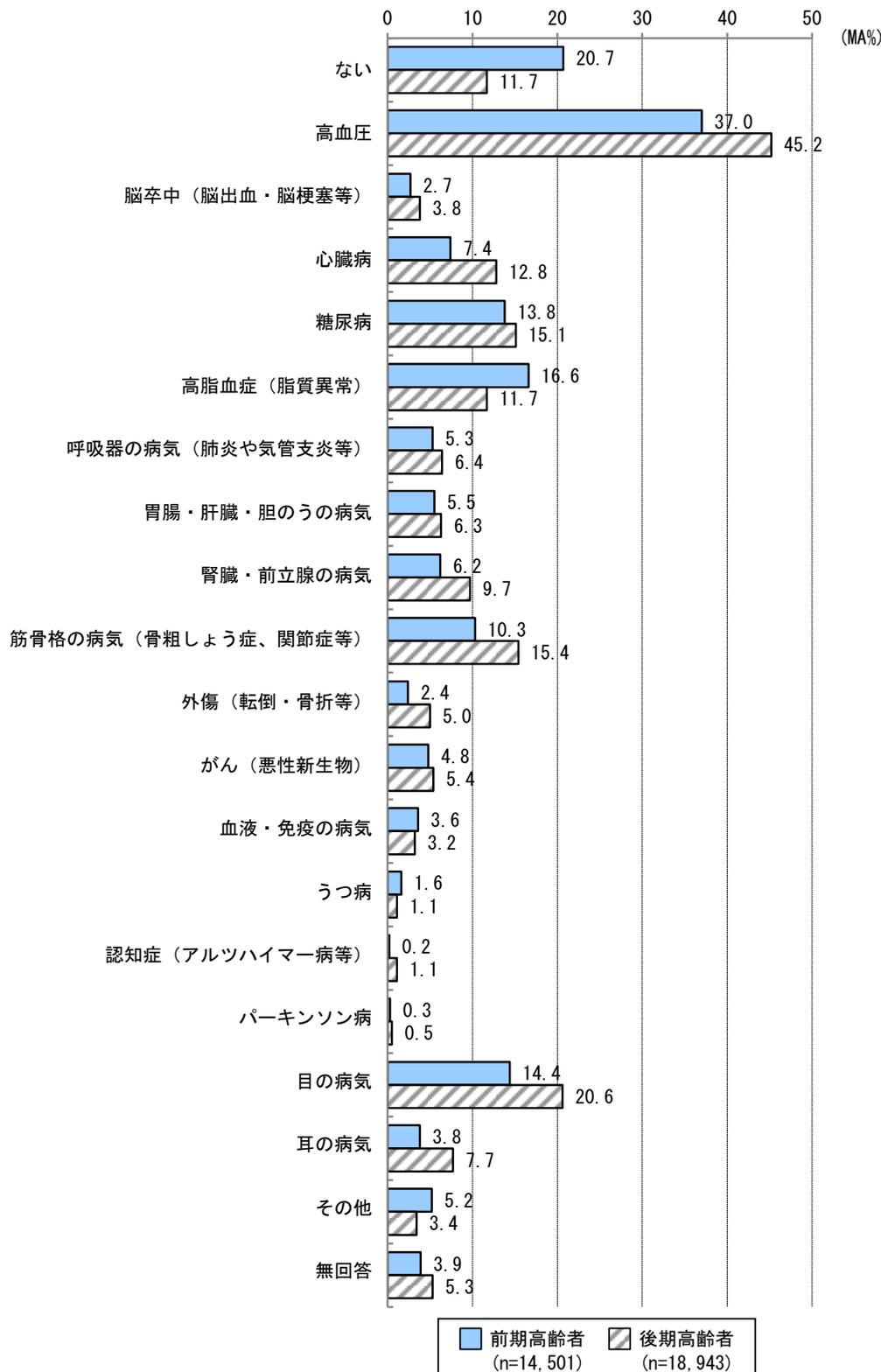
前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【参考 治療中や後遺症のある病気（経年比較）】



年齢別では、前期高齢者・後期高齢者とも「高血圧」の割合が最も高く、後期高齢者（45.2%）の方が8.2ポイント高くなっている。そのほか、「高脂血症（脂質異常）」「血液・免疫の病気」「うつ病」「その他」を除く病気の割合も前期高齢者に比べ後期高齢者が高くなっている。一方、「ない」の割合は、後期高齢者（11.7%）に比べ前期高齢者（20.7%）が9.0ポイント高くなっている。（図10-8-1）

【図10-8-1 年齢別 治療中や後遺症のある病気】

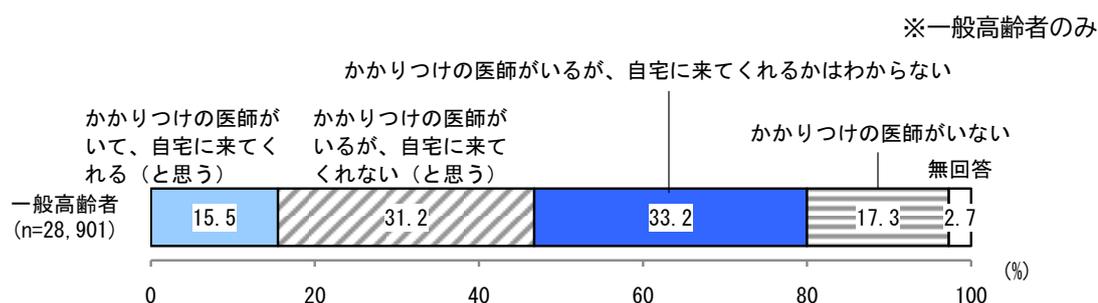


## (9) かかりつけの医師の訪問診療の有無

問 かかりつけの医師はあなたが通院できなくなった時に自宅に来てくれますか。(○はひとつ)

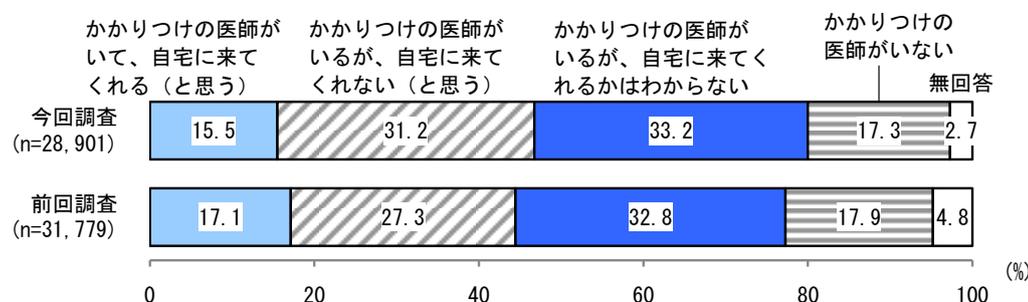
かかりつけの医師の訪問診療について、「かかりつけの医師がいるが、自宅に来てくれるかはわからない」の割合が33.2%で最も高く、次いで「かかりつけの医師がいるが、自宅に来てくれない(と思う)」が31.2%、「かかりつけの医師がいない」が17.3%となっている。(図10-9)

【図10-9 かかりつけの医師の訪問診療の有無】



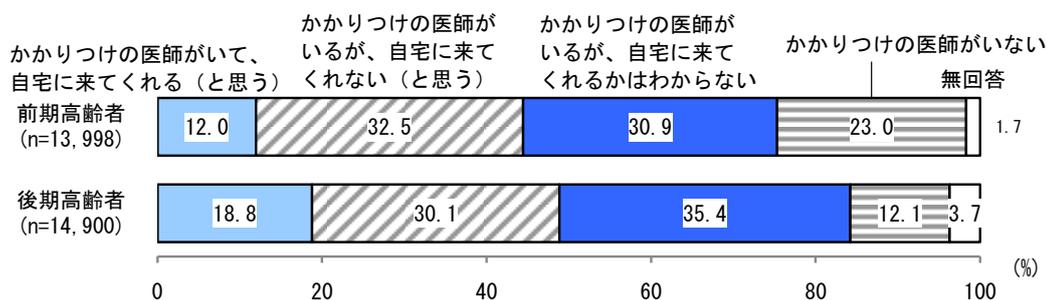
前回調査の結果に比べ、「かかりつけの医師がいるが、自宅に来てくれない(と思う)」の割合が3.9ポイント増加している。

【参考 かかりつけの医師の訪問診療の有無(経年比較)】



年齢別では、「かかりつけの医師がいて、自宅に来てくれる(と思う)」の割合は前期高齢者が12.0%、後期高齢者が18.8%となっている。また、「かかりつけの医師がいない」の割合は後期高齢者(12.1%)に比べ前期高齢者(23.0%)が10.9ポイント高くなっている。(図10-9-1)

【図10-9-1 年齢別 かかりつけの医師の訪問診療の有無】

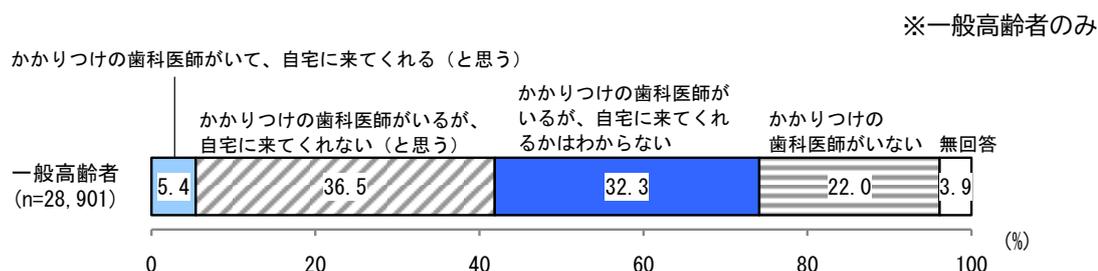


## (10) かかりつけの歯科医師の訪問歯科の有無

問 かかりつけの歯科医師はあなたが通院できなくなった時に自宅に来てくれますか。(〇はひとつ)

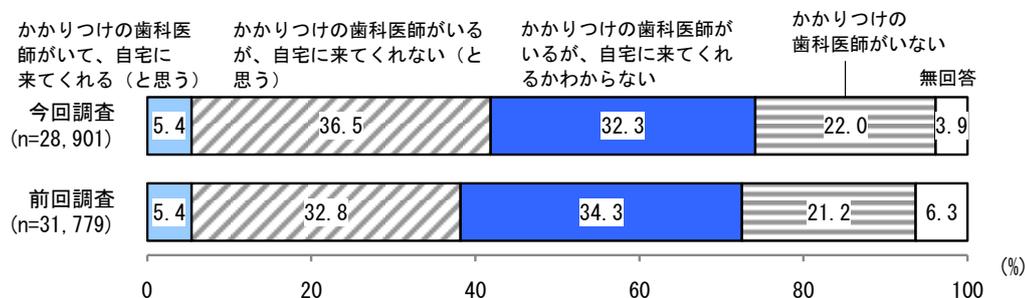
かかりつけの歯科医師の訪問歯科について、「かかりつけの歯科医師がいるが、自宅に来てくれない(と思う)」の割合が36.5%で最も高く、次いで「かかりつけの歯科医師がいるが、自宅に来てくれるかはわからない」が32.3%、「かかりつけの歯科医師がいない」が22.0%となっている。(図10-10)

【図10-10 かかりつけの歯科医師の訪問歯科の有無】



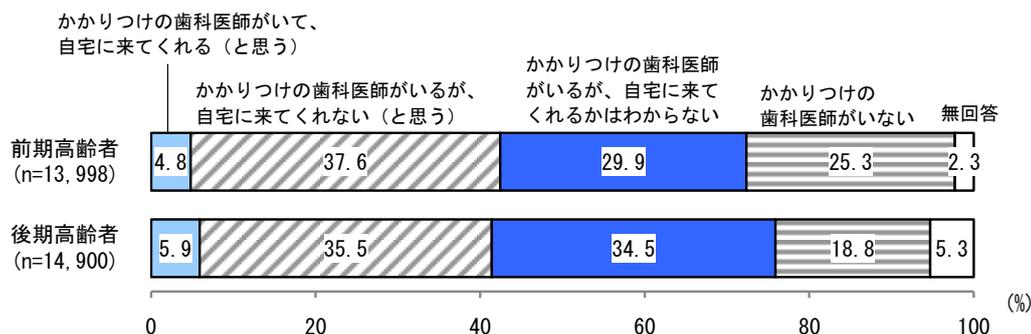
前回調査の結果に比べ、「かかりつけの歯科医師がいるが、自宅に来てくれない(と思う)」の割合が3.7ポイント増加している。

【参考 かかりつけの歯科医師の訪問歯科の有無(経年比較)】



年齢別では、「かかりつけの歯科医師がいない」の割合は、後期高齢者(18.8%)に比べ前期高齢者(25.3%)が6.5ポイント高くなっている。(図10-10-1)

【図10-10-1 年齢別 かかりつけの歯科医師の訪問歯科の有無】



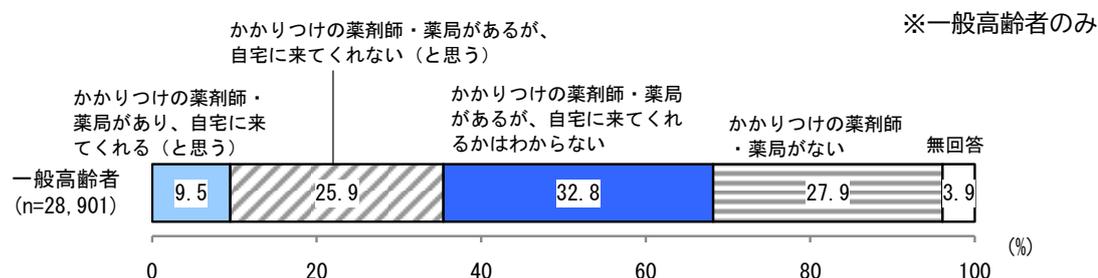
## (11) かかりつけの薬剤師・薬局の在宅訪問の有無

問 かかりつけの薬剤師・薬局はあなたが通院できなくなった時に自宅に来てくれますか。  
(○はひとつ)

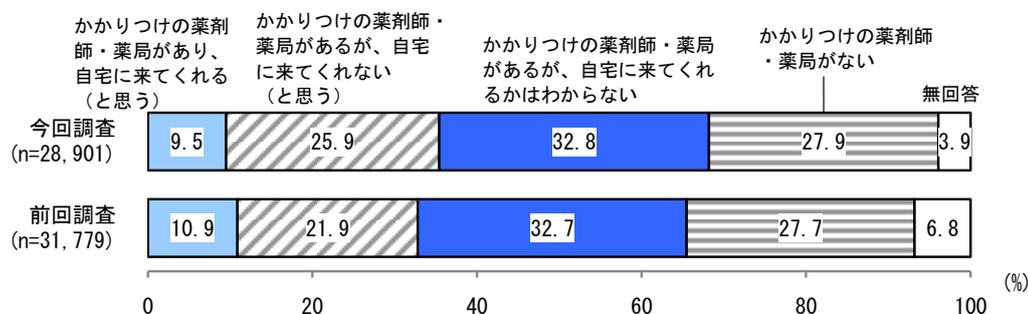
かかりつけの薬剤師・薬局の在宅訪問について、「かかりつけの薬剤師・薬局があるが、自宅に来てくれるかはわからない」の割合が32.8%で最も高く、次いで「かかりつけの薬剤師・薬局がない」が27.9%、「かかりつけの薬剤師・薬局があるが、自宅に来てくれない(と思う)」が25.9%となっている。(図10-11)

前回調査の結果に比べ、「かかりつけの薬剤師・薬局があるが、自宅に来てくれない(と思う)」の割合が4.0ポイント増加している。

【図10-11 かかりつけの薬剤師・薬局の在宅訪問の有無】

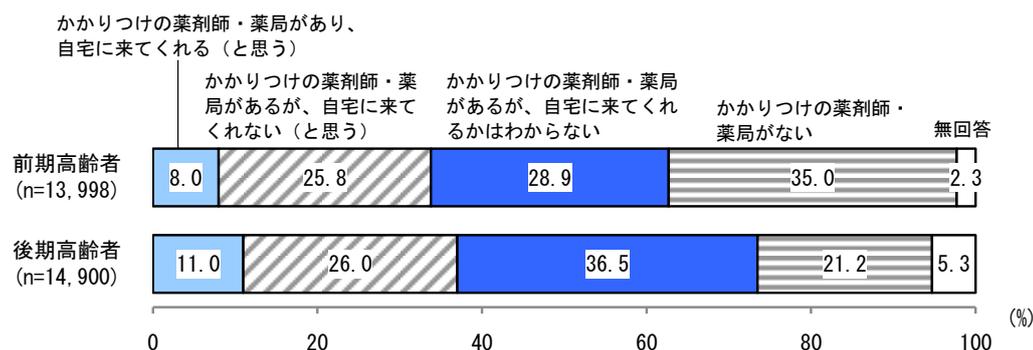


【参考 かかりつけの薬剤師・薬局の在宅訪問の有無(経年比較)】



年齢別では、「かかりつけの薬剤師・薬局がない」の割合は後期高齢者(21.2%)に比べ前期高齢者(35.0%)が13.8ポイント高くなっている。(図10-11-1)

【図10-11-1 年齢別 かかりつけの薬剤師・薬局の在宅訪問の有無】



## 11 認知症にかかる相談窓口の把握について

### (1) 認知症の症状の有無

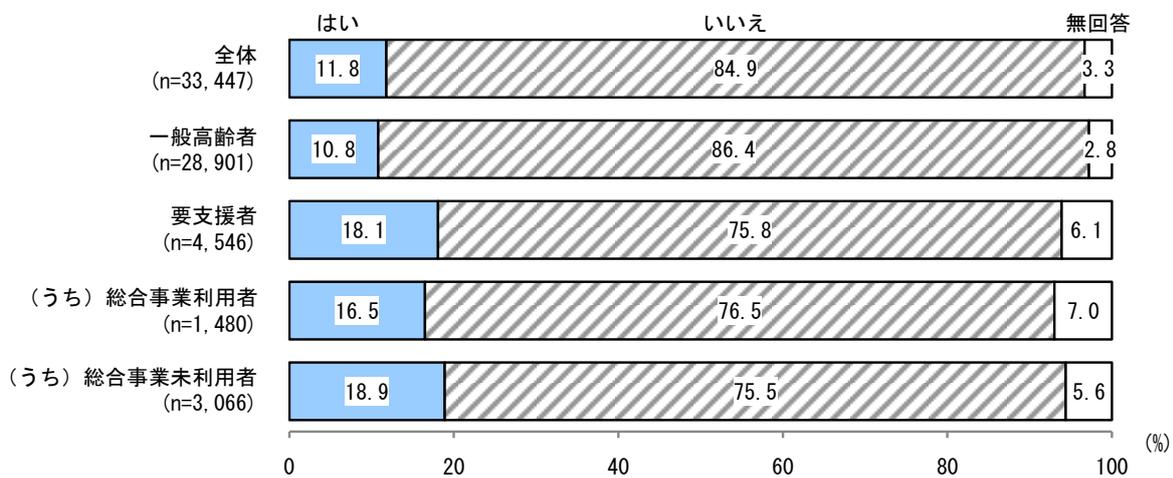
問 認知症の症状（もの忘れの悪化など認知症の疑いも含む）がある、又は家族に認知症の症状がある人がいますか。（○はひとつ）

自身または家族に認知症の症状がある人がいる（「はい」と回答している）割合は11.8%となっている。

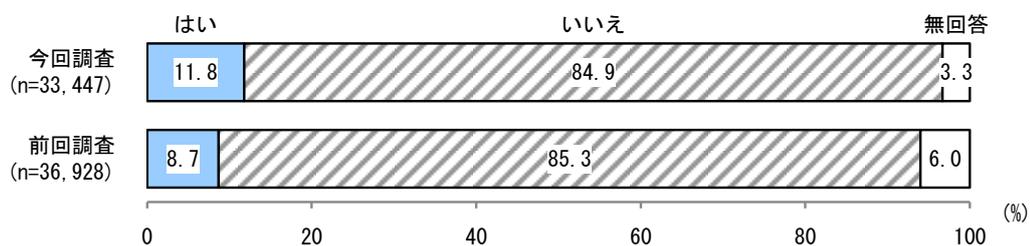
認定状況別では、自身または家族に認知症の症状がある人がいる割合は、要支援者が18.1%で、一般高齢者（10.8%）に比べ7.3ポイント高くなっている。（図11-1）

前回調査の結果に比べ、自身または家族に認知症の症状がある人がいる割合が3.1ポイント増加している。

【図11-1 認知症の症状の有無】

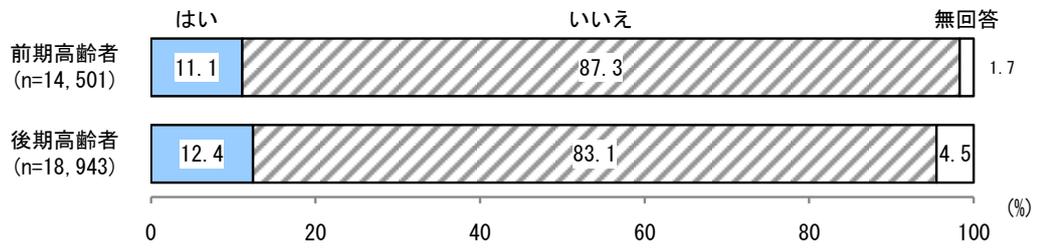


【参考 認知症の症状の有無（経年比較）】



年齢別では、自身または家族に認知症の症状がある人がいる割合は、前期高齢者が11.1%、後期高齢者が12.4%となっている。(図11-1-1)

【図11-1-1 年齢別 認知症の症状の有無】



## (2) 認知症に関する相談窓口の認知度

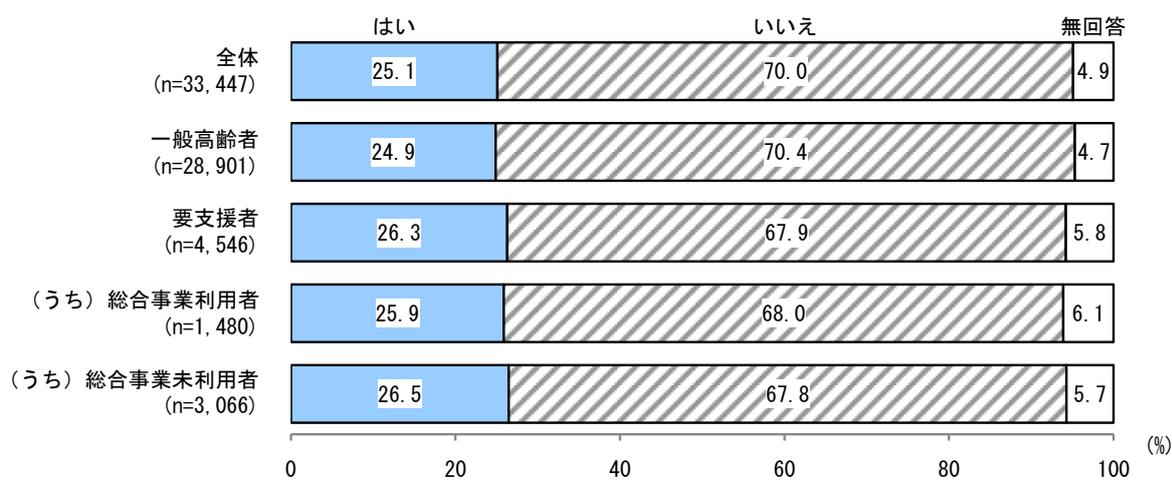
問 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(○はひとつ)

認知症に関する相談窓口を知っている(「はい」と回答している)割合は25.1%となっている。

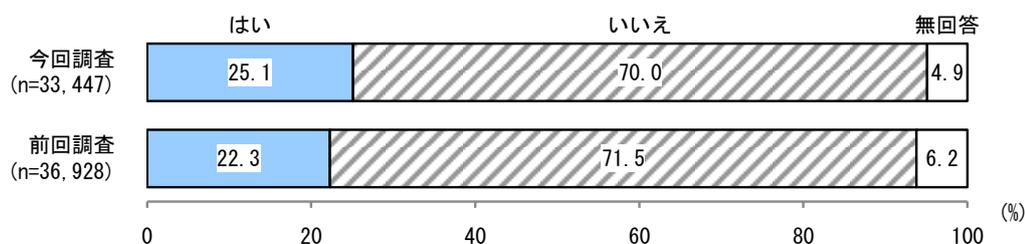
認定状況別では、相談窓口を知っている割合は、一般高齢者が24.9%、要支援者は26.3%で、いずれも回答者の4人に1人程度となっている。(図11-2)

前回調査の結果に比べ、相談窓口を知っている割合が2.8ポイント増加している。

【図11-2 認知症に関する相談窓口の認知度】

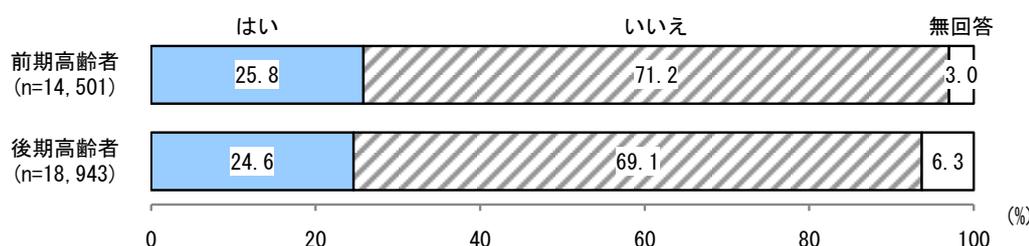


【参考 認知症に関する相談窓口の認知度(経年比較)】



年齢別では、認知症に関する相談窓口を知っている割合は、前期高齢者が25.8%、後期高齢者が24.6%となっている。(図11-2-1)

【図11-2-1 年齢別 認知症に関する相談窓口の認知度】



### (3) 知っている認知症に関する相談窓口

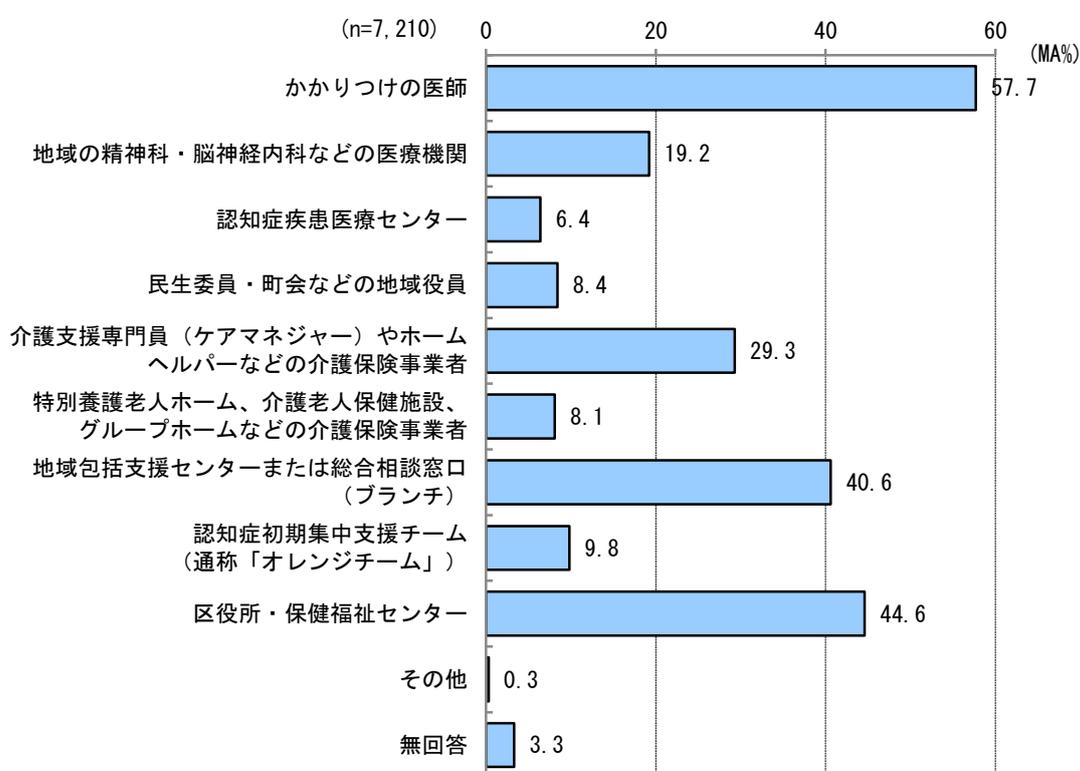
【「1 はい」と回答された方におうかがいします】

問 あなたが認知症に関する相談窓口として知っているところはどこですか。(〇はいくつでも)

認知症に関する相談窓口を知っていると回答した人に、知っている相談窓口についてたずねると、「かかりつけの医師」の割合が57.7%で最も高く、次いで「区役所・保健福祉センター」が44.6%、「地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ブランチ）」が40.6%となっている。(図11-3)

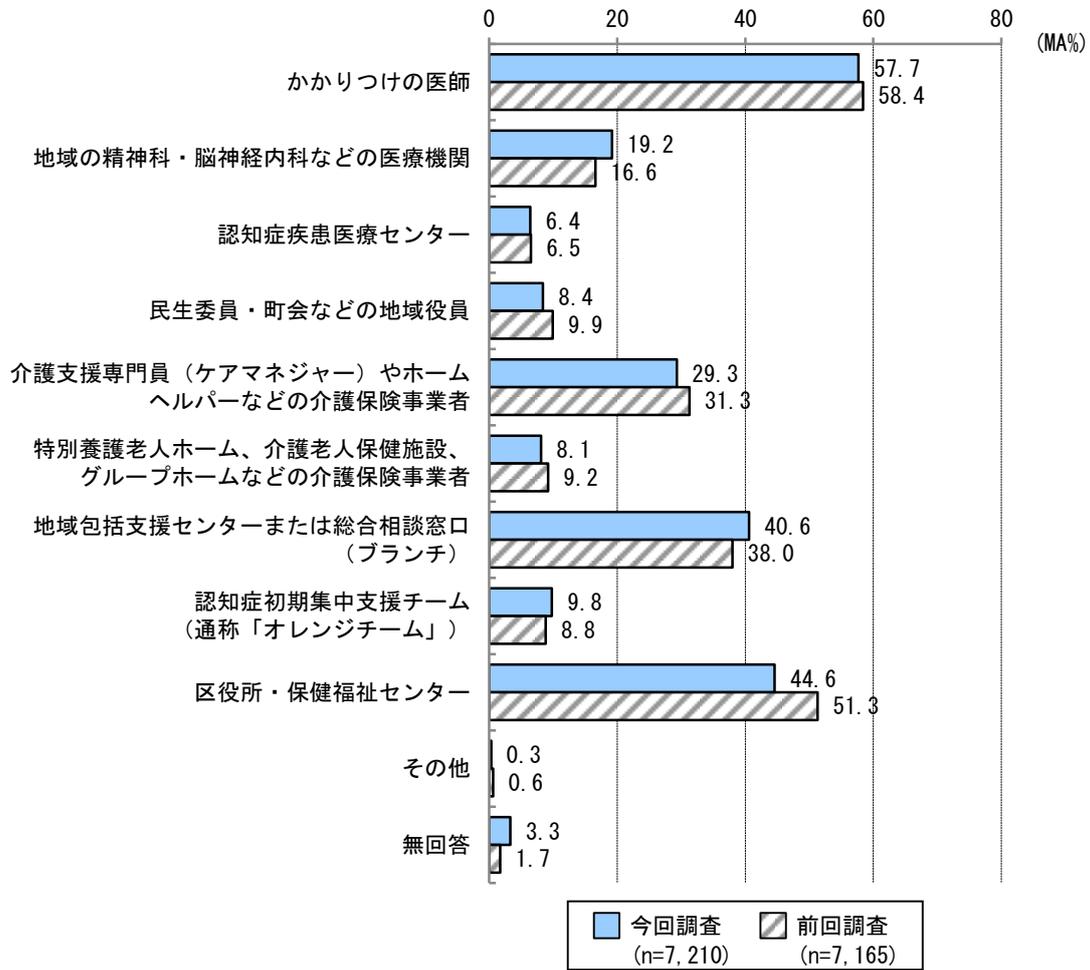
【図11-3 知っている認知症に関する相談窓口】

※一般高齢者のみ



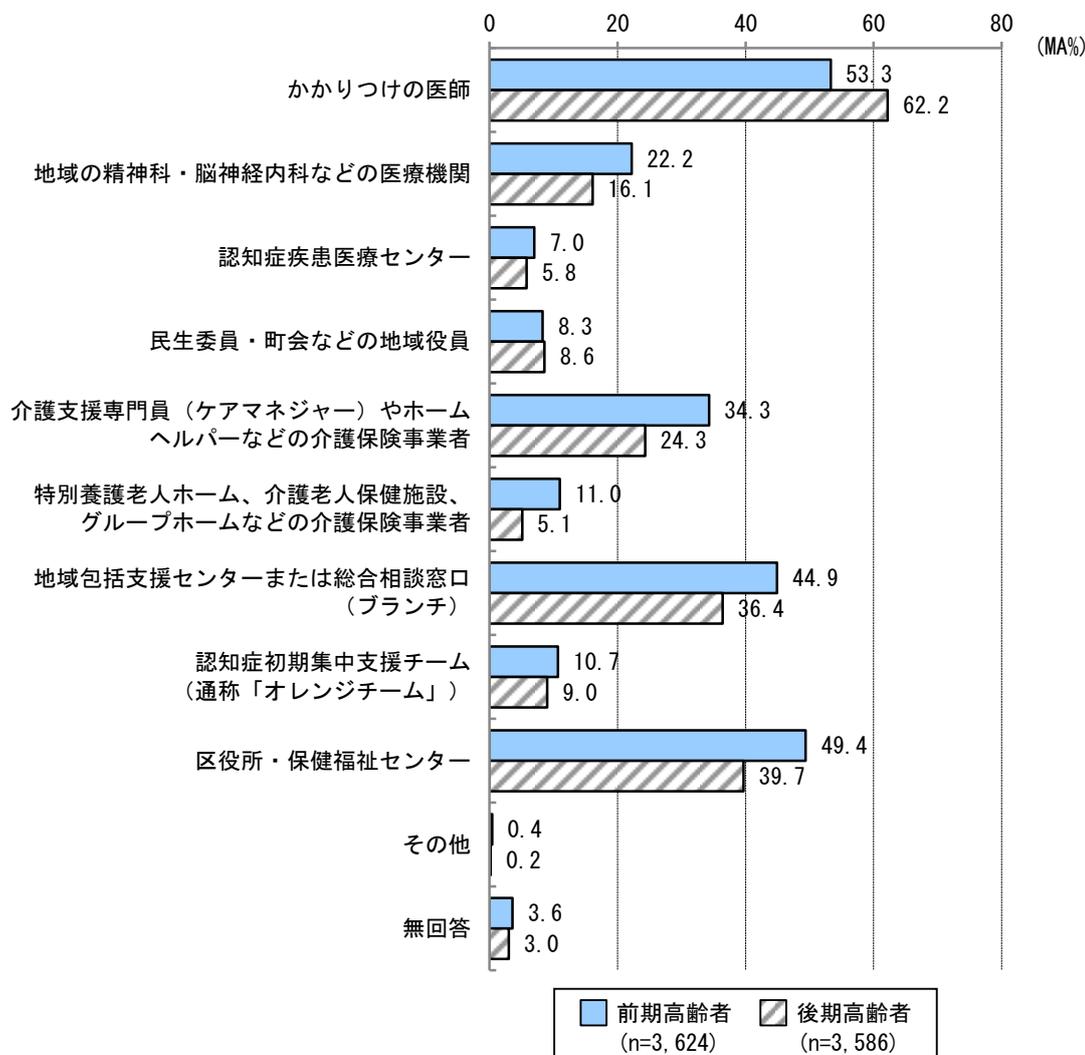
前回調査の結果に比べ、「区役所・保健福祉センター」の割合が6.7ポイント減少している。

【参考 知っている認知症に関する相談窓口】



年齢別では、前期高齢者・後期高齢者とも「かかりつけの医師」の割合が最も高く、前期高齢者（53.3%）に比べ、後期高齢者（62.2%）の方が8.9ポイント高くなっている。「かかりつけの医師」と「民生委員・町会などの地域役員」を除く各相談窓口の割合は、後期高齢者に比べ前期高齢者の方が高くなっている。（図11-3-1）

【図11-3-1 年齢別 知っている認知症に関する相談窓口】

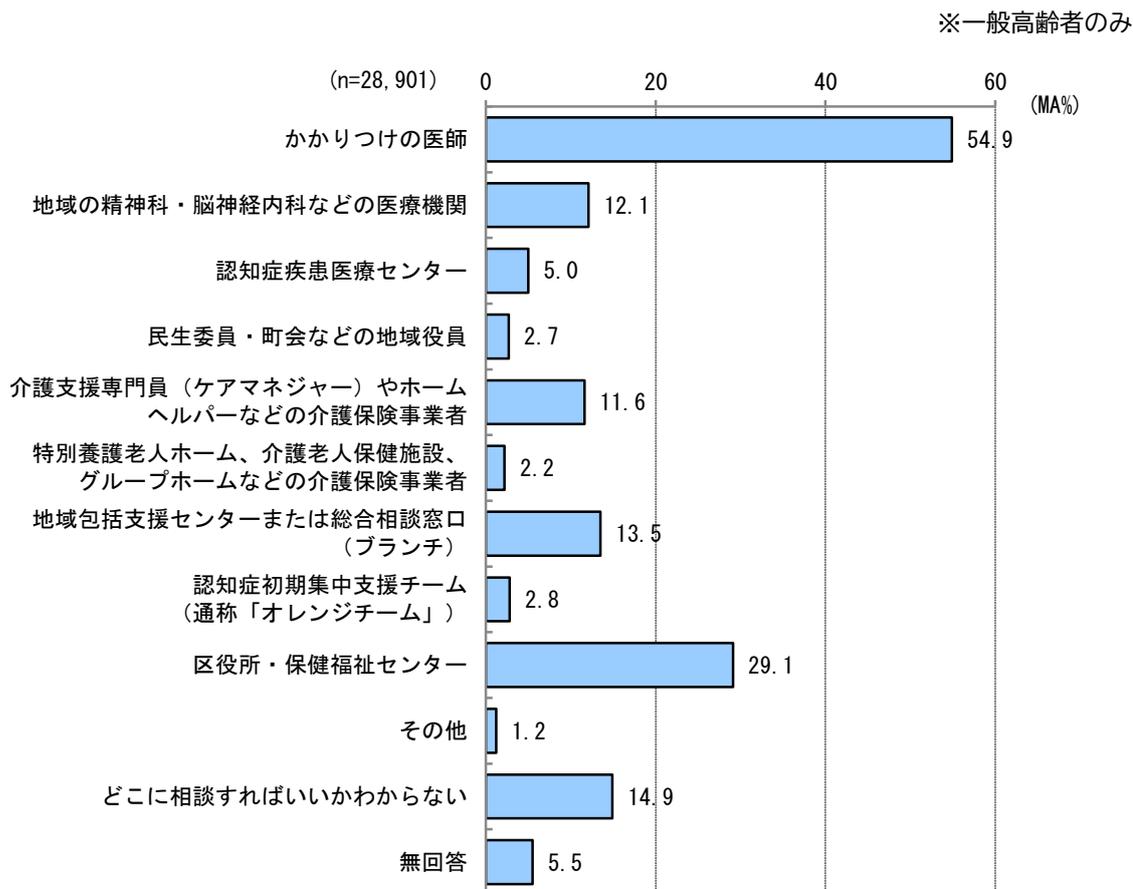


#### (4) 認知症について不安に感じるときの相談相手

問 あなたは、あなた又はあなたのご家族が認知症について不安に感じるときは、どちらに相談されますか。(〇はいくつでも)

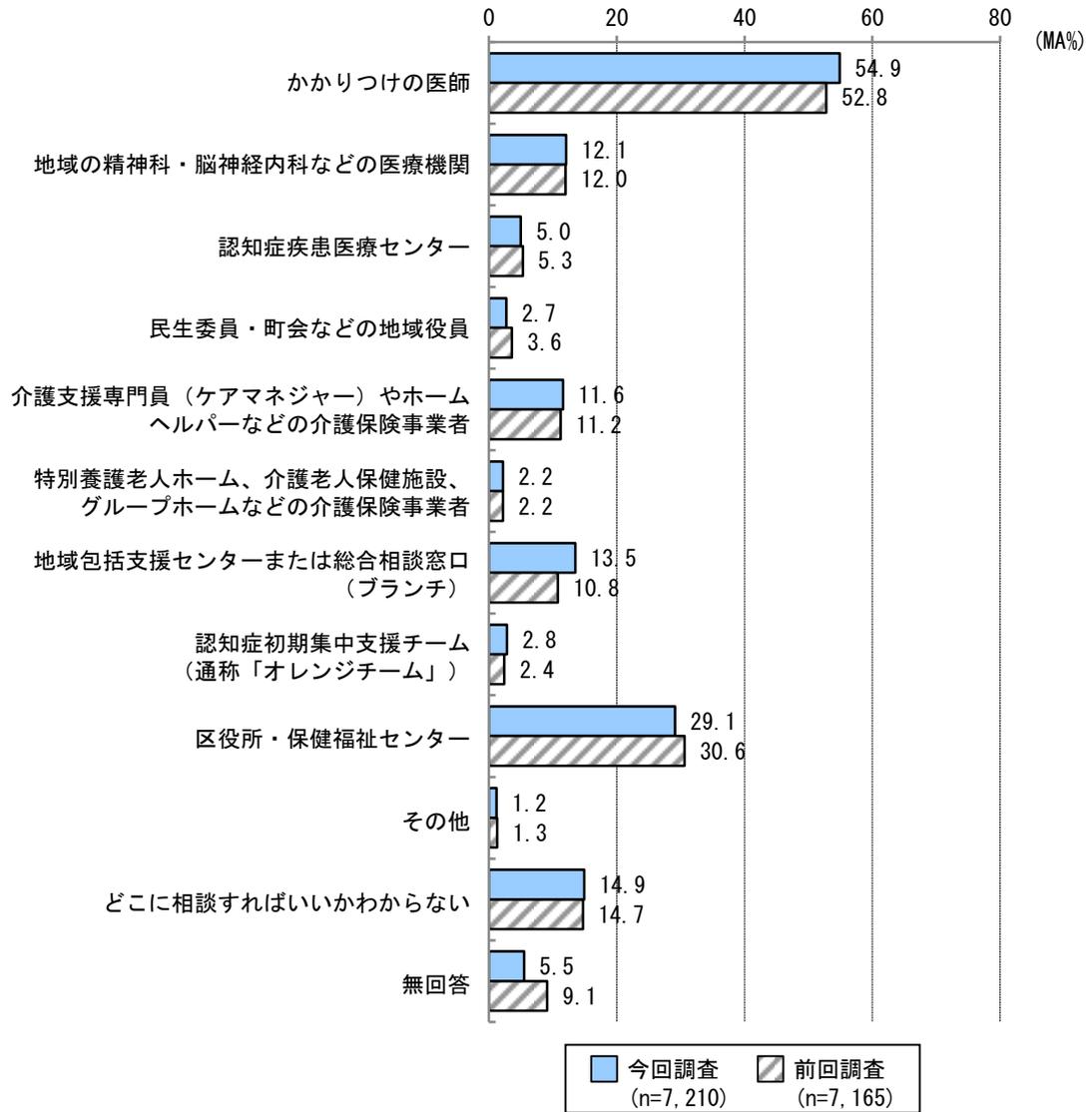
認知症について不安に感じるときの相談相手は、「かかりつけの医師」の割合が54.9%で最も高く、次いで「区役所・保健福祉センター」が29.1%、「どこに相談すればいいかわからない」が14.9%となっている。(図11-4)

【図11-4 認知症について不安に感じるときの相談相手】



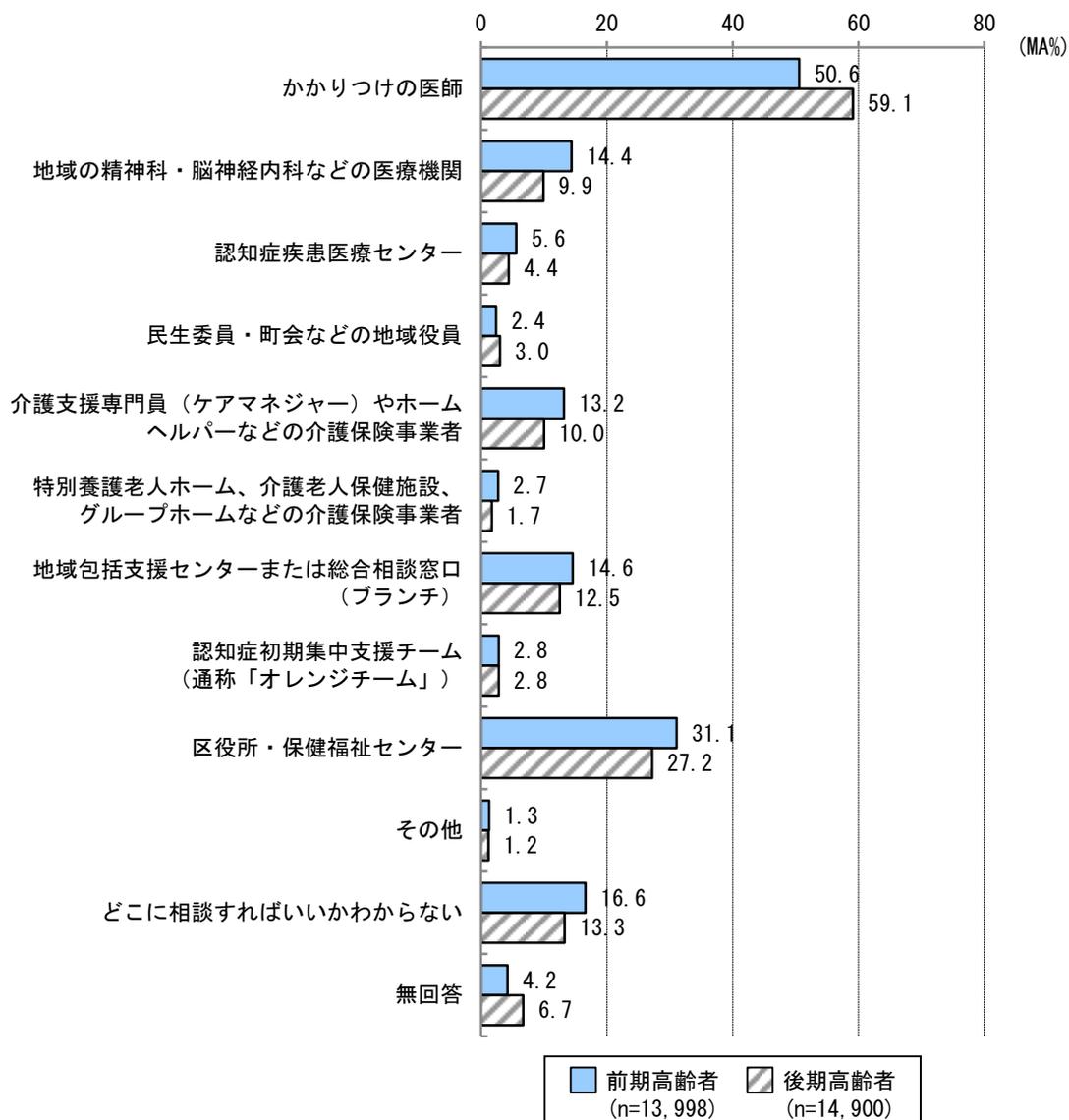
前回調査の結果から大きな変化はみられない。

【参考 認知症について不安に感じるときの相談相手】



年齢別では、前期高齢者・後期高齢者とも「かかりつけの医師」の割合が最も高く、前期高齢者（50.6%）に比べ後期高齢者（59.1%）の方が8.5ポイント高くなっている。（図11-4-1）

【図11-4-1 年齢別 認知症について不安に感じるときの相談相手】



## 12 介護サービスの利用前後の健康状態について

### (1) 介護サービスの利用前後の健康状態

#### ① 訪問介護サービスや通所介護サービスを利用する前の健康状態

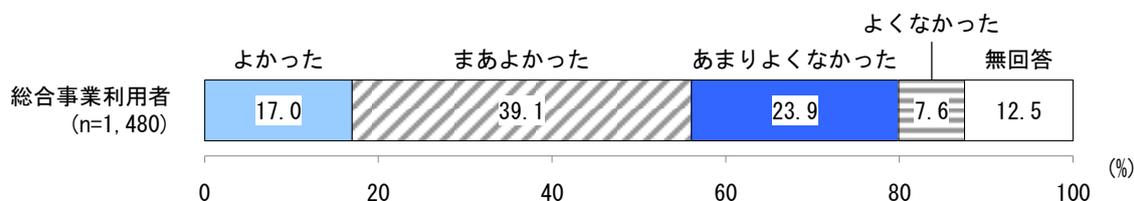
問 あなたが訪問（家に来てもらう）介護サービスや通所（介護施設に通う）介護サービスを利用する前の健康状態はいかがでしたか。（○はひとつ）

訪問介護サービスや通所介護サービスを利用する前の健康状態は、「まあよかった」の割合が39.1%で最も高く、次いで「あまりよくなかった」が23.9%で、「よかった」（17.0%）と「まあよかった」をあわせた『健康状態がよかった』割合は56.1%となっている。（図11-1-1）

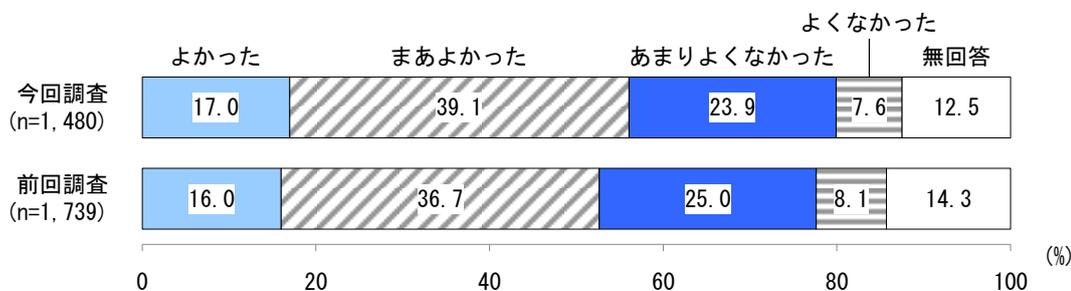
前回調査の結果に比べ、『健康状態がよかった』割合が3.4ポイント増加している。

【図11-1-1 訪問介護サービスや通所介護サービスを利用する前の健康状態】

※総合事業利用者のみ

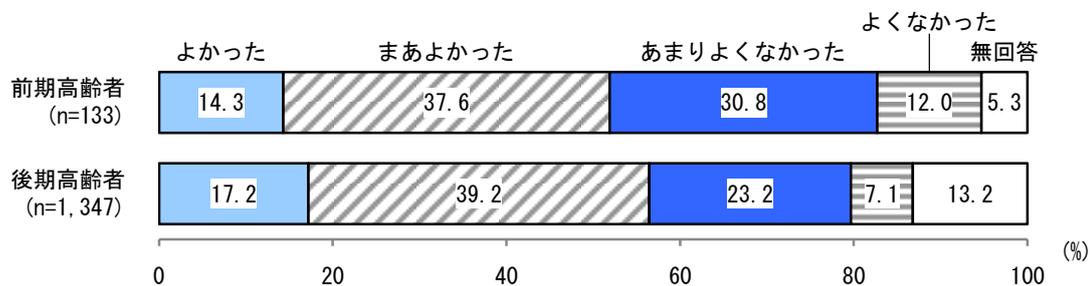


【参考 訪問介護サービスや通所介護サービスを利用する前の健康状態】



年齢別では、『健康状態がよかった』割合は、前期高齢者（51.9％）に比べ後期高齢者（56.4％）の方が4.5ポイント高くなっている。（図11-1-1-1）

【図11-1-1-1 年齢別 訪問介護サービスや通所介護サービスを利用する前の健康状態】



## ② 訪問介護サービスや通所介護サービスを利用した後の健康状態

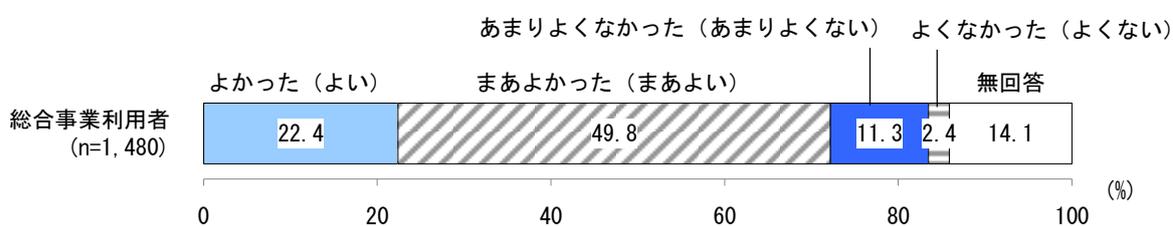
問 あなたが訪問（家に来てもらう）介護サービスや通所（介護施設に通う）介護サービスを利用した後（現在も利用中であれば現在の状態）の健康状態はいかがでしたか。  
（○はひとつ）

訪問介護サービスや通所介護サービスを利用した後の健康状態について、「まあよかった（まあよい）」の割合が49.8%で最も高く、次いで「よかった（よい）」が22.4%で、両者をあわせた『利用した後の健康状態がよい』割合は72.2%となっている。（図11-1-2）

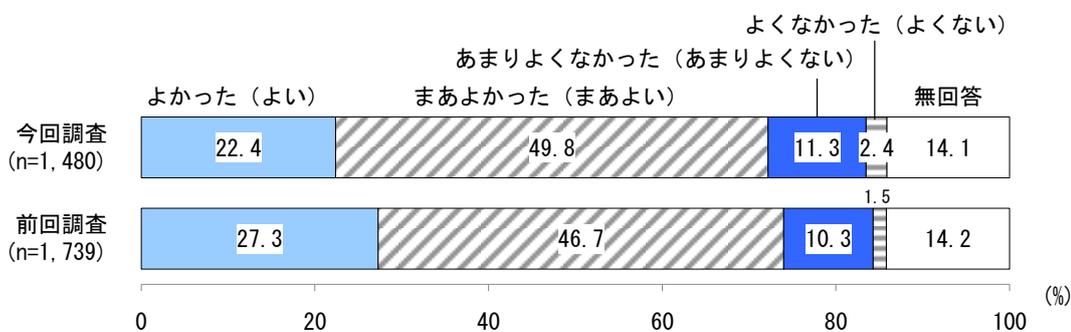
前回調査の結果に比べ、『利用した後の健康状態がよい』割合は1.8ポイント減少している。

【図11-1-2 訪問介護サービスや通所介護サービスを利用した後の健康状態】

※総合事業利用者のみ

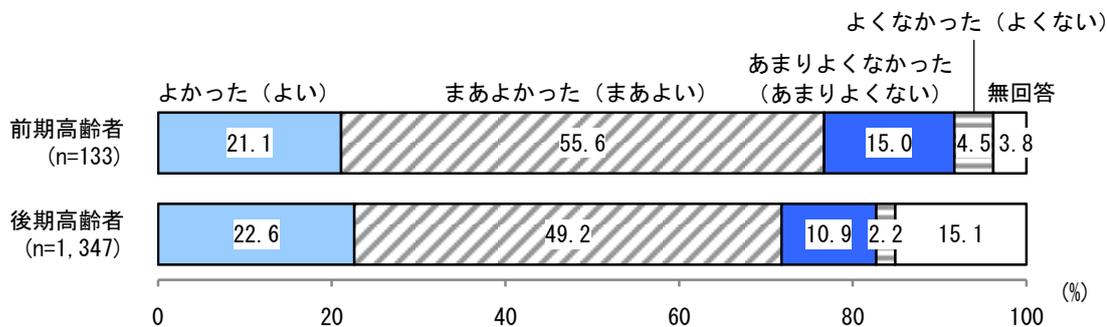


【参考 訪問介護サービスや通所介護サービスを利用した後の健康状態】



年齢別では、『利用した後の健康状態がよい』割合は、後期高齢者（71.8%）に比べ前期高齢者（76.7%）が4.9ポイント高くなっている。（図11-1-2-1）

【図11-1-2-1 年齢別 訪問介護サービスや通所介護サービスを利用した後の健康状態】



## (2) 訪問介護サービスや通所介護サービスの利用満足度

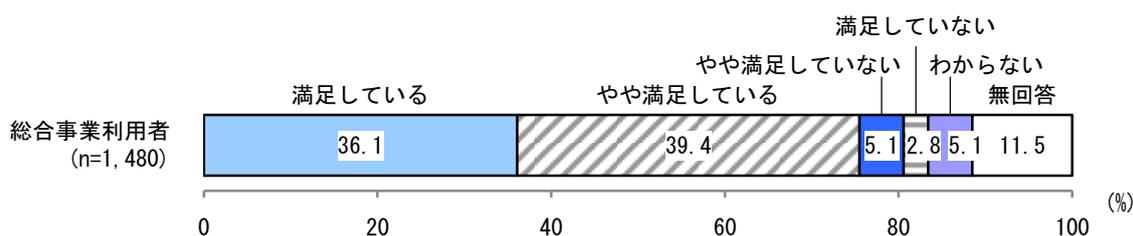
問 あなたは、訪問（家に来てもらう）介護サービスや通所（介護施設に通う）介護サービスを利用して満足されましたか。（○はひとつ）

訪問介護サービスや通所介護サービスを利用した満足度は、「やや満足している」の割合が39.4%で最も高く、次いで「満足している」が36.1%で、両者をあわせた『満足している』割合は75.5%となっている。（図11-2）

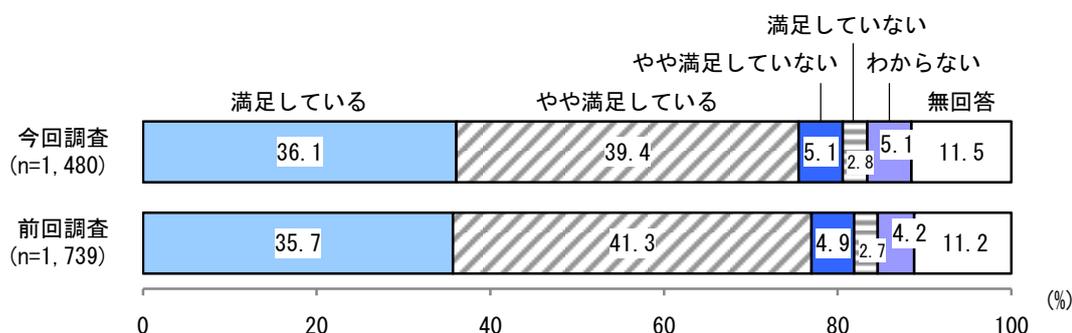
前回調査の結果に比べ、『満足している』割合は1.5ポイント減少している。

【図11-2 訪問介護サービスや通所介護サービスの利用満足度】

※総合事業利用者のみ

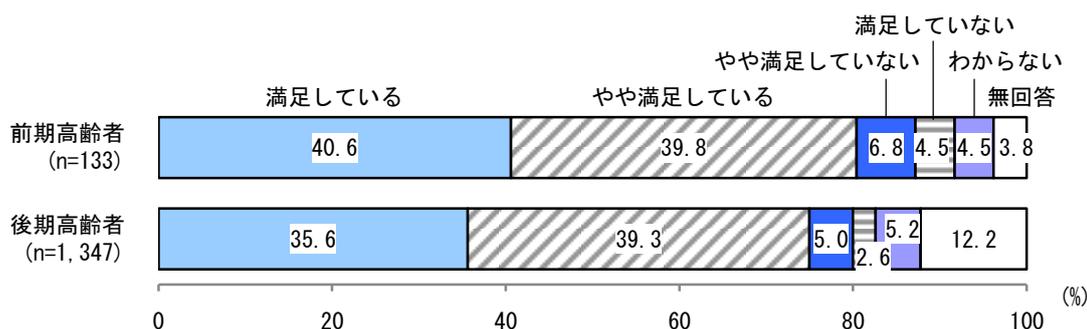


【参考 訪問介護サービスや通所介護サービスの利用満足度】



年齢別では、『満足している』割合は、後期高齢者（74.9%）に比べ前期高齢者（80.4%）の方が5.5ポイント高くなっている。（図11-2-1）

【図11-2-1 訪問介護サービスや通所介護サービスの利用満足度】



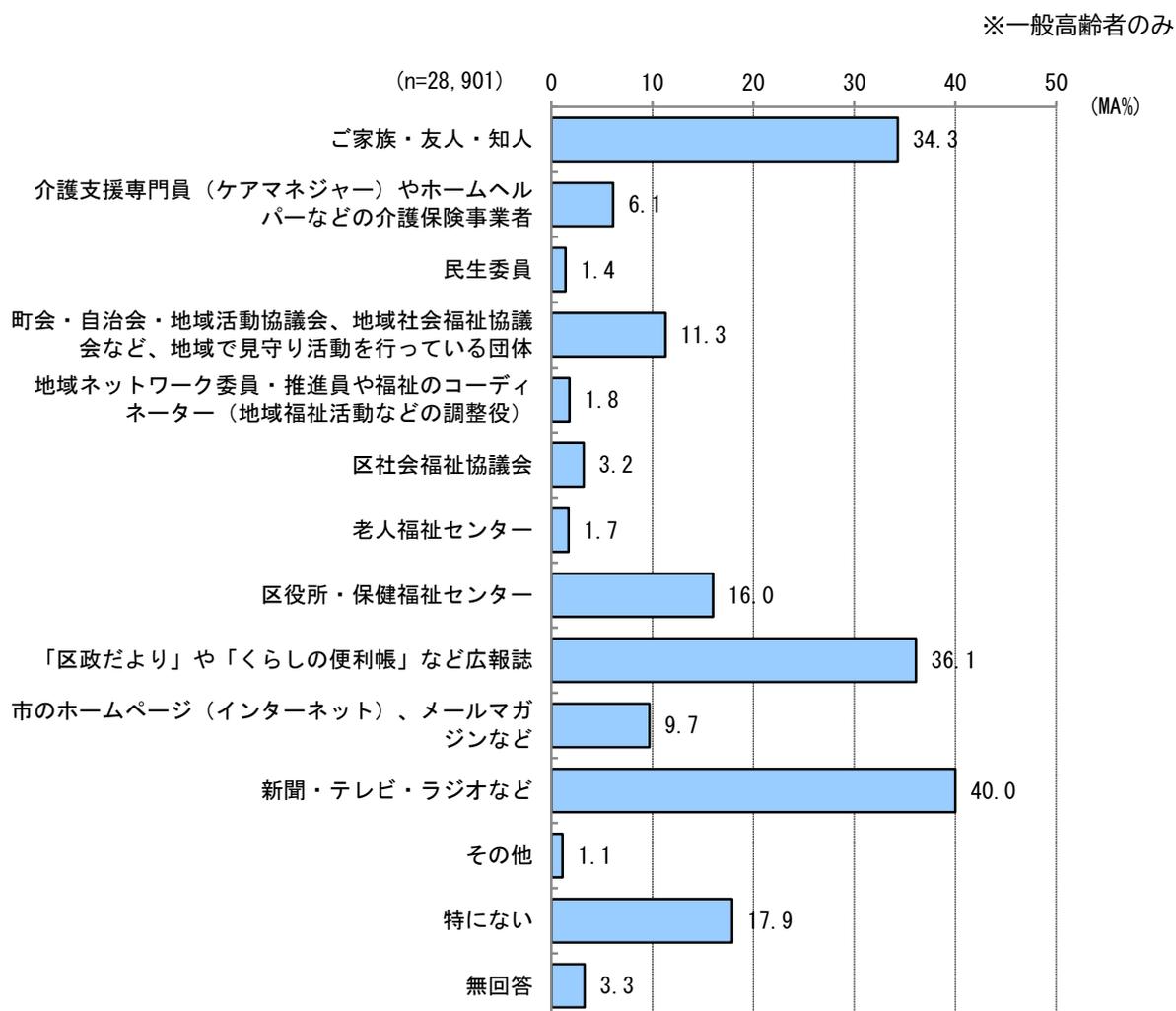
### 13 高齢者向けのお知らせ等、情報の入手先について

#### (1) 高齢者向けのお知らせ等、情報の入手先

問 あなたは、高齢者向けのお知らせや健康・介護予防に関する情報をどこから得ていますか。(〇はいくつでも)

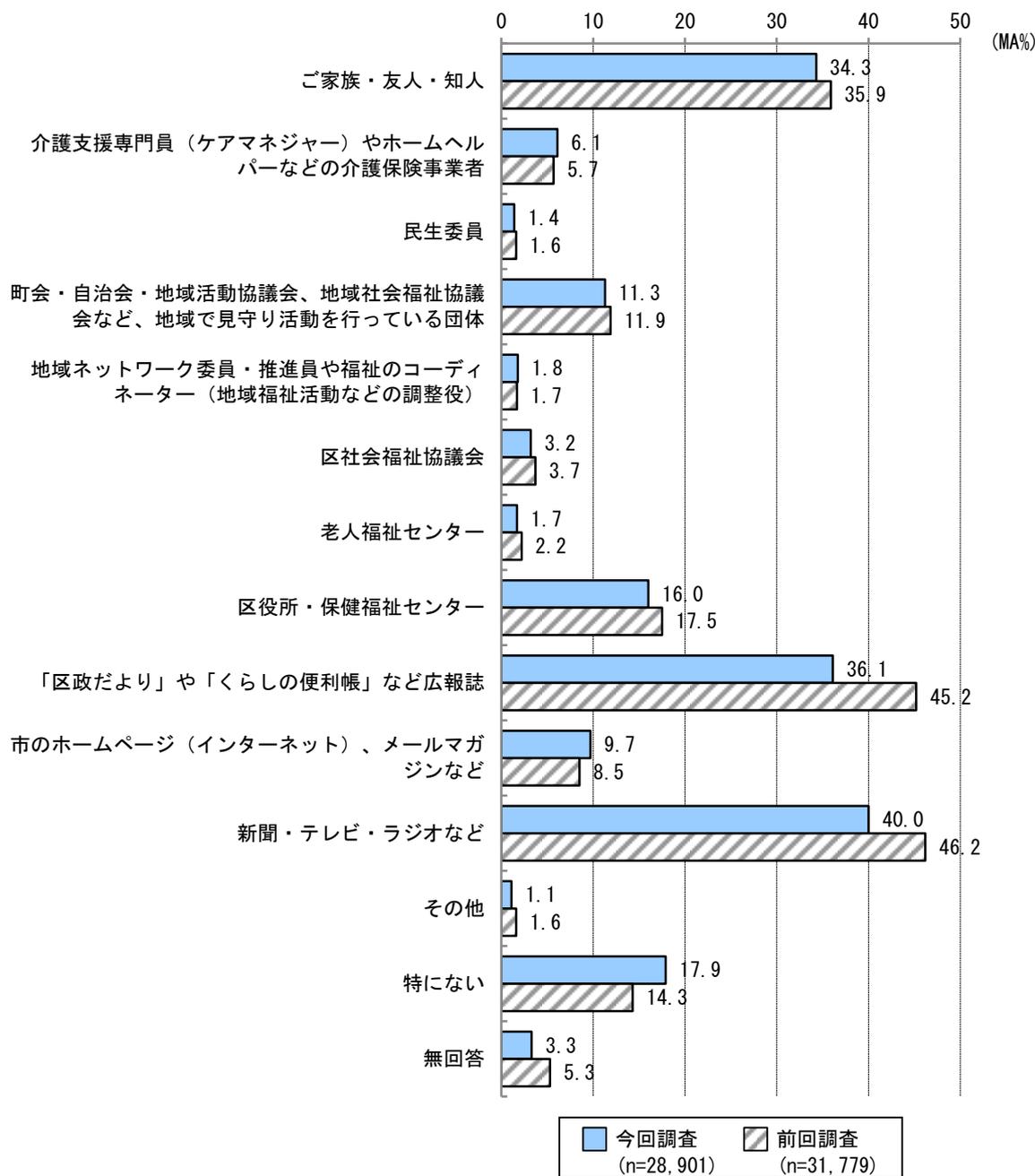
高齢者向けのお知らせ等、情報の入手先は、「新聞・テレビ・ラジオなど」の割合が40.0%で最も高く、次いで「区政だより」や「くらしの便利帳」など広報誌が36.1%、「ご家族・友人・知人」が34.3%となっている。(図12-1)

【図12-1 高齢者向けのお知らせ等、情報の入手先】



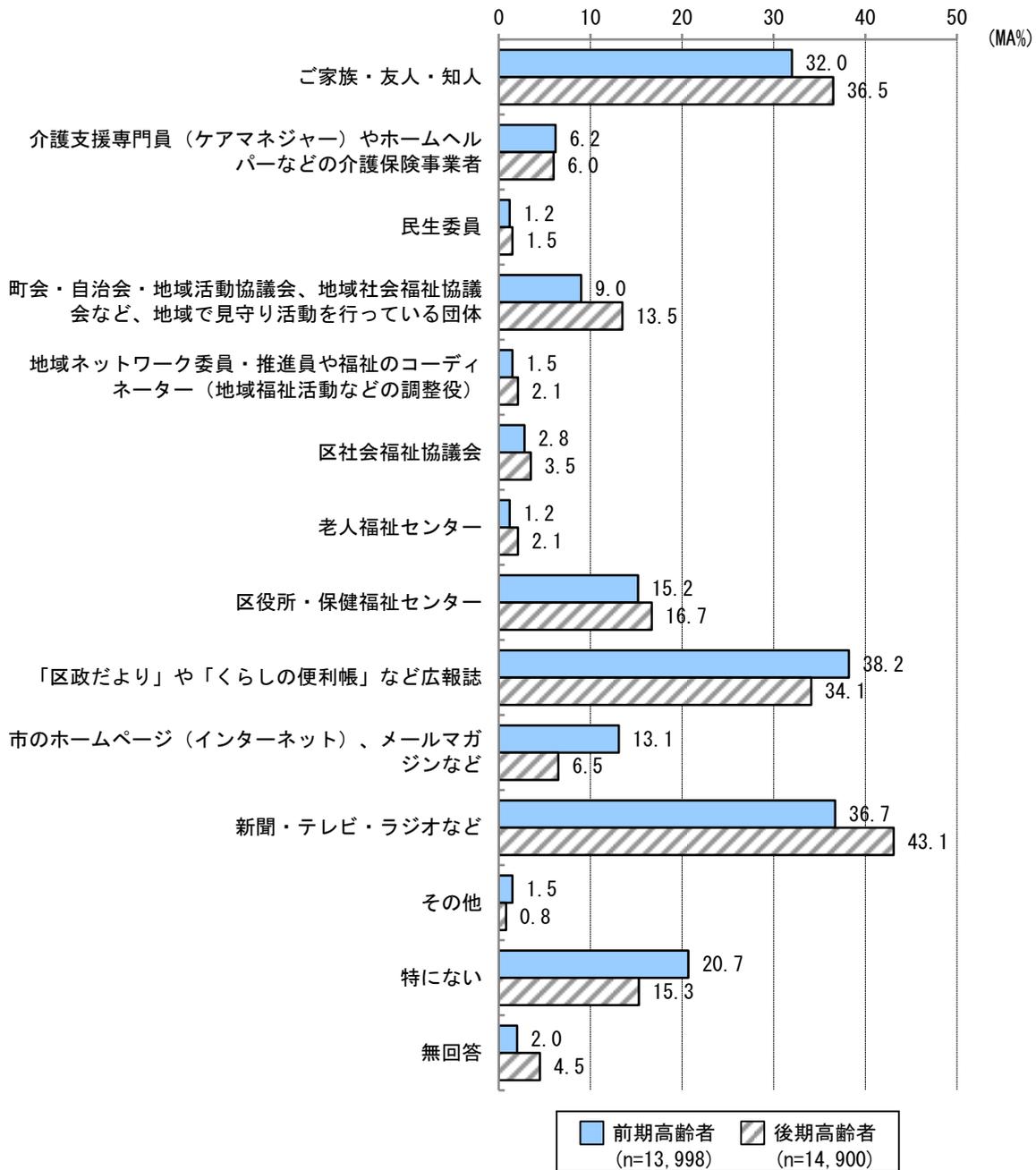
前回調査の結果に比べ、「区政だより」や「くらしの便利帳」など広報誌の割合が9.1ポイント、「新聞・テレビ・ラジオなど」の割合が6.2ポイント減少している。

【参考 高齢者向けのお知らせ等、情報の入手先】



年齢別では、前期高齢者は「区政だより」や「くらしの便利帳」など広報誌（38.2%）の割合が最も高く、後期高齢者は「新聞・テレビ・ラジオなど」（43.1%）の割合が最も高くなっている。（図12-1-1）

【図12-1-1 年齢別 高齢者向けのお知らせ等、情報の入手先】



## Ⅱ-2 生活機能評価等に関する分析



## II-2 生活機能評価等に関する分析

### 1 生活機能評価

#### (1) 運動器の機能低下

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、5項目のうち3項目以上に該当する人を『運動器の機能低下』のリスク該当者と判定している。

##### 【判定設問】

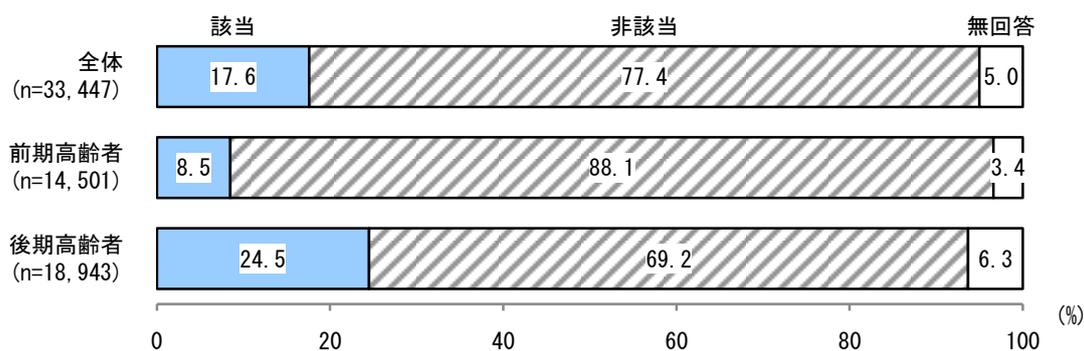
問番号	設問	該当する選択肢
問2	(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
	(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
	(3) 15分位続けて歩いていますか	3. できない
	(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある
	(5) 転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である

##### 【リスク該当状況】

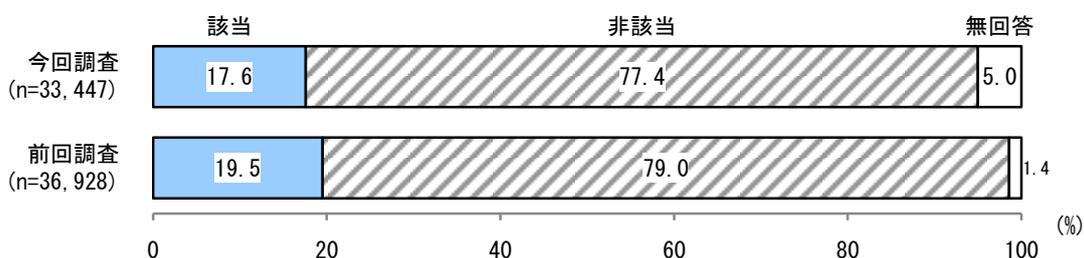
国の手引きに基づく『運動器の機能低下』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）の割合は17.6%となっている。

年齢別では、該当者（リスクあり）の割合は前期高齢者が8.5%、後期高齢者は24.5%となっている。

前回調査の結果に比べ、該当者（リスクあり）の割合は1.9ポイント減少している。

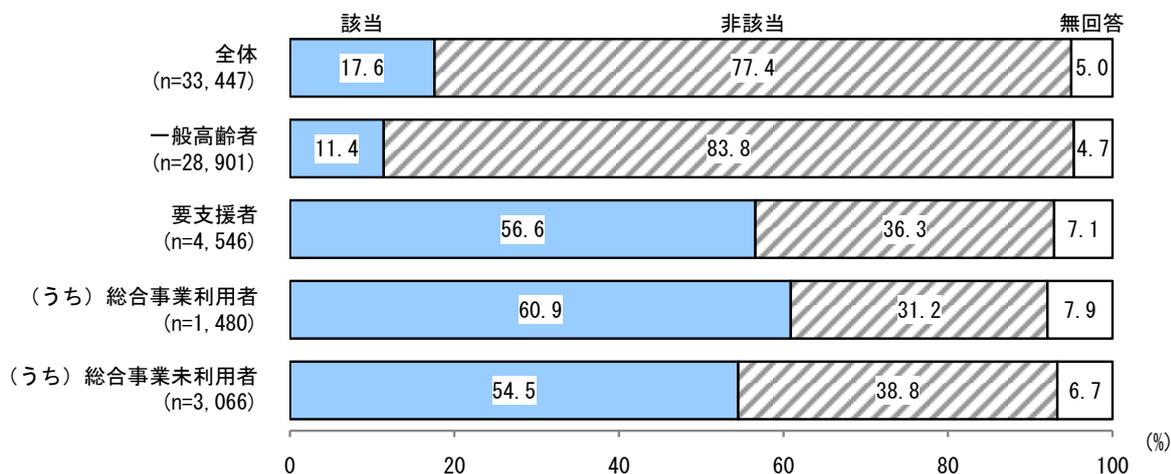


##### 【参考 経年比較】



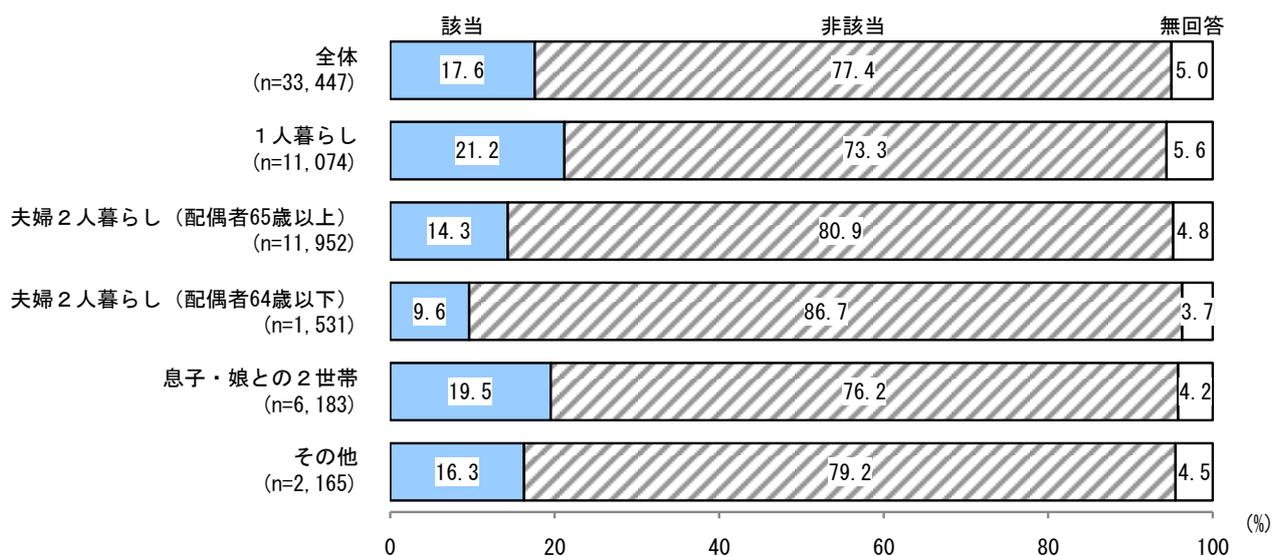
### 【認定状況別】

認定状況別では、該当者（リスクあり）の割合は、一般高齢者（認定を受けていない）が11.4%、要支援者は56.6%で、要支援者のうち総合事業利用者が60.9%、総合事業未利用者が54.5%となっている。



### 【家族構成別】

家族構成別では、該当者（リスクあり）の割合は、1人暮らし（21.2%）と、息子・娘との2世帯（19.5%）で高くなっている。



## (2) 閉じこもり傾向

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、2項目ともに該当する人を『閉じこもり傾向』のリスク該当者と判定している。

### 【判定設問】

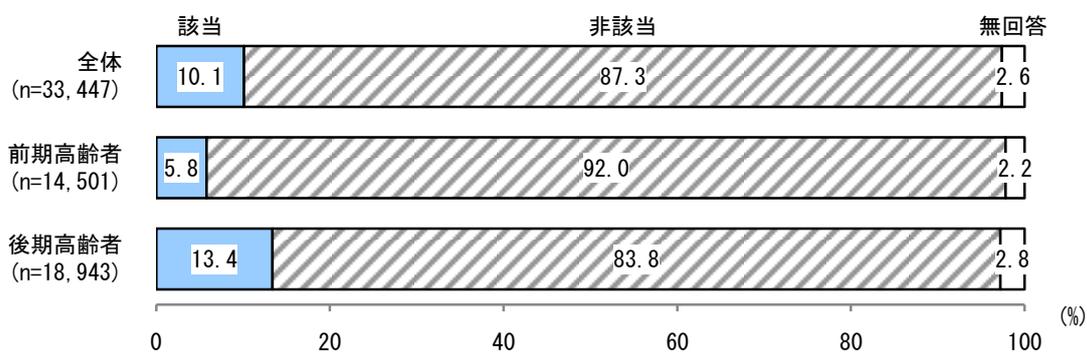
問番号	設問	該当する選択肢
問2	(6) 週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回
	(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1. とても減っている 2. 減っている

### 【リスク該当状況】

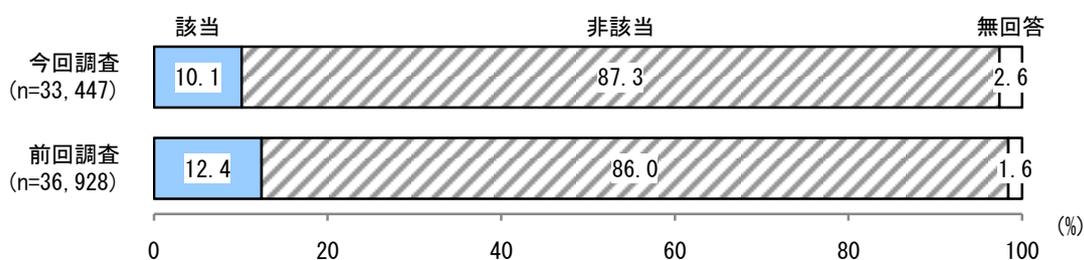
国の手引きに基づく『閉じこもり傾向』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）の割合は10.1%となっている。

年齢別では、該当者（リスクあり）の割合は、前期高齢者が5.8%、後期高齢者は13.4%となっている。

前回調査の結果に比べ、該当者（リスクあり）の割合は2.3ポイント減少している。

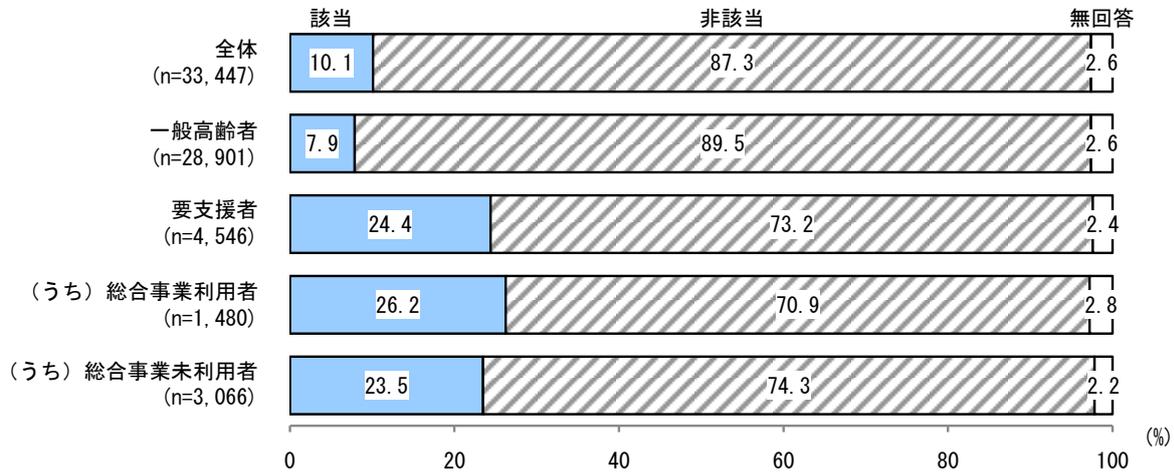


### 【参考 経年比較】



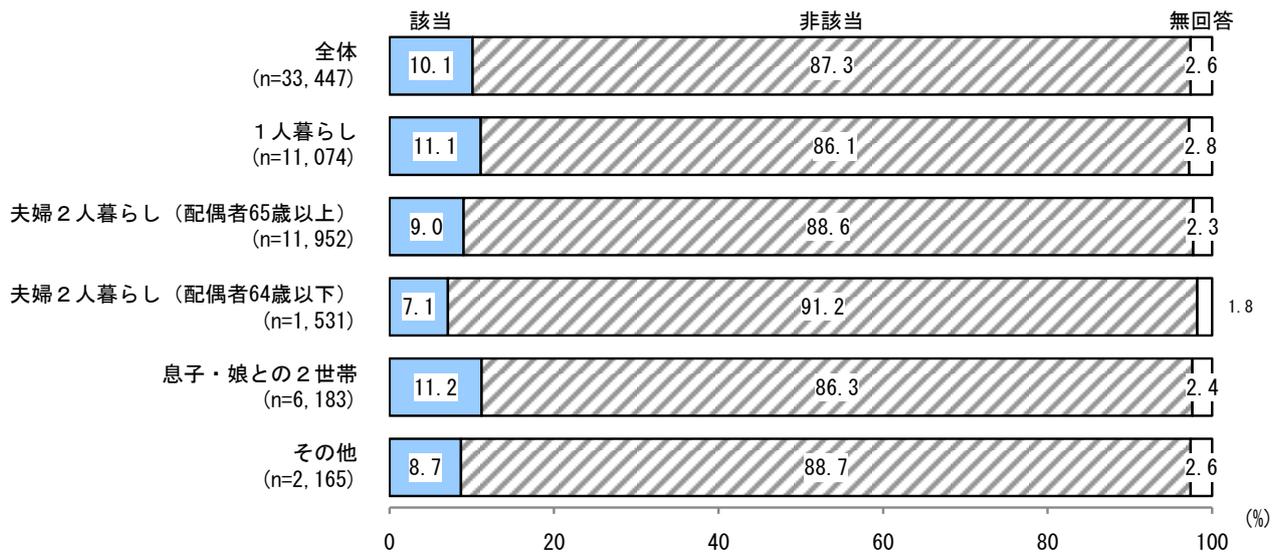
【認定状況別】

認定状況別では、該当者（リスクあり）の割合は、一般高齢者（認定を受けていない）が7.9%、要支援者は24.4%で、要支援者のうち総合事業利用者が26.2%、総合事業未利用者が23.5%となっている。



【家族構成別】

家族構成別では、該当者（リスクあり）の割合は1人暮らし（11.1%）、息子・娘との2世帯（11.2%）で高くなっている。



### (3) 低栄養の傾向

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、2項目ともに該当する人を『低栄養の傾向』のリスク該当者と判定している。

#### 【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢	
問3	(1)	身長・体重を記入ください	BMI 18.5 未満
	(8)	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい
	(7)		

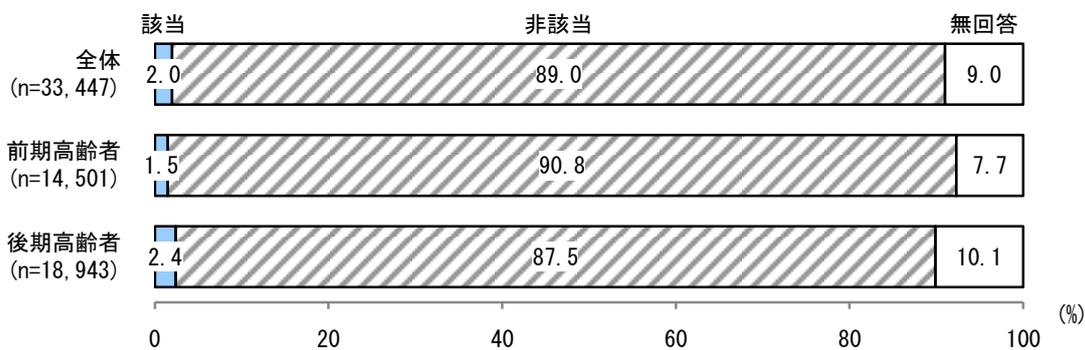
※問番号の上段は一般高齢者、下段は要支援者

#### 【リスク該当状況】

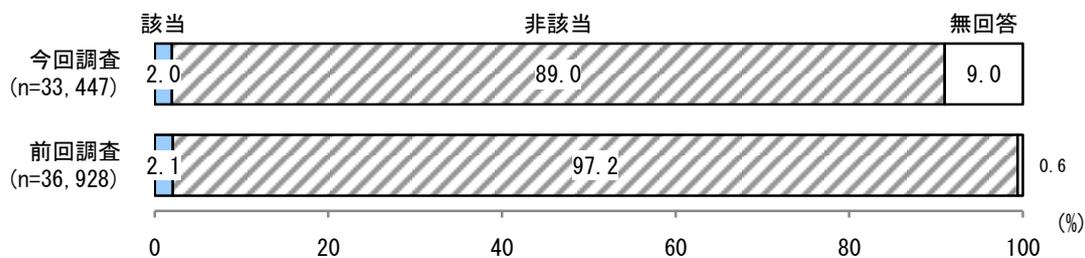
国の手引きに基づく『低栄養の傾向』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）の割合は2.0%となっている。

年齢別では、該当者（リスクあり）の割合は、前期高齢者が1.5%、後期高齢者は2.4%となっている。

前回調査の結果に比べ、該当者（リスクあり）の割合は大きな変化はみられない。

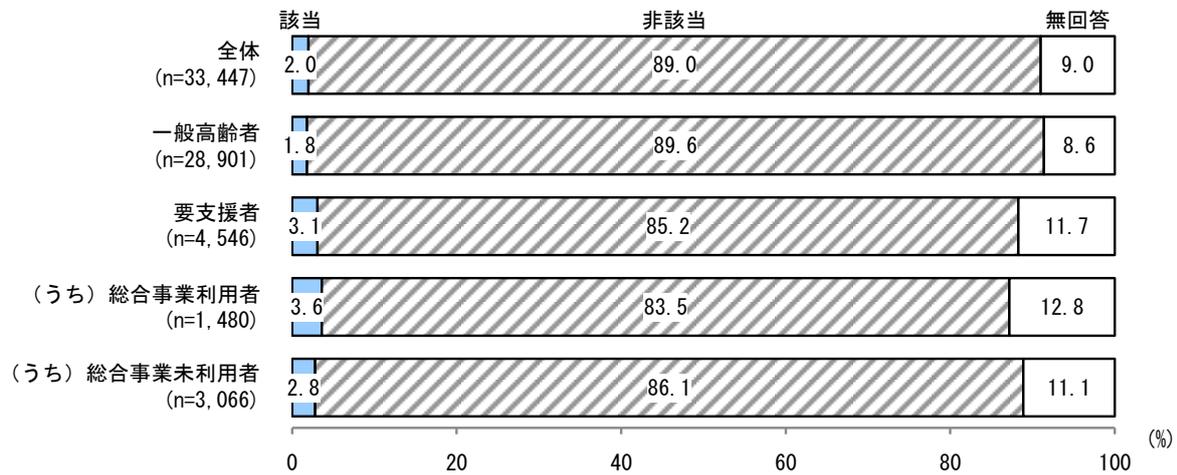


#### 【参考 経年比較】



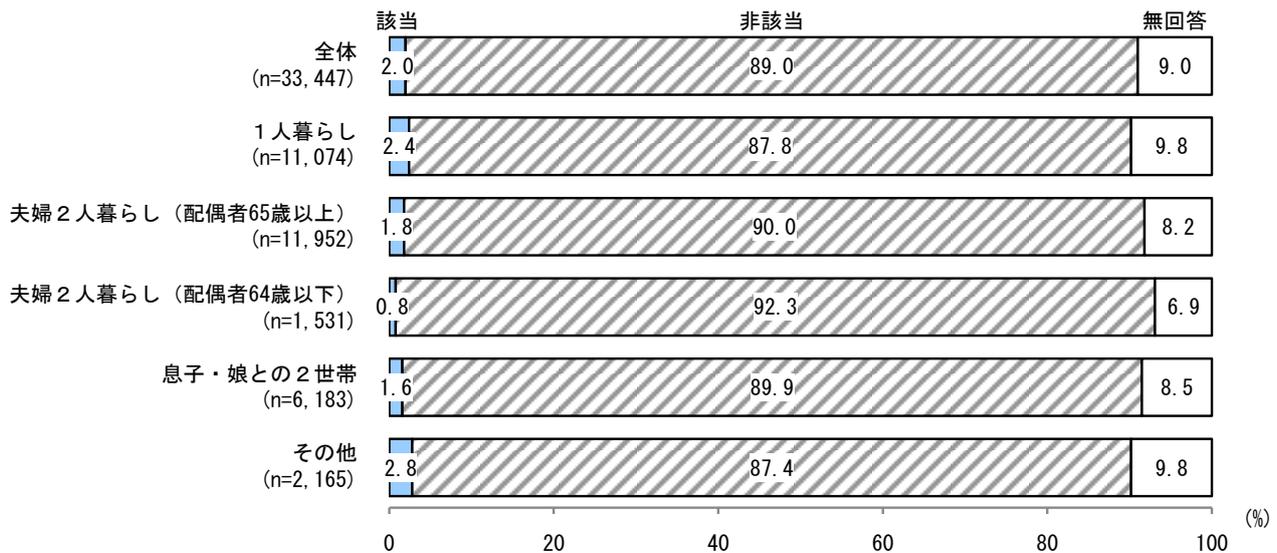
【認定状況別】

認定状況別では、該当者（リスクあり）の割合は、一般高齢者（認定を受けていない）が1.8%、要支援者は3.1%で、要支援者のうち総合事業利用者が3.6%、総合事業未利用者が2.8%となっている。



【家族構成別】

家族構成別では、該当者（リスクあり）の割合は、1人暮らし（2.4%）、その他の世帯（2.8%）で高くなっている。



#### (4) 口腔機能の低下

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち2項目以上に該当する人を『口腔機能の低下』のリスク該当者と判定している。

##### 【判定設問】

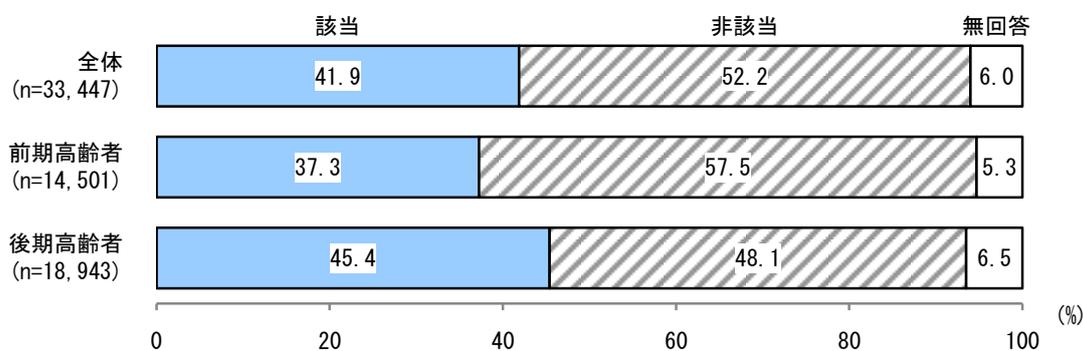
問番号	設問	該当する選択肢
問3	(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい
	(3) お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい
	(4) 口の渇きが気になりますか	1. はい

##### 【リスク該当状況】

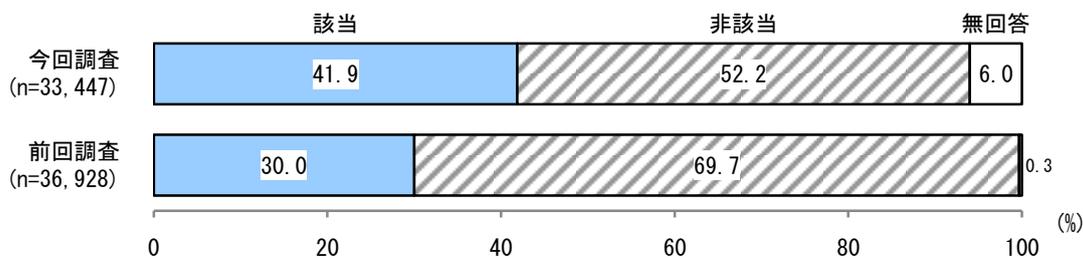
国の手引きに基づく『口腔機能の低下』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）の割合は41.9%となっている。

年齢別では、該当者（リスクあり）の割合は、前期高齢者が37.3%、後期高齢者は45.4%となっている。

前回調査の結果に比べ、該当者（リスクあり）の割合が11.9ポイント増加している。

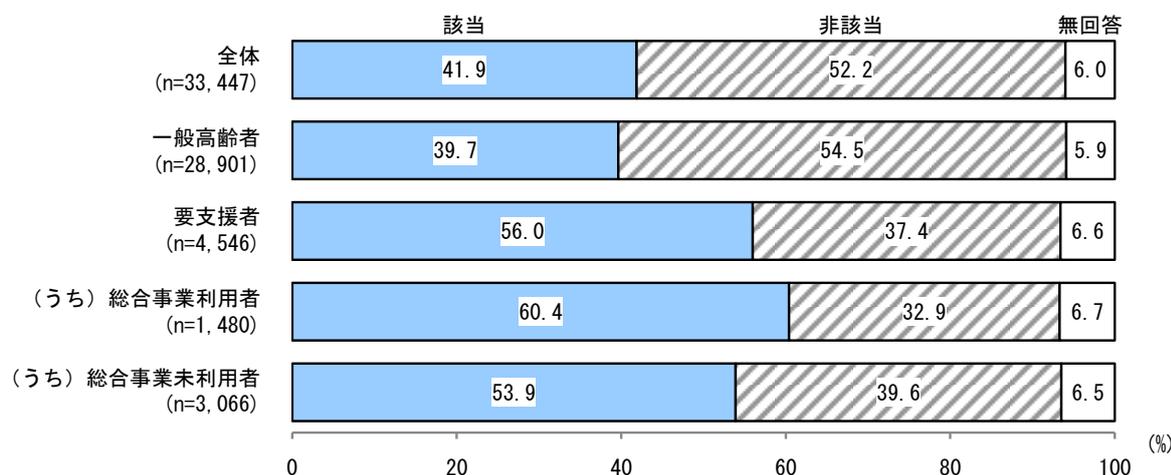


##### 【参考 経年比較】



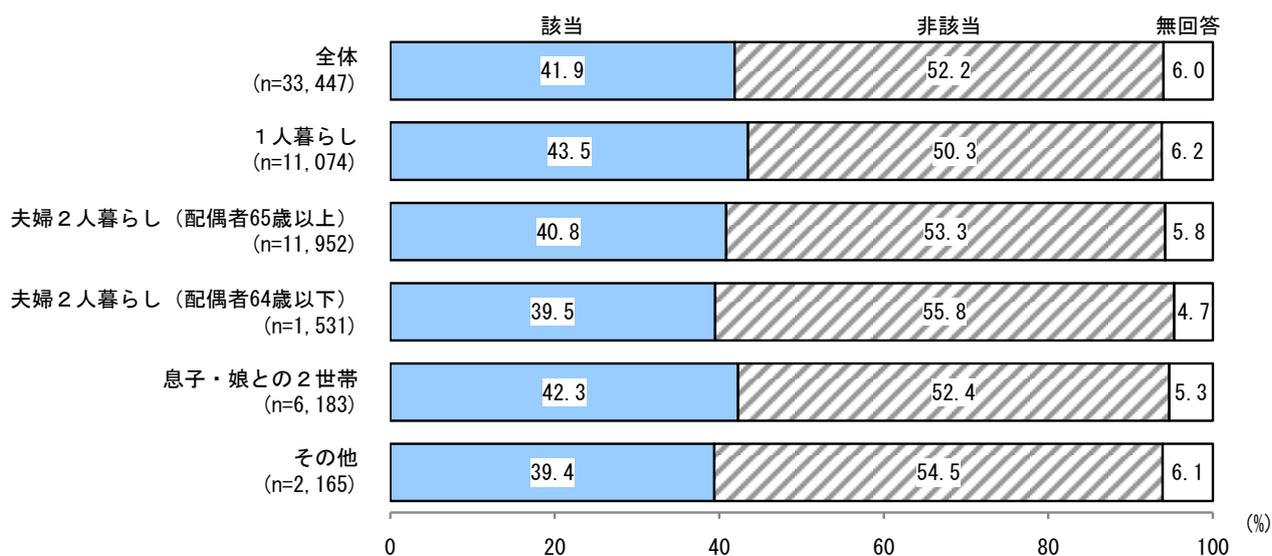
### 【認定状況別】

認定状況別では、該当者（リスクあり）の割合は、一般高齢者（認定を受けていない）が39.7%、要支援者は56.0%で、要支援者のうち総合事業利用者が60.4%、総合事業未利用者が53.9%となっている。



### 【家族構成別】

家族構成別では、該当者（リスクあり）の割合は、1人暮らし（43.5%）、息子・娘との2世帯（42.3%）で高くなっている。



## (5) 認知機能の低下

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち1項目以上に該当する人を『認知機能の低下』のリスク該当者と判定している。

### 【判定設問】

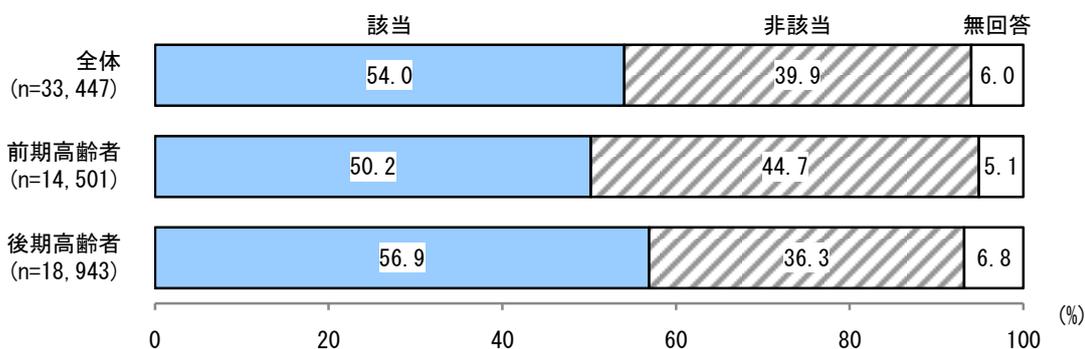
問番号	設問	該当する選択肢
問4	(1) もの忘れが多いと感じますか	1. はい
	(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	2. いいえ
	(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい

### 【リスク該当状況】

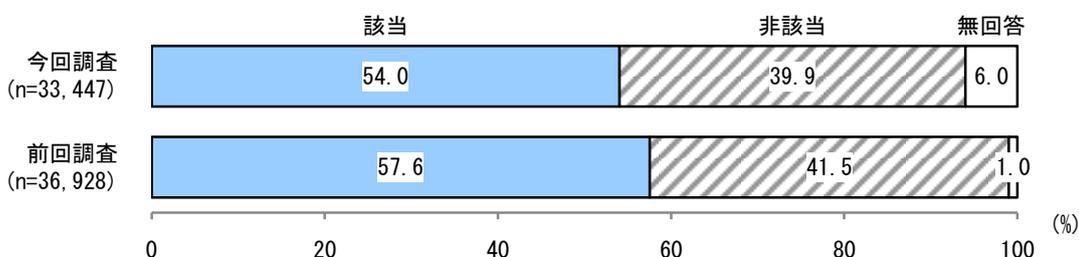
国の手引きに基づく『認知機能の低下』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）の割合は54.0%となっている。

年齢別では、該当者（リスクあり）の割合は、前期高齢者が50.2%、後期高齢者は56.9%となっている。

前回調査の結果に比べ、該当者（リスクあり）の割合が3.6ポイント減少している。

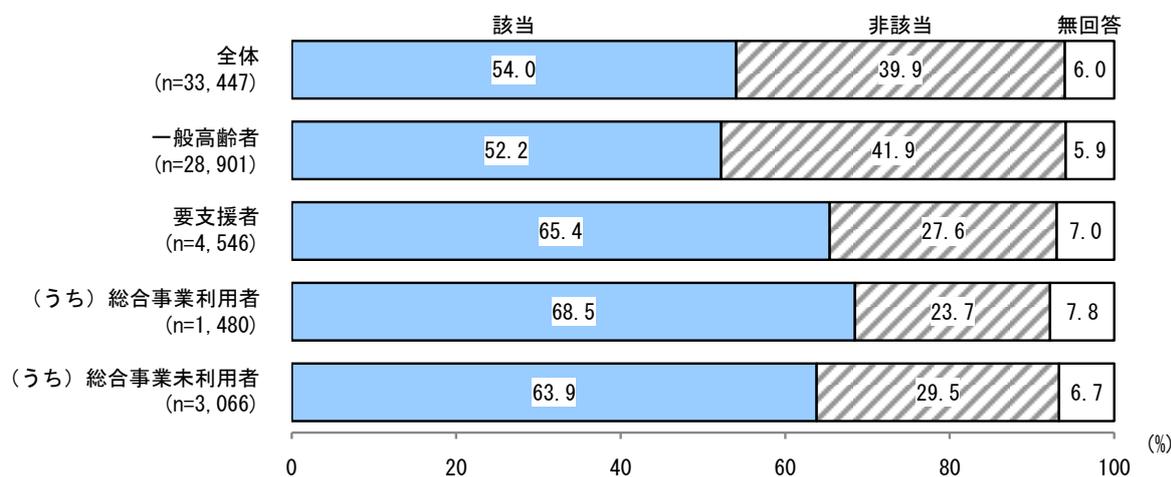


### 【参考 経年比較】



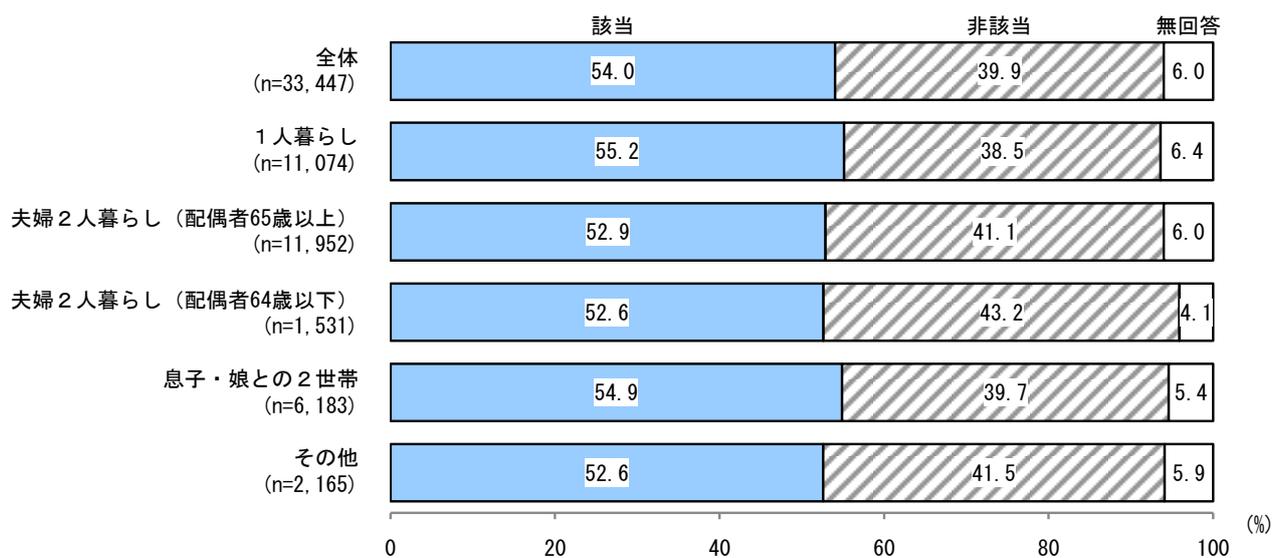
### 【認定状況別】

認定状況別では、該当者（リスクあり）の割合は、一般高齢者（認定を受けていない）が52.2%、要支援者は65.4%で、要支援者のうち総合事業利用者が68.5%、総合事業未利用者が63.9%となっている。



### 【家族構成別】

家族構成別では、該当者（リスクあり）の割合は、1人暮らし（55.2%）、息子・娘との2世帯（54.9%）で高くなっている。



## (6) うつ傾向

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のいずれかに該当する人を『うつ傾向』のリスク該当者と判定している。

### 【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問9 問8	(4) (3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい
問9 問8	(5) (4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい

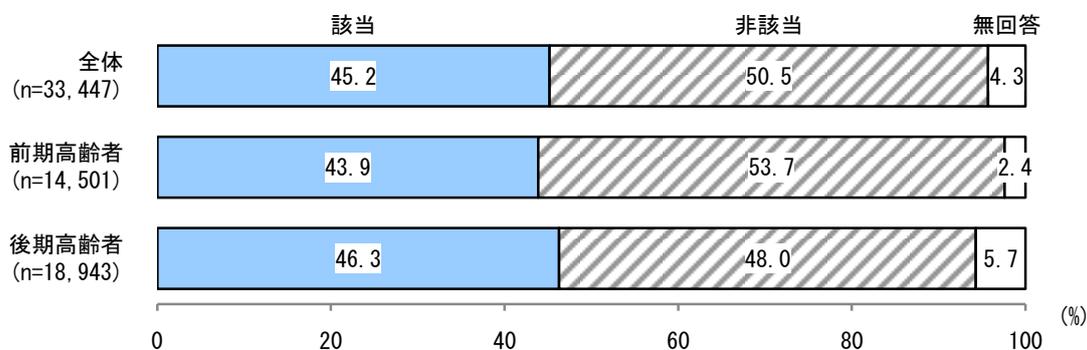
※問番号の上段は一般高齢者、下段は要支援者

### 【リスク該当状況】

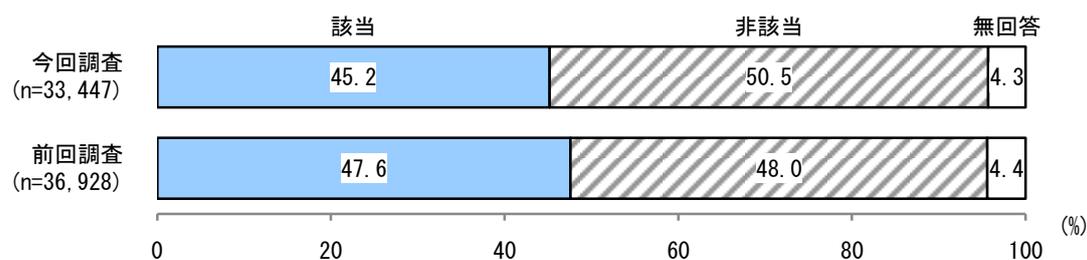
国の手引きに基づく『うつ傾向』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）の割合は45.2%となっている。

年齢別では、該当者（リスクあり）の割合は、前期高齢者が43.9%、後期高齢者は46.3%となっている。

前回調査の結果に比べ、該当者（リスクあり）の割合が2.4ポイント減少している。

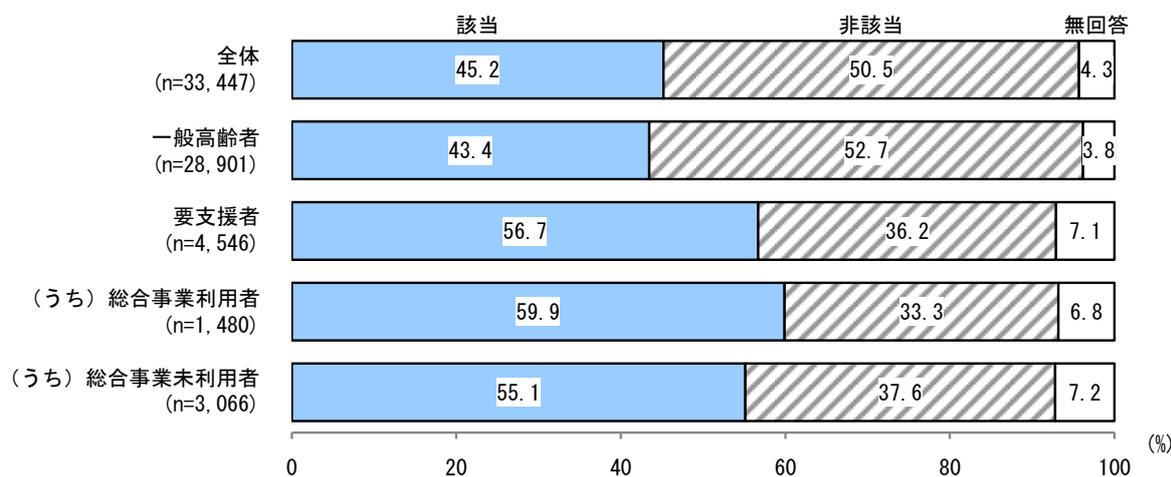


### 【参考 経年比較】



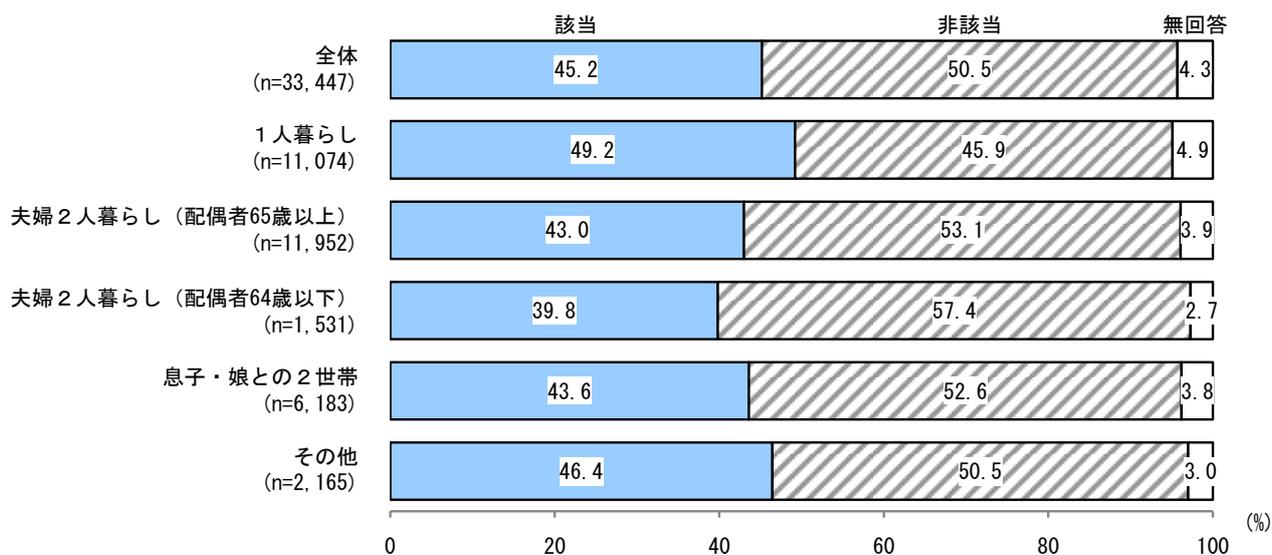
### 【認定状況別】

認定状況別では、該当者（リスクあり）の割合は、一般高齢者（認定を受けていない）が43.4%、要支援者は56.7%で、要支援者のうち総合事業利用者が59.9%、総合事業未利用者が55.1%となっている。



### 【家族構成別】

家族構成別では、該当者（リスクあり）の割合は、1人暮らし（49.2%）、その他の世帯（46.4%）で高くなっている。



## 2 日常生活評価

### (1) 手段的自立度 (IADL)

高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問（5項目）に基づき、活動的な日常生活をおくるための能力（手段的自立度：IADL）が低下している人の状況を把握している。

評価は、調査票の以下の設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を“1点”として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」（※4点以下を低下者）と評価している。

#### 【評価設問】

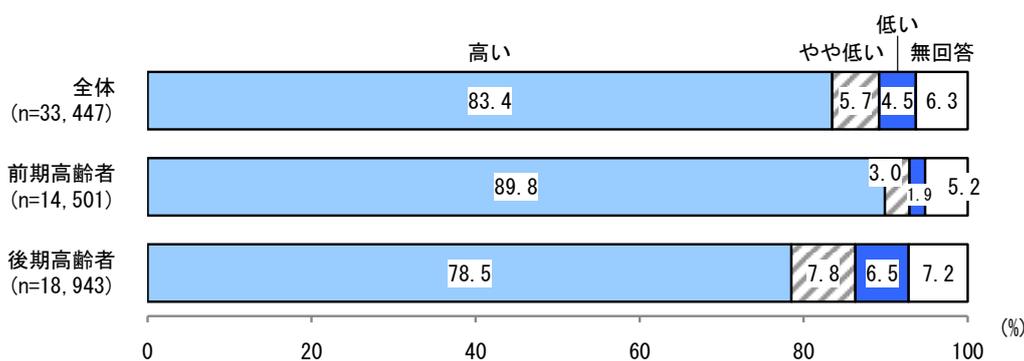
問番号	設問	該当する選択肢
問4	(4) バスや電車を使って1人で外出していますか	1. できるし、している (1点) 2. できるけどしていない (1点)
	(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している (1点) 2. できるけどしていない (1点)
	(6) 自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している (1点) 2. できるけどしていない (1点)
	(7) 自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している (1点) 2. できるけどしていない (1点)
	(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している (1点) 2. できるけどしていない (1点)

#### 【該当状況】

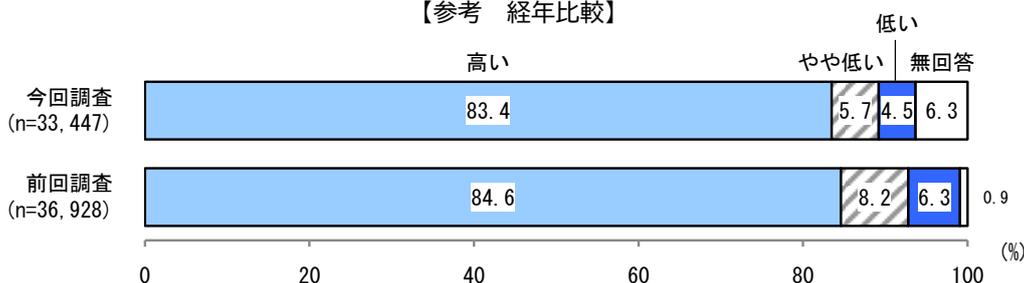
老研式活動能力指標に基づく『手段的自立度 (IADL)』の評価結果では、低下者（「やや低い」「低い」の計）の割合は10.2%となっている。

年齢別では、低下者は前期高齢者が4.9%、後期高齢者は14.3%となっている。

前回調査の結果に比べ、低下者の割合は4.3ポイント減少している。

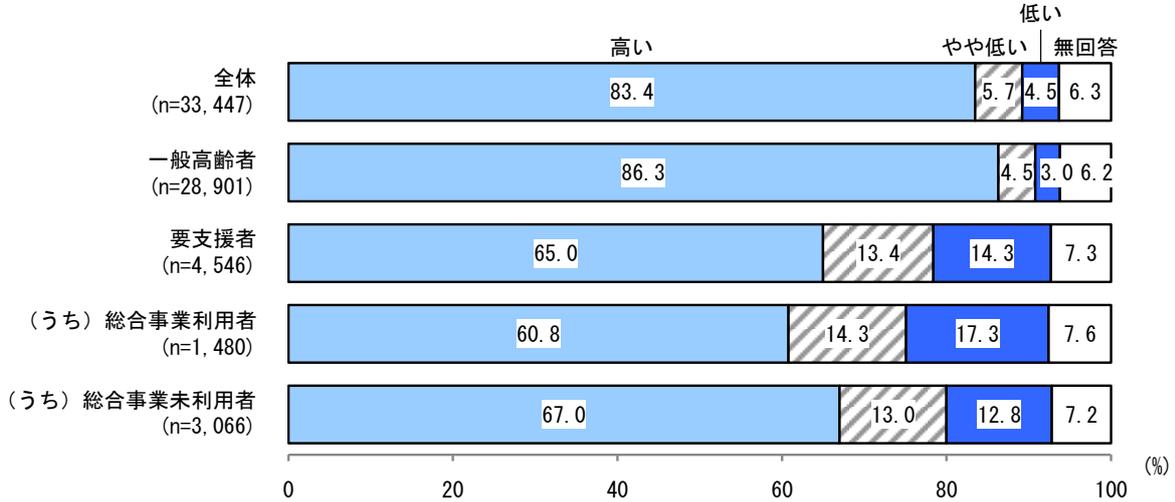


#### 【参考 経年比較】



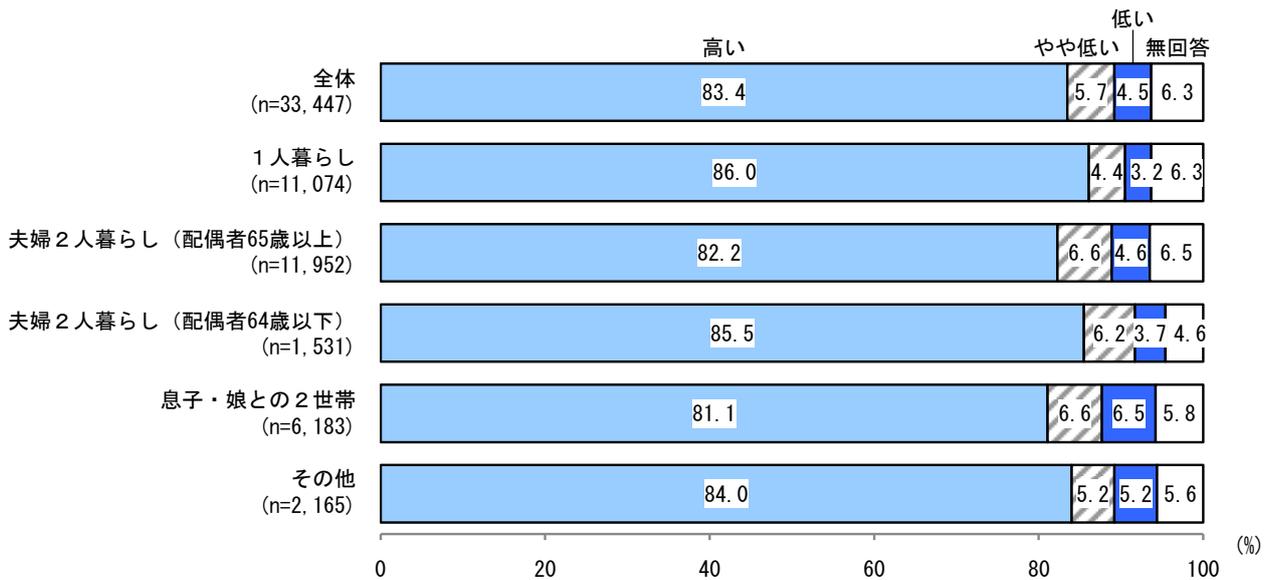
【認定状況別】

認定状況別では、低下者の割合は、一般高齢者（認定を受けていない）が7.5%、要支援者は27.7%で、要支援者のうち総合事業利用者が31.6%、総合事業未利用者が25.8%となっている。



【家族構成別】

家族構成別では、低下者の割合は、息子・娘との2世帯が13.1%で最も高くなっている。



### 3 社会参加評価

#### (1) 知的能動性

老研式活動能力には、高齢者の余暇や創作など生活を楽しむ能力に関する設問が4問あり、『知的能動性』として尺度化されている。ここでは、これが低下している人の状況を把握している。

評価は、調査票の以下の設問に「はい」と回答した場合を“1点”として、4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」(※3点以下を低下者)と評価している。

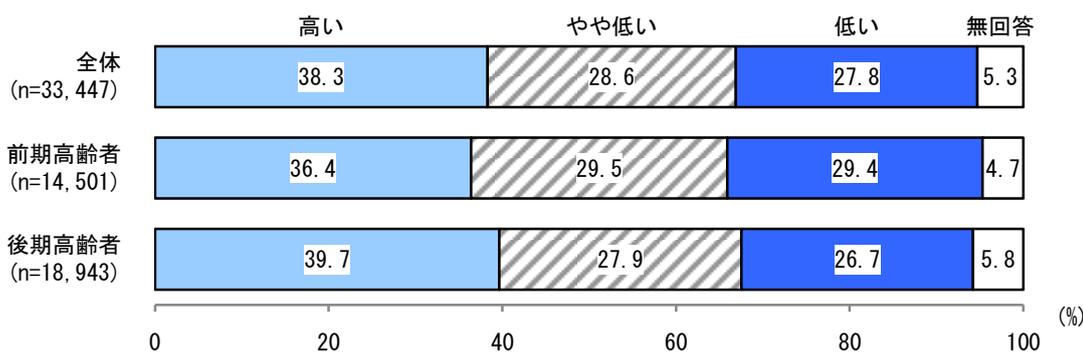
#### 【評価設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問4	(9) 年金などの書類が書けますか	1. はい (1点)
	(10) 新聞を読んでいますか	1. はい (1点)
	(11) 本や雑誌を読んでいますか	1. はい (1点)
	(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか	1. はい (1点)

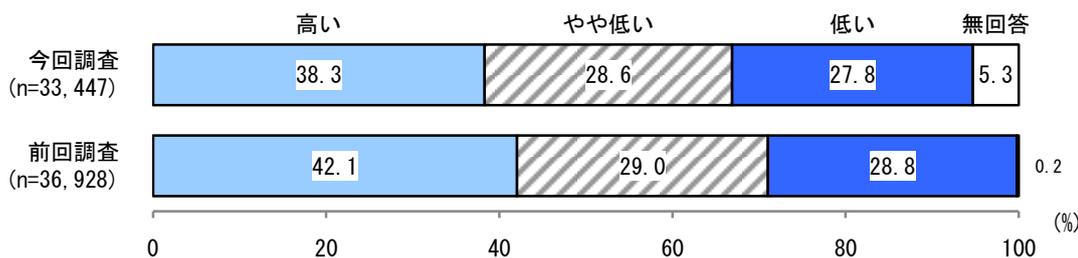
#### 【該当状況】

老研式活動能力指標に基づく『知的能動性』の評価結果をみると、低下者(「やや低い」「低い」の計)の割合は56.4%となっている。

年齢別では、低下者の割合は、前期高齢者が58.9%、後期高齢者は54.6%となっている。前回調査の結果に比べ、低下者の割合が1.4ポイント減少している。

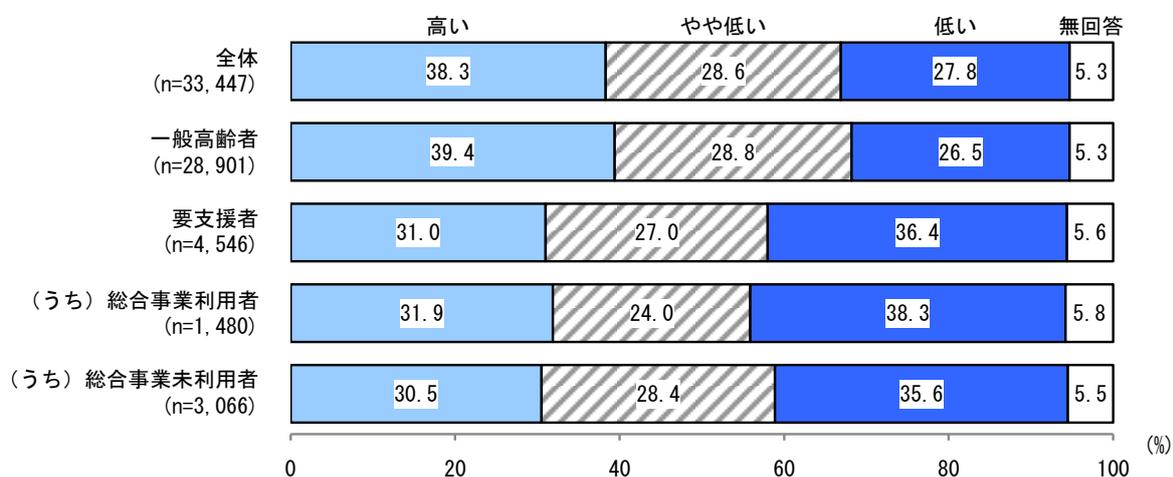


#### 【参考 経年比較】



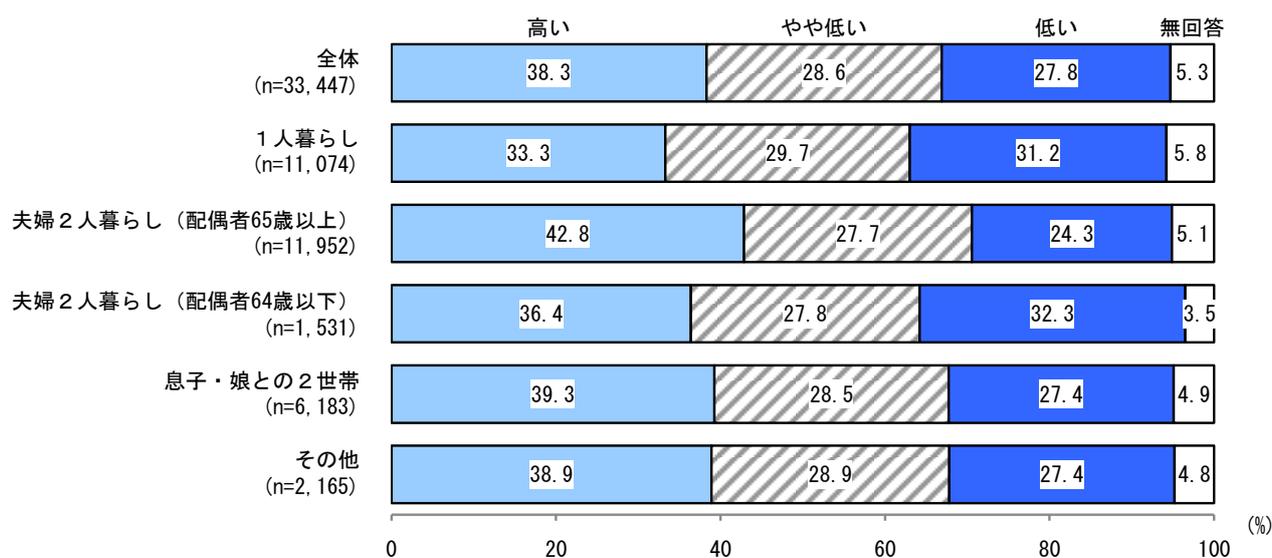
### 【認定状況別】

認定状況別では、低下者の割合は、一般高齢者（認定を受けていない）が55.3%、要支援者は63.4%で、要支援者のうち総合事業利用者が62.3%、総合事業未利用者が64.0%となっている。



### 【家族構成別】

家族構成別では、低下者の割合は、1人暮らしが60.9%で最も高く、次いで夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）が60.1%となっている。



## (2) 社会的役割

老研式活動能力には、地域で社会的な役割を果たす能力に関する設問が4問あり、『社会的役割』として尺度化されている。ここでは、これが低下している人の状況を把握している。

評価は、調査票の以下の設問に「はい」と回答した場合を“1点”として、4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」（※3点以下を低下者）と評価している。

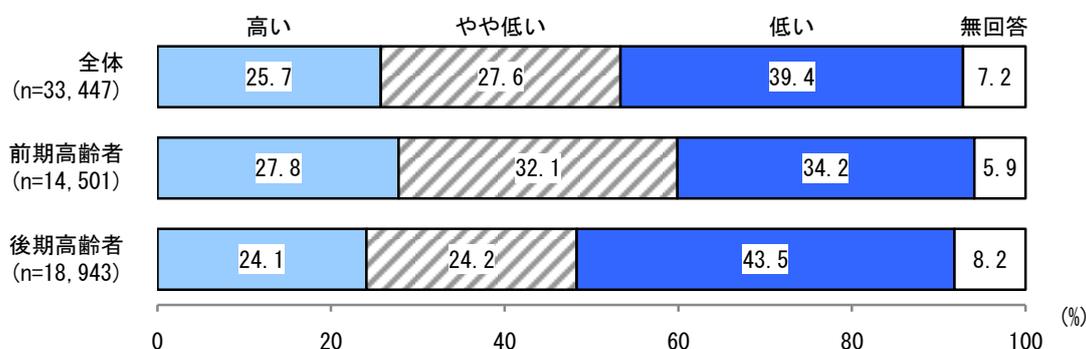
### 【評価設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問4	(13) 友人の家を訪ねていますか	1. はい (1点)
	(14) 家族や友人の相談にのっていますか	1. はい (1点)
	(15) 病人を見舞うことができますか	1. はい (1点)
	(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか	1. はい (1点)

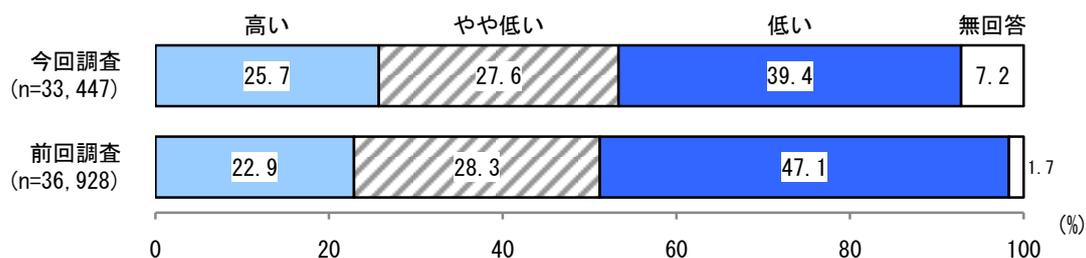
### 【該当状況】

老研式活動能力指標に基づく『社会的役割』の評価結果をみると、低下者（「やや低い」「低い」の計）の割合は67.0%となっている。

年齢別では、低下者の割合は、前期高齢者が66.3%、後期高齢者は67.7%となっている。前回調査の結果に比べ、低下者の割合が8.4ポイント減少している。

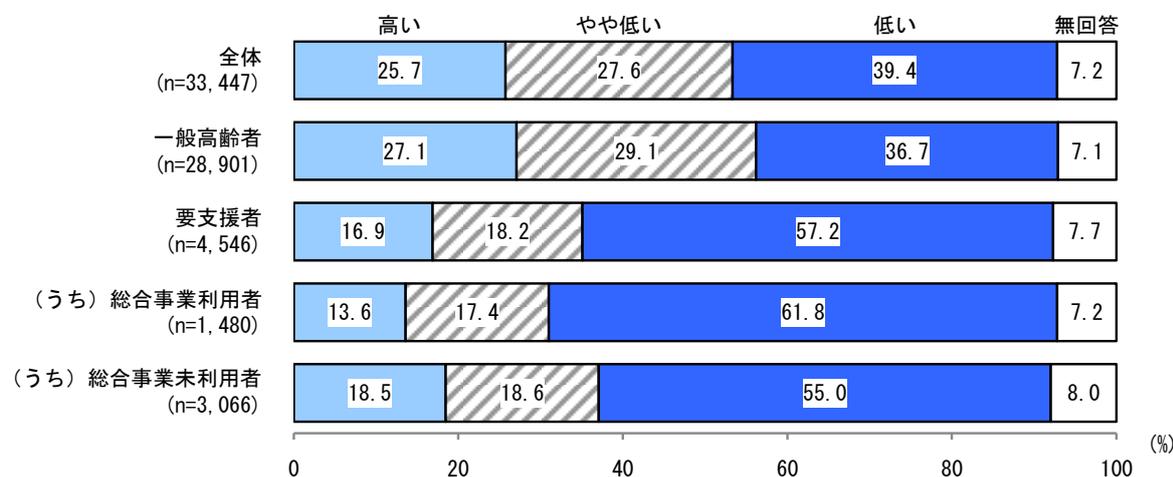


### 【参考 経年比較】



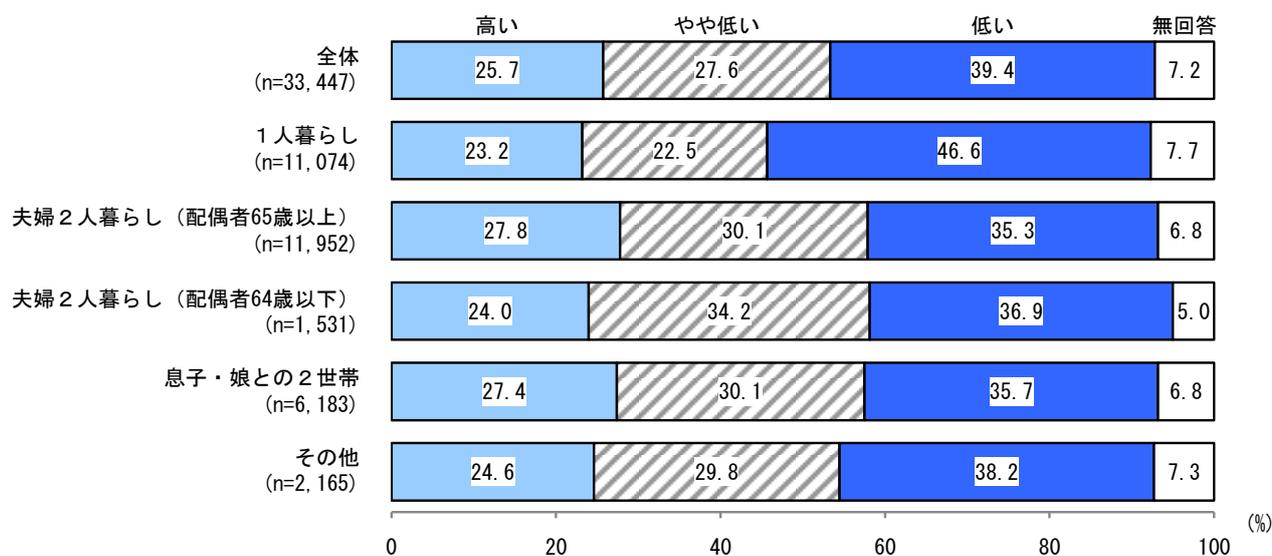
### 【認定状況別】

認定状況別では、低下者の割合は、一般高齢者（認定を受けていない）が65.8%、要支援者が75.4%で、要支援者のうち総合事業利用者が79.2%、総合事業未利用者が73.6%となっている。



### 【家族構成別】

家族構成別では、低下者の割合は、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）が71.1%で最も高く、次いで1人暮らしが69.1%となっている。



## II-3 圈域別調査結果



## II-3 圏域別調査結果

### 1 日常生活圏域

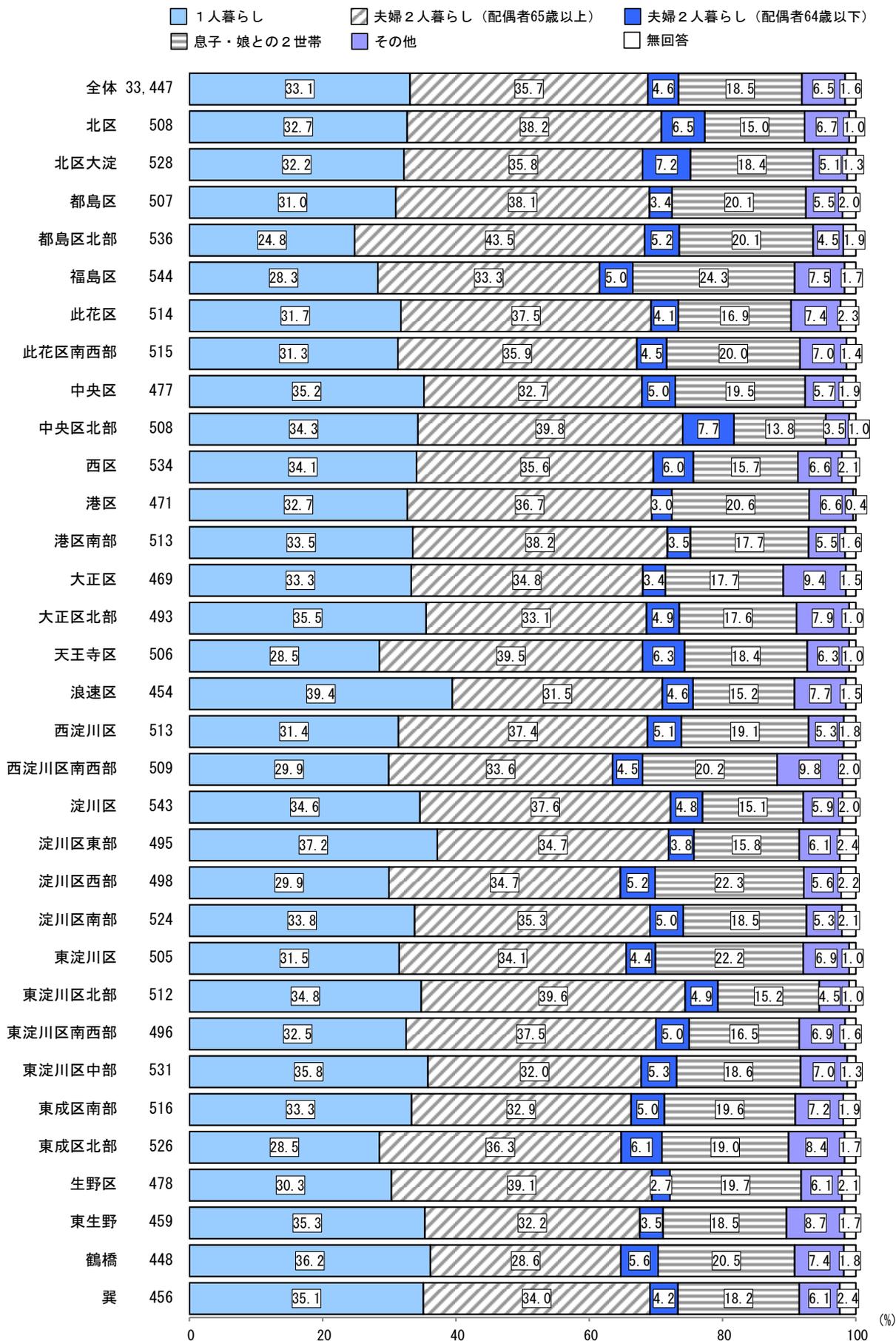
本市の日常生活圏域については、以下の66圏域となっている。

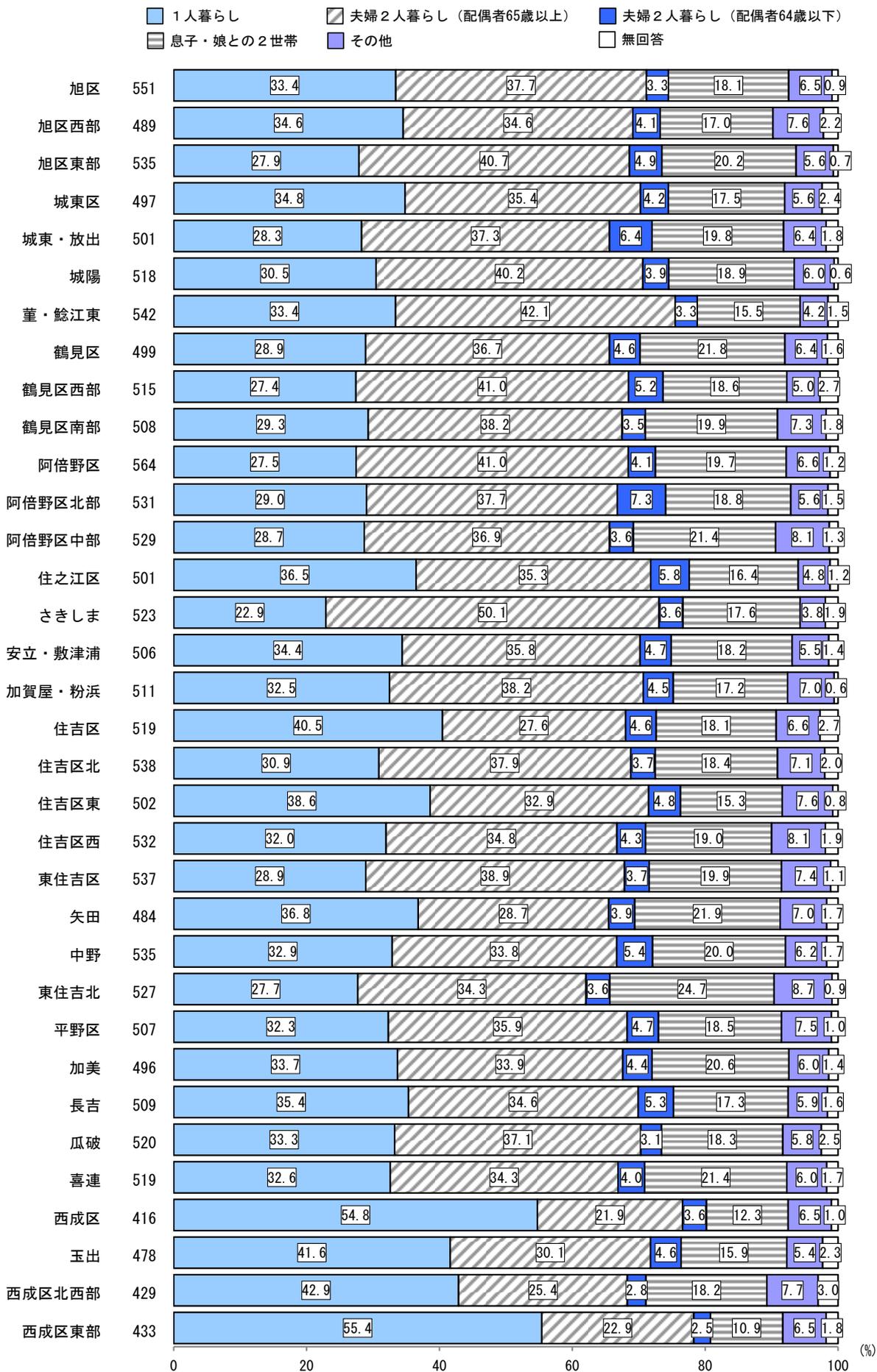
No.	区	日常圏域名称	担当地域	
			単位	地域名
1	北区	北区	連合	滝川、堀川、西天満、菅南、梅田東、北天満、済美、菅北、曾根崎、北野、堂島、中之島
2	北区	北区大淀	連合	豊仁、豊崎東、本庄、豊崎、中津、大淀東、大淀西
3	都島区	都島区	小学校区	桜宮、東都島、都島、中野
4	都島区	都島区北部	小学校区	高倉、内代、淀川、大東、友洲
5	福島区	福島区	—	区全域
6	此花区	此花区	小学校区	高見、伝法、西島
7	此花区	此花区南西部	小学校区	西九条、梅香、春日出、四貫島、島屋
8	中央区	中央区	連合	桃園、桃谷、東平、金甌、渥美、芦池、御津、大宝、道仁、高津、精華、河原
9	中央区	中央区北部	連合	愛日、船場、久宝、集英、汎愛、浪華、北大江、中大江東、中大江西、南大江東、南大江西、城南、玉造
10	西区	西区	—	区全域
11	港区	港区	小学校区	市岡、磯路、弁天、波除、南市岡、田中
12	港区	港区南部	小学校区	三先、池島、八幡屋、港晴、築港
13	大正区	大正区	小学校区	小林、平尾、南恩加島、鶴町
14	大正区	大正区北部	小学校区	三軒家西、三軒家東、泉尾北、中泉尾、北恩加島、泉尾東
15	天王寺区	天王寺区	—	区全域
16	浪速区	浪速区	—	区全域
17	西淀川区	西淀川区	連合	柏里、野里、歌島、香簀、竹島、佃、千舟
18	西淀川区	西淀川区南西部	連合	大和田、姫里、姫島、福、大野百島、川北、出来島
19	淀川区	淀川区	小学校区	新高、三国、西三国、東三国、新東三国
20	淀川区	淀川区東部	小学校区	西中島、木川、木川南、北中島、宮原
21	淀川区	淀川区西部	小学校区	三津屋、加島
22	淀川区	淀川区南部	町会	十三、野中、神津、新北野、田川、塚本
23	東淀川区	東淀川区	連合	大桐、大道南、豊里、豊里南、豊新
24	東淀川区	東淀川区北部	連合	東井高野、井高野、大隈西、大隈東、小松
25	東淀川区	東淀川区南西部	連合	東淡路、淡路、西淡路、啓発
26	東淀川区	東淀川区中部	連合	下新庄、新庄、菅原
27	東成区	東成区南部	小学校区	東小橋、中道、北中道、中本、東中本、宝栄
28	東成区	東成区北部	小学校区	大成、今里、神路、深江、片江
29	生野区	生野区	小学校区	舍利寺、勝山、東桃谷、生野、西生野、林寺
30	生野区	東生野	小学校区	東中川、小路、東小路
31	生野区	鶴橋	小学校区	御幸森、中川、北鶴橋、鶴橋
32	生野区	巽	小学校区	生野南、田島、巽、北巽、巽南、巽東

No.	区	日常圏域名称	担当地域	
			単位	地域名
33	旭区	旭区	連合	大宮、高殿、高殿南
34	旭区	旭区西部	連合	中宮、生江、城北
35	旭区	旭区東部	連合	清水、新森、古市、太子橋
36	城東区	城東区	小学校区	榎並、成育、聖賢、鯉江
37	城東区	城東・放出	小学校区	今福、放出、東中浜、諏訪
38	城東区	城陽	小学校区	鳴野、中浜、森之宮、城東
39	城東区	董・鯉江東	小学校区	董、関目、関目東、鯉江東
40	鶴見区	鶴見区	連合	茨田南、茨田、茨田東、茨田北、焼野
41	鶴見区	鶴見区西部	連合	緑、鶴見北、鶴見、茨田西、横堤
42	鶴見区	鶴見区南部	連合	榎本、今津
43	阿倍野区	阿倍野区	連合	長池、晴明丘、阪南
44	阿倍野区	阿倍野区北部	連合	高松、常盤、金塚、文の里
45	阿倍野区	阿倍野区中部	連合	王子、丸山、阿倍野
46	住之江区	住之江区	小学校区	新北島、平林、住吉川、住之江、清江
47	住之江区	さきしま	小学校区	南港光、南港さくら、南港みなみ
48	住之江区	安立・敷津浦	小学校区	安立、敷津浦
49	住之江区	加賀屋・粉浜	小学校区	粉浜、北粉浜、加賀屋、加賀屋東
50	住吉区	住吉区	小学校区	遠里小野、山之内、依羅、苺田南
51	住吉区	住吉区北	小学校区	東粉浜、住吉、大領
52	住吉区	住吉区東	小学校区	長居、苺田、苺田北
53	住吉区	住吉区西	小学校区	墨絵、清水丘、大空、南住吉
54	東住吉区	東住吉区	小学校区	北田辺、田辺、南田辺、今川
55	東住吉区	矢田	小学校区	矢田、矢田東、矢田北、矢田西
56	東住吉区	中野	小学校区	東田辺、南百済、鷹合、湯里
57	東住吉区	東住吉北	小学校区	桑津、育和
58	平野区	平野区	—	平野南、平野西、新平野西、平野
59	平野区	加美	—	加美北、加美、加美南部、加美東
60	平野区	長吉	—	長吉出戸、長吉、川辺、長原、長吉南、長吉六反、長吉東
61	平野区	瓜破	—	瓜破、瓜破東、瓜破北、瓜破西
62	平野区	喜連	—	喜連西、喜連、喜連北、喜連東
63	西成区	西成区	連合	弘治、萩之茶屋、橘、岸里
64	西成区	玉出	連合	玉出、千本、南津守
65	西成区	西成区北西部	連合	長橋、松之宮、梅南、津守、北津守
66	西成区	西成区東部	連合	今宮、山王、飛田、天下茶屋

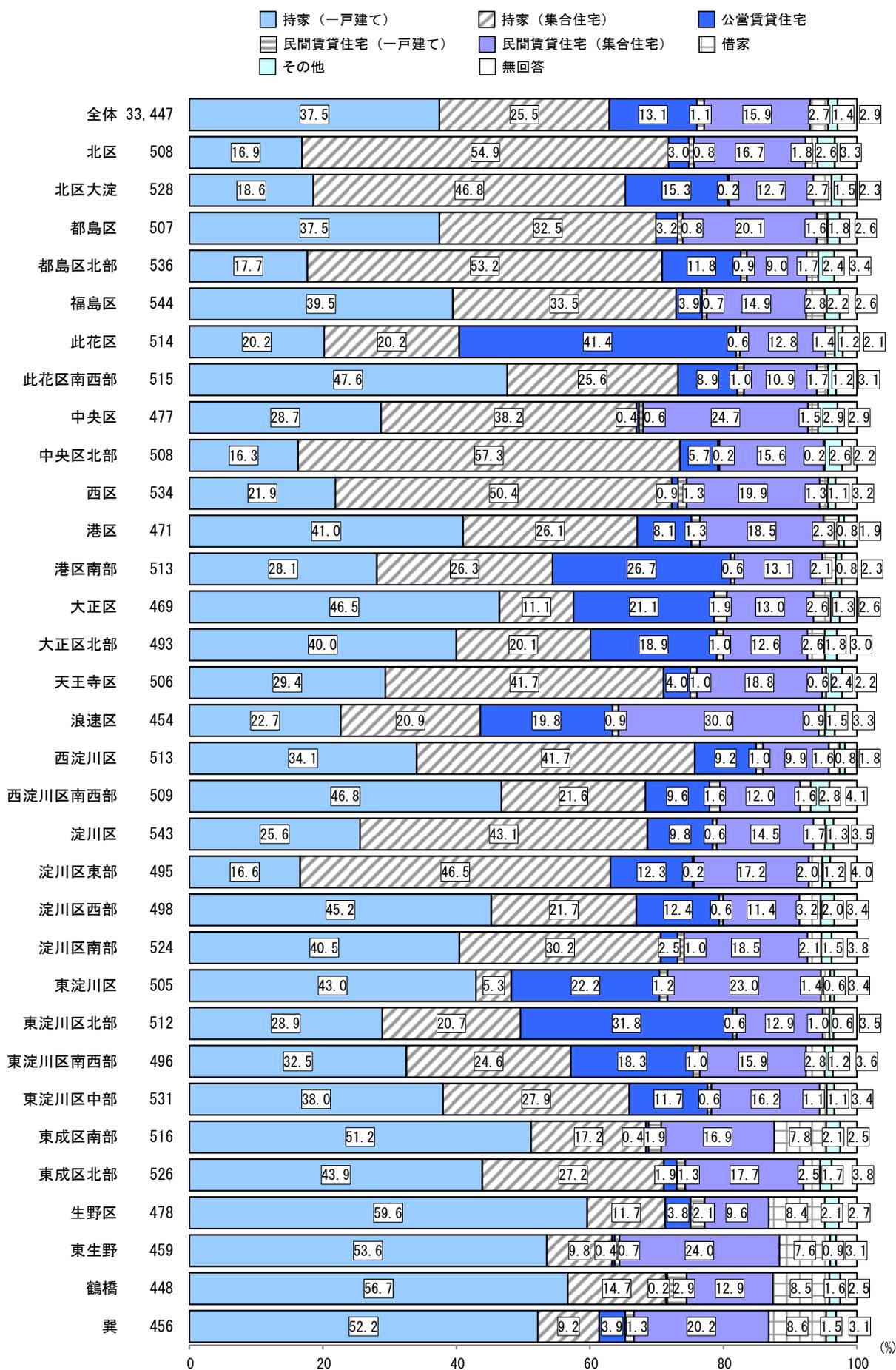
## 2 全圏域比較

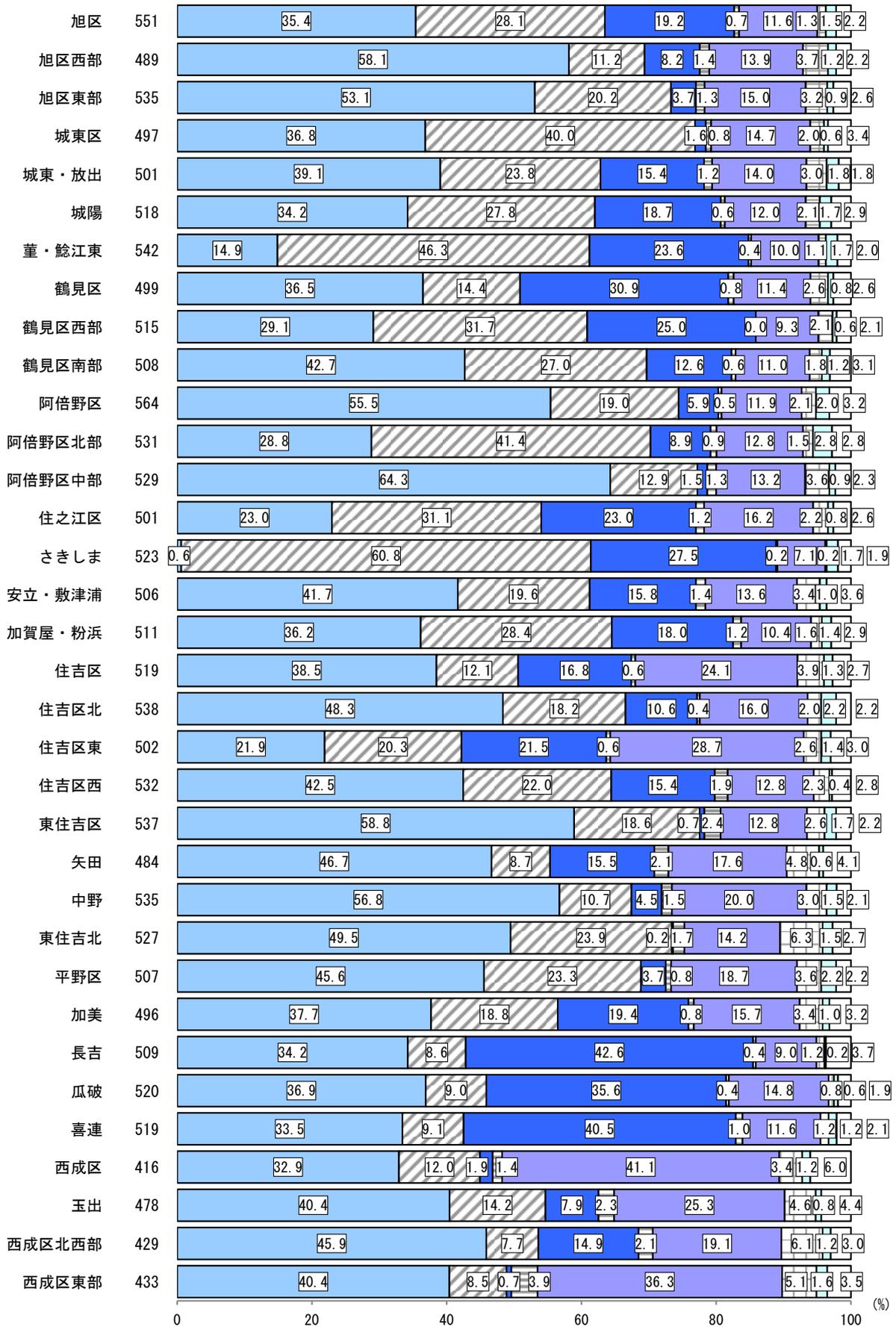
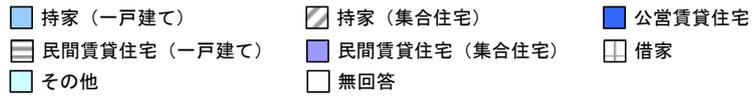
### (1) 家族構成





## (2) 住居形態





(3) 生活機能評価、手段的自立度、知的能動性、社会的役割

圏域	生活機能評価 (リスク有りの割合)	手段的自立度	知的能動性	社会的役割
北区				
北区 大塚				
都島区				
都島区 北部				
福島区				
此花区				

圏域	生活機能評価（リスク有りの割合）	手段的自立度	知的能動性	社会的役割
此花区 南西部		<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p>
中央区		<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p>
中央区 北部		<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p>
西区		<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p>
港区		<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p>
港区 南部		<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p>

圏域	生活機能評価 (リスク有りの割合)	手段的自立度	知的能動性	社会的役割
大正区	<p>運動器機能 80% うつ病 49% 認知機能 0% 閉じこもり 4.1 栄養状態 5.1</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p> <p>83.8 4.1 5.1 7.0</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p> <p>32.8 27.7 33.5 6.0</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p> <p>22.0 23.9 44.8 9.4</p>
大正区 北部	<p>運動器機能 80% うつ病 49% 認知機能 0% 閉じこもり 7.9 栄養状態 6.3</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p> <p>78.9 7.9 6.3 6.9</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p> <p>36.7 24.9 31.6 6.7</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p> <p>22.1 24.3 43.8 9.7</p>
天王寺区	<p>運動器機能 80% うつ病 49% 認知機能 0% 閉じこもり 6.7 栄養状態 3.0</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p> <p>84.0 6.7 3.0 6.3</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p> <p>44.5 28.3 20.2 7.1</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p> <p>23.7 34.0 33.4 8.9</p>
浪速区	<p>運動器機能 80% うつ病 49% 認知機能 0% 閉じこもり 5.5 栄養状態 5.1</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p> <p>83.7 5.5 5.1 5.7</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p> <p>34.4 29.1 30.0 6.6</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p> <p>23.1 29.3 40.1 7.5</p>
西淀川区	<p>運動器機能 80% うつ病 49% 認知機能 0% 閉じこもり 5.5 栄養状態 3.3</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p> <p>83.2 5.5 3.3 8.0</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p> <p>37.0 27.7 28.5 6.8</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p> <p>25.7 24.6 40.0 9.7</p>
西淀川区 南西部	<p>運動器機能 80% うつ病 49% 認知機能 0% 閉じこもり 4.3 栄養状態 4.7</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p> <p>81.5 4.3 4.7 9.4</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p> <p>36.0 29.5 27.7 6.9</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p> <p>27.1 25.3 38.5 9.0</p>

圏域	生活機能評価 (リスク有りの割合)	手段的自立度	知的能動性	社会的役割
淀川区				
淀川区 東部				
淀川区 西部				
淀川区 南部				
東淀川区				
東淀川区 北部				

圏域	生活機能評価 (リスク有りの割合)	手段的自立度	知的能動性	社会的役割
東淀川区 南西部	<p>運動器機能 80% うつ 40% 認知機能 0% 口腔機能</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p>
東淀川区 中部	<p>運動器機能 80% うつ 40% 認知機能 0% 口腔機能</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p>
東成区 南部	<p>運動器機能 80% うつ 40% 認知機能 0% 口腔機能</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p>
東成区 北部	<p>運動器機能 80% うつ 40% 認知機能 0% 口腔機能</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p>
生野区	<p>運動器機能 80% うつ 40% 認知機能 0% 口腔機能</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p>
東生野	<p>運動器機能 80% うつ 40% 認知機能 0% 口腔機能</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p>	<p>高い やや低い やや低い 低い 無回答</p>

圏域	生活機能評価 (リスク有りの割合)	手段的自立度	知的能動性	社会的役割
鶴橋				
巽				
旭区				
旭区西部				
旭区東部				
城東区				

圏域	生活機能評価（リスク有りの割合）	手段的自立度	知的能動性	社会的役割
城東・放出				
城陽				
葦・鯉江東				
鶴見区				
鶴見区西部				
鶴見区南部				

圏域	生活機能評価（リスク有りの割合）	手段的自立度	知的能動性	社会的役割
阿倍野区	<p>運動器機能 86.2 閉じこもり 5.9 栄養状態 3.0 認知機能 5.0 口腔機能 5.0</p>	<p>高い やや低い 低い 無回答</p> <p>44.7 28.5 22.2 4.6</p>	<p>高い やや低い 低い 無回答</p> <p>27.7 31.7 35.5 5.1</p>	
阿倍野区 北部	<p>運動器機能 82.9 閉じこもり 5.6 栄養状態 4.0 認知機能 7.5 口腔機能 7.5</p>	<p>高い やや低い 低い 無回答</p> <p>43.7 27.3 23.0 6.0</p>	<p>高い やや低い 低い 無回答</p> <p>24.7 28.6 37.3 9.2</p>	
阿倍野区 中部	<p>運動器機能 85.8 閉じこもり 3.6 栄養状態 6.0 認知機能 4.5 口腔機能 4.5</p>	<p>高い やや低い 低い 無回答</p> <p>44.2 24.2 26.7 4.9</p>	<p>高い やや低い 低い 無回答</p> <p>25.5 29.1 39.5 5.9</p>	
住之江区	<p>運動器機能 87.2 閉じこもり 5.2 栄養状態 3.0 認知機能 4.6 口腔機能 4.6</p>	<p>高い やや低い 低い 無回答</p> <p>32.3 32.3 32.3 3.0</p>	<p>高い やや低い 低い 無回答</p> <p>24.6 25.1 43.7 6.6</p>	
ささしま	<p>運動器機能 86.4 閉じこもり 4.8 栄養状態 4.0 認知機能 4.8 口腔機能 4.8</p>	<p>高い やや低い 低い 無回答</p> <p>42.1 26.0 27.7 4.2</p>	<p>高い やや低い 低い 無回答</p> <p>27.0 30.0 36.1 6.9</p>	
安立・敷津浦	<p>運動器機能 85.0 閉じこもり 4.3 栄養状態 4.0 認知機能 6.7 口腔機能 6.7</p>	<p>高い やや低い 低い 無回答</p> <p>39.1 28.5 27.1 5.3</p>	<p>高い やや低い 低い 無回答</p> <p>24.1 25.5 43.3 7.1</p>	

圏域	生活機能評価（リスク有りの割合）	手段的自立度	知的能動性	社会的役割
加賀屋・粉浜	<p>運動器機能 80% うつ病 46% 認知機能 0% 閉じこもり 4.3 栄養状態 4.7</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>85.7 4.3 4.7 5.3</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>39.1 29.9 25.4 5.5</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>24.7 31.5 36.2 7.6</p>
住吉区	<p>運動器機能 80% うつ病 46% 認知機能 0% 閉じこもり 4.8 栄養状態 4.2</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>81.9 4.8 4.2 9.1</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>36.4 28.3 29.7 5.6</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>24.9 26.8 41.4 6.9</p>
住吉区北	<p>運動器機能 80% うつ病 46% 認知機能 0% 閉じこもり 6.9 栄養状態 5.2</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>82.3 6.9 5.2 5.6</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>42.9 29.9 22.7 4.5</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>30.5 27.3 35.7 6.5</p>
住吉区東	<p>運動器機能 80% うつ病 46% 認知機能 0% 閉じこもり 7.2 栄養状態 3.6</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>83.1 7.2 3.6 6.2</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>32.5 31.3 30.7 5.6</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>22.1 28.1 43.4 6.4</p>
住吉区西	<p>運動器機能 80% うつ病 46% 認知機能 0% 閉じこもり 5.1 栄養状態 5.3</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>83.5 5.1 5.3 6.2</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>42.5 26.3 27.6 3.6</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>29.1 28.2 36.5 6.2</p>
東住吉区	<p>運動器機能 80% うつ病 46% 認知機能 0% 閉じこもり 8.0 栄養状態 3.0</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>83.2 8.0 3.0 5.8</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>43.2 28.3 24.2 4.3</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>28.1 29.8 37.1 5.0</p>

圏域	生活機能評価 (リスク有りの割合)	手段的自立度	知的能動性	社会的役割
矢田	<p>運動器機能 80% うつ 49% 認知機能 0% 閉じこもり 7.2 栄養状態 4.5</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>81.2 7.2 4.5 7.0</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>34.5 31.2 28.7 5.6</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>25.2 23.8 42.8 8.3</p>
中野	<p>運動器機能 80% うつ 49% 認知機能 0% 閉じこもり 4.3 栄養状態 4.1</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>85.4 4.3 4.1 6.2</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>38.5 29.3 27.3 4.9</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>27.3 30.5 34.4 7.9</p>
東住吉北	<p>運動器機能 80% うつ 49% 認知機能 0% 閉じこもり 4.7 栄養状態 4.9</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>83.7 4.7 4.9 6.6</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>34.9 31.9 28.5 4.7</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>25.0 28.7 40.2 6.1</p>
平野区	<p>運動器機能 80% うつ 49% 認知機能 0% 閉じこもり 4.3 栄養状態 4.9</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>83.0 4.3 4.9 7.7</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>40.0 29.2 25.0 5.7</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>25.2 28.4 38.1 8.3</p>
加美	<p>運動器機能 80% うつ 49% 認知機能 0% 閉じこもり 5.8 栄養状態 4.8</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>81.7 5.8 4.8 7.7</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>33.1 27.8 31.7 7.5</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>23.4 22.6 45.0 9.1</p>
長吉	<p>運動器機能 80% うつ 49% 認知機能 0% 閉じこもり 6.5 栄養状態 5.7</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>81.9 6.5 5.7 5.9</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>32.4 29.1 33.4 5.1</p>	<p>□ 高い □ やや低い □ 低い □ 無回答</p> <p>25.0 25.0 42.8 7.3</p>

圏域	生活機能評価 (リスク有りの割合)	手段的自立度	知的能動性	社会的役割
瓜破				
喜連				
西成区				
玉出				
西成区 北西部				
西成区 東部				

